



Title	タイ人日本語学習者のための「そして」の導入方法－ストーリーテリングと対話での使用を手がかりに－
Author(s)	Suvanakoot, Patcharaphan
Citation	大阪大学, 2021, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/85425
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

博 士 論 文

題目：タイ人日本語学習者のための「そして」の導入方法
ーストーリーテリングと対話での使用を手がかりにー

提出年月： 2021年06月

言語文化研究科日本語・日本文化専攻

氏名：SUVANAKOOT PATCHARAPHAN

(スワンナクート パッチャラーパン)

要旨

タイ人日本語学習者のための「そして」の導入方法 —ストーリーテリングと対話での使用を手がかりに—

スワンナケート パッチャラーパン

タイ人日本語学習者が習得に困難な文法項目として、接続表現「そして」が挙げられる。「そして」は初級前半に導入されるにも関わらず、タイ人日本語学習者の多くは上級になっても多く多用や誤用をしている。「そして」の導入方法を提案した研究は、大きく二つに分けられる。一つは、石黒（2000）のように「そして」の用法を論じた上で初級では話し言葉を中心に導入する立場で、「そして」より「それから」の方が相応しいことを指摘した研究である。もう一つは、市川偏（2010）のように、「そして」の誤用を分析した結果から、接続詞同士を比較しながら、2文がどのような論理関係を持つか教えることを提案した研究である。しかし、これらの研究では、すべての学習レベルが考慮されず、日本語母語話者と日本語学習者のデータが同時に分析されていない。

このことから、日本語母語話者の実際の使用を参考にしながら、タイ人日本語学習者の使用とその要因を考察し、タイ人日本語学習者のための導入方法を提案する必要がある。また、各レベルの学習者には異なる能力と使用状況があると予想されるため、レベルごとの導入方法の提案が求められる。

そこで、本研究では、日本語母語話者と各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を手がかりに各レベルのタイ人日本語学習者にどのように導入すれば効果的であるかを考えることにする。研究の最終目的として、各レベルのタイ人日本語学習者のための「そして」の効果的な導入方法を提案することを設定する。このような研究目的を達成するために研究課題を3つ設定する。

課題① 日本語母語話者の「そして」の使用を確認する

課題② 各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認する

課題③ タイ人日本語学習者の使用の要因を考察する

第 1 章では、研究背景を述べる。タイにおける日本語教育の現状、文法教育の再検討の流れ、接続表現の導入の問題点、「そして」の導入の問題点を挙げてから、本論文の構成を説明する。

第 2 章では、先行研究を概観する。日本語の接続表現について記述されている研究、日本語学習者の「そして」の使用に関する研究、日本語学習者の「そして」の使用に関する研究、「そして」の導入に関わる教材と研究を紹介してから、残された課題を述べる。

第 3 章では、予備調査について説明する。予備調査では、タイ人日本語学習者話し言葉コーパス (CTJC) を用いて、「そして」がタイ人日本語学習者にとって難しい文法項目であることと、各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用が異なっていることを確認した。しかし、予備調査で用いるデータでは、タイ人日本語学習者のデータしか収録されていないため、導入方法を提案する際に参考にする必要がある日本語母語話者の使用は把握できないという問題点がある。

第 4 章では、本調査で採用する接続表現の定義と「そして」の用法を決定し、本研究の目的、課題、実施方法、データについて説明する。データについては、多言語母語の日本語学習者横断コーパス (I-JAS) の調査課題「ストーリーテリング 1」と「対話」における日本語母語話者とタイ人日本語学習者のデータを用いる。

第 5 章では、日本語母語話者の「そして」の使用を確認する。結果は、日本語母語話者は両タスクにおいて、「時間」と「並列」用法で「そして」を使用している。また、「重い情報」に関わる場所で使用している。このような用法はこれまでの先行研究でも指摘されている (石黒 2000、日本語記述文法研究会編 2009 など)。しかし、それぞれのタスクに見られる「時間」と「並列」用法や、「重い情報」の詳細は異なっており、この相違点はタスクの内容と構成によるものである。例えば、「時間」用法に関しては、ストーリーテリングでは、ストーリーを展開させる出来事が「重い情報」であり、「そして」はそれに導くために使用されている。一方、対話では、一日の中でスケジュール帳に書かれたような出来事が「重い情報」であり、「そして」はそれに関わりがある出来事を結ぶために使用されている。

第 6 章では、各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認する。各レベルのタイ人日本語学習者のデータから「そして」の誤用や多用、「重い情報」以外の出来事をつなぐところでの使用が多く観察された。このような不自然な使用はこれまでの研究でも指摘されている (市川 2010、片桐 2016、石黒 2017、砂川 2017 など)。しかし、本調

査では、上記の使用が観察されたという現象のみならず、レベルによって、使用が異なっており、タスクによって変容することも明らかにした。

具体的には、レベルが上がるにしたがって、誤用がなくなることがある。例えば、ストーリーテリングでは、中級まで「だから」との混同が見られたが、上級では観察されなかった。一方、レベルが上がるにしたがって、より低いレベルで観察されなかった誤用の種類や多用が観察されることもある。例えば、ストーリーテリングでは、初級では「だから」との混同が見られなかったが、中級では観察された。上級に上がっても改善されない不自然な使用に関しては、「それから」との混同や「重い情報」以外の出来事をつなぐところでの使用が挙げられる。

また、それぞれのタスクにおける使用が異なっている。ストーリーテリングというタスクを遂行させるのに、様々な意味関係を表す必要があるため、様々な混同の種類が観察された。それに対し、「昨日の出来事」を語るのに、基本的に継起的な「時間」の関係しか表す必要がないため、「それから」との混同がほとんどである。

第7章では、タイ人日本語学習者の使用の要因を考察する。タイ人日本語学習者は、初級教科書で「そして」のタイ語訳として紹介される「lɛ̀ɛwkôɔ́」の用法を基準にして「そして」を使用している。「lɛ̀ɛwkôɔ́」は「そして」と異なり、「それから」「でも」「すると」「だから」の意味が含まれており、フィラーとしても使用できる。「そして」の導入の際は、このような「そして」と「lɛ̀ɛwkôɔ́」の違いはほとんど言及されていない。また、「それから」「でも」「すると」「だから」が導入される時には、これらの表現と「そして」との違いや、日本語の発話では意味関係を配慮する必要があることは教室の活動では取り上げられていない。

また、レベルが上がるにしたがって、「そして」を使用する時の基準も変わっていく。中級レベルでは、「lɛ̀ɛwkôɔ́」の「それから」「だから」「すると」「でも」用法が使用に影響を与えている。一方、上級学習者は、「そして」が「lɛ̀ɛwkôɔ́」と異なり、「だから」「すると」「でも」を表すために使用できないことを理解していると考えられる。しかし、上級レベルでは、「lɛ̀ɛwkôɔ́」の「それから」用法がまだ使用に影響を与えている。

さらに、心理的な面でタスクの実施方法によって、レベルが上がっても、不自然な使用がなくなる場合がある。具体的には、対話相手があり、準備時間もなく、発話の内容も事前に確認できていないという対話タスクでは、上級レベルまで誤用やフィラーとしての使用が観察された。

第 8 章では、確認した日本語母語話者と各レベルのタイ人日本語学習者の使用、その使用の要因、さらに共通参照レベル（Council of Europe 2008）などを手がかりに、各レベルのタイ人日本語学習者のための「そして」の導入方法を提案する。

初級学習者については、談話レベルの発話が求められないことから、談話レベルのタスクを用いず、文がコントロールできる中級学習者になるための準備として、2 つの文を正しくつなぐような導入が適切である。また、日本語母語話者と学習者との対話データから、学習者の「そして」の多用の後、日本語母語話者がその発話内容をまとめる行動が見られた。「そして」の多用がこのような相手の理解を妨げることがあるため、早い段階で多用が発生しない対策を考えた方がいい。「そして」の誤用と多用の要因は、「そして」と「léɛwkôɔ́」の違いにあるため、この違いを積極的に取り入れる必要がある。具体的な活動としては、例えば、「léɛwkôɔ́」が出現するタイ語の文を日本語に翻訳させる活動や、タイ語でストーリーを語ってもらい「léɛwkôɔ́」が多く使用されていることを気付かせる活動が考えられる。

中級学習者については、ある程度長く話せるため、談話レベルでの「そして」の導入が適切である。本研究では、分析対象にしたストーリーテリングと対話での「そして」の用法を導入する場合の活動を考える。これまでの教育では、談話の構成と接続表現との関係を重視してこなかったが、談話の構成は「そして」の使用に関連があるため、説明した方がいい。談話における「そして」の使用を意識させる活動としては、ストーリーテリングでは、日本語母語話者の使用を参考に、簡単な文章に作り直し、「そして」がどの時点で使えるかという練習が挙げられる。また、対話では、スケジュール帳に似た表を提示し、事前に予定された出来事間と最後の出来事が終わった時点で「そして」が使えることや、他の日常的な出来事間では使えないことを意識させる練習が挙げられる。

上級学習者については、幅広い接続表現が使えるようにするような導入が必要である。また、対話では、「そして」と「それから」の混同も見られたことから、これらの違いをさらに強調する必要がある。上級学習者のための導入方法としては、副教材を使用し、「それから」と「そして」の違いを強調し、日本語母語話者と上級学習者の使用を比較させる練習が挙げられる。

第 9 章では、それぞれの課題を解決した結果をまとめてから、本研究の結論を述べる。本研究では、ストーリーテリングと対話という 2 つのタスクにおける日本語母語話者とタイ人日本語学習者の「そして」の使用とその要因を確認した結果から、各レベルの能力に

合わせた導入方法を提案した。この導入方法を用いて、タイ人日本語学習者を対象に「そして」を導入すれば、タイ人日本語学習者は日本語母語話者が使用している用法、かつ誤用や多用をせずに正しい用法で使うことができるようになると思う。

Abstract

A Study on Teaching Methods of the Conjunction *soshite* for Thai Japanese Learners
-Based on the Use in the Storytelling and Conversation Tasks-

SUVANAKOOT Patcharaphan

This study discusses how to effectively teach the Conjunction *soshite* to Thai learners in each level based on the use in Storytelling and Conversation tasks on the topic “the previous day’s events.” Through literature reviews and a pilot study, it is found that Thai intermediate and advanced Japanese learners often misuse or overuse the conjunction even though it is likely to be taught at the Beginner Japanese level. There are some studies that suggested the teaching methods of the conjunction. However, these studies analyzed either Native Speakers or Learners’ data in only one perspective and did not focus on Learners’ level.

For analysis, data of Japanese Native Speakers (JJJ) and Thai Japanese Language Learners (TTH)’ use of *soshite* in both tasks were collected from the International Corpus of Japanese As a Second Language (I-JAS) to examine JJJ’s use, TTH’s misuse and possible factors accounting for such use.

The result of JJJ’s data observation reveals that JJJ use *soshite* to continue a list of sequential events or parallel information. Further analysis also suggests that JJJ tend to be selective in its use, such as in “important events”. These functions of *soshite* were already suggested in previous studies. However, this study finds that the details on using *soshite* are different depending on the discourse structure of each task. In the Storytelling task, *soshite* is used to connect events that lead to story development, such as an “unexpected event” or “conclusion”, whereas in the Conversation task, *soshite* is used to connect between “formerly scheduled events”.

On the contrary, TTH tend to overuse *soshite*, connecting between wrong types of conjunctive meaning, using it as a filler to fill the silence, or using it to connect every event in the context. These findings are in accordance with previous studies. Nevertheless,

this study reveals that the observed misuse and differences between TTH and JJJ's use vary in levels of learning. For example, in Storytelling, intermediate learners use *soshite* instead *dakara*, while advanced learners do not make such a mistake. However, advanced learners are still not able to differentiate the functions of *soshite* and *sorekara*. Moreover, the mistakes found in the two tasks are unlike in kind. In the Storytelling task, TTH use *soshite* to connect between contrastive events in place of *demo*, while in the Conversation task, TTH substitute *soshite* for *sorekara* to connect between unimportant events.

The factor that might cause the misuse and overuse of *soshite* is possibly due to the fact that TTH use *soshite* based on the function of *léεwkôô* in Thai language. *léεwkôô* can be used to connect various kinds of conjunctive relations, without restrictions on the importance of events. Furthermore, *léεwkôô* can also be used to fill the silence as well. Despite the differences between the function of *soshite* and *léεwkôô*, in the vocabulary index of beginner Japanese textbooks, *soshite* is often translated into *léεwkôô*. Nonetheless, learners might learn that *soshite* cannot replace *léεwkôô* to connect between contrastive or causal relations at the advanced level. However, they might not be able to understand that *soshite* cannot replace *léεwkôô* to connect unimportant events. In addition, the implemented method of the tasks might affect the use mentally as well. In Conversation, the existence of a conversation partner and the fact that there is no preparation time might make learners nervous, which leads to misuse and overuse.

Based on the use and the factors mentioned above, along with language proficiency described by the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR), this study proposes the teaching methods of *soshite* to Thai Learners in each level as follows.

Beginner learners are not required to speak at the paragraph level and only need to focus on individual sentences. Consequently, it is necessary to teach how to use *soshite* to connect two sentences and emphasize that *soshite* cannot be used in place of *léεwkôô*. The example of classroom activity is such as translation of Thai sentence that contains *léεwkôô* into several Japanese conjunctions.

Intermediate learners are capable of speaking at some length. Consequently, it is essential to teach *soshite*'s function in discourse along with discourse structure as well.

For the Storytelling task, instructors may show all the sentences in the story and encourage learners to consider which conjunctive relationship that *soshite* can be used. For the Conversation task, instructors may present a schedule book to explain that *soshite* can be used to connect between important events.

Advanced learners are required to be able to use various conjunctive expressions. Therefore, it is suggested to make learners aware of how Japanese Native Speakers use the expressions. Instructors may use the result of the observation of the use of expressions other than *soshite* to explain the differences between the two groups. In addition, since advanced learners are still not able to differentiate *soshite* and *sorekara*, it is necessary to emphasize the differences between these two conjunctions.

After applying these teaching methods in Japanese language education in Thailand, it is expected that Thai Learners might be able to use *soshite* in the same way that Japanese Native Speakers do, given that the methods are based on the use of Japanese Native Speakers. Furthermore, Thai Learners might be able to use *soshite* correctly since the misuse and language proficiency are considered.

บทคัดย่อ

งานวิจัยเพื่อการสอนคำเชื่อม “soshite” สำหรับผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทย

-ศึกษาจากการใช้จริงในเรื่องเล่าบรรยายภาพและบทสนทนา-

พัชราพรรณ สุวรรณภู

คำเชื่อม “soshite” เป็นคำเชื่อมที่มักปรากฏในตำราเรียนภาษาญี่ปุ่นระดับต้น ทว่าก็ยังพบปัญหาในการใช้คำเชื่อมดังกล่าวในกลุ่มผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทยระดับกลางและสูง จากผลการศึกษา กลุ่มตัวอย่างและการทบทวนวรรณกรรมที่เกี่ยวกับการสอน “soshite” พบว่าผู้เรียนชาวไทยมีการใช้ “soshite” เชื่อมความหมายที่ผิดและใช้มากเกินไปจนความจำเป็น นอกจากนี้เนื่องจากงานวิจัยส่วนมากศึกษาการใช้จริงโดยใช้ข้อมูลจากชาวญี่ปุ่นหรือผู้เรียนชาวต่างชาติกลุ่มใดกลุ่มหนึ่งเพียงกลุ่มเดียว และไม่มีการศึกษาข้อผิดพลาดของผู้เรียนในแต่ละระดับอย่างละเอียด งานวิจัยชิ้นนี้จึงมีจุดประสงค์ในการนำคำเชื่อม “soshite” มาศึกษาการใช้งานและข้อผิดพลาดในการใช้เพื่อให้ได้วิธีการสอนที่เหมาะสมสำหรับผู้เรียนภาษาญี่ปุ่นชาวไทยในแต่ละระดับ

งานวิจัยนี้ ผู้วิจัยเก็บข้อมูลการใช้ “soshite” ของชาวญี่ปุ่นและผู้เรียนชาวไทยระดับต้น กลาง และสูง ที่พบในเรื่องเล่าบรรยายภาพและบทสนทนาหัวข้อ “เหตุการณ์ที่เกิดขึ้นเมื่อวาน” จาก International corpus of Japanese As a Second Language (I-JAS) เพื่อนำมาวิเคราะห์วิธีการใช้ของชาวญี่ปุ่น ข้อผิดของผู้เรียนชาวไทยในแต่ละระดับ ตลอดจนปัจจัยที่ทำให้เกิดข้อผิดพลาดนั้นๆ จากนั้นนำผลที่ได้จากการวิเคราะห์หามาอภิปรายเพื่อพัฒนาวิธีการสอนให้มีประสิทธิภาพ โดยคำนึงถึงชั้นระดับความสามารถของผู้เรียนประกอบด้วย

จากการศึกษาการใช้จริงของชาวญี่ปุ่น พบว่ามักใช้ “soshite” เพื่อเชื่อมเหตุการณ์ที่เกิดขึ้นตามลำดับเวลา หรือใช้เพื่อเชื่อมคำถามที่บอกความหมายในทำนองเดียวกัน ทั้งนี้ เหตุการณ์ที่เชื่อมจะเป็นเหตุการณ์ที่สำคัญในบริบทนั้นๆ ซึ่งการใช้ในลักษณะนี้เป็นไปตามงานวิจัยที่ศึกษาความหมายของ “soshite” มาก่อน อย่างไรก็ตาม งานวิจัยนี้พบว่ารายละเอียดปลีกย่อยในการใช้นั้นแตกต่างกันไปตามลักษณะเฉพาะของแต่ละวาทกรรม กล่าวคือ ในเรื่องเล่าบรรยายภาพ จะใช้เวลาที่มีการเปลี่ยนภาพเพื่อเชื่อมโยงไปยัง “เหตุการณ์สำคัญ” ในแต่ละโครงสร้างของเรื่อง เช่น “เหตุการณ์ไม่คาดคิด” หรือ

“บทสรุป” ของเรื่อง ในขณะที่ในบทสนทนาเรื่อง “เหตุการณ์ที่เกิดขึ้นเมื่อวาน” จะใช้เพื่อเชื่อม “เหตุการณ์สำคัญ” ที่มีการวางแผนไว้ล่วงหน้า

ในส่วนของผู้เรียนชาวไทย พบการใช้ “soshite” เพื่อเชื่อมความหมายที่คิด ใช้เพื่อเป็นส่วนเติมเต็มของช่องว่าง และมีแนวโน้มที่ใช้เพื่อเชื่อมเหตุการณ์ทั้งหมด โดยไม่ได้คำนึงว่าเป็น “เหตุการณ์สำคัญ” หรือไม่ ซึ่งแตกต่างกับการใช้ของชาวญี่ปุ่น ข้อคิดและแนวโน้มการใช้ที่แตกต่างจากชาวญี่ปุ่น ที่กล่าวนี้สอดคล้องกับงานวิจัยอื่นๆ อย่างไรก็ตามงานวิจัยนี้พบว่าทักษะการใช้คำสามารถพัฒนาตามระดับของผู้เรียน เช่นในเรื่องเล่าบรรยายภาพ ผู้เรียนระดับกลางมีการใช้ “soshite” แทน “dakara” แต่ไม่พบว่าผู้เรียนระดับสูงใช้คิดในลักษณะดังกล่าว ทว่าข้อคิดที่ยังพบในผู้เรียนระดับสูงคือการใช้ “soshite” แทน “sorekara” อีกทั้งข้อคิดที่พบในแต่ละวาทกรรมนั้นแตกต่างกัน กล่าวคือ ในเรื่องเล่าบรรยายภาพ มีการใช้ “soshite” แทน “demo” เพื่อบรรยายเหตุการณ์ขัดแย้งที่เกิดขึ้นในภาพ ในขณะที่ ในบทสนทนา ข้อคิดส่วนใหญ่คือการใช้ “soshite” แทน “sorekara” เพื่อเชื่อมเหตุการณ์ตามลำดับเวลาที่ไม่ใช่ “เหตุการณ์สำคัญ”

ปัจจัยที่ส่งผลกับการใช้ดังกล่าวคือ ผู้เรียนชาวไทยใช้ “soshite” โดยยึดความหมายของคำเชื่อม “แล้วก็” ในภาษาแม่ คำว่า “แล้วก็” นั้น สามารถใช้เชื่อมความหมายได้หลายประเภท รวมทั้ง เหตุการณ์ขัดแย้งและเหตุการณ์ที่เป็นเหตุเป็นผลโดยไม่จำกัดว่าต้องเชื่อม “เหตุการณ์ที่สำคัญ” ในบริบท และยังสามารถใช้เพื่อเติมเต็มช่องว่างในภาษาพูดได้อีกด้วย แม้คำว่า “แล้วก็” จะมีวิธีการใช้ที่แตกต่างจาก “soshite” อย่างชัดเจน ทว่าดัชนีคำศัพท์ในตำราเรียนภาษาญี่ปุ่นชั้นต้นกลับมักแปลคำว่า “soshite” เป็น “แล้วก็” และไม่มีการอธิบายความแตกต่างทางความหมายระหว่าง “soshite” และคำเชื่อมอื่นๆ อย่างไรก็ตามเมื่อผู้เรียนพัฒนาความสามารถภาษาญี่ปุ่นในระดับสูงขึ้นจะสามารถเรียนรู้ได้ว่า “soshite” ไม่สามารถใช้แทนคำว่า “แล้วก็” เพื่อเชื่อมเหตุการณ์ขัดแย้งหรือเหตุการณ์ที่เป็นเหตุเป็นผลได้ แต่จะไม่สามารถเรียนรู้ได้ว่า “soshite” ไม่สามารถใช้แทนคำว่า “แล้วก็” เพื่อเชื่อมเหตุการณ์ที่ไม่สำคัญได้ นอกจากนี้ ความแตกต่างของการเล่าบรรยายภาพและการสนทนายังส่งผลต่อการใช้อีกด้วย กล่าวคือ บทสนทนามีคู่สนทนาและไม่มีเวลาให้ผู้เรียนคิดก่อนตอบ อาจทำให้ผู้เรียนชั้นสูงเกิดความตื่นเต้นและใช้คำผิดพลาดโดยไม่ตั้งใจ

จากผลการวิเคราะห์ตัวอย่างการใช้จริงและปัจจัยที่ส่งผลต่อการใช้ดังกล่าว รวมถึงอ้างอิงระดับความสามารถของผู้เรียนตามหลักเกณฑ์ของ Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) ๓๑๑ สามารถนำมาอภิปรายวิธีการสอน “soshite” สำหรับผู้เรียนชาวไทยในระดับต่างๆ ได้ดังนี้

ผู้เรียนระดับต้นยังไม่จำเป็นต้องใช้ภาษาพูดในระดับวาทกรรม จึงควรสอนเกี่ยวกับการใช้ “soshite” ในการเชื่อมระดับประโยค โดยเน้นให้ผู้เรียนเข้าใจว่า “soshite” ไม่สามารถใช้แทนคำว่า

“แล้วก็” ได้ เช่น ฝึกให้แปลประโยคภาษาไทยที่มีคำว่า “แล้วก็” เป็นคำเชื่อมภาษาญี่ปุ่นที่มีความหมายต่างๆ

ผู้เรียนระดับกลางสามารถสนทนาในความยาวระดับหนึ่งได้ จึงควรสอนให้สามารถใช้ “soshite” ในระดับวาทกรรมได้ และควรสอนโครงสร้างของวาทกรรมต่างๆ ให้กับผู้เรียนเช่นกัน ในชั้นเรียนเรื่องเล่าบรรยายภาพ ผู้สอนอาจยกประโยคทั้งหมดในเรื่องเล่ามาให้ผู้เรียนคิดว่าสามารถใช้ “soshite” ในจุดเชื่อมใดได้บ้าง ในชั้นเรียนเรื่องบทสนทนา ผู้สอนอาจแสดงตารางกำหนดการเพื่ออธิบายว่า “soshite” ใช้เชื่อม “เหตุการณ์ที่สำคัญ”

ผู้เรียนชั้นสูงควรมีความสามารถในการใช้คำเชื่อมหลากหลาย จึงควรสอนให้เปรียบเทียบการใช้คำเชื่อมของชาวญี่ปุ่นและตัวผู้เรียนเองว่ามีความแตกต่างกันอย่างไรบ้าง ผู้สอนอาจใช้ข้อมูลที่ได้จากการสังเกตการใช้คำเชื่อมอื่นๆ ของชาวญี่ปุ่นมาประกอบการอธิบายความแตกต่างนี้ นอกจากนี้ยังควรเน้นย้ำความแตกต่างระหว่าง “soshite” และ “sorekara” เนื่องจากยังพบข้อผิดพลาดในกลุ่มผู้เรียนชั้นสูงอยู่

เมื่อนำวิธีการสอนที่งานวิจัยเสนอตั้งข้างต้นไปปรับใช้ในการสอนผู้เรียนชาวไทยแล้ว คาดว่าผู้เรียนจะสามารถใช้ “soshite” ในแต่ละประเภทของวาทกรรมได้เหมือนชาวญี่ปุ่น เนื่องจากได้นำประโยคที่ชาวญี่ปุ่นใช้จริงมาประยุกต์ใช้ในการกำหนดวิธีการเรียนการสอน นอกจากนี้ คาดว่าผู้เรียนยังสามารถใช้ได้อย่างไม่มีข้อผิดพลาด ตามความสามารถของผู้เรียนในระดับนั้นๆ เนื่องจากได้นำข้อผิดพลาดแต่ละระดับมาวิเคราะห์และเสนอแนวทางแก้ไข โดยยึดตามระดับความสามารถของผู้เรียนเป็นหลัก

目次

要旨.....	i
第1章 はじめに.....	1
1.1 タイにおける日本語教育の現状.....	1
1.2 文法教育の再検討について.....	1
1.3 接続表現の導入の問題点.....	3
1.4 タイにおける「そして」の導入の問題点.....	4
1.5 本論文の構成.....	8
第2章 先行研究.....	10
2.1 日本語の接続表現についての記述.....	10
2.2 「そして」の用法に関する研究.....	14
2.3 日本語学習者の「そして」の使用に関する研究.....	17
2.4 「そして」の導入に関わる教材と研究.....	20
2.4.1 教材における「そして」の導入.....	20
2.4.2 「そして」の導入方法に関する研究.....	25
2.5 残された課題.....	26
第3章 予備調査.....	30
3.1 予備調査の目的.....	30
3.2 データ概要.....	30
3.3 予備調査の結果.....	34
3.3.1 他の接続表現に対する「そして」の使用回数.....	34
3.3.2 レベル別の使用回数.....	35
3.3.3 レベル別の誤用.....	36
3.3.4 レベル別の多用.....	41
3.3.5 レベル別のフィラーとしての使用.....	43
3.4 予備調査の結論.....	44
3.5 残された課題.....	45
第4章 本調査の研究手法.....	46
4.1 接続表現の定義と「そして」の用法.....	46

4.2	研究課題と実施方法.....	47
4.3	データについて.....	52
4.3.1	ストーリーテリング.....	58
4.3.2	対話.....	60
第5章	日本語母語話者の「そして」の使用.....	65
5.1	ストーリーテリングにおける使用.....	65
5.1.1.	「そして」の使用.....	65
5.1.2	他の接続表現の使用.....	72
5.1.3	ストーリーテリングにおける「そして」と他の接続表現の使用の特徴	78
5.2	対話における使用.....	79
5.2.1	「そして」の使用.....	80
5.2.2	他の接続表現の使用.....	85
5.2.3	対話における「そして」と他の接続表現の使用の特徴.....	88
5.3	タスクによる「そして」の使用の相違点.....	89
第6章	各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用.....	92
6.1	ストーリーテリングにおける「そして」の使用.....	92
6.1.1	レベル別の使用回数および使用人数.....	92
6.1.2	レベル別の誤用.....	93
6.1.3	レベル別の多用.....	99
6.1.4	レベル別のフィラーとしての使用.....	100
6.1.5	レベル別の日本語母語話者が使用しているところでの使用.....	101
6.2	対話における「そして」の使用.....	101
6.2.1	レベル別の使用回数および使用人数.....	101
6.2.2	レベル別の誤用.....	102
6.2.3	レベル別の多用.....	110
6.2.4	レベル別のフィラーとしての使用.....	110
6.2.5	レベル別の日本語母語話者が使用しているところでの使用.....	111
6.2.6	調査実施者の「そして」に対する反応.....	112
6.3	レベルに伴う使用の変化とタスクによる変容.....	114

第7章 タイ人日本語学習者の使用の要因.....	119
7.1 タイ語の影響.....	119
7.1.1 タイ語の特徴.....	119
7.1.2 「そして」と近いタイ語の形式.....	124
7.2 これまでの導入方法の影響.....	131
7.2.1 教材における「そして」の扱い.....	131
7.2.2 教材における他の接続表現の扱い.....	132
7.2.3 談話の構成に関する導入.....	136
7.2.4 その他の導入方法の問題点.....	139
7.3 I-JAS の調査の実施方法の影響.....	139
7.3.1 対話相手の有無.....	140
7.3.2 準備時間の有無.....	140
7.3.3 発話内容の事前確認の有無.....	141
7.4 レベルに伴う要因の変化.....	141
第8章 各レベルの学習者のための導入方法.....	146
8.1 「そして」にあたっての説明事項.....	146
8.1.1 「そして」の用法.....	146
8.1.2 「そして」とタイ語の形式との相違点.....	147
8.1.3 談話の構成.....	147
8.1.4 日本語母語話者が使用する他の接続表現.....	147
8.2 「そして」の導入時期に関わる要因.....	150
8.2.1 学習者の能力.....	150
8.2.2 使用状況とその要因.....	152
8.2.3 他の表現や構成に関する導入時期.....	154
8.2.4 誤用の重さ.....	156
8.3 各レベルのタイ人日本語学習者のための具体的な導入方法.....	159
8.3.1 初級学習者のための導入方法.....	159
8.3.2 中級学習者のための導入方法.....	166
8.3.3 上級学習者のための導入方法.....	172
8.4 「そして」の導入にあたっての留意点.....	174

8.5 本研究で提案した導入方法の特徴.....	175
第9章 おわりに.....	179
9.1 本研究の結論.....	179
9.2 日本語教育文法再検討の方針や案への適応性.....	188
9.3 本研究の限界.....	190
9.4 今後の課題.....	191
謝辞.....	192
参考文献.....	193
タイ語の表記.....	199

第1章 はじめに

第1章では、研究背景を述べる。まず、1.1では、タイにおける日本語教育の現状を、1.2では、文法教育の再検討の流れを説明する。次に、1.3と1.4では、なぜ接続表現を研究対象にし、接続表現の中でもなぜ「そして」を中心に分析するのかについて、接続表現と「そして」の導入の問題点を挙げながら述べる。最後に、1.5では、本論文の構成を説明する。

1.1 タイにおける日本語教育の現状

2018年度国際交流基金の日本語教育機関調査によると、タイにおける日本語学習者数は184,962人である。2015年のそれに比べ、増加率は6.4パーセントであり、2018年の時点では、全世界の第5位となっている。また、日本語教育機関数や日本語教師数も増えている（国際交流基金 2020）。このような増加の背景として、日本のポップカルチャーの流入や日系企業の進出の増加などが挙げられる（国際交流基金 2019）。このように、日本語学習者数が増加傾向にあるタイであるが、日本語教育の現場では、改善しなければならない課題は多く、それを受け、タイ人日本語学習者の誤用などを分析し報告している研究も多い。例えば、高等教育機関で日本語を専攻した卒業生を対象にアンケート調査を行ったケーオキッサダン（2017）は、卒業生が日本語が聞き取れないことや日本語で話せない・伝達できないことを仕事の上での問題であることを報告している。これは、タイにおける日本語教育は実用の場面への考慮が十分ではないことを示唆している。タイ人日本語学習者数が増えている現在、彼らにとって最適な日本語文法教育のあり方を考察する研究がますます重要になってきている。

1.2 文法教育の再検討について

近年、コミュニケーションのための日本語教育文法について考察した研究が増えてきている。野田（2005）は、日本語教育文法の見直しが必要になってきた背景として、学習者の多様化と日本語学への依存を挙げながら、学習者の多様化や日本語学に依存しない日本語教育文法という背景から、以下のような方針を導き出した。

- 1) 無目的な文法から聞く・話す・読む・書くそれぞれの文法へ

- 2) 正確さ重視の文法から目的を達成できる文法へ
- 3) 一律の文法から学習者ごとの文法へ
- 4) 骨格部分重視の文法から伝達部分重視の文法へ
- 5) 形式を基盤とする文法から機能を基盤とする文法へ (野田 2005 : 2)

文法項目を具体的に再検討した研究としては、これまでの初級文法シラバスに、不要な文法項目がないか批判的に検討した小林（2005）が挙げられる。初級で不要な文法項目の例として、「命令形」が挙げられている。初級の日本語教科書では、「命令形」を導入するのに、銀行強盗という場面が設定されているが、実際にそういった場面は考え難く、無理に教える必要はないと述べている。中級文法の再検討の研究については、学習者の文法項目の使用回数を調査して中級文法項目を提案した山内（2009）や、日本語母語話者の文法項目の使用回数を調査して中級文法項目を提案した庵（2015）などがある。

タイ人日本語学習者のための文法教育の再検討に関しては、Katagiri 他（2007）は、初級文法教科書の問題点と母語に配慮する文法教育について論じた上で、タイ人日本語学習者のための初級文法項目の設定について以下の4つの案を提案している。

1) タイ人日本語学習者が理解しにくい文法を取り除く。タイ人日本語学習者が理解しにくい文法の例として、「場所に名詞があります・います」「～してあります」「預かる、貸す、泊める」のような動詞類が挙げられる。ただし、学習者が理解できそうな文法の場合は、理解のために教える。

2) タイ語と類似した文法を先に導入する。このような文法は、例えば、終助詞や動詞連続、所有・所属として用いられる「の」が挙げられる。

3) タイ語の負の影響を防ぎ、タイ語を有効に活用する。具体的に、タイ語と日本語の違いを意識させる練習が考えられる。

4) セットで教える。例えば、タイ人が多く誤用している条件を表す表現については、「～たらいい」「～ばよかった」のように教える。 (Katagiri 他 2007 : 67)

このように、これまで文法教育の再検討に関する様々な研究が行われてきたが、それらは初級文法を取り上げたものが多い。中級文法の再検討に関しては、日本語母語話者あるいは日本語学習者のコーパスを用いて、複数の文法項目の導入順序を提案する研究がほと

んどである。しかし、レベルごとに能力が異なるため、文法教育を再検討する際、中級と上級文法の再検討も行う必要がある。また、日本語母語話者のデータのみを分析する場合、実際の場面の使用は確認できるが、学習者の使用が把握できない。そのまま導入すれば、学習者が習得できないこともある。反対に、学習者のデータのみ分析する場合、母語話者の使用が反映されない導入になる。さらに、文法項目の使用回数を元に、導入時期を考えた場合、使用回数が多いものは先に導入されることが多い。しかし、使用回数が多かったとしても、その文法が母語と異なっているという理由などで学習者にとって難しければ、何も工夫せずに早い段階で導入すべきではない。また、野田（2005）が示した日本語教育文法の方針の「形式を基盤とする文法から機能を基盤とする文法へ」という観点から、一つの文法形式を必ずしも一つのレベルで導入する必要がないことがわかる。

このことから、文法教育の再検討を行うためには、すべてのレベルを対象に、日本語母語話者のデータおよび日本語学習者のデータという両面から分析する必要がある。また、文法の詳細まで分析するには、使用回数のみではなく、一つの文法項目ごとに取り上げなければならない。なお、特定の母語の日本語学習者を対象に文法教育の再検討を行う場合、まずその学習者が習得に困難がある文法項目がどの項目かを選定する必要があるだろう。

1.3 接続表現の導入の問題点

ここでは、主に接続表現¹の一つである接続詞の導入の問題点を述べる。初級日本語の教科書を取り上げ、接続詞の導入順序、場面・文体、用法、記述を観察し、問題点について考察したチョンペンスクラート（2008）は、文法中心の教科書と、コミュニケーション中心の教科書とでは、扱われている接続詞が異なることや、用法と場面・文体の説明は不十分であることを指摘している。また、田村（2008）は、現行の初・中級教科書の接続詞を母語話者の「話し言葉コーパス」での使用実態と比較した結果から、問題点として、話し言葉の1位の「だから」が初級教科書では取り上げられていないことや、使用される

¹ 日本語の接続表現の定義や用法などは第2章を参照されたい。第4章でも記述するが、本研究では用語として「接続表現」を用いる。ただし、先行研究を引用する場合は「接続詞」と表記する場合がある。

場面や共起語への配慮が見られないことなどを挙げている。さらに、筆者が中級教科書²の文法項目や語彙索引を調査したところ、接続詞はほとんど文法項目として取り上げられることがなく、読み物などに出現することが多いことがわかった。

以上のように、接続表現の導入の問題点はいくつか挙げられるが、接続表現は、文と文などをつなぐためのものであり、学習者にとっては、発話を組み立てる際に必要な文法である。接続表現について積極的に説明せず、読解の際のみ取り上げるような導入方法をとれば、整った談話を作ることができない問題が発生する可能性がある。そのため、接続表現の教育について検討する必要がある。

1.4 タイにおける「そして」の導入の問題点

接続表現の中でも、タイ人日本語学習者にとっては、一般的に初級前半で導入される「そして」の習得が難しい場合がある。「そして」の導入について、例えば、タイでよく使われており、タイ語訳もなされている『みんなの日本語初級 I』では、第 8 課で (1) の例文が記載されており、(2) のような練習がある。

(1) きのうち 松本さんの うちへ 行きました。

・・・どんな うちですか。

きれいな うちです。 そして、大きい うちです。

(『みんなの日本語初級 I 第 2 版 タイ語版』第 8 課例文：148)

(2) 日本の 地下鉄 (便利、きれい)

→ 日本の 地下鉄は どうですか。

・・・便利です。 そして、きれいです。

日本の 車は (高い、いい)

→ 日本の 車は どうですか。

・・・高いですが、いいです。

(『みんなの日本語初級 I 第 2 版 タイ語版』第 8 課練習 B：158)

² 調査対象にした教科書は、『みんなの日本語 中級 I 本冊』『みんなの日本語 中級 II 本冊』『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期』『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』『An Integrated Approach to Intermediate Japanese [Revised Edition]』である。

このように、「そして」が初級前半に導入されるにも関わらず、タイ人日本語学習者の多くが多用や誤用をしている。片桐（2016）は、タイ人日本語学習者が他言語を母語とする学習者より「そして」を多用していることを報告している。また、筆者が、タイ人の日本語学習者話し言葉コーパス（Corpus of Thai learners' Japanese Conversation : CTJC）³を用いて接続表現⁴の使用回数を調べた結果、「そして」の使用回数は、「と」「が」「でも」の次に 4 番目に多いことがわかった。本コーパスは、品詞を限定して検索することができないため、接続表現以外のものが入っている可能性があり、ヒットした「と」や「が」には接続表現ではないものが大量に含まれていると考えられる。そうだと、「そして」は「でも」の次に 2 番目に使用されている接続表現となる。

データを詳しく分析すると、以下のように一つのターンに 6 回も使用している学習者がいる。なお、記号については、T が OPI⁵テスターであり、I がタイ人日本語学習者である。

(3) T : はい、お願いします、教えてください< {笑} >、おもしろいなー< はい > って思ったんですよね？< {笑} >

I : はい {笑いながら}、うーん、パーイさんー、のことなんです、パーイさんは一じゅーろくさいー[16 歳]、の少年でー、とーその時、パ、パーイさんは、インド、インド人です、パーイさんの家族は一、どーぶ、えっとーどーぶつえんー[動物園]をー、どーぶつえんー[動物園]のオーナーですね、お父さんパイさんのお父さん、そしてえその、その、その時はー、インー、インドは、ちょっとー、とー、ふけー、ふけーさいー、確か {笑} {息を吸う音} ふけーだからー、お父さんはー、動物園をー、他の所にーひら、開こうと思っています、カナダに、ひっこーし[引越し]に、しました、カナダー[カナダ]に、行く、のにー、船でー、行きました、船、船に行ってー、でも全部の動物もー、持って、行かな

³ CTJC の概要は第 3 章を参照されたい。

⁴ 市川（1978）の接続語句の類型に従って使用回数の調査をしたが、ここでは「接続表現」という用語を用いる。市川（1978）の接続語句の類型についての記述は第 2 章を参照されたい。

⁵ Oral Proficiency Interview の省略。ACTFL（The American Council on the Teaching of Foreign Languages）の基準。ある個人の「熟度の度合い」や「能力」を測定するためのガイドラインである。OPI は、言語に関する知識ではなく、言語活動遂行能力を問う試験である。OPI テスターはインタビュアーであるレベル判定者である。詳しくは第 3 章を参照されたい。

ければ、なりません、船の中で一、あるばん一[晩]、大きいハリケーンが一起きてえ、えと一、船が、なんと、倒れ、てしま、しまいました、そしてえ、パイさんの家族がみんな、亡くなりましたが一、パイさんが、パイさんが、生きます、パイさんは、小さいボートに、んん一、逃げ一、逃げられます、そしてえ、パイさんが起きたら一、大きーい、ベンガル、な、トラと一緒に、同じ、ボートに、いました、そしてえ、えと一、パイさん一、その一、そのトラ、と一、毎日、暮らす、ことを、み、見ました、はい、す結局は、パイさんが、と一島に、着きました、そして一、パイさんが一、その一、そのトラは、んと一、は、森に、行ってしまった、そしてパイさんは、いえ[家]に帰りました

T：パイさんはどこのいえ[家]に帰ったんですか？ (CTJC：ID145 上級一中)

さらに、「そして」の多用のみではなく、タイ人日本語学習者のデータには誤用も観察された。「そして」の意味的な関係の誤用の例は以下のとおりである。誤用に関する表記については、「そして」の後ろに「→」をつけ、「→」の後ろにその箇所により適切な接続表現を斜体と□で示す。

(4) T：どうやって選んだ<{笑}>、どうしてそのテーマになったんですか？<あ>

I：実はこの、テーマは一、去年の学生は、あ一決めていたんです、そして→でも一去年はこうす、洪水ですから一{笑}まあ、去年は一、キャンセルさせてしー

T：ふーん (CTJC：ID12 中級一上)

(5) T：あーそうなんですか〈はい〉、じゃーその時のこと教えてください

I：はい、実は一わたしのお父さんは日本人で一、日本で一、あ一、働いています、そして→だからわたし日本にい、行く時は、お父さんの所に、住みます、お父さん一が住んでいる、所は、大阪市の〔地名 B〕市、です、はい、{笑}日本に、行って一、お父さんと2人、え一過ごします、暮らして、暮らしました

T：どれぐらい、行ってたんですか？ (CTJC：ID145 上級一中)

(4) では、逆接関係を表す「でも」、(5) では、順接関係を表す「だから」が必要なところに「そして」が使用されている。

以上のように、タイ人日本語学習者が上級レベルになっても、「そして」に関して多用や誤用をしていることがわかった。このような「そして」の過剰使用や用法と異なる意味関係を表す使用はコミュニケーションの理解を妨げる場合がある。例えば、以下のタイ人日本語学習者と日本語母語話者との会話を見てみよう。タイ人日本語学習者の「そして」を多く使用した発話の後、日本語母語話者がその内容をまとめるという行動が見られた。この行動を引き起こした要因は、発話の輪郭が捉えにくかったため、自分でまとめる必要があったからだと予想される。なお、記号に関しては、C が調査実施者である日本語母語話者で、K が被調査者であるタイ人日本語学習者である。

(6) 1 C そうすると朝、九時に起きて夜十二時に寝るまでの、昨日一日（いちにち）のお話を、どんなことをなさったか〈あーはい〉簡単に教えてください

1 K はいえーと、えー私は起きてから、えーなんと言うか、えー、なんと言うか、えー、修士るんぶん（論文）、〈うんうんうん〉修士論文の準備を、なんて言うか、しようと、〈うん〉思いましたけど、えーなんと言うか、フェス（フェイス）、フェスブック（フェイスブック）とか、えーとチェック（/チェック）、なので、なんて言うかえーと、おも、えー思ったと、思ったより、なんて言うかえー時間、を、なんか、かかってしまいました〈うんうん〉①そして→それで、なんかえーと、えー、昼、ご飯一、なんかひ昼ご飯の、時間一までくらいなんだ（なんか）、かかってしまいました、はい、②そして→正用えと昼ご飯は、えー昼ご飯を、えーと食べーてから、〈うんうん〉あたしはえーずっと、はい、えー修士論文の準備をなんかえー、して、いました、はい、はい、③そして→それからえーと、ゆうかた（夕方）、は一、えー、はい、ともらち（友達）、ともらち（友達）に一、なんかえーとレポート（デパート）で、えと、会いに、会いに、行きました、はい、なんか、えーと一緒に、えー晩ご飯を、えー食べたり、はい、食べだり（食べたり）、して、④そして→付加えーと少し、えーといろいろな事を話したりして、⑤そして→付加私はえーと、家に、帰りました、はい、⑥そして→そのあとはえーと、はい、えー、一生懸命 {笑} はい、えーと歴史一、なんかえーかん、関係する、えーと歴史の教科書とか、はい、えーと、えー読んだり、はいえー修士、論文の準備をかえったり（/書いたり）して、はい⑦そして→付加、えーと、なんか、なんて言うかえーこう、眠く、なっ、てしましましてはい⑧そして→それで〈うん〉、寝ました

2 C そうですか、はい、はい、いろんなことまあ、午前中はねあんまり、あの何（なに）十分（じゅうぶん）なことができなかったかもしれないけどまあ〈はい〉午後から、ずっとこう、あの、論文の、勉強なさったんですね

（多言語母語の日本語学習者横断コーパス（International Corpus of Japanese as a Second Language : I-JAS）⁶ : TTH33 SPOT76）

以上のように、「そして」がタイ人日本語学習者にとって難しい文法項目であることがわかった。このことから、「そして」は本研究で取り立て、文法教育の再検討を行うのに適切な文法項目だと考える。

「そして」の導入方法を提案した研究は、大きく二つに分けられる。一つは、石黒（2000）のように「そして」の用法を論じた上で初級では話し言葉を中心に導入する立場では、「そして」より「それから」の方が相応しいことを指摘した研究である。もう一つは、市川偏（2010）のように、「そして」の誤用を分析した結果から、接続詞同士を比較しながら、2文がどのような論理関係を持つか教えることを提案した研究である。しかし、これらの研究では、すべての学習レベルが考慮されておらず、日本語母語話者と日本語学習者のデータが同時に分析されていない。

しかし、文法項目の再検討の観点からも、文法教育の再検討を行うためには、すべてのレベルを対象に、日本語母語話者のデータおよび日本語学習者のデータという両面から、一つの文法項目を詳細に分析する必要がある。よって、本研究では、「そして」を取り立て、日本語母語話者とタイ人日本語学習者のデータを用いて、各レベルに合わせた導入方法の提案を行う。

1.5 本論文の構成

本論文は9章により構成されている。それぞれの章の内容は以下のようにになっている。

第2章では、先行研究を概観する。日本語の接続表現について記述されている研究、日本語学習者の「そして」の使用に関する研究、日本語学習者の「そして」の使用に関する研究、「そして」の導入に関わる教材と研究を紹介してから、残された課題を述べる。

⁶I-JAS の概要は第4章を参照されたい。

第 3 章では、予備調査について説明する。予備調査の目的、データの概要、予備調査から得られた結果と結論を述べてから、残された課題をまとめる。

第 4 章では、どの接続表現の定義と「そして」の用法を採用するかを決定する。それから、研究目的と課題および課題を解決するための実施方法を説明する。最後に、本研究で用いるデータについて概説する。

第 5 章では、日本語母語話者の「そして」の使用を確認するためにストーリーテリングと対話のデータを用いて、その使用を観察する。まず、ストーリーテリングにおける「そして」と他の接続表現の使用を観察する。次に、対話における「そして」と他の接続表現の使用を観察する。最後に、先行研究で記述されている用法を参考に、タスクによる「そして」の使用の相違点を考える。

第 6 章では、各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認するために、日本語母語話者のそれを確認した際に使用したストーリーテリングと対話のデータを用いて、使用の観察を行う。まず、ストーリーテリングにおける各レベルの「そして」の誤用や多用を観察する。次に、対話における各レベルの「そして」の誤用および多用を観察する。最後に、レベルに伴う使用の変化とタスクによる変容について考える。

第 7 章では、タイ人日本語学習者の使用に影響を与える要因を考察するために、母語であるタイ語との対照、これまでの導入方法の問題点の洗い出し、それぞれのタスクの調査の実施方法の分析を行ってから、レベルに伴う要因の変化について考える。

第 8 章では、それぞれのレベルの学習者のための「そして」の導入方法を考える。まず、使用の確認と要因の考察から、「そして」に関してどのような説明事項があるかを列挙する。次に、「そして」の導入時期に関わる要因について考える。それから、タイ人日本語学習者のレベルごとの具体的な導入方法を提案し、「そして」を中心とした接続表現の導入にあたる留意点を挙げる。最後に、提案した導入方法の特徴について述べる。

第 9 章では、これまで論じてきたことの全体的なまとめを行う。まず、本研究の各課題と最終目的に対する結論を述べる。次に、日本語教育文法再検討の方針や案の適応性について述べる。それから、本研究の限界を挙げる。最後に、今後の課題を述べる。

以上、第 1 章では、本研究の背景と本論文の構成について説明した。第 2 章では、先行研究を概観する。

第2章 先行研究

第2章では、先行研究を概観する。2.1では、日本語の接続表現の定義、分類、使用について記述されている研究を、2.2では、「そして」の用法に関する研究を、2.3では、日本語学習者の使用に関する問題点を分析した研究を、2.4では、「そして」の導入について言及した教材および研究を概観する。最後に、残された課題を述べる。

2.1 日本語の接続表現についての記述

「そして」の日本語の接続表現の中での機能を把握するために、日本語の接続表現の定義、分類、使用について記述されている研究を概観する。

これまで、文章・談話研究において、接続表現を対象にした研究が様々な観点でなされてきた。接続表現についての記述や用語については、研究者によって異なるが、ここでは、市川（1978）、佐久間（1990）、日本語記述文法研究会編（2009）、石黒他（2009）の記述を紹介する。

市川（1978）は、接続詞、接続詞的機能をもつ語句、接続助詞、接続助詞的機能をもつ語句は文と文、あるいは節と節との関係を示す形式だと述べ、これらの表現を一括して「接続語句」と呼んでいる。また、文と文とがつながって、文脈が形作られていく上で、接続語句は、文脈における思考方式を端的に示すものであると述べている。文と文との論理的関係そのものを「文の連接関係」と呼び、基本的類型を以下のように分類し、それぞれのタイプの接続語句の例を挙げている。

（一）**順接型** 前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる型。

[順当] = だから・ですから・それで・したがって・そこで・そのため・そういうわけで・それなら・とすると・してみれば・では

[きっかけ] = すると・と・そうしたら

[結果] = かくて・こうして・その結果

[目的] = それには・そのためには

（二）**逆接型** 前文の内容に反する内容を後文に述べる型。

[反対・単純な逆接] = しかし・けれども・だが・でも・が・といっても・だとしても

[背反・くいちがい] = それなのに・しかるに・そのくせ・それにもかかわらず

〔意外・へだたり〕＝ところが・それが

(三) **添加型** 前文の内容に付け加わる内容を後文に述べる型。

〔累加、単純な添加〕＝そして・そうして

〔序列〕＝ついで・つぎに

〔追加〕＝それから・そのうえ・それに・さらに・しかも

〔並列〕＝また・と同時に

〔継起〕＝そのとき・そこへ・次の瞬間

(四) **対比型** 前文の内容に対して対比的な内容を後文に述べる型。

〔比較〕＝というより・むしろ・まして・いわんや

〔対立〕＝一方・他方・それに対し・逆に・かえって・そのかわり

〔選択〕＝それとも・あるいは・または

(五) **転換型** 前文の内容から転じて、別個の内容を後文に述べる型。

〔転移〕＝ところで・ときに・はなしかわって

〔推移〕＝やがて・そのうちに

〔課題〕＝さて・そもそも・いったい

〔区分〕＝それでは・では

〔放任〕＝ともあれ・それはそれとして

(六) **同列型** 前文の内容と同等とみなされる内容を後文に重ねて述べる型。

〔反復〕＝すなわち・つまり・要するに・換言すれば・言い換えれば

〔限定〕＝たとえば・現に・とりわけ・わけても・せめて・少なくとも

〔換置〕（肯定と否定の置き換え）

(七) **補足型** 前文の内容を補足する内容を後文に述べる型。

〔根拠づけ〕＝なぜなら・なんとなれば・というのは

〔制約〕＝ただし・もっとも・ただ

〔補充〕＝なお・ちなみに

(八) **連鎖型** 前文の内容に直接結びつく内容を後文に述べる型。（接続語句は普通用いられない。）

〔連係〕（解説付加・見解付加・前置きの表現との連係・場面構成など）

〔引用関係〕（他の文と会話文の関係など）

〔対応〕（問答形式）

市川 (1978) の類型では、「そして」は添加型の〔累加、単純な添加〕と分類されている。

佐久間 (1990) は、接続関係の類型と主な接続語句については市川 (1978) に従っている。しかし、用語として「接続表現」を用いて、「接続表現」は主として接続詞や接続助詞、およびそれに相当する機能を持つ語句（副詞・名詞・連語）や文を含むとしている。また、「文の接続関係」とは、特に文や段落のような比較的大きい内容上のまとまり（言語単位）をつなぐ接続表現の意味的な関係のことだが、「文のつなぎ方」「文と文との関係」「文の続け方」などといわれることもあると述べている。

一方、日本語記述文法研究会編 (2009) は、「接続表現」は、後続部の内容が談話の先行部や談話全体とどのような関係にあるかを示す言語的要素であると定義している。また、接続助詞については、接続表現と同じようにある要素と他の要素との関係を表示する機能があるが、以下のように文を読む時、ポーズの位置が異なることから、接続表現とは性質が異なるとしている。

(7) もう立春だが、まだ寒い。 [接続助詞]

(8) もう立春だ。だが、まだ寒い。 [接続表現]

(日本語記述文法研究会編 2009 : 53)

(7) では「もう立春だが（ポーズ）まだ寒い」のように接続助詞のあとにポーズが挿入されるのに対し、(8) では「立春だ。（ポーズ）だが、まだ寒い」のように、接続表現の前にポーズが挿入される。つまり、接続助詞は先行部の名詞が他とどのような関係にあるかを示すものであり、接続表現は後続部と他との関係を示すものであるという。

接続表現の類型については、話題の展開に関わるかどうか、前後が対等な関係で入れ替え可能かどうか、前後に論理的関係があるかどうか、などの特徴によって分類できると述べ、以下のような接続表現の一覧を示している。

表 1 接続表現の一覧

論理的展開を表示する接続表現	確定条件	だから／それで／そのため／したがって／ゆえに／よって／そこで
	仮定条件	それなら／なら／それでは／では／そうしたら／すると／そうすると／とすると／してみると／そうなる／こうなる／となると
	否定条件	さもないと／さもなければ／そうでなければ／そうでないと／そうしないと／そうしなければ
	理由	なぜなら（ば）／なぜかという／どうしてかという／というのは／というのも／だって
	逆接	しかし／だけども／でも／ところが／それが／それなのに／そのかわりに／そのくせ／と（は）いっても／とはいえず／そうはいっても
加算的關係を表示する接続表現	添加	<u>そして</u> ／それで／それと／あと
	累加	それに／そのうえ（に）／おまけに／そればかりか／ひいては／しかも／それも
	換言	すなわち／つまり／いいかえると／いわば／いってみれば
	例示	実際／事実／たとえば
	卓立	特に／とりわけ／なかでも
	代替	代わりに／その代わり（に）／いな／そうではなく（て）／そうじゃなくて／というより（も）／というか／むしろ
対等な關係を表示する接続表現	並列的提示	および／ならびに／かつ／なおかつ
	選択的提示	または／ないし（は）／もしくは／あるいは／それとも
話題の展開を表示する接続表現	転換	ところで／さて／それにしても／話は飛ぶけど／話は変わるけど／それはそうと／それより
	列挙	第1に／第2に／1つめに／2つめに／まず／はじめに／最初に／つぎに／つづいて／ついで／それから／また／さらに／ほかに／最後に
	対比	それに対して／反対に／反面／逆に／一方（で）／他方（で）
	まとめ	このように／以上（のように）／要するに／こうして／結局／このようにして
	補足	ただし／ただ／もっとも／ちなみに／なお
	無視	いずれにしても／どっちみち／どっちにしても／何にしても／何はともあれ／とにかく

（日本語記述文法研究会編 2009：58）

日本語記述文法研究会編（2009）では、「そして」は加算的關係を表示する添加の接続表現と分類されている。

以上のように定義・分類されている接続表現が実際にどのように使用されているかに関しては、石黒他（2009）は、ジャンル別のコーパスを用いて、接続表現の使用回数を調査した。石黒他（2009）では、接続表現の種類別の使用回数について、上位 30 位まで示しているが、ここでは各ジャンルの 5 位まで示す。

表 2 接続表現の種類別の使用回数

順位	社説	コラム	論文	エッセイ	小説	シナリオ	講義
1	しかし	だが	しかし	しかし	しかし	でも	で
2	だが	しかし	また	<u>そして</u>	<u>そして</u>	だから	それから
3	また	ただ	<u>そして</u>	だが	だが	じゃあ	<u>そして</u>
4	さらに	だから	さらに	ところが	それから	それで	つまり
5	一方	もともと	たとえば	だから	すると	だって	だから

（石黒他 2009：80-82）

石黒他（2009）では、「そして」が 3 位以内で出現するジャンルは論文、エッセイ、小説、講義であることが明らかになった。

2.2 「そして」の用法に関する研究

「そして」が正しく使えるように導入するために、これまで記述されてきた「そして」の用法を把握する必要がある。

「そして」の用法については、「それから」などのような類義の接続表現と比較しながら、様々な観点で研究されてきた。ここでは、浜田（1995）、森山（2006）、石黒（2000）、日本語記述文法研究会編（2009）が記述した用法を紹介する。

浜田（1995）は「そして」が添加の接続詞として、表現類型の観点で「そして」の用法を分析している。その結果、「そして」の後件に演述型の文を取るものが多く見られるが、感嘆型の文も接続可能であることと指摘している。一方、疑問型、情意表出型、訴え方の生起は制限されているという。それぞれの類型の例は以下のとおりである。

（9）再び歩き出しながら、勇は足が石のように固くなっているのを感じていた。そして、熊を見たときに勇を襲った、底のない虚脱感のようなものを思い出していた。（九月）

[演述型]

(10) 空が青いなあ。そして、海がきれいだなあ。 [感嘆型]

(11) 「お相手と云うモデルさんは？」

「マリアって云う足の綺麗な売れ線の…」

「？そして今回は何て云うモデルさんと居らしてるんですか」 (マリ) [疑問型]

(12) 明日は久しぶりの休みだ。？そして家でゆっくりしたい。 [情意表出型]

(13) 「ポテトの M。？そしてアイスコーヒー。」 [訴え型]

(浜田 1995 : 575-577)

他には、「そして」の性質として、聞き手と話し手の相互交渉を前提としない文脈で用いられるとまとめている。一方、「それで」は聞き手と話し手の相互交渉を前提とする文脈で用いられ、「それから」は発話の内部に含まれないで、発話同士を接続すると述べている。

森山 (2006) も、他の接続表現と比較しながら、「そして」の機能を記述しているが、表現類型の観点ではなく、「添加」「累加」の接続関係がどういう関係なのかについて分析した。「そして」は、大きくは同じつながりのことでありながら、その下位情報として「異項目」としての次の頭出しをする標識であると述べている。また、「そして」は、(14) のように広い意味での付帯的同時的な接続も表すことができ、「て形」から成立したことから、(15) のようにその事情に何らかの関連性があることを含意する場合に使われるとも指摘している。

(14) 顔に水滴があたった。そしてそれはまぎれもなく雨だった。 (森山 2006 : 198)

(15) 広場から煙が出た。そして、消防車が来た。 (森山 2006 : 201)

さらに、関連性があることを含意する場合に使われるという特性から、「そして」が「そして？」のように接続関係を指定して後続部分を問う用法で使われることが少ないことも述べている。他には、「そして」を含む添加の接続詞を以下のように位置付けている。

異類異項目：また、次に、一方

同類異項目：そして (継起性の指定なし)

それから (継起性の指定あり。そのため発話の追加が可能)

あと、それと（発話の追加のみ）

同類異項目同傾向：その上、さらに

（森山 2006 : 205）

一方、石黒（2000）は、「そして」が、どのようなカテゴリーのものを結びつけることができるかについて注目した。論文で使用されている「そして」を用法と機能の観点から分析した結果、「そして」は「並列」「因果関係」「時間」の用法を備えていると指摘している。さらにそれぞれの用法について、「並列」を表す「そして」は「列挙の「それから」」に言い換えられ、「因果関係」を表す「そして」は「だから」や「それで」と比べて軽い因果関係を表すもので、「時間」を表す「そして」は途中経過を与えるものと「継起の「それから」」や手順を踏まえたことを示す「その上で」に近いものがあると詳細に記述している。その他、「そして」は「決定的な事態」を表すものとして使われる傾向があると述べ、この「決定的な事態」は「ある一連の事態を、類似性、因果関係、時間という軸に沿って並べていった結果たどり着く、それ以上進めない到達点」を表していると定義している（石黒 2000 : 38）。それぞれの用法の例は以下のとおりである

（16）公共事業は自民党の集票を支える最大の基盤だと言えるだろう。その理由は、第一にその金額が極めて巨額だからである。第二にはそれが農業では食えなくなった農民を村に足止めする効果を持ったからである。そして第三に、土建業を中心とする関連企業から、「汚い」カネも含めて選挙資金を上げるばかりか、それら企業の社員たちを選挙の時の運動員として使うことができるからである。 [並列]

（17）三木清の獄死のニュースを聞いて、ロイター通信の記者がすぐに事情をしらべた。そして、政治犯のすべてがまだ獄中にいるということを知った。 [因果関係]

（18）やがてやつらはわれわれの身体の上にガソリンを浴びせかけ、藁や乾草や荷車の横木や梯子などを積み重ねました。そして火を放ちました。 [時間]

（石黒 2000 : 29-30）

日本語記述文法研究会編（2009）も、「そして」がどのようなカテゴリーのものを結びつけることができるかについて注目した。しかし、石黒（2000）と異なり、「そして」の「因果関係」用法は記述していない。また、石黒（2000）が用語として使用した「並列」用法と「時間」用法については、それぞれ「つけ加え」用法と「継起」用法という用語を

用いている。「そして」は(19)のように先行部に加え、後続部でも意味的に同じ内容のものが続くことを表すと述べている。また「そして」は文が(20)のように連なるときに繰り返して用いられることはあまりなく、列挙の最後の項目の前に用いられるのが最も自然だと述べている。また、名詞修飾節が長い場合、(21)のように、「と」より「そして」を用いた方が聞き手・読み手の理解が容易になるという。

(19) 郵便局に貯金がいくらかあります。そして、銀行に定期預金があります。それが私の全財産です。

(20) ?お盆休みは北京に行った。まず、天壇を見学した。そして、天安門広場を見た。そして、世界最大級の宮殿、故宮を見た。

(21) 政府の専制的な政策に反対して立ち上がったのは学生たち、そして学生のそうした動きに賛同した市民たちだった。(日本語記述文法研究会編 2009 : 86-87)

2.3 日本語学習者の「そして」の使用に関する研究

日本語学習者が「そして」が正しく使えるように導入するために、これまでの研究ではどのような問題点が指摘されてきたかを確認する必要がある。日本語学習者がどのように「そして」を使用しているか、その使用がどのように日本語母語話者と異なっているかなどについて、日本語学習者の「そして」の使用を分析した研究としては市川偏(2010)、石黒(2017)、砂川(2017)、長谷川(2019)、片桐(2016)、スワンナコート(2019)、スワンナコート(2020)、スワンナコート(2021)が挙げられる。

市川偏(2010)は、「そして」の誤用を分析している。市川偏(2010)によると、「そして」については、非常に誤用が多く、単に物事を付け加える添加や、引き続いて起こることを表す継起の接続詞として過剰に使用されがちである。誤用の種類に関しては、(22)のような「そして」の脱落、(23)のような「そして」が必要でない付加、(24)のような他の項目との混同と分類している。混同する接続表現は、「それから」「また」「だから」「それで」「さらに」「そのとき」「そうすれば」「そのため」「その結果」「要するに」「並列助詞「と」」を挙げている。(24)は「そうすれば」との混同の例である。

- (22) 脱落 誤：初めて新宿に行った時、町の両側に立ち並んでいる林みたい高層ビルに、町の次から次への人々にびっくりさせられた。（中国人学習者）
正：初めて新宿に行った時、町の両側に立ち並んでいる林みたいな高層ビルに、そして、次から次へと現れる町の人々にびっくりした。
- (23) 付加 誤：日本の学校が 5 日間べんきょうして、インドネシアの学校は 6 日間べんきょうしますが、まい日 2 時まで、そしてごごにクラブやアクティビティのために学校へ行きます。（インドネシア人学習者）
正：日本の学校は 5 日間勉強します。インドネシアの学校は 6 日間勉強しますが、毎日 2 時までで、午後はクラブやアクティビティのために学校へ行きます。
- (24) 混同 誤：毎日天気予報を聞いたら、かさとか、レインコートとか、ホーバとかの用意ができる。そして、仕事する時か出かける時か、何も心配しない。（マレーシア人学習者）
正：毎日天気予報を聞いたら、傘とか、レインコートとか、オーバーとかの用意ができる。そうすれば、仕事する時や出かける時、何も心配しなくていい。（市川 2010 : 255-256）

一方、石黒（2017）は、誤用分析を行わず、日本語母語話者と日本語学習者の接続表現の使用を比較した。中国語を母語とする日本語学習者と日本語母語話者を対象に、映画の視聴に基づくストーリーの説明および旅行の思い出を語る旅行体験の説明といったタスクをさせ、出現した接続表現について観察した。「そして」に関しては、学習者はよく用いる一方、母語話者はあまり使わないと指摘している。「そして」は話し言葉の中でまったく使わないわけではないが、「決定的な事態」を表すものとして使われる傾向から、使われると、その直後の情報が重くなると指摘している。

砂川（2017）も、日本語母語話者と様々な言語を母語とする学習者のストーリーテリングのデータを用いて、順接表現の使用を分析した。「そして」については、問題解決へと大きく話題が展開するところで、学習者は「そして」を使用しているが、日本語母語話者は、「そこで」を多く使用している。「そこで」にはそれまでの状況を踏まえて、それ以降で談話が大きく進展することを予想させ、次の展開に期待感を持たせることができるため、日本語母語話者のストーリーテリングの談話展開のダイナミズムが効果的に表現さ

れていると指摘している。一方、「そして」にはそのような談話展開機能がない。その他、「そして」の使用は、思いついたことをそのつど付け加えているだけという印象を与えてしまうこともあることも指摘している。

また、長谷川（2019）も、日本語母語話者と日本語学習者の「そして」の使用を比較した。「わたしのちょっと面白い話コンテスト」コーパスを用いて、日本語学習者の「そして」の使用を観察した。その結果、学習者は話の山場において「そして」を使用しており、使用することはオチを導くことにはならず、面白い話を語るというタスクの遂行においては、「そして」の使用は効果的ではないと述べている。

タイ人日本語学習者を対象にした研究は、片桐（2016）が挙げられる。片桐（2016）は、3～5文字列のNグラム処理⁷分析の結果から、タイ人日本語学習者が、中国語・韓国語・英語母語話者より「そして」を3倍以上多く使用していることを指摘している。また、タイ人日本語学習者の日本語のデータから「そして」の誤用の種類として、「話題転換」「因果関係」「時間的経過」を挙げている。さらに、「そして」とタイ語の形式である「léew (kôo)」⁸との対照研究を行うために、日本語母語話者とタイ人日本語学習者に4コマ漫画のストーリーを語ってもらった。日本語母語話者には日本語で、タイ人日本語学習者には日本語とタイ語で話してもらった。タイ語のデータからは「léew (kôo)」の使用も多く見られ、これはタイ人日本語学習者の日本語のデータから観察された「そして」の使い方と似ており、全体に散らばって分布していると指摘している。「léew (kôo)」と「そして」の相違点に関しては、「léew (kôo)」は対話場面でよく使われる形式であるのに対し、「そして」は書き言葉と独話場面において主に用いられ、用法については、「léew (kôo)」は「そして」よりも用法の幅が広いことが明らかになった。

スワンナクート（2019）も、タイ人日本語学習者を対象にしており、レベル別の使用に注目し、タイ人日本語学習者話し言葉コーパス（CTJC）を用いて各レベルの「そして」

⁷ N グラム処理とは、「テキストデータの中の、任意の長さの文字列の出現頻度を知ることができる手法」である（山内 2004 : 151）。

⁸ 教科書においては「そして」のタイ語訳として「léewkôo」が挙げられている。しかし、日常会話では kôo が省略されることがある。ここでは、片桐（2016）が表記したままの「léew (kôo)」を引用した。なお、「léewkôo」の意味、用法、「そして」との違いについては、第7章で論じる。

の使用状況を分析した。その結果、次のように各レベルの使用傾向をまとめている。タイ人の初級学習者は短い文しか話せないため、一つのターンに多くても2回使用している。それに対し、中級学習者は一つのターンに6回も多用し、逆接関係および因果関係を表す場合に誤って使用している。上級レベルでは多用の減少は見られたものの、使用が減っており、誤用の種類も少なくなっている。さらに、「そして」の使用状況に影響を及ぼす要因の考察も行い、要因として母語干渉と教科書の影響を挙げている。母語干渉については、「そして」と近い形式である「lɛɛwkôɔ̌」が、タイ語の文では、「lɛɛwkôɔ̌」の直後に「なんか」と訳されるタイ語や間が観察されたことから「lɛɛwkôɔ̌」は時間を稼ぐために使用される場合もあると指摘している。

また、タイ人日本語学習者が特定のタスクにおいて、日本語母語話者と比較してどのように「そして」を使用しているかについて、ストーリーテリングにおける使用を分析したスワンナクート（2020）と対話における使用を分析したスワンナクート（2021）が挙げられる。スワンナクート（2020）は、日本語母語話者は主にストーリーの意外な展開に導くところと結末に導くところなどといった、「主な出来事」をつなぐところで「そして」を使用しているのに対し、タイ人日本語学習者はどのようなところでも複数の出来事をつなぐために使用していると報告している。また、スワンナクート（2021）は、日本語母語話者はスケジュール帳に書かれているような一日の中では「重みのある出来事」が関わるところで「そして」を使用しているのに対し、タイ人日本語学習者は事実として起きた出来事を順番に重ねて使用していると報告している。

2.4 「そして」の導入に関わる教材と研究

「そして」の効果的な導入方法が提案できるように、これまでの教材と研究を確認する必要がある。ここでは、まず、現状の導入方法を把握するため、教材における「そして」の扱いを見てみる。次に、「そして」の導入方法が提案されてきた研究を確認する。

2.4.1 教材における「そして」の導入

まず、タイで使われている教材における「そして」の扱いを確認する。対象にした教材はタイ語で書かれた教材か、あるいは、翻訳された教材である『日本語初級大地 タイ

語版（以下、大地）』『日本語あきこと友だち 改訂版⁹（以下、あきこ）』『みんなの日本語 第2版 タイ語版（以下、みんな）』『ホップ・ステップ・ジャンプ（以下、ホップ）』である。これら4冊のうち『大地』『あきこ』『みんな』は初級文法教科書で、『ホップ』は中級文法教科書である。また、『大地』と『みんな』は世界中で市販されている教科書であるが、『あきこ』と『ホップ』はタイ人日本語学習者向けに開発されたものである。

以上の文法教科書において、「そして」が新出語彙として取り上げられている課は以下のとおりである。それぞれの教科書においてどの時点で導入されるかを把握するために、課の数も示しておく。

表3 「そして」が新出語彙として取り上げられている課

教科書	『大地』	『あきこ』	『みんな』	『ホップ』
レベル	初級	初級	初級	中級
「そして」の導入課	7, 42	3	8	-
課の数	42	29	50	8

調査の結果、どの初級教科書でも、「そして」は初級前半で導入されていることがわかった。一方、中級教科書においては、「そして」を新出語彙として取り上げることはなかった。

それぞれの教科書は構成が異なっているが、「そして」が取り上げられている部分とその詳細は以下のとおりである。なお、『大地』におけるタイ語の解説と、『大地』と『みんな』の語彙の説明は筆者が日本語に訳した。また、語彙レベルのタイ語訳と下線した日本語の会話文は、教科書に記載されたタイ語訳のままと示しておく。

⁹ 中尾他（2017）によると、改訂版ではコミュニケーション能力向上を目指すことを基本方針とされ、目標場面が提示され、語彙や文型に気付かせる聴解練習が追加された。

表4 『大地』における「そして」の扱い

課	部分	詳細
7	語彙	... lé... (文をつなぐために用いる)、léewkôo (123)
	解説	そしてはつなぐ言葉(接続詞)であり、2つの文をつなぐために用いる。「lé」という意味を持つ。 わたしの アパートは 広いです。 <u>そして</u> 、きれいです。 ʔaphâatmeen khǒŋ chǎn kwâaŋ <u>lé</u> sǎʔaat アパート の 私 広い <u>そして</u> きれい (127)
	練習	A:○○は とうですか。 B:Adj.です。 <u>そして</u> 、Adj.です Or Adj.ですが、Adj.じゃありません (130)
	会話	リン:シドニーは どんな ところですか。 スミス:きれいな ところです。 <u>そして</u> 、とても にぎやかな ところ です。 (121) Pen muaŋ thîi sǎay ɲaam <u>lé</u> khruŋkkhruŋun mâak である 町 マーカー きれい <u>そして</u> にぎやか とても khâ 終 (124)
42	語彙	lé、léewkôo (157)
	会話	リン:皆様、本日はありがとうございます。私は 10 年前に日本へ参りました。スバル日本語学校を卒業後、ゆり大学に進学しました。大学卒業後、サミット旅行社に就職して、5 年間勤めました。 <u>そして</u> 、皆様のおかげで本日旅行会社を始めることができました。皆様にご意見を伺いながら、新しい時代をリードする会社にしたいと思っております。 (155) <u>lé</u> dúay khwaamkàrunaa khǒŋ thúkthân wannii phǒm cuŋ <u>そして</u> で 親切さ の みなさま 今日 僕 で sǎamâat pǎet bǒorísàt namthiaw khǒŋ tuaʔeen dáy 可能 開ける 会社 観光 の 自分 可能 (158)

表5 『あきこ』における「そして」の扱い

課	部分	詳細
3	よんでみよう	わたしは 月よう日から 金よう日まで じゅぎょうが あります。土よう日と 日よう日は やすみです。月よう日から 金よう日まで じゅぎょうは あさ 8じはんに はじまります。ごご 3じ 10ぷんに おわります。 <u>そして</u> 、月よう日と 水よう日と 金よう日には じゅくの じゅぎょうも あります。4じから 6じまでです。 (122)
	ことば	léewkôo (129)

表 6 『みんな』における「そして」の扱い

課	部分	詳細
8	例文	きのう 松本さんの うちへ 行きました。 ・・・どんな うちですか。 きれいな うちです。 <u>そして</u> 、大きい うちです。 (148)
		pen bâan thîi sǔay <u>léɛwkô</u> yà y khâ である 家 マーカー きれい <u>そして</u> 大きい 終 (152)
		語彙 lé、léɛwkô (文をつなぐために用いる) (151)
	練習 B	○○はどうですか。 ・・・Adj.です。 <u>そして</u> Adj です。／・・・Adj ですが、Adj です。 (例) 日本の 地下鉄 (便利、きれい) → 日本の 地下鉄は どうですか。 ・・・便利です。 <u>そして</u> 、きれいです。 日本の 車は (高い、いい) → 日本の 車は どうですか。 ・・・高いですが、いいです。 (158)
	読解	ワットさんは (省略) 食堂の 食べ物 は おいしいです。 <u>そして</u> 、安い です。 (161)
13	問題	わたしは トモです。 サントスさんの うちに います。 わたしは 毎朝 奥さんと 散歩に 行きます。 8 時ごろ テレーザちゃんと学校 へ 行きます。 それから うちへ 帰ります。 <u>そして</u> 、奥さんと 買 い物に 行きます。 午後 学校へ テレーザちゃんを 迎えに 行き ます。 それから いっしょに 公園へ 遊びに 行きます。週末は テレーザちゃんの 学校と サントスさんの 会社は 休みです。 (省 略) (49)

表 4～6 からわかるように、初級教科書において、「そして」は、教科書によって様々な部分で現れている。『大地』と『みんな』は「そして」が「会話」と「練習」で出現する点で似ており、練習方法も類似している。質問に対して、答えが添加の場合は「そして」を使用し（・・・Adj.です。 そして Adj です。）、逆接の場合は、「～ですが」を使用するようになっている（・・・Adj ですが、Adj です。）。さらに、『大地』では、文法項目として取り上げられており、文法項目としてのタイ語での解説もなされている。一方、タイ人日本語学習者向けの『あきこ』では、読解と語彙にしか出現しない。3冊とも語彙索引に、『大地』と『みんな』では、例文、会話の部分に、タイ語訳が付いているのだが、タイ語との違いなどについては説明されていない。

次に、接続表現などをテーマにした教材における「そして」の導入を見る。このような教材は、接続詞をテーマにした木村他（1998）や指示詞、接続詞、「のだ」、「わけだ」、「からだ」のようなまとまりを作る表現をテーマにした庵他（2013）などがある。

木村他（1998）は、「そして」を「そのうえ」「それに」「そうして（そして）」「おまけに」「くわえて」「さらに」「しかも」「そればかりか」の接続詞グループに入れ、これらの接続詞は一つの事柄を述べ、それに加えて次の事柄を述べるときに使うと説明している。「そうして（そして）」の用法やその例は次のように述べている。

1. 前に述べたことに、後から述べることを付け加える。「そして」は「そうして」のくだけた言い方。

(25) こんど借りた部屋は明るくて、広くてそして部屋代も安い。

2. 前に述べた事柄を受けて、それに引き続いて起こる事柄を述べる。

(26) わたしの楽しみは、夕食後ゆっくりブランデーをなめ、そして好きな作家の小説を読むことだ。
(木村他 1998 : 14-15)

「そして」と「それから」の違いについては、あることに続いて、そのことと関係のないことが起こる場合は、「それから」でつなぐ方がいいが、一つの対象について説明する時は「そして」がいいと述べている。また、当教材では、適当な接続詞を入れる練習問題もあるが、解答を確認したところ、「そして」が正答であるという練習問題がない。

庵他（2013）は、「そして」は、書き言葉でも話し言葉でも使われる添加の接続詞とし、「また」と「それから」とともに使い方を解説している。それぞれの接続詞の用法を解説する前に、次のような複数選択が可能な問題を出題している。

(27) 正月には、家でテレビを見たり、神社に初詣に行く人が多い。

{そして・また・それから}、家にいないでスキーや海外旅行に出かける人も多い。

(28) 人は、自分の視点からしか物事を見ることができない。{そして・また・それから} 成功した人には特にその傾向が強いような気がする。

(29) シュークリーム2つ。{そして・また・それから} コーヒーも2つお願い。

(庵他 2013 : 25)

これらの問題の解答として、(27)では「そして／また」、(28)では「そして」、(29)では「それから」が正しい。解説では、この3つの接続詞の用法が以下のように説明している。

「そして」： 大切なことをつけ加える。「そして」の後で、言いたいことが終わるとい
うサイン。

「また」： こういうことも、こういうこともあると並列的に述べる。書きことばでは
「そして」より「また」の方がよく使われる。

「それから」： ①時間的に続くことを表す。②他のことをつけ加える。（庵他 2013：26）

接続詞の用法の解説の後、練習として再び複数選択が可能な問題を出題しているが、解答についての解説はされていない。

2.4.2 「そして」の導入方法に関する研究

「そして」の導入方法を提案した先行研究は山内（2009）、庵（2015）、石黒（2000）、阪上（2014）、市川偏（2010）、庵（2015）、片桐（2016）などが挙げられる。

山内（2009）は、文法体系の中の「そして」の導入時期について提案している。Krashe
n 他（1986）の「自然習得順序仮説」を背景に、あるレベルで使用が増えている文法項目は前レベルで習得したものであり、まだ習得されていない段階では教師がいくら努力しても習得させることはできないと述べている。KY コーパス¹⁰に収録されている OPI データを用いて各レベルにおける様々な文法項目の使用回数を調査した結果から、それぞれのレベルの文法項目を挙げている。「そして」は上級レベルで使用が増えているため、中級レベルで教えるべきだと述べている。

庵（2015）も、文法体系の中の「そして」の導入時期について提案しているが、日本語学習者のコーパスではなく、日本語母語話者のコーパスを用いている。名大コーパス、新聞コーパス、新書コーパスにおいて日本語母語話者が使用している様々な文法項目の頻

¹⁰ KY コーパスとは、90 人分の日本語学習者のインタビューテープを文字化した言語資料である。学習者の母語は、中国語、英語、韓国語である。K と Y はコーパス作成の担当者となった鎌田と山内の頭文字である。

度順と特徴項目を基準に初中級、中級、中上級の文法シラバスを提案しているが、「そして」は中上級に属する接続表現だと述べている。

他に、石黒（2000）は、「そして」の導入時期について、初級では話し言葉を中心に導入する立場で、「そして」より「それから」の方が相応しいと述べている。その理由として、「そして」の「決定的」という機能のわかりにくさや、「そして」の持つ用法の幅広さを挙げている。また、書き言葉も導入する場合には「そして」の「決定的」という機能と、話し言葉ではあまり用いられないことについて注意する必要があると述べている。

阪上（2014）は、石黒（2000）と同様に、初級では話し言葉において「そして」を導入せず、「それから」や「て形」で代用するなど、改善法を提案している。その理由として、初級教科書の不十分な説明と日本語母語話者の話し言葉コーパスでの使用が少ないことを挙げている。

一方、市川偏（2010）は、導入時期について言及していないが、「そして」の誤用を分析した結果から、接続詞同士を比較しながら、2文がどのような論理関係を持つか教え、因果の意味を含まないことを説明する方法を導入のポイントとして挙げている。

また、片桐（2016）はタイ人日本語学習者のための「そして」の導入のポイントを挙げている。「そして」とタイ語の対照研究を行った上で、タイ人日本語学習者の「そして」の多用問題の解決方法として、学習者に自分の話し方に自ら気づかせること、独話と対話の場面を分けて導入すること、前の文との意味的な結びつきを確認させる練習を取り入れることなどを提案している。

2.5 残された課題

以上、「そして」を中心に接続表現に関する先行研究と教材を概観してきた。以下、これまでの研究の問題点を挙げながら、各レベルのタイ人日本語学習者のための「そして」の導入方法を提案するために必要な課題を述べる。

1) これまでの研究では、「そして」の導入方法を提案するために分析したデータは、日本語母語話者のデータか学習者のデータかどちらのデータしか用いられないことが多い。石黒（2000）、阪上（2014）、庵（2015）は日本語母語話者のデータを用い、山内（2009）、市川偏（2010）は学習者のデータを用いている。片桐（2016）は、対照研究を行っているものの、提案している「自分の話し方に自ら気づかせる」方法は、学習者のデータに依存している。日本語母語話者のデータのみ分析する場合、実際の場面の使用は確認で

きるが、学習者の使用が把握できないまま導入すれば習得できないこともある。反対に、学習者のデータのみ分析する場合、母語話者の使用が反映されない導入になる。

2) 「そして」の導入方法を提案するために分析するデータの種類の種類は、書き言葉か独話をデータとして用いた研究がほとんどであり、複数のタスクでの使用を分析する研究は多くない。しかし、石黒他（2009）の報告から、ジャンルによって「そして」の使用回数が異なることが分かった。それを基にして考えると、一つのタスクを対象にした場合、そのタスク特有の偏りが見られる可能性がある。

3) 「そして」と学習者のレベルについて言及した研究は、初級で教えないことを提案した石黒（2000）や阪上（2014）が挙げられる。しかし、森山（2006）が述べたように「そして」が「て形」から成立したものであるため、「て形」の導入のために初級で導入する必要がある場合がある。また、教科書を調査した結果からわかるように、市販の初級教科書では「そして」が扱われることが多い。そのため、初級で導入されないと、学習者は適切な説明を受けずに「そして」に関して誤用や多用をする可能性がある。また、スワンナークト（2009）が報告したように、中級学習者と上級学習者も「そして」の誤用と多用をしているが、レベルによって使用状況が異なっている。その他、OPI の判定の基準では、各レベルのテキストの型として、初級が「語・句」、中級が「文」、上級が「段落」、超級が「複段落」としている。各レベルの使用状況や能力を配慮して導入方法を考えなければ、そのレベルでどのような誤用をなくすために注目すればいいか分からなくなる。また、レベルに合わない導入方法を受けた学習者もそのレベルに求められるテキストでの使用ができない可能性がある。

4) 「そして」の導入方法を提案した研究では、初級では「それから」などのような接続詞の代用が提案されている研究がある（石黒 2000、阪上 2014 など）。これまでの研究では、「それから」が「そして」より用法が幅広く、使用回数も「そして」より多いことがわかった。森山（2006）は、「それから」は一連の談話の連続の中で発話をするという最も根底的なところでの最低限の同類性によって使えると指摘している。阪上（2014）は、日本語母語話者は「そして」より「それから」を多く使用していると報告している。しかし、「それから」を導入する場合、第 1 章で挙げた例文において以下のような誤用が発生する可能性がある。

(30) 実はこの、テーマは一、去年の学生は、あー決めていたんです、それから→でもー去年はこうす、洪水ですからー{笑}まあ、去年は一、キャンセルさせてしー

(31) はい、実はーわたしのお父さんは日本人でー、日本でー、あー、働いています、それから→だからわたし日本にい、行く時は、お父さんの所に、住みます、お父さんーが住んでいる、所は、大阪市の〔地名 B〕市、です、はい、{笑}日本に、行ってー、お父さんと2人、えー過ごします、暮らして、暮らしました

(32) えとー、ドア、ドア、えとー、ドア、ドアから開けてー、リビングの一、しつ、リビングルーム、それからえ、えとー、もっと奥にー、歩いたらー、ダイニングー、のしつです、それから、ダイニ、ダイニングの、みぎー、がわ[右側]、が、台所です、それからー、かいだんー[階段]、階段はー、すここはー、台所ですよー、台所の一、す、台所の一、みぎー、がわ[右側]はー、階段です、2階に、行ける階段 {笑いながら}、それからー、階段を、あけ、あけ、たらー、えっとー、さ、3つ目のしつがー、3つのしつが、あります (略) 1つは {笑いながら}、わたしのおか、お父さんとお母さん、それからー、2つ目はー、お兄さんの部屋、それからー、1番狭いのはー、わたしの、部屋です

(30) と (31) では、それぞれ、逆接関係と順接関係を表すための接続表現が適切なところで「それから」が使用されている。その結果、逆接関係と順接関係が明確に表されていない。また、(32) では、「それから」の多用が発生する。このように、「それから」より適切な関係性を表す必要がある場合がある。また、多用に関しては、森山 (2006) によると、「それから」も同じ発話において繰り返し使用することも適切ではないと述べている。

以上の問題を解決するために、本研究では、日本語母語話者とタイ人日本語学習者のデータが収録されている複数のタスクのデータを用いて、各レベルの学習者のための「そして」の導入方法を考える。本研究で提案する「そして」の導入方法を用いれば、学習者は以下のように「そして」を使用することができると考える。

- 1) 日本語母語話者が使用している基準で利用できる。
- 2) 誤用や多用をせずに正しい用法で利用できる。
- 3) ジャンルに合わせた正しい用法で利用できる。

4) それぞれのレベルに求められる談話の単位で利用できる。

以上、第2章では、「そして」を中心に接続表現に関する先行研究と教材を概観し、残された課題をまとめた。第3章では、予備調査について説明する。

第3章 予備調査

第3章では、予備調査について説明する。まず、3.1では、予備調査の目的を設定する。次に、3.2では、予備調査に用いたデータの概要を説明する。3.3では、予備調査から得られた結果を報告する。それから、3.4では、予備調査の結論を述べる。最後に、3.5では、残された課題を述べる。

3.1 予備調査の目的

予備調査の目的は、各レベルのタイ人日本語学習者のために「そして」の導入方法を考える必要性を確認することである。具体的に以下の2つのことを確認する。

1. 「そして」がタイ人日本語学習者にとって難しい文法項目であること。
2. 各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用が異なっていること。

3.2 データ概要

予備調査では、コーパスから得られたデータを用いる。李他（2018）によると、コーパスとは、研究目的で使用される言語資料の集成のことであり、近年日本語教育の世界でも研究や教育において不可欠なツールとして認識されるようになった。コーパスを広義で用いた場合には、いわゆる言語データベースが広く包含されるが、狭義で用いた場合には、言語データベースの中で、代表性、大規模性、電子性などのようないくつかの要件を満たしたものが含意される。本研究では、コーパスの狭義で用いた場合の言語データベースと捉える。

予備調査では、青山学院大学総合研究所プロジェクトによる成果『タイ人日本語学習者話し言葉コーパス（Corpus of Thai learners' Japanese Conversation：以下、CTJC）』を用いる。CTJCは、面接形式による132本のタイ人日本語学習者のインタビューデータが収録されたコーパスで、レベル判定はACTFL（The American Council on the Teaching of Foreign Languages）のOPI（Oral Proficiency Interview）の基準でなされている。本コーパスでは、レベル別のタイ人日本語学習者のデータが収録されているため、予備調査の目的を達成するために適切なデータだと考える。

OPIとは、外国語学習者の会話のタスク達成能力を、一般的な能力基準を参照しながら対面のインタビュー方式で判定するテストである（牧野他 2001）。OPIでは、超・上・中・

初級のレベルが設けられており、上・中・初級については、更に一上、・一中、・一下に分けられている。インタビューの時間は、初級では 8～12 分、中級で 12～18 分、上級・超級で 18～25 分とされているが、日本語のようにスピーチレベルが複雑な言語では 30 分行うことが多いという。

実施過程に関しては、「導入部 (Warm Up)」「レベルチェック (Level Checks)・突き上げ (Probes)」「ロールプレイ (Role Play)」「終結部 (Wind Down)」という 4 つの部分からできている。「導入部」では、被験者をできるだけリラックスさせるように、天候、家族、興味、経験などを聞く。「レベルチェック・突き上げ」では、下限がどこかという証拠をつかみ、そして突き上げをする。例えば、上級への突き上げをする際には、被験者の回答に詳しい説明を求める質問をする。「ロールプレイ」では、例えば、以下のようなロールプレイを実施する。

(中級用ロールプレイ)

アパートを借りたいので不動産屋に行って自分の希望を言いなさい。4 つか 5 つ、知りたいことを聞きなさい。

(上級用ロールプレイ)

友達から借りた車で軽い事故を起こしてしまいました。友達に電話をして事故のこと、破損の状況、解決法について話しなさい。

(超級用ロールプレイ)

今、日本で、経済的成長発展と環境保護の間のジレンマに関するパネルディスカッションに出ています。どんなジレンマか、どう解決したらいいか、あなたの意見を表明しなさい。
(牧野他：30)

最後に、「終結部」では、ロールプレイと関係のあることを 30 秒程度で聞く。

OPI の判定基準については、牧野他 (2001) は、以下のとおりまとめている。

表7 判定の基準

	機能・タスク	場面／話題	テキストの型
超級 (Superior)	裏付けのある意見が述べられる。仮説が立てられる。言語的に不慣れな状況に対応できる。	フォーマル／インフォーマルな状況で、抽象的な話題、専門的な話題を幅広くこなせる。	複段落
上級 (Advanced)	詳しい説明・叙述ができる。予期していなかった複雑な状況に対応できる。	インフォーマルな状況で具体的な話題がこなせる。フォーマルな状況で話せることもある。	段落
中級 (Intermediate)	意味のある陳述・質問内容を模倣ではなく創造できる。サバイバルのタスクを遂行できるが、会話の主導権を取ることはできない。	日常的な場面で身近な日常的な話題が話せる。	文
初級 (Novice)	機能的な能力がない。暗記した語句を使って、最低の伝達などの極めて限られた内容が話せる。	非常に身近な場面において挨拶を行う。	語、句

表8 正確さ

	文法	語彙	発音
超級	基本構文に間違いがま ずない。低程度構文 には間違いがあるが伝 達に支障は起きない。	語彙が豊富。特に漢語系 の抽象語彙が駆使でき る。	だれが聞いてもわかる。 母語の痕跡がほとんどな い。
上級	談話文法を使って統括 された段落が作れる。	漢語系の抽象語彙の部分 的コントロールができ る。	外国人の日本語に慣れて いない人にもわかるが、 母語の影響が残ってい る。
中級	高頻度構文がかなりコ ントロールされてい る。	具体的で身近な基礎語彙 が使える。	外国人の日本語に慣れて いる人にはわかる。
初級	語・句のレベルだから 文法は事実上ないに等 しい。	わずかの丸暗記した基礎 語彙や挨拶言葉が使え る。	母語の影響が強く、外国 人の日本語に慣れている 人にもわかりにくい。

表 9 正確さ（つづき）

	社会言語学的能力	語用論的能力 (ストラテジー)	流暢さ
超級	くだけた表現もかしこまった敬語もできる。	ターンテイキング、重要な情報のハイライトの仕方、間のとり方、相づちなどが巧みにできる。	会話全体が滑らか。
上級	主なスピーチレベルが使える。敬語は部分的コントロールだけ。	相づち、言い換えができる。	ときどきつかえることはあるが、一人でどんどん話せる。
中級	常体か敬体のどちらかが駆使できる。	相づち、言い換えなどに成功するのはまれ。	つかえることが多いし、一人で話しつづけることは難しい。
初級	暗記した待遇表現だけができる。	語用論的能力はゼロ。	流暢さはない。

(牧野他 2001 : 18-19)

CTJC における各レベルとサブレベルの学習者数は、表 10 のとおりである。なお、レベルが超級と初級 - 下と判定された学習者はいなかった。

表 10 CTJC におけるタイ人日本語学習者の数

サブレベル／レベル	初級	中級	上級
下	-	16	14
中	5	26	12
上	19	36	4
合計	24	78	30

CTJC では文字列と形態素単位で検索できるようになっており、オプションとしてレベルとサブレベルが指定可能である。本予備調査では、文字列検索でデータを収集する。ヒットしたデータは、検索した文字列が含まれるタイ人日本語学習者の発話とその前後の OPI テスターの発話といった計 3 回分のやりとりが表示されている。記号については、T はテスターで、I はインタビューを受けたタイ人日本語学習者を表す。さらに、例文には判定されたレベルとサブレベルと CTJC でつけられた ID を示す。誤用に関する表記については、「そして」の後ろに「→」をつけ、「→」の後ろにその箇所より適切な接続表現を斜体と で示す。その他の記号は、以下のとおりである。

[] : 発言上の言い誤りを訂正

例 : はじめまして [はじめまして]

〈〉 : 相手の発話の重なり

例 : T : あ、そうですかー 〈はい〉、あの一日本語学校に 〈はい〉 入られたんですね 〈はい〉

{ } : その他の音、発話と関係のない音、笑い、息を吸う音、舌打ちなどの音

例 : I : んとさんじゅっさい [30 歳] にじゅっきゅうさい [29 歳] なんですけど 〈あはい〉 {息を吸う音} 大学入ったらちょっと遅いかなって思
って

【】 : 名前や住所・機関などの個人を特定できる情報

例 : I : はい、わたしは、あの【大学名（省略名）】大学の 5 年生

(タイ人日本語学習者話し言葉コーパス)

3.3 予備調査の結果

ここでは、観察したタイ人日本語学習者の「そして」の使用状況の結果を述べる。観察項目は、他の接続表現に対する「そして」の使用回数、レベル別の使用回数、レベル別の誤用、多用、フィラーとしての使用である。

3.3.1 他の接続表現に対する「そして」の使用回数

他の接続表現に対する「そして」の使用回数がわかるように、市川（1978）で「添加型」に分類された他の接続表現の使用回数も見る。コーパス検索の結果は以下のとおりである。

表 11 「添加型」の接続表現の使用回数

接続 詞	そ し て	そ う し て	つ い で に	つ ぎ に	そ れ か ら	そ の う え	そ れ に	さ ら に	し か も	ま た	と 同 時 に	そ の と き	そ こ へ	次 の 瞬 間
回数	615	4	1	0	211	0	51	2	2	126	0	48	0	0

表 11 から「そして」は「添加型」の接続表現の中で最も多く使用されていることがわかった。「そして」の使用は他の接続表現より圧倒的に多く、2 番目に多く使用されている「それから」より 3 倍ほど多く使用されている。「そして」および「それから」の使用に

については、阪上（2014）では日本語母語話者の会話、独話のいずれでも「そして」の使用回数は「それから」のそれより約半分であることを報告している。このことから、タイ人日本語学習者の「そして」と「それから」の使用回数は日本語母語話者のそれとは真逆であることが確認できた。

3.3.2 レベル別の使用回数

各レベルの「そして」の使用回数は以下のとおりである。なお、括弧の数字は 1 人当たりの使用回数を示す。

表 12 レベル別の「そして」の使用回数

	初級	中級	上級
下	-	121 (7.56)	81 (5.79)
中	4 (0.80)	127 (4.88)	45 (3.75)
上	33 (1.74)	203 (5.64)	1 (0.25)
合計	37 (1.54)	451 (5.78)	127 (4.23)

また、レベルが上がるにつれ、「そして」の使用回数がどのように変化していくのかを把握するために、各レベルの使用回数をグラフで示す。横軸には学習者のレベルが、縦軸に、使用回数が表示されている。

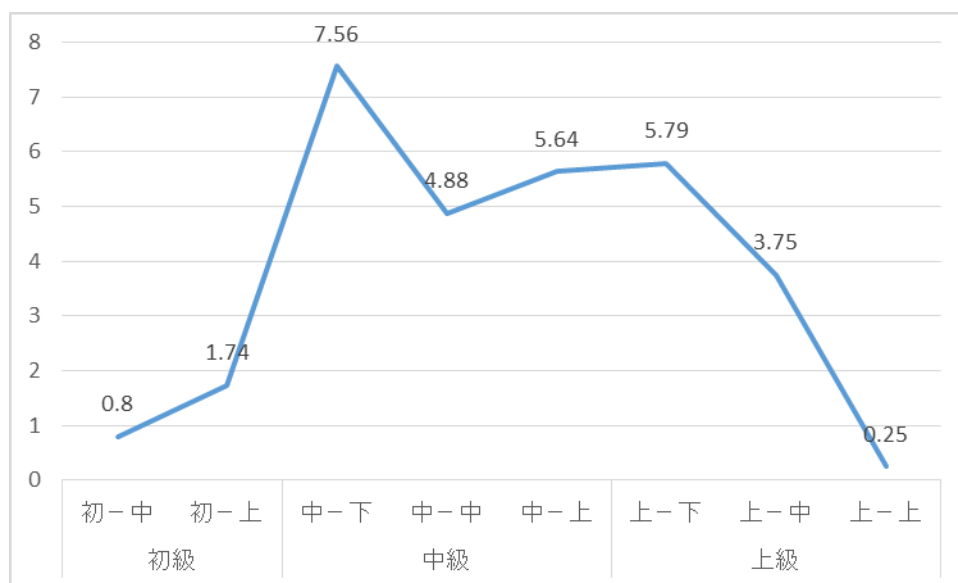


図 1 レベル別の「そして」の使用回数

表 12 と図 1 を見ると、タイ人日本語学習者は次のように「そして」を使用していることがわかった。初級の半ばという早い段階から「そして」を使い始め、初級一上では 1 人当たり約 2 回使用している。その後、中級になると、使用回数が増えていき、1 人当たり 6 回程度使用している。また、上級になると、使用回数がだんだん少なくなっており、上級一上では 1 回しか使用されていないことがわかった。

3.3.3 レベル別の誤用

日本語母語話者に誤用判定をしてもらった結果、各レベルの正用率と誤用の状況は表 13 のとおりである。誤用に関する表記は市川偏（2010）を参考に、「付加」「混同」のような用語を使用する。なお、「脱落」については分析対象外とする。また、「混同」については、市川（1978）が分類した基本的類型に従い、学習者が混同した接続表現を簡潔に示す。市川（1978）の類型に従う場合、予備調査で学習者が混同した類型は以下のとおりである。

順接型 前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる型。

「順当」 = 「だから」 混同

逆接型 前文の内容に反する内容を後文に述べる型

「反対・単純な逆接」＝「でも」混同

添加型 前文の内容に付け加わる内容を後文に述べる型

「追加」 = 「それから」 など

「序列」 = 「つぎに」 など

どのような類型との混同かをわかりやすく示すために、その類型の代表的な接続表現を表記して示す。例えば、順接型〔順当〕の類型との混同がある場合、「「だから」混同」のように示す。

なお、誤用判定をしてもらった際、以下のように、タイ人日本語学習者の発話が一定のまとまりがない場合、接続関係が把握できず、誤用判定が難しい場合がある。その場合は「不明」として表示する。

(33) T: へえー 〈ヨーロッパの〉

I：歴史、と一、日本語、です、と、そして一火曜日は一、えーっとあまり {笑いながら}、じ、え？火曜日、えーっと、あ、火曜日はえと一、語学、です

T：1番忙しい日は何曜日なんですか？

(ID166 中級一下)

表 13 CTJC における「そして」の正用率と誤用

レベル	サブレベル	正用率	誤用
初級	中	50%	不明
	上	33.3%	不明 付加 「それから」混同 「だから」混同
中級	下	21.5%	不明 付加 「それから」混同 「だから」混同
	中	11.8%	不明 付加 「それから」混同 「だから」混同
	上	15.3%	不明 付加 「それから」混同 「でも」混同 「だから」混同
上級	下	33.3%	不明 付加 「それから」混同 「次に」混同
	中	33.3%	不明 付加 「それから」混同 「だから」混同
	上	0	付加

表 13を見ると、正用率については、最も低いレベルである初級一中で最も高い。しかし、詳しく分析すると、誤用判定ができない他、以下のように、初級一中の学習者が自ら「そして」を正しく使用しているわけではない例もある。

(34) T：はい〈{息を吸う音}〉、じゃあ、えっと一〈{笑}〉、{沈黙}、じゃこれにします、読んでください、声を出して

I: あー、友だちとー、約束をしましたが、いけなくなりました、友だちに、電話をしてください、どうしていけないか [行けないか]、言ってください、そして、時間と場所を、変えても、変えて、もらってください

T: はい、いいでしょうか、わたしが友だちです、友だちのなまえー [名前]、なんか、誰か教えてください (ID191 初級一中)

(35) T: 声を出して、声を出して読んでください 〈う〉

I: 友だちと約束をしましたが {息を吸う音}、行けなく一になりました、友だちーに、電話をしてください、どうして行けないー、か、いて [言って] ください そして、ちかん [時間] と場所をかー、変えてもらってください、{短い沈黙} はい

T: わかりましたか? (ID197 初級一中)

以上のように、異なる ID の学習者の発話から同じ発話内容が見られたため、これらの発話に含まれている「そして」はテストターが読ませているロールカードなどに書かれていることが予想される。

初級一上以降の正用率に関しては、初級一上から中級一中までは下がる一方、中級一上ではやや増えている。その後、上級一下と上級一中で再び上がるが、上級一上では正用した例はない。ただし、上級一上の学習者の使用は 1 回しかない。上級一下と上級一中と合わせて大きいレベルである上級として考えると、上級では、正用率が上がっている。

誤用の種類を見ると、初級では、「だから」と「それから」との混同という 2 つの種類がある。中級では誤用の種類が最も多く、「だから」「でも」「それから」との混同がある。上級では、再び誤用の種類が減っており、「だから」あるいは「次に」と「それから」との混同がある。

各レベルの学習者の誤用の詳細は以下のとおりである。なお、ここでは、「だから」「でも」との混同の例のみ示す。「それから」「つぎに」のような「そして」と同じ添加型に分類される接続表現は文脈や日本語母語話者の使用を確認する必要があるためである。

初級学習者のデータからは「だから」と「それから」との混同の誤用が見られた。「だから」との混同の例は以下のとおりである。

(36) T: あ、そうなんですか〈はい {笑いながら}〉、どうしてですか? エジプトにクッパってってお店がいっぱいあるんじゃない〈はい〉ですか?

I: でも、うー、時間がないー、そして→だからー、うー食べ、たべー、食べるだけー

T: ふーん〈はい〉 (ID82 初級ー上)

(37) T: どんな話だったのか、ちょっと教えてもらえますか?

I: {笑} えっとー、フランスの、レボリューションはー、せんーななひゃくはちじゅーきゅーねん [1789 年] に、ありました、えっとー、あの時は、フランスがー王様、がありました、がいました、でもー、んー、おかねー [お金]、お金はー、んー、あんまりー、なかったりー、王様は、やくに、んー、{短い沈黙} 役に立たなかったのえ、人はー、困ったん、んー、{沈黙} 庶民はー、ちょっとー、困った、そして→だから、えっとー、レボリューション、をしました

T: その結果どうなったんですか? (ID183 初級ー上)

(36) では、後続部の「食べるだけ」という出来事は先行部の「時間がない」状態の帰結であり、(37) でも同様に、後続部の「レボリューションをする」出来事は先行部の「庶民はちょっと困る」出来事の帰結であるため、ここでは「だから」の方が適切である。

中級学習者のデータからは「だから」「でも」「それから」との混同の誤用が見られた。「だから」と「でも」との混同の例は以下のとおりである。

(38) T: どうしてソウルじゃなくてプサンにしたんですかー?

I: おー、おー母はー、うーん会議、プサンでー会議が、ありました、そして→だからわたしは、うーわたし、わたしは、うー、一緒に行きました{笑}

T: お母さんはじゃー仕事をしているんですか? (ID104 中級ー中)

(39) T: あの一そうすると高校には、寮があるんですか?

I: いいえー、寮、とー、なんていうか、うーん、の、高校の寮じゃなくてー、でもー、でもが、この寮ではー、規則とかあってえ、たくさんの、女、たくさんの女の子、が、います、それでー両親はー、「1人で住むというより、これがあんしんー [安心] かなー」、と、そして→だからわたしもここに、はい、住み、住んで、「住んで」って、言って {笑いながら} {息を吸う音}、はい

T: そうすると、いろんな高校の、あの一、女の子がいたんですか？

(ID178 中級一上)

(38) では、後続部の「わたしは一緒に行く」出来事は先行部の「お母さんがプサンで会議がある」出来事の帰結であり、(39) でも、後続部の「ここに住んでと言う」出来事は先行部の「1人で住むというよりこれが安心である」状態の帰結であるため、ここでは「だから」の方が適切である。

(40) T: どうやって選んだ<{笑}>、どうしてそのテーマになったんですか？<あ>

I: 実はこの、テーマは一、去年の学生は、あー決めていたんです、そして→でも一去年はこうす、洪水ですから一{笑}まあ、去年は一、キャンセルさせてしー

T: ふーん

(ID12 中級一上(4)の再掲)

(41) T: どんなパレード、もうちょっと教えてもらえますか？

I: あの、うーん、普通に、あの一、ロイ、ロイクラトーンの日、には、あの一、川に、そ、川の一、神？川の神、にそんけーい[尊敬]、することを、します、よね、はい、あの、そのパレードに、内容があって一、あの、あの一、{舌打ち}例えば、あー、あー、最初、あの、パレードの、あ、ちょ、パレードの始め、始めの部分は、あの、あー昔のタイは、あー、とても、豊か、とっても豊かで一、あの、みんなは幸せに、生活をしていまーす、そして→でも、あー、あー、ぱん、あの、真ん中の部分は、あーでも、あー、今の、人たちは、あの一、川に、悪いことを、してしまっただけあの、川が、あの、川の神が、あの、怒って、しまいました、あの一、それで、あー最初の部分に、あーそして、みんなは、あの一、川に、いいことを、しましょう{笑}、そ、そろ、その内容に、あの、あー、パレードの中に、あの、プロップ、あの、か、飾り物、とか、あー、服とか、みん、みんなに、あー、一緒に、つ、作って、います、おい、作りまして、作って一あの、パレードの中に、なんか、一緒に、出て一あの、文学部、あの、けいさく、け{笑}、まっそりーす{笑}、はい、あーあのその、パフォーマンス[パフォーマンス]を、して、はい、勝ちました{笑}

T: 何人ぐらい参加したんですか？

(ID49 中級一上)

(40) では、後続部の「去年は洪水だからキャンセルされる」出来事が先行部の「去年の学生が決める」出来事に反する内容になっており、(41) でも、後続部の「真ん中

の部分、今の人たちは川に悪いことをしてしまう」出来事が先行部の「みんなが幸せに生活をしています」出来事に反する内容になっているため、ここでは、「でも」の方が適切である。

上級学習者のデータからは「だから」「それから」「次に」との混同の誤用が見られた。「だから」との混同の例は以下のとおりである。

(42) T: あーそうなんですか〈はい〉、じゃーその時のこと教えてください

I: はい、実は一わたしのお父さんは日本人で一、日本で一、あー、働いています、そして→だからわたし日本にい、行く時は、お父さんの所に、住みます、お父さんーが住んでいる、所は、大阪市の〔地名 B〕市、です、はい、〔笑〕日本に、行って一、お父さんと 2 人、えー過ごします、暮らして、暮らしました

T: どれぐらい、行ってたんですか? (ID145 上級一中 (5) を再掲)

(42) では、後続部の「わたしが日本に行く時、父の所に泊まる」出来事は先行部の「わたしの父が日本で働く」出来事の帰結であるため、「だから」の方が適切である。

3.3.4 レベル別の多用

短い文しか発話することができない初級学習者については、一つの発話における「そして」の使用は、多くても 2 回である。その例は以下のとおりである。

(43) T: じゃあもうちょっと詳しく教えてください

I: んー、あー、その時はー、母、母とー 2 人で、プーケットへ、い、行きましたーそしてー、あの一、飛行機で、行きました、んー、あの一う、あープーケットファンタシー [ファンタジー] といーう [という]、といーう [という] プーフォンマンス [パフォーマンス]、が、を見ました、そして、はまべー[浜辺]で、遊びました

T: 浜辺でどんなことをしたんですか? (ID172 初級一上)

(44) T: 兄弟はいますか?

I: 兄弟、はい、あります、あー、わたしー、はあ、あー、にー、にんきょーだーい [兄弟]、わかります、あい、に、ににん [2 人] 兄弟、かかり、あい、います、あー、おー、

ま、いちめ [1 番目] の一、お、お姉ちゃん、お兄、お姉ちゃんは一、あ一、今、結婚してーるんです、あ、他のいえ [家] に住んでいます、あ一、そしてえ、あ一、ふったりー [2 人]、2 人目の一、お一姉さんは一、あ一、他の部屋に、寝ています、はい、そして {笑いながら}、わたしは母と

T: {笑} < {笑} >、あ、そうなんですか、なんか自分の一、じゃあ勉強する時はどこで勉強するんですかー? (ID184 初級一上)

中級学習者は、自立して長く話しながら何かを説明することができるようにはなっているが、以下のように、「そして」を 6 回も使用するターンが見られる。

(45) T: えーじゃーもうちょっといえ[家]の中のこととかも教えてください

I: えと一、ドア、ドア、えと一、ドア、ドアから開けて一、リビングの一、しつ、リビングルーム、そしてえ、えと一、もっと奥に一、歩いたら一、ダイニング一、のしつです、そして、ダイニ、ダイニングの、みぎ一、がわ[右側]、が、台所です、そして一、かいだん一[階段]、階段は一、すここは一、台所ですよ一、台所の一、す、台所の一、みぎ一、がわ[右側]は一、階段です、2 階に、行ける階段 {笑いながら}、そして一、階段を、あけ、あけ、たら一、えっと一、さ、3 つ目のしつが一、3 つのしつが、あります、3 つの部屋があります {笑いながら}、はい {息を吸う音} 2 つ、2 つは、わたしのお父さんとお母さん、2 つは一、あ、い、1 つは {笑いながら}、わたしのおか、お父さんとお母さん、そして一、2 つ目は一、お兄さんの部屋、そして一、1 番狭いのは一、わたしの、部屋です

T: 1 番狭いんですか? (ID47 中級一上)

上級学習者も中級学習者と同様に、以下のように、1 つのターンに 6 回使用している者もいる。

(46) T: はい、お願いします、教えてください< {笑} >、おもしろいなー< はい >って思ったんですよね? < {笑} >

I: はい {笑いながら}、うーん、パーイさん一、のことなんです、パーイさんは一じゅーろくさい一[16 歳]、の少年で一、とーその時、パ、パーイさんは、インド、インド人

です、パーイさんの家族は一、どーぶ、えっとーどーぶつえんー[動物園]を一、どーぶつえんー[動物園]のオーナーですね、お父さんパイさんのお父さん、そしてえその、その、その時はー、インー、インドは、ちょっとー、とー、ふけー、ふけーざいー、確か {笑} {息を吸う音} ふけーだからー、お父さんはー、動物園を一、他の所にーひら、開こうと思っ
ています、カナダに、ひっこーし[引越し]に、しました、カナダー[カナダ]に、行く、のにー、船でー、行きました、船、船に行っー、でも全部の動物もー、持って、行かなければ、なりません、船の中でー、あるばんー[晩]、大きいハリケーンがー起きてえ、えとー、船が、なんと、倒れ、てしま、しまいました、そしてえ、パイさんの家族がみんな、亡くなりましたがー、パイさんが、パイさんが、生きます、パイさんは、小さいボートに、んんー、逃げー、逃げられます、そしてえ、パイさんが起きたらー、大きーい、ベンガル、な、トラと一緒に、同じ、ボートに、いました、そしてえ、えとー、パイさんとー、そのー、そのトラ、とー、毎日、暮らす、ことを、み、見ました、はい、す結局は、パイさんが、とー島に、着きました、そしてー、パイさんがー、そのー、そのトラは、んとー、は、森に、行ってしまった、そしてパイさんは、いえ[家]に帰りました

T：パイさんはどこのいえ[家]に帰ったんですか？ (ID145 上級ー中 (3) を再掲)

3.3.5 レベル別のフィラー¹¹としての使用

各レベルのデータには、「そして」の「て」が伸ばされたり、後ろに「え」「えとー」「あー」が付いたりという現象が見られた。

(47) (省略) 沈黙} 庶民は一、ちょっとー、困った、そして、えっとー、レボリューション、をしました (省略) (ID183 初級ー上 (37) の一部を再掲)

(48) (省略) 始めの部分は、あの、あー昔のタイは、あー、とても、豊か、とっても豊かでー、あの、みんなは幸せに、生活をしていまーす、そして、あー、あー、ぱん、あの、真ん中の部分は、あーでも、あー、今の、人たちは、あの一、川に、悪いことを、してしまってえあの、川が、あの、川の神が、あの、怒って、しまいました

(ID49 中級ー上 (41) の一部を再掲)

¹¹ フィラーとは「それ自身命題内容をもたず、かつ他の発話と狭義の応答関係・接続関係・修飾関係をもたない、発話の一部を埋める音声現象」である (山根 2002 : 49)。

(49) (省略) パイさんが起きたら一、大きーい、ベンガル、な、トラと一緒に、同じ、ボートに、いました、そしてえ、えとー、パイさんと一、その一、そのトラ、と一、毎日、暮らす、ことを、み、見ました、はい、す結局は、パイさんが、と一島に、着きました、そして一、パイさんが一、その一、そのトラは、んと一、は、森に、行ってしまった、(省略)

(ID145 上級一中 (3) の一部を再掲)

西郷 (2018) は、母語話者であっても、会話の中で瞬時に返答ができないことがあり、このような沈黙を埋める時間稼ぎの表現として「あー」「あの一」「うーん」「えー」「えーと」「そうだなー」「そうだねー」「で」「なんか」「まー」を挙げている。このことから、タイ人日本語学習者は、時間を稼ぐために「そして」を伸ばしたり、「えーと」「あー」を付けたりすることがある。つまり、接続関係を表すために「そして」を使用しているより、フィラーとして「そして」を使用しているのである。

3.4 予備調査の結論

CTJC のデータを観察した結果から、予備調査の目的に対して、以下のように結論に導くことができる。

- 1) 「そして」がタイ人日本語学習者にとって難しい文法項目であること。

タイ人日本語学習者が他の「添加型」の接続表現より「そして」を多く使用している。特に、日本語母語話者が多く使用している「それから」より 3 倍も多く使用している。また、誤用や多用も多い。日本語母語話者が使用している頻度で使用していないことや異なる意味関係を表すために使用をしていることから、「そして」がタイ人日本語学習者にとって難しい文法項目であると言える。

- 2) 各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用が異なっていること。

初級、中級、上級レベルでは、異なる使用回数、異なる誤用の種類が観察された。具体的には、初級レベルでは約 2 回、中級では約 6 回使用されており、最も高いレベルである上級一中では 1 回しか使用されていない。誤用については、中級レベルで正用率が下がるが、上級レベルで上がる。また、中級レベルでは、「でも」との混同のような逆接関係の誤用が観察されたが、上級レベルではこの種類の誤用が観察されなかった。このことから、各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用が異なっていると言える。

以上の2つのことが確認できたため、各レベルのタイ人日本語学習者のために「そして」の導入方法を考える必要性が示せる。

3.5 残された課題

予備調査で用いた CTJC は、大人数の学習者のデータが収録され、サブレベルまでレベルが詳しく判定されているため、各レベルの使用が確認できた。しかし、各レベルのタイ人日本語学習者のための「そして」の導入方法の提案に用いるデータとして、以下のよう
に不十分な点がある。

1) 日本語母語話者のデータが収録されていないため、日本語母語話者が同じような状況でどのように「そして」を使用しているか把握できない。タイ人日本語学習者のデータ
のみに基づいて導入方法を考える場合、母語話者の使用が反映されない導入になる。

2) 検索システムには、タイ人日本語学習者の発話とその前後の OPI テスターの発話の計3回分のやりとりしか表示されていないため、前後の文脈しか確認できない。このことから、誤用が判定できない例もある。また、前後の文脈だけでは、「そして」と同じ類型に分類される「それから」との混同の分析が難しい。

3) データの種類に関しては、インタビュー形式のデータしか収録されていない。一つのタスクを対象にした場合、そのタスク特有の偏りが見られる可能性がある。

以上の問題点から、各レベルのタイ人日本語学習者のための「そして」の導入方法を提案するために、2種類以上の前後の文脈が確認できるデータを用いて、日本語母語話者のデータも分析する必要がある。

以上、第3章では、予備調査の目的、データ概要、調査結果、結論について説明してから、残された課題を述べた。第4章では、本調査の研究方法について説明する。

第4章 本調査の研究方法

第4章では、本調査の研究方法について説明する。まず、4.1では、本調査で採用する接続表現の定義と「そして」の用法を決定する。それから、4.2では、研究目的と課題、そしてそれらの課題を解決するための実施方法を説明する。最後に、4.3では、本研究で用いるデータについて概説する。データについては、コーパスの概要、学習者のレベル、データを選定した過程、分析データ数と記号、それぞれのタスクの詳細とサンプルについて説明する。

4.1 接続表現の定義と「そして」の用法

日本語の接続表現について記述されている研究では「接続語句」のような用語が用いられることもあるが、本研究では、用語として「接続表現」を用いる。接続表現の定義については、市川（1978）が述べた「文と文、あるいは節と節との関係を示す形式」を採用する。日本語記述文法研究会編（2009）では、接続表現と接続助詞とは性質が異なるとしているが、本研究では、佐久間（1990）が接続詞や接続助詞、およびそれに相当する機能を持つ語句（副詞・名詞・連語）を「接続表現」と呼んでいるのと同様に、接続助詞も「接続表現」の一つであるとする。

「そして」の用法について、第2章で紹介したように、多くの研究において記述されてきた。先行研究の中で、用法に関して対立するようなことを述べるものもある。例えば、石黒（2001）は、「そして」は「因果関係」の用法を備えていると指摘しているが、市川偏（2010）は、「そして」には因果の意味を含まないことを説明する導入方法を提案している。また、研究によって、用法に関する用語も異なっている。石黒（2001）は、「時間」用法と「並列」用法と呼んでいるのに対し、日本語記述文法研究会編（2009）は、「継起」用法と「つけ加え」用法と呼んでいる。本研究では、「そして」には「因果関係」の用法がないとし、基本的な用法として「時間／継起」と「並列／つけ加え」の用法があるという記述を採用し、用語として「時間」と「並列」を用いる。また、使用の分析の際、「そして」の最後の情報が重くなる特徴や、繰り返し用いられないという特徴も視野に入れる。なお、本研究では、浜田（1995）が分析している表現類型の観点では分析しない。

4.2 研究課題と実施方法

本研究の最終目的は、各レベルのタイ人日本語学習者のために「そして」の効果的な導入方法を提案することである。この導入方法によって、タイ人日本語学習者は「そして」に関して以下のように使用できると考える。

- 1) 日本語母語話者が使用している基準で利用できる。
- 2) 誤用や多用をせずに正しい用法で利用できる。
- 3) ジャンルに合わせた正しい用法で利用できる。
- 4) それぞれのレベルに求められる談話の単位で利用できる。

このような研究目的を達成するために研究課題を3つ設定する。

課題① 日本語母語話者の「そして」の使用を確認する。

課題② 各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認する。

課題③ タイ人日本語学習者の使用の要因を考察する。

以下、それぞれの研究課題と解決するための実施方法の詳細を説明する。

課題① 日本語母語話者の「そして」の使用を確認する。

タイ人日本語学習者が日本語母語話者が使用している用法で利用できるような導入方法が提案できるように、まず日本語母語話者の「そして」の使用を確認する必要がある。OPIの判定基準からわかるように、上級学習者のテキストの型が段落であるため、上級以降の学習者が日本語母語話者が使用している用法で「そして」が使用できるように、談話レベルの日本語母語話者の使用の確認が必要である。また、学習者がジャンルに合わせた用法でできるように、2種類以上のデータを用いて確認しなければならない。

日本語母語話者の「そして」の使用を確認するために日本語母語話者のストーリーテリングと対話のデータを用いて、その使用を観察することにする。観察項目は、両タスクでは、「そして」の使用、他の接続表現の使用である。他の接続表現の使用を観察する理由は、「そして」の導入方法について、「それから」の代用を提案している研究があるが、「それから」が必ずしも「そして」の代わりに使用できるわけではないと考えるためである。また、対話のみでは、対話相手の「そして」に対する反応も観察する。課題①については第5章で論じる。

課題② 各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認する。

タイ人日本語学習者が「そして」に関して誤用や多用をしないように、まずは、タイ人日本語学習者がどのように誤用や多用しているかという現状を確認する必要がある。また、ジャンルに合わせてそれぞれのレベルに合った使用ができるように、2種類以上のタスクにおける各レベルの学習者の使用を確認しなければならない。

各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認するために課題①で用いるストーリーテリングと対話タスクが課されたタイ人日本語学習者のデータを用いて、課題①の日本語母語話者が使用している用法と比較しながら、学習者の使用を観察する。観察する項目は各レベルの誤用、多用、フィラーとしての使用、日本語母語話者が使用しているところでの使用であり、対話では対話相手の「そして」に対する反応も観察する。

誤用分析の重要性については、迫田（2002）は、教師は誤用によって学習者の現在地と原因の推測、そしてその対処の仕方、治療法さらに予防法まで考えられると述べている。誤用のみではなく、多用、フィラー、日本語母語話者が使用しているところでの使用を各レベルで確認できれば、それぞれのレベルで発生した誤用の要因やそれをなくすための導入方法を考えることができる。

なお、誤用の判定は、日本語母語話者にしてもらった。課題②については6章で論じる。

課題③ タイ人日本語学習者の使用の要因を考察する。

タイ人日本語学習者のための「そして」の効果的な用法が提案できるように、タイ人日本語学習者の使用の基準を把握する必要がある。使用の基準が把握できれば、それをなくすための方法が提案できる。また、各レベルに合わせた導入方法が提案できるように、各レベルに影響を与える要因を考察しなければならない。

第二言語習得にかかわる要因に関して、迫田（2002）は、以下のような問いと答えの形式でまとめている。

1) 第二言語を学習する際に、学習者の母語の影響はあるだろうか。

学習者の母語の影響（言語転移）は、発音、語彙の選択、文法や表現などさまざまな領域において見られ、影響を受けやすいものとそうでないものがある。

2) 第一言語と第二言語の習得順序は同じだろうか。

類似している部分もあるが異なっている部分もあり、現在のところは 2 つの言語習得のプロセスは同じとはいえないといわれている。

3) 学校に通って第二言語学習の指導を受ける場合と指導を受けないでその国の自然環境の中で言語を学ぶ場合とでは、習得状況は同じだろうか。

教室に通って学んでも自然環境の下で学んでも習得順序は変わらないが、教室環境で学んだ学習者は習得の速度が速く、より高いレベルに達することができるといわれている。

(迫田 2002 : 118)

他には、ある習得段階において正用とは異なった語や言語形式が観察されることから、学習者の中間言語には変異があり、この変異は対話相手への心理的要因やタスクの種類、前後にどのような語が来るかなどの要因が影響すると述べている。

以上のまとめを見ると、第二言語習得に影響を与えるのは母語と学習環境にあることや、習得には順序があることがうかがえる。学習環境に関しては、本調査で対象にした学習者はすべて海外の教室環境の下で学習した学習者であるため、学校に通う場合とその国の自然環境の中で学ぶ場合を比較する分析はできない。したがって、教室環境での指導はどのように使用に影響を与えるかを分析することにする。さらに、迫田(2002)はタスクの種類が中間言語の変異に影響を与えると述べているため、タスクの種類の影響も分析する必要がある。

以上のことから、タイ人日本語学習者の使用に与える要因を考察するために、母語であるタイ語との対照、これまでの導入方法の問題点の洗い出し、タスクの実施方法の分析という方法を用いる。課題③については第7章で論じる。

本研究で設定した研究課題と実施方法では、タイ人日本語学習者にとって難しい文法項目である「そして」を取り上げて、日本語母語話者とタイ人日本語学習者という両面から分析を行う。3つの課題から得られた結果に基づいて、各レベルのタイ人日本語学習者のための「そして」の導入方法を提案すれば、タイ人日本語学習者が日本語母語話者が使用している基準で「そして」を使用でき、誤用や多用をせずに正しい用法で使用できると考える。

なお、各レベルのタイ人日本語学習者のための「そして」の導入方法を考える際、3つの課題から得られた日本語母語話者と各レベルのタイ人日本語学習者の使用とその要因以

外に、各レベルの学習者の能力も配慮する。能力については、第3章で提示した OPI の基準の他、CEFR¹²の共通参照レベルの話し言葉の質的側面（表 14）も参考にする。

なお、あるレベルの導入方法を考える際、そのレベルと直後のレベルの能力を考慮すべきである。なぜなら、その直後のレベルになるための準備も必要だと考えるためである。このことの背景には、以下の仮説がある。

1) 山内（2009）は、Krashen 他（1986）の「自然習得順序仮説」を背景に、あるレベルで使用が増えている文法項目は前レベルで習得したもので前レベルで教えるべきだと主張している。本研究では、この主張に賛成するが、前レベルの立場に立ち、あるレベルでその直後のレベルの能力と使用状況を考慮した導入方法をとれば、直後の誤用などを防ぐことができ、かつ求められる能力が身につくことができると考える。

2) Krashen 他（1986）の「インプット仮説」では現在の能力レベルより少しレベルの高いインプットを理解することによって、言語を習得することが指摘されている。本研究では、この仮説に賛成し、あるレベルの学習者のための導入方法を考える際、その直後のレベルの能力を考慮し考えれば、習得につながると考える。

提案した導入方法は第8章で論じる。

¹² Common European Framework of Reference for Languages の省略。CEFR の目的はヨーロッパの言語教育のシラバス、カリキュラムのガイドライン、試験、教科書、等々の向上のために一般的基盤を与えることである。レベルに関しては以下のとおりである。

A 基礎段階の言語使用者 (Basic User)	A1 (Breakthrough)
	A2 (Waystage)
B 自立した言語使用者 (Independent User)	B1 (Threshold)
	B2 (Vantage)
C 熟達した言語使用者 (Proficient User)	C1 (Effective Operational Proficiency)
	C2 (Mastery)

表 14 『CEFR』の話し言葉の質的側面

	使用領域の幅	正確さ	流暢さ	やり取り	一貫性
C2	細かい意味のニュアンスを正確に伝えたり、強調したり、区別したり、あいまいさを避けるために、いろいろな言語形式で自由に言い換えができ、非常に柔軟に考えを表現できる。慣用表現、口語体表現も上手に用いることができる。	例えば、先を考えたり、他人の反応に注意を向けながらも、複雑な言葉を文法的に正しく使える。	自然な流れの口語体で、ある程度の長さの自己表現ができる。難しいところは避け、修正を円滑に行い、相手がそれと気がつかないぐらいである。	非言語標識、あるいはイントネーション標識を選んで使い、明らかに無理せずに、軽々と上手に会話をするができる。発言の機会を自然に上手につかみ、前の発言に言及したり示唆したりしながら、会話の流れに寄与することができる。	適切に多様な談話構築手法と幅広い接続表現、結束手段を用いて、具体性があり、脈絡があり、また一貫性のある談話をすることができる。
C1	幅広い言葉の使いこなしができ、一般的、学術、仕事、娯楽の幅広い話題について、言いたいことを制限せずに、適切な文体ではっきりと自分を表現できる。	文法的な正確さを大体において維持することができる。誤りはめったにないし、まず気づかれないし、実際に犯したとしてもたいていは自分で訂正できる。	概念化が難しいときにのみ、言葉の自然な滑らかさが妨げられるが、それ以外は、流暢に自然に、ほとんど苦労せずに自己表現できる。	手持ちの談話表現からふさわしい語句を選んで、自分の話を切り出したり、話を続けることができる。自分の発言を他の話や相手の発言に関係づけられる。	談話構築手法、接続表現、結束手段が使いこなせ、明瞭で流れるような、構成の整った話をするすることができる。
B2+					
B2	十分に言葉を使いこなすことができ、一般的な話題についてなら、ある程度複雑な文を用いて、言葉をわざわざ探さなくても自分の観点を示し、はっきりとした説明をすることができる。	比較的高い文法能力を示す。誤解を起こすような誤りはしない。たいていの間違いは自分で訂正できる。	文例や表現を探すのに詰まったりするが、気になるような長い休止はほとんどなく、ほぼ同じテンポである程度の長さで表現ができる。	いつもエレガントとはいかないが、適切に発言の機会を獲得したり、必要なら会話を終わらせることができる。身近な話題の議論で、人の発言を誘ったり、理解を確認したり、話を展開させることができる。	使うことができる結束手段は限定されており、長く話すとなるときこちなさがあるが、発話を明瞭で一貫性のある談話につなげることができる。
B1+					
B1	家族、趣味、興味、仕事、旅行、現在の出来事のような話題について、流暢ではないが、言い換えを使いながら表現するだけの語彙を十分に有している。	予測可能な状況で、関連した非常によく用いられる「決まり文句」や文型をかなり正確に使える。	長い一続きの自由な発言をするとき特に、文法を考えたり語彙を探したりする際の言いよどみや言い直しが多く、修正が目立つが、わかりやすく話を進めることができる。	身近な個人的な関心事について、一対一なら、話を始め、続け、終わらせることができる。お互いの理解を確認するために、誰かが言ったことを部分的に繰り返して言うことができる。	一連の短い、不連続な単純な要素を連結し、並べていって、話ができる。
A2+					
A2	覚えたいいくつかの言い回しや数少ない語句、あるいは定型表現、基本的な構文を使って、日常の単純な状況の中でなら、限られてはいるが情報を伝えることができる。	まだ基本的な間違いが決まったところで出てくるが、いくつかの単純な構文を正しく用いることができる。	休止が目立ち、話し出しの仕方の間違いや、言い直しが非常にはっきり見られるが、短い話ならできる。	質問に答えられ、簡単な話に対応することができる。自分で会話を続けることができるほどには十分に理解できていないことが多いが、話についていていることをわかせることができる。	‘and’ ‘そして’、‘but’ ‘でも’、‘because’ ‘なぜなら’などの簡単な接続表現を使って単語の集まりを結びつけることができる。
A1	個人についての情報や具体的な状況に関する基本的な語や言い回しは使える。	限られた文法構造しか使えず、構文も暗記している範囲でのみ使える。	表現を探したり、あまり知らない語を発音したり、コミュニケーションを修正するためにつかえ、つかえ話すが、単発的な、予め用意された発話ならすることができる。	個人的な事柄について詳しく質問をしたり、答えることができる。繰り返し、言い換え、修正に完全に頼ったコミュニケーションではあるが、簡単な会話はできる。	単語の集まりや個々の単語を ‘and’ ‘そして’、‘then’ ‘それで’ などのごく基本的な接続表現を使って結びつけることができる。

(Council of Europe 2008 : 30-31)

以下、本研究の目的である「そして」の導入方法の提案まで至るプロセスを示す。

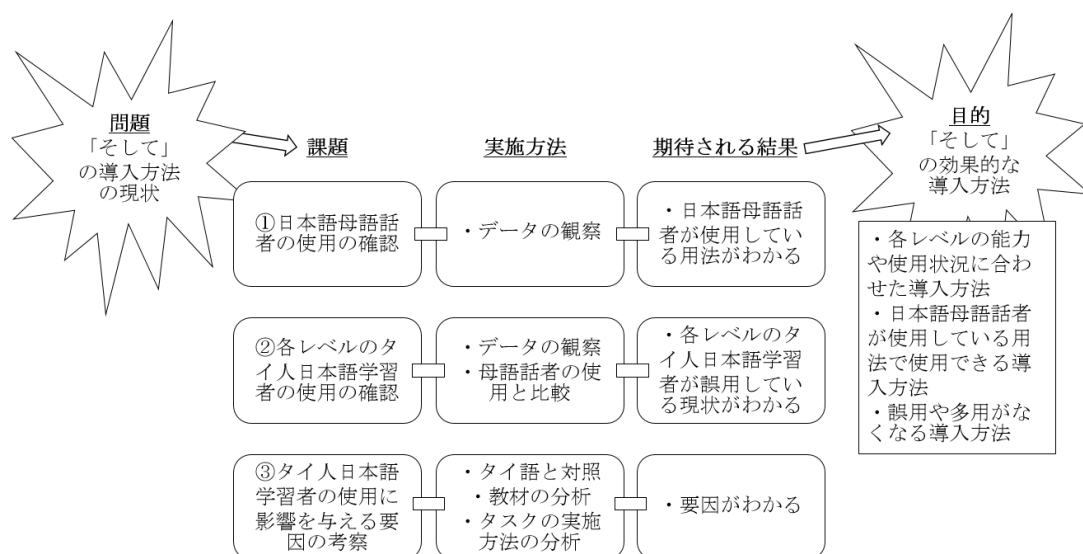


図 2 研究目的までのプロセス

4.3 データについて

先行研究と予備調査の残された課題からわかるように、「そして」の導入方法を考えるために用いるデータの選定も重要である。本調査でも予備調査と同様にコーパスを用いる。先行研究と予備調査の残された課題を補うために、本調査のデータは、以下の条件を満たすデータを用いる。

1) 日本語母語話者と各レベルのタイ人日本語学習者のデータが収録されているデータであること。両方のデータを用いれば、タイ人日本語学習者が日本語母語話者が使用している用法で「そして」が使用できる方法、誤用や多用をせずに正しい用法で使用できるという導入方法が提案できると考える。

2) 複数のタスクが収録されているデータであること。これまでの研究では、一つの種類のデータを対象にしていることが多い。接続表現がジャンル別に使用回数が異なっているという報告（石黒他 2009）があることから、一つの種類のデータで使用を観察するのは使用の偏りが発生する可能性がある。複数のタスクでの使用が確認できれば、そのタスクに相応しい用法で使用するよう導入方法が提案できると考える。

3) 談話の全文が確認できるデータであること。予備調査では、「そして」が含まれている発話の前後の文脈しか確認できなかったが、談話の構成における「そして」の位置な

どが確認できれば、「そして」の誤用判定がより効果的にでき、誤用をなくするための効果的な導入方法が提案できると考える。

このような条件を満たすコーパスに、国立国語研究所のプロジェクトによる成果『多言語母語の日本語学習者横断コーパス（International Corpus of Japanese as a Second Language : 以下、I-JAS）』がある。I-JAS は多言語を母語とする日本語学習者および日本語母語話者の話し言葉・書き言葉を大量に収集し電子化したコーパスである。I-JAS は段階的に公開されており、2016 年にそれぞれの学習環境に属する中級に調整された学習者および日本語母語話者の第一次データが公開され、最終データである第五次データは 2020 年に公開された。

学習者については、海外の教室環境で学習した 12 言語を母語とする学習者と、国内の教室および自然環境学習者がいる。海外の教室環境で学習した学習者の母語は、インドネシア語、スペイン語、タイ語、トルコ語、ドイツ語、ハンガリー語、フランス語、ベトナム語、ロシア語、英語、韓国語、中国語である。

本調査で使用するデータは、日本語母語話者（JJJ¹³）と海外の教室環境で学習するタイ人日本語学習者（TTH¹⁴）、それぞれ 50 人分である。日本語母語話者のデータは 2016 年公開の第一次データ 15 人分と 2017 年公開の第二次データ 35 人分のデータが含まれている。タイ人日本語学習者のデータは 2016 年公開の第一データ 15 人分と 2019 年公開の第四次データ 35 人分のデータが含まれている。

日本語学習者の日本語能力レベルについては、I-JAS の調査時、言語運用力の面から測定する SPOT（Simple Performance-Oriented Test）-TTBJ（Tsukuba Test-Battery of Japanese）と日本語能力（聴解・誤用・文法・読解）を判定する J-CAT（Japanese Computerized Adaptive Test）という 2 種類のテストで確認しており、結果は学習者の情報記録¹⁵において

¹³ 日本語母語話者調査は 2014 年 9 月中旬～2015 年 3 月中旬に行われた。日本語母語話者の対象者の条件は、日本在住で母語が日本語でバイリンガルではないこと、これまでに日本語教育に携わったことがないことである。

¹⁴ タイ調査は 2013 年 7 月にタイの高等教育機関で行われた。

¹⁵ 調査協力者の背景情報が収集されたもので、Face Sheet と呼ばれる。記録は全 20 項目の質問から構成されており、言語以外の属性についての質問が 7 項目で、言語環境についての質問が 7 項目で、日本語学習についての質問が 6 項目である。

て公開されている。本研究では、SPOT の得点をレベル判定の基準にする。その理由は、OPI の判定レベルと高い相関関係があるためである（岩崎 2002）。予備調査では、OPI 判定がなされているデータを使用したため、類似した方法でレベルが判定されたデータを用いた方が適切であると考ええる。

SPOT は 90 問あり、10～15 分程度で実施される。得点の解釈の目安は以下のとおりである。

表 15 SPOT 得点の目安

合計点	能力判定	説明	日本語能力試験との対応
0～30	入門	日本語を学習したことがほとんどない。	なし
31～55	初級	ゆっくりであれば日常生活の基本的な日本語を理解できる。	N4、N5
56～80	中級	自然な話速度で日常的な場面の日本語がある程度理解できる。	N3、N2
81～90	上級	自然な話速度で幅広い場面の日本語が理解できる。	N1

(Tsukuba Test-Battery of Japanese)

学習者のレベルについて、SPOT の得点を判定基準にした場合のそれぞれのレベルの学習者数は以下のとおりである。なお、学習者の使用を観察する際、中級の得点の幅が広い
ため、3つのサブレベルに分けることにする。具体的に、56～63の得点者が中級Ⅰで、64～71の得点者が中級Ⅱで、72～80の得点者が中級Ⅲにする。このように分ければ、初級学習者のための導入方法を考える際、直後レベルである中級Ⅰの使用状況も参考にすることができると考える。

表 16 タイ人日本語学習者のレベル

得点	レベル	人数
31～55	初級	6
56～63	中級Ⅰ	10
64～71	中級Ⅱ	21
72～80	中級Ⅲ	10
81～90	上級	3
合計		50

I-JAS では 6 種類 12 タスクの調査課題から得られたデータが収録されている。発話データに関しては、「ストーリーテリング 1 (ST1)」「ストーリーテリング 2 (ST2)」「対話 (I)」「ロールプレイ 1 (RP1)」「ロールプレイ (RP2)」「絵描写」というタスクが行われている。作文データに関しては、「ストーリーライティング 1 (SW1)」「ストーリーライティング 2 (SW2)」「メール 1 (m1)」「メール 2 (m2)」「メール 3 (m3)」「エッセイ (e)」というタスクが行われている。なお、メールとエッセイ¹⁶は非対面調査であり、検索システムでは、検索対象外になっている。

分析データの条件について述べたように、接続表現の使用を分析する場合、一つの種類のタスクのみを使用すれば、ジャンル特有の使用しか見られず、偏りがあると考えられる。また、導入方法を考える際、タスク別に考えないと、タスクに相応しくない使用が発生する可能性がある。本研究で用いる I-JAS を使用し、タスクによって語彙などの使用が異なっていると報告した研究もある。例えば、日本語母語話者と中級レベルの学習者の発話を語彙の観点から比較した小西（2017）は、日本語母語話者がジャンルに適した言語産出を行うのに対し、日本語学習者にはそのような言語産出が見られないと報告している。また、小口（2018）は、語りににおいて重要な役割を果たす接続表現に着目し、中級学習者と母語話者の発話と作文のデータを分析した。その結果、学習者は、即時的な処理が要求される「話す」タスクより「書く」タスクの方が、母語話者と類似の形式を多く使用していたことがわかった。

以上のように、タスクによって、表現の使用が異なっていることから、本研究では、2 つ以上のタスクを分析することにする。「そして」の導入方法を提案するためのデータとして I-JAS の 12 タスクの中でどのタスクを分析するかを決めるために、まず検索システ

¹⁶ メールとエッセイは任意の調査のため、データがない学習者もいる。実施条件は、辞書、インターネットの使用が可能になっており、時間制限がなく監督者もいない。それぞれのタスクの内容は、m1 は奨学金申請のための推薦状の依頼、m2 はレポート提出期限延長のお願い、m3 は依頼された観光案内を断る、e は「私たちの食生活：ファストフードと家庭料理」（600 字程度）である。

ムを用いて、それぞれのタスクにおける「そして」の使用回数¹⁷を見てみることにする。
 なお、検索してヒットしたデータから接続表現として使われている「そして」のみを抽出した。結果は以下のとおりである。

表 17 I-JAS における「そして」の使用回数

被調査者	発話データ					作文データ		合計
	ST1	ST2	I	RP1	RP2	SW1	SW2	
JJJ	13	4	12	1	1	10	0	41
TTH	46	32	214	4	8	13	11	332

表 17 からわかるように、タイ人日本語学習者は全体的に日本語母語話者より「そして」を多く使用しており、その使用回数は日本語母語話者の約 8 倍になっている。タイ人日本語学習者の使用回数に関して、発話データか作文データかという観点で見ると、同一課題の内容が課された「ST1」と「SW1¹⁸」、「ST2」と「SW2」とでは、発話データである「ST1」と「ST2」での使用回数が作文データである「SW1」と「SW2」でのそれより多い。例えば、「ST1」では「そして」を 46 回使用しているが、「SW1」では 13 回使用しており、話し言葉としての使用は書き言葉としての使用の約 4 倍になっている。これは、話し言葉で使用した場合の方が「そして」の使用に関する問題が発生する可能性がより高く、書き言葉での使用より詳しく分析する必要があると言える。また、予備調査では、発話データを使用しているため、本調査で日本語母語話者とタイ人日本語学習者の使用を観察する際も同様に話し言葉を使用した方が適切だと考える。

¹⁷日本語母語話者とタイ人日本語学習者両方のデータが含まれているタスクのみ検索対象にする。絵描写は、調査途中から追加されているため、データのない地域もある。タイ人日本語学習者のデータはない。なお、絵描写は、アスペクト表現の産出がねらいの調査である。

¹⁸ ST のデータ概要は後述するが、SW では 1 課題に 10 分～15 分の間で書くように時間が設けられ、辞書等の使用は許可されていない。実施のタイミングについては、対面調査の最後に、最初の課題である ST 実施から約 40～50 分後に実施された。

発話データを見ると、「RP¹⁹1」と「RP2」でのタイ人日本語学習者の使用がさほど多くなく、日本語母語話者の使用回数もそれぞれ1回のみであるため、分析対象外にする。一方、「ST1」と「I」での日本語母語話者の使用回数とタイ人日本語学習者のその差は大きい。具体的には、「ST1」においてはタイ人日本語学習者は日本語母語話者より約4倍多く使用しており、「I」においてはタイ人日本語学習者は日本語母語話者より約10倍多く使用している。そのため、本研究では、「ST1」と「I」を用いて、それぞれの使用を観察することにする。本論文では、以下 I-JAS の「ST1」タスクを「ストーリーテリング」、I-JAS の「I」タスクを「対話」と呼んで分析を進める。分析データ数に関して、検索システムを利用し、「そして」を検索し、その前後の関係および談話の構成の中の使用を分析する。分析に使うコーパスから抽出した「そして」の数は以下のとおりである。

表 18 分析データ数

タスク	被調査者	
	JJJ	TTH
ストーリーテリング	13	46
対話	6	62
合計	19	108
	117	

I-JAS から得られたデータを示す場合、被調査者である日本語母語話者またはタイ人日本語学習者の I-JAS 上の ID も示し、学習者の場合は SPOT 得点も示す。対話データにおいては、C は日本語母語話者である調査実施者であり、K は被調査者である日本語母語話者あるいはタイ人日本語学習者である。この他、I-JAS の書き起こしで用いられる記号の意味は以下のとおりである。

〈 〉 あいづち

¹⁹RP では、被調査者が日本料理店で一週間に3回接客のアルバイトをしている人で、調査者が日本料理店の店長であることが設定されている。RP1 は、週3日のアルバイトを週2日にしてもらうという依頼場面で、RP2 は、ホールから調理に変わるように依頼され断る断り場面である。

- 、 間・ポーズ
- 長音
- * 上昇イントネーション
- { } 聞き取り不能
- 【 】 非言語情報
- 「 」 直接引用
- 『 』 書名、映画名、ドラマ名

() 複数の読みのある場合のフリガナ

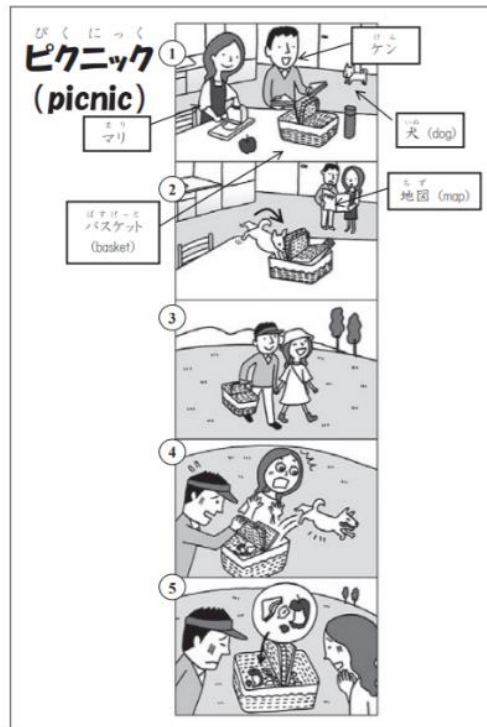
(迫田他 2016 : 173)

さらに、筆者が付け加えた記号については、「そして」を下線に引き、「そして」が複数出現する場合、「そして」の前に番号をつける。また、タイ人日本語学習者のデータについては、誤用に関する表記については、「そして」の後ろに「→」をつけ、「→」の後ろにその箇所により適切な接続表現を斜体と□で示す。他には、対話では、C と K の前にターンの番号もつけた。なお、使用を確認する際には、談話の構成も配慮する必要があると考えるため、基本的に全文を提示するが、対話データに関して、非常に長い場合があるため、その場合は、分析に関係がある箇所だけを抽出する。また、要因を考察する際などは、省略して提示することがある。

4.3.1 ストーリーテリング

迫田他 (2016) によると、ストーリーテリングを導入したのは、インタビュー調査では、学習者からの発話量を十分に引き出せないという問題などが生じる可能性が考えられるためである。ストーリーテリングを用いれば、絵を頼りに発話ができ、まとまった談話を引き出すことができ、ストーリーを工夫すれば、見たい文型の誘出も可能となるという。

ストーリーテリングでは、図 3 のイラスト『ピクニック』が用いられる。イラストには、登場人物の名前 (ケン、マリ) と旧日本語能力試験の 2 級以上の名詞語彙 (犬、バスケット、地図) に日本語と英語の訳が付与され、言い出し文「朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました」が添えられている。なお、タイトルと言い出し文は検索対象から削除されている。また、調査時、被調査者がストーリーの内容を確認する時間として 1 分設けられた。



(迫田他 2016 : 63)

図3 『ピクニック』のイラスト

図3のそれぞれの絵が描くストーリーの構成と出来事は以下のとおり抽出することができる。表19は、それぞれの登場人物が起こした出来事や物の状態を表している。下線の出来事はそれぞれの絵の「主な出来事」で、下線がない出来事は「周辺的な出来事」である。「主な出来事」とはストーリーを展開させるために重要な出来事である。例えば、絵②の「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」出来事は、絵④の「犬が飛び出る」という「意外な展開」に導き、絵⑤の「食べ物が食べられている」という結末につながる。

表19 ストーリーテリングに現れる出来事の流れ

絵	構成	ケンとマリ	犬	食べ物
①	導入	<u>サンドイッチを作る</u>	食べ物を見る	-
②	継起する出来事	地図を見る	<u>バスケットに入る</u>	-
③	時間／空間的な展開	<u>出かける</u>	-	-
④	意外な展開	バスケットを開ける	<u>飛び出る</u>	-
⑤	結末	バスケットを覗く	-	<u>食べられている</u>

ストーリーテリングのデータのサンプルは以下のとおりである。(50)は、被調査者が I-JAS 調査時に TTH18 と番号がつけられ、SPOT の得点が 69 で、中級学習者に相当するタイ人日本語学習者の発話データである。誤用に関しては、例えば①「そして」では、「だから」がより適切なところで「そして」が使用されている。

(50) サンドイッチはバスバスケット、に、入って、おりました

ん、え、二人は、んー、ピクニックしようとおもっていまし（思っていました）

①そして→だから、マリ、ケンとマリす、ケンさんとマリさんはじつ（地図）、あ公園、じつ（地図）で公園を探し探します

それから、二人（ふたり）は、んー、公園、公園へ行きました

公園、あ、公園に公園にすくと（着くと）、んー、犬、すっと、何（なん）、んー、すっと、ケンさんケンさんは、何（なに）、か、何（なに）か、何（なに）かにバスケット、に、ああると思いまし（思いました）

②そして→それで、ケンさんはバスケット、を開けて、犬、が、飛び、出ーしまし、飛び出しました

あ、ケンさんとマリさんはとてもびっくりしました

③そして→しかも、サンドウィッチ（サンドイッチ）、サンドウィッチ（サンドイッチ）を食べて、犬、犬、に、食べられました

(TTH18 SPOT69)

4.3.2 対話

対話では、被調査者である学習者あるいは日本語母語話者と、日本語母語話者である調査実施者による自然な会話が 30 分程度行われた。内容はある程度統一された話題が設定され、自然な会話の流れで学習者の言語運用を引き出す手法が取られている。自然な流れで会話を進めるという手法は OPI が参考にされたものの、対面調査において評価は行われていない。話題は全て 15 項目で、前半は被調査者本人に関する過去、現在、未来について話すもので、後半は意見陳述や反論ができるような話題が設定された。対話の流れは以下のとおりである。

ウォーミングアップ

- 1) ウォーミングアップ（天候や交通手段、来日の日程や動機など、話題に関係のない話を展開して、リラックスする雰囲気を作る） 2～3分
- 2) 昨日の1日の出来事【過去】・・・ここで、日本のアニメ等を見る学生が多く、その場合は4)の質問へ。

日本について

- 3) 日本語学習の動機・日本に対する関心事について【現在】
- 4) 日本の本を読んだり、映画やドラマを見たりしますか？一番好きな本（映画・ドラマ）を教えてくださいか？・・・可能な範囲でその内容を聞く。【現在】

学習者の故郷（出身）について

- 5) 学習者の故郷（出身）についての話【現在】
- 6) 学習者の故郷（出身）の料理や食べ物や有名な産物【現在】
- 7) 学習者の故郷（出身）の有名な観光地で好きな所、推薦できる観光スポット【現在】
- 8) ～さんは（故郷の名前）で生まれたんですよね。いつ、生まれました？何月？（日は聞かない。）～さんの国では、誕生日にはどんなことをしますか？今までに、一番楽しかった誕生日はどんな誕生日でした？（あるいは、お正月やクリスマスや感謝祭など、その国の伝統的な行事）【現在・過去】

続く過去の体験

- 9) 小さい頃はどんな子供でしたか？（私は、男の子のような女の子で、いつも男の子とばかり遊んでいました。いつも、男の子とけんかをして、男の子を泣かせていました。あなたはどうか？）
- 10) 小学校・中学校・高校で好きだった先生の思い出【過去】
- 11) 今まででとても怖かった思い出（体験）がありますか？私は2年前に車を運転していて、居眠りをして、ガードレールにぶつかって、もう少しで死ぬところでした。何か、そんな怖いことがありました？【過去】

過去から将来へ

- 12) これから、どんなことがしたい？どんな仕事につきたい？あるいは、夢？【未来】

13) もし、これから 10 年か 20 年後、どこかに住むとしたら、都会がいいですか？

それとも田舎がいいですか？【意見陳述】

14) お金と時間とどちらがたくさんあった方がいいですか？【意見陳述】

クールダウン（これからの予定、将来の夢に向かって、頑張ってください。）

（迫田他 2016 : 66）

対話から産出された発話量が非常に多いため、本研究では、日本語母語話者とタイ人日本語学習者両者が「そして」を多く使用する話題を一つのみ取り上げることにする。まず、どの話題にするか、それぞれの話題における「そして」の使用回数を見てみることにする。話題別の「そして」の使用回数は以下のとおりである。なお、話題名は筆者が迫田他（2016）の調査の流れを参考に簡潔につけたものである。また、5) 学習者の出身についての話、6) 有名な産物、7) 観光スポットは話題を区別することが難しい場合があるため、一つの話題として数えた。

表 20 話題別の「そして」の使用回数

話題	日本語母語話者	タイ人日本語学習者
1) ウォーミングアップ	0	3
2) <u>昨日の出来事</u>	6	62
3) 日本語学習の動機	0	23
4) 好きな本／映画など	2	34
5) ～7) 出身について	2	30
8) 誕生日の祝い方	0	13
9) 幼少期の体験	0	3
10) 先生の思い出	1	15
11) 怖かった思い出	0	12
12) 将来の夢	0	3
13) 都会と田舎	0	7
14) お金と時間	1	8
クールダウン	0	1
合計	12	214

表 20 からわかるように、タイ人日本語学習者は様々な話題において「そして」を使用している。それに対し、日本語母語話者が使用する話題は限られている。日本語母語話者とタイ人日本語学習者両者が「そして」を最も多く使用している話題は「昨日の出来事」

であるため、本調査では、対話の「昨日の出来事」話題の部分のみを抽出し、日本語母語話者とタイ人日本語学習者の「そして」の使用を観察することにする。

対話のデータのサンプルは以下のとおりである。(51)は、被調査者が I-JAS 調査時に TTH33 と番号がつけられ、SPOT の得点が 76 で、中級学習者に相当するタイ人日本語学習者 (K) と調査実施者である日本語母語話者 (C) の発話データである。誤用に関しては、例えば①「そして」では、「それで」がより適切なところで「そして」が使用されている。

(51) 1 C そうすると朝、九時に起きて夜十二時に寝るまでの、昨日一日 (いちにち) のお話を、どんなことをなさったか (あーはい) 簡単に教えてください

1 K はいえーと、えー私は起きてから、えーなんと言うか、えー、なんと言うか、えー、修士るんぶん (論文)、〈うんうんうん〉修士論文の準備を、なんて言うか、しようと、〈うん〉思いましたけど、えーなんと言うか、フェス (フェイス)、フェスブック (フェイスブック) とか、えーとチェック (/チェック)、なので、なんて言うかえーと、おも、えー思ったと、思ったより、なんて言うかえー時間、を、なんか、かかってしまいました〈うんうん〉①そして→それで、なんかえーと、えー、昼、ご飯一、なんかひ昼ご飯の、時間一までくらいなんだ (なんか)、かかってしまいました、はい、②そして→正用えと昼ご飯は、えー昼ご飯を、えーと食べーてから、〈うんうん〉あたしはえーずっと、はい、えー修士論文の準備をなんかえー、して、いました、はい、はい、③そして→それからえーと、ゆうかた (夕方)、はー、えー、はい、ともらち (友達)、ともらち (友達) に一、なんかえーとレパート (デパート) で、えと、会いに、会いに、行きました、はい、なんか、えーと一緒に、えー晩ご飯を、えー食べたり、はい、食べだり (食べたり)、して、④そして→付加えーと少し、えーといろいろな事を話したりして、⑤そして→付加私はえーと、家に、帰りました、はい、⑥そして→そのあとはえーと、はい、えー、一生懸命 {笑} はい、えーと歴史一、なんかえーかん、関係する、えーと歴史の教科書とか、はい、えーと、えー読んだり、はいえー修士、論文の準備をかえったり (/書いたり) して、はい⑦そして→付加、えーと、なんか、なんて言うかえーこう、眠く、なっ、てしましましてはい⑧そして→それで〈うん〉、寝ました

2 C そうですか、はい、はい、いろんなことまあ、午前中はねあんまり、あの何（なに）十分（じゅうぶん）なことができなかったかもしれないけどまあ〈はい〉午後から、ずっとこう、あの、論文の、勉強なさったんですね

（TTH33 SPOT76 (6) を再掲）

以上、第4章では、採用する接続表現の定義と「そして」の用法、研究課題と実施方法、そしてデータについて説明した。第5章では、第4章で説明したデータを用いて、日本語母語話者の「そして」の使用を確認する。

第5章 日本語母語話者の「そして」の使用

第5章では、第4章で述べた課題①の「日本語母語話者の「そして」の使用を確認する」について論じる。日本語母語話者の「そして」の使用を確認するためにストーリーテリングと対話のデータを用いて、その使用を観察することにする。まず、5.1 では、ストーリーテリングにおける「そして」と他の接続表現の使用を観察する。次に、5.2 では、対話における「そして」と他の接続表現の使用を観察する。最後に、5.3 では、先行研究で記述されている用法を参考に、タスクによる「そして」の使用の相違点を考える。

5.1 ストーリーテリングにおける使用

第4章で述べたように、本研究で利用した図のストーリーは、「導入」「継起する出来事」「時間／空間的な展開」「意外な展開」「結末」という5つの構成から成り立つ。本節では、このような構成を考慮しながら、日本語母語話者の「そして」と他の接続表現の使用を観察する。

5.1.1 「そして」の使用

ここでは、日本語母語話者のストーリーテリングにおける「そして」の使用回数と使用人数を示してから、日本語母語話者が「そして」を使用している箇所を記述する。

日本語母語話者のストーリーテリングにおける「そして」の使用回数は13回であり、使用人数に関しては、50人中、11人が使用している。「そして」を使用する時は、ほとんどの日本語母語話者は1回使用しているが、2回使用している人もいる。

日本語母語話者が「そして」を使用している箇所に関しては、「主な出来事」に導く時、つまり絵が変わる箇所で使用している。それぞれの箇所での使用の例は以下のとおりである。

絵①の「導入」から絵②の「継起する出来事」に変わる場面では、以下のように「そして」の使用が観察された。ここでの使用回数は2回である。

(52) サンドイッチをすく作っている間、えー飼っている犬が、ずっとこちらの方（ほう）を見ていました

①そして、ケンとマリが、行く所を、えー地図で決めている時、飼っている犬が、ピョンとテーブルの上に飛び乗り、バスケットの中に入ってしまった

それには気づかずにケンとマリは手を繋いで、ピクニックに行きました

②そしてお昼が来て、ご飯を食べようと思ったところ、バスケットをあげると（開けると）ピョンと飼っている犬が出てきました

二人はとっても驚いて中を見てみると、なんと朝作ったサンドイッチがぜーんぶ食べられてしまいました

二人はとっても残念な気持ちでピクニックを終わりました (JJJ16)

(53) ①そしてケン、とマリが、えーと地図、でどこに行くかを見ている時に、えーとケンとマリが飼っていると思われる犬が、えーとバケットの中に入ってしまった

でそれに気づかず、ケンとマリはピクニックに行きました

②そして、ご飯を食べようとした時に、バケットを開けると、バケットの中から、犬が出てきました

でバケットの中のえーとサンドイッチは、犬に食べられていました

でケンとマリは、がっかりしました (JJJ28)

(52) の絵①と絵②では、「犬」の視点でストーリーが語られている。絵①では、「主な出来事」である「ケンとマリがサンドイッチを作る」出来事が、「周辺的な出来事」である「犬が食べ物を見る」出来事と同時に起きている。「犬が食べ物を見る」出来事で絵①の語りが終わり、絵②に変わる時には、①「そして」が使用されている。この「そして」は、絵①の「周辺的な出来事」である「犬が食べ物を見る」出来事と、絵②の「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」出来事の継起的な「時間」を表すために使用されている。つまり、「そして」の使用によって、「主な出来事」が導かれている。

(53) では、絵①の「主な出来事」である「ケンとマリがサンドイッチを作る」出来事の語りが省略されている。I-JAS 調査時には言いさし文「朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました」が用意されているため、絵①の語りが省略されることもあると考えられる。

(53) では、言いさし文の続きで「ケンとマリ」の視点でストーリーが語られている。言い出し文である「ケンとマリがサンドイッチを作る」出来事で絵①の語りが終わり、絵

②に変わる時には、①「そして」が使用されている。この「そして」は、絵①の「主な出来事」である「ケンとマリがサンドイッチを作る」出来事と絵②の「周辺的な出来事」である「ケンとマリが地図を見る」出来事の継起的な「時間」を表すために使用されている。「ケンとマリが地図を見る」出来事は絵②の「主な出来事」ではないが、絵②の「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」出来事と同時に起きている。つまり、「そして」の使用によって、「主な出来事」が導かれている。

また、「そして」の2回以上の使用はこの2つの例にしか観察されなかった。「そして」がストーリーの開始時点で使用された場合、2回目の使用が許容されやすい可能性がある。

絵②から絵③の「時間／空間的な展開」に変わるところでは、以下のように「そして」の使用が観察された。ここでの使用回数は2回である。

(54) その（連体詞）時、えーケンとマリは犬を飼っているわけですが、えー、その（連体詞）犬が、何と（なんと）、えピクニックに持っていく、えーサンドイッチ、のいやーピクニックに持っていくバスケットの中に入り込んでしまいました

その間（そのかん）えーマリとケンはいえ地図をえーゆ眺めて、えーピクニックのえ場所確認していたがため、えー、その（連体詞）様子をえー知りませんでした

そして楽しく二人はピクニックに出掛けて行きましたが、えーようやくお昼の時間になり、えー、朝えー作っていったサンドイッチを、えー食べようと、えバスケットを開けたところ、何と（なんと）中から、えー飼っていた犬が飛び出してきて、え残念なことにえ一朝マリとケンがえー頑張って作ったえーサンドイッチが、えー、全て食べられてしまいました (JJJ05)

(55) ええーっと、バスケット、にピクニック用のサンドイッチを入れ、地図を見ているところ、地図を見えていました

そして向かうところ「あれ？ええ一緒にいる、飼い犬がいらないな、まあでもどっか（どこか）に行っちゃったのかなまあ行きましょう」とケンとマリはええーとピクニックに行きました

で、ええピクニックの、んん場所に着き、「さあここでサンドイッチを食べましょう」とバスケットを開けたところ、そこからわ我が飼い犬が出てきたのですが、その（連体詞）バスケットの中のええサンドイッチは飼い犬のドック（ドッグ）に犬に食べられてしまい

ました

(JJJ35)

(54) と (55) では、絵②の「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」出来事と「周辺の出来事」である「ケンとマリが地図を見る」出来事が同時に起きている。ただし、(55) では、「犬がバスケットに入る」出来事の語りが省略されている。「ケンとマリが地図を見る」出来事で絵②の語りが終わり、絵③に変わる時には「そして」が使用されている。この「そして」は、絵②の「周辺の出来事」である「ケンとマリが地図を見る」出来事と、絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事の継起的な「時間」を表すために使用されている。つまり、「そして」の使用によって、「主な出来事」が導かれている。

絵③から絵④の「意外な展開」に変わるところでの使用は (52) の②「そして」と (53) の「そして」の他、次の例にも見られ、合計 4 回の使用が観察された。

(56) 地図を見て、どこへ行こうかと話している間に、バスケットの中に、子犬が、入りました

き、気づかずに二人はピクニックへ出かけました

そして、じゃあご飯を食べようか、とゆう所でバスケットを開けてみると、子犬が突然飛び出してきました

なんと、バスケットの中に入っていた食べ物を、た全て食べてしまいました

二人は驚き、はて、どうしよう (どうしよう) 、かと悩みました (JJJ07)

(57) はいえーと犬を飼ってまして、えーと部屋には犬がいました

バスケットに作ったサンドイッチを入れて、えーとその (連体詞) 後 (あと) ケンとマリはえーとピクニックのための地図をえっと確認していました

そしたらえっとケンとマリが知らない間 (あいだ) に犬がバスケットに入ってしまった

えっとそのそれを知らずにケンとマリはえーピクニックに出かけました

そしてえーサンドイッチを、サンドイサンドイッチをえっと食べようとし、たわけじゃないのかな、えー申し訳ない

えっと {笑} サンドイッチを食べようとしたことにするか

えっとケンとマリがサンドイッチを食べようとしたら、えっと中に入っていた犬が出てきました

ケンとマリは驚きました

中（なか）、サン、えっとバスケットの中を見てみたら、えーサンドイッチや他（ほか）の食べ物も全部犬が食べてしまっていて、残念でした（JJJ43）

（52）の②「そして」、（53）の②「そして」、（56）～（57）では、絵③の「主な出来事」である「二人が出かける」出来事で絵③の語りが終わり、絵④に変わる時には「そして」が使用されている。この「そして」は、絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事と絵④の「周辺的な出来事」である「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事の継起的な「時間」表すために使用されている。「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事は絵④の「主な出来事」ではないが、「主な出来事」である「犬が飛び出る」出来事のきっかけである。つまり、「そして」の使用によって、「主な出来事」が導かれている。

絵④から絵⑤のストーリーの「結末」に変わるところでは、以下のように「そして」の使用が観察された。ここでの使用回数は4回である。

（58）{笑}、二人で仲良くサンドイッチを作ってー、いるとー、ワンちゃんがー、サンドイッチボックスーを漁っています

その（連体詞）間ケンとマリは地図を見てどこにーピクニック（ピクニック）に行こうか、と話し合っています

さあ決まった出かけましょー

ん、なってー、歩いているとなんか重たいなー

バスケットの中重たいぞー

バスケットを開けてみると犬が中から飛び出してきました

そしてバスケットの中を見ると先ほど作ったはずのサンドイッチ（サンドイッチ）や、果物食べ物全部食べられてしまってます {笑}（JJJ09）

（59）でもサンドイッチを入れていた籠の中に犬が入って、それに気付かないまんまえーとケンとマリは一緒にえーピクニックに出かけてしまいました

お昼時（どき）に、えーとバスケットからサンドイッチを取り出す時に、犬がバスケットから突然出てきたのでケンとマリはびっくりしてしまいました

そしてバスケットの中を覗くと、朝作ったはずのサンドイッチが、食い荒らされ、た状態になっていたの、ケンとマリはお落ち込んでしまいました (JJJ21)

(60) マリは、あ、ごめんなさい {笑}

えー、バスケットにサンドイッチを入れ（いれ）、どこに行こうか、地図を見ていました

その間（そのあいだ）に、えー犬の、犬が、それをあそれを見ていた犬が、バスケットの中に、こっそりと潜り込んでしまいました

それに気付かない二人は、山に行き、散歩をして、お昼ご飯にしようと思ったところ、おもあーおも、お昼ご飯にしようと思い、バスケットを開けた（あけた）ところ、そこから犬が飛び出してきました

二人はびっくり

そしてバスケットの中を見てみると、お昼ご飯がすべて、犬に食べられてしまいました (JJJ31)

(61) 二人は、えー、そうですねえっとわん、犬、犬を飼っておりました

その（連体詞）犬はえー、ひそかにサンドイッチを狙ってるような、顔をして、こちらを見ております

えー、ケンとマリは、地図を見て、これから行く先、えーの、えールートを考えておりました

その（連体詞）隙に、犬は、バスケットの中に忍び込みました

気付かない、えーケンとマリは、えー目的地に着き、バスケットを開けると、なんと、犬が飛び出してきました

びっくりしてしまいました

そして、バスケットの中を見ると、えー朝、手に、よりをかけて作った、えーサンドイッチ、が、見事に食べられておりました (JJJ33)

(58) ～ (61) では、「主な出来事」である「犬が飛び出る」出来事で絵④の語りが終わり、絵⑤に変わる時には「そして」が使用されている。「そして」は、絵④の「周辺の出来事」である「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事と絵⑤の「周辺の出来

事」である「ケンとマリがバスケットの中を覗く」出来事の継起的な「時間」を表すために使用されている。「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事と「ケンとマリがバスケットの中を覗く」出来事はそれぞれの絵の「主な出来事」ではない。しかし、「バスケットを開ける」出来事は絵④の主な出来事である「犬が飛び出る」出来事のきっかけであり、「バスケットの中を覗く」出来事は絵⑤の主な出来事である「食べ物が食べられている」出来事のきっかけである。つまり、「そして」の使用によって、「主な出来事」が導かれている。

主な出来事に導くところでの使用の他に、以下のように、「そして」は修飾節がある名詞をつなぐために使用されている。このような使用は1回観察された。

(62) えー二人は、え犬を、飼ってます

ケンとマリは、えー今日、ピクニックに行こうと思って、えーサンドイッチを作ったんですけれども、地図を見て、どこ行こうか相談しています

その（連体詞）間（あいだ）に、二人の飼っている犬が、二人がサンドイッチを入れた（いれた）バスケットの中に入ってしまった

二人はそれにまったく気付いていません

二人はバスケットを持って、爽やかな、高原に出掛けました

すると、バスケットの中から、犬が飛び出してきました

あっと思ったら、バスケットの中のサンドイッチも、そして一緒に入れて（いれて）いた林檎も、食べられてしまっていました

(JJJ47)

(62) では、「そして」は名詞である「サンドイッチ」と「りんご」をつなぐところで使用されているが、りんごには「一緒に入れていた」という修飾節がある。日本語記述文法研究会偏（2009）は、名詞修飾節が長い場合、「と」より「そして」を用いた方が聞き手・読み手の理解が容易になると指摘している。本調査で観察された名詞修飾節は特に長くないが、長くない場合でも、修飾節がある場合は「そして」が使用できることがわかった。

5.1.2 他の接続表現の使用

日本語母語話者の「そして」の使用を観察した結果から、「そして」は、「主な出来事」に導く時、つまり絵が変わる時に使用されている。ここでは、このような「主な出来事」に導く時に日本語母語話者は他にどのような接続表現を使用しているかを観察する。また、同じ絵の複数の出来事をつなぐ時に、どのような接続表現を使用しているかも見てみる。

まず、日本語母語話者は、ストーリーの「主な出来事」に導く時、つまり絵が変わる時に、以下のような接続表現を使用している。表 21 は、それぞれの絵が変わる時に最も多く使用されている表現を 2 位まで表している。記号については、「－」は接続表現が使用されていないことを意味する。なお、絵①のストーリーに相当する言い出し文の「朝、ケンとマリはサンドイッチを作りました」が省略され、絵②のストーリーから語られることもあるため、絵②の「犬がバスケットに入る」出来事と絵③の「ケンとマリが出かける」に導くところから観察することにする。

表 21 日本語母語話者の主な出来事に導く時の接続表現の使用

絵	1 位	2 位	ケンとマリ	犬	食べ物
②			地図を見る	<u>バスケットに入る</u>	-
③	－ (31 回)	で (5 回)	<u>出かける</u>	-	-
④	－ (14 回)	て形 (5 回)	バスケットを開ける	<u>飛び出る</u>	-
⑤	－ (27 回)	で (4 回)	バスケットを覗く	-	<u>食べられている</u>

表 21 を見ると、どの箇所も接続表現をほとんど使用しないことがわかった。以下、それぞれの箇所の最も多い 2 つの接続表現の使用の例を示す。

絵②から絵③の「時間／空間的な展開」が変わる時には、接続表現が用いられないことが最も多い。その例は以下のとおりである。

(63) (省略) そして、ケンとマリが、行く所を、えー地図で決めている時、飼っている犬が、ピョンとテーブルの上に飛び乗り、バスケットの中に入ってしまった

それには気づかずにケンとマリは手を繋いで、ピクニックに行きました (省略)

(JJJ16 (52) の一部を再掲)

(64) (省略) その間 (そのあいだ) に、えー犬の、犬が、それをあそれを見ていた犬が、バスケットの中に、こっそりと潜り込んでしまいました

それに気付かない二人は、山に行き、散歩をして、お昼ご飯にしようと思ったところ、おもあーおも、お昼ご飯にしようと思い、バスケットを開けた (あけた) ところ、そこから犬が飛び出してきました (省略) (JJJ31 (60) の一部を再掲)

しかし、これらの使用例を詳しく観察すると、接続表現が観察されなかったものの、修飾節表現が観察された。(63) と (64) では、「犬がバスケットに入る」出来事で絵②の語りが終わり、絵③に変わる時に、(63) では「ずに」のような副詞的な修飾表現、(64) では名詞修飾表現が使用されている。これらの修飾節表現は絵②の「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」に対して知らないことを表しながら、絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」に導かれている。

また、この箇所でも2番目に使用が多い表現は「で」であり、その例は以下のとおりである。

(65) そしてケン、とマリが、えーと地図、でどこに行くかを見ている時に、えーとケンとマリが飼っていると思われる犬が、えーとバケットの中に入ってしまった

でそれに気づかず、ケンとマリはピクニックに行きました (省略)

(JJJ28 (53) の一部を再掲)

(65) では、「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」出来事で絵②の語りが終わり、絵③に変わる時に、「で」が使用されており、絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」に導かれている。

絵③から絵④の「意外な展開」に変わる時には、接続表現が用いられないことが最も多い。その例は以下のとおりである。

(66) でもサンドイッチを入れていた籠の中に犬が入って、それに気付かないまんまえーとケンとマリは一緒にえーピクニックに出かけてしまいました

お昼時（どき）に、えーとバスケットからサンドイッチを取り出す時に、犬がバスケットから突然出てきたのでケンとマリはびっくりしてしまいました（省略）

（JJJ21（59）の一部を再掲）

（66）では、「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事で絵③の語りが終わり、絵④に変わる時に、続いて「周辺的な出来事」である「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事と、「主な出来事」である「犬が飛び出る」が順番に語られている。

また、この箇所でも2番目に使用が多い表現は「て形」であり、その例は以下のとおりである。

（67）（省略）それに気付かない二人は、山に行き、散歩をして、お昼ご飯にしようと思ったところ、おもあーおも、お昼ご飯にしようと思い、バスケットを開けた（あけた）ところ、そこから犬が飛び出してきました（省略）（JJJ31（60）の一部を再掲）

（67）では、「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事で絵③の語りが終わり、「て形」の使用によって、絵④の「周辺的な出来事」である「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事と「主な出来事」である「犬が飛び出る」出来事が導かれている。

絵④から絵⑤の「結末」に変わる時には、接続表現が用いられないことが最も多い。その例は以下のとおりである。

（68）（省略）そしてお昼が来て、ご飯を食べようと思ったところ、バスケットをあげると（開けると）ピョンと飼っている犬が出てきました

二人はとっても驚いて中を見てみると、なんと朝作ったサンドイッチがぜーんぶ食べられてしまいました（省略）（JJJ16（52）の一部を再掲）

（68）では、「主な出来事」である「犬が飛び出る」出来事で絵④の語りが終わり、絵⑤に変わる時に、続いて「周辺的な出来事」である「ケンとマリがバスケットを見る」出来事と「主な出来事」である「食べ物が食べられている」出来事が順番に語られている。

また、この箇所では2番目に使用が多い表現は「で」であり、その例は以下のとおりである。

(69) (省略) そして、ご飯を食べようとした時に、バケツを開けると、バケツの中から、犬が出てきました

でバケツの中のえーとサンドイッチは、犬に食べられていました (省略)

(JJJ28 (53) の一部を再掲)

(69) では、「主な出来事」である「犬が飛び出る」出来事で絵④の語りが終わり、絵⑤に変わる時に、「で」が使用されており、絵⑤の「主な出来事」である「食べ物が食べられている」出来事に導かれている。

次に、同じ絵にある複数の出来事をつなぐ時に、ある程度接続表現の使用の傾向が見られるものを取り上げ、観察することにする。

絵②においては、「周辺的な出来事」である「ケンとマリが地図を見る」出来事と「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」出来事が同時に起きている。この2つの出来事の同時性を表すために、日本語母語話者は主に次のとおり2つの方法を用いている。

1つ目は、「間 (に)」の使用である。この箇所での「間 (に)」の使用回数が14回であり、その例は以下のとおりである。

(70) 地図を見て、どこへ行こうかと話している間に、バスケットの中に、子犬が、入りました (省略)

(JJJ07 (56) の一部を再掲)

(70) では、「間 (に)」が「ケンとマリが地図を見る」出来事の後ろに付き、「犬がバスケットに入る」出来事が後続する。「(間) に」の使用によって、「ケンとマリが地図を見る」出来事と「犬がバスケットに入る」出来事が同時に起きていることがわかる。

2つ目は、「その間 (に)」の使用である。この箇所での「その間 (に)」の使用回数が6回であり、その例は以下のとおりである。

(71) (省略) えー、バスケットにサンドイッチを入れ（いれ）、どこに行こうか、地図を見ていました

その間（そのあいだ）に、えー犬の、犬が、それをあそれを見ていた犬が、バスケットの中に、こっそりと潜り込んでしまいました（省略）（JJJ31（60）の一部を再掲）

(71) では、「ケンとマリが地図を見る」出来事の語りの文が終わり、「犬がバスケットに入る」の前に「その間（に）」が使用されている。「その（間）に」の使用によって、「二人が地図を見る」出来事と「犬がバスケットに入る」出来事が同時に起きていることがわかる。

絵④においては、「主な出来事」である「犬が飛び出る」出来事の直前にきっかけとして「周辺的な出来事」である「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事が起きている。この「主な出来事」のきっかけを表すために、日本語母語話者は主に次のとおり 2 つの方法を用いている。

1 つ目は、「と」の使用である。この箇所での「と」の使用回数が 17 回であり、使用の例は以下のとおりである。

(72) (省略) そしてお昼が来て、ご飯を食べようと思ったところ、バスケットをあげと（開けると）ピョンと飼っている犬が出てきました（省略）

（JJJ16（52）の一部を再掲）

(72) では、「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事の後ろに「と」が付き、「犬が飛び出る」出来事が後続する。「と」の使用によって、「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事が「犬が飛び出る」出来事のきっかけであることがわかる。

2 つ目は、「ところ」の使用である。この箇所での「ところ」の使用回数が 7 回であり、使用の例は以下のとおりである。

(73) (省略) そして楽しく二人はピクニックに出掛けて行きましたが、えーようやくお昼の時間になり、えー、朝えー作っていったサンドイッチを、えー食べようと、えバスケットを開けたところ、何と（なんと）中から、えー飼っていた犬が飛び出してきて、

え残念なことにえ一朝マリとケンがえ一頑張って作ったえ一サンドイッチが、え一、全て食べられてしまいました (JJJ05 (54) の一部を再掲)

(73) では、「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事の後ろに「ところ」が付き、「犬が飛び出る」出来事が後続する。「ところ」の使用によって、「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事が「犬が飛び出る」出来事のきっかけであることがわかる。

絵⑤においては、「主な出来事」である「食べ物が食べられている」出来事の直前に、きっかけとして「周辺的な出来事」である「ケンとマリがバスケットの中を覗く」出来事が起きている。この「主な出来事」のきっかけを表すために、日本語母語話者は主に次のとおり 2 つの方法を用いている。

1 つ目は、「と」の使用である。この箇所での「と」の使用回数が 16 回であり、使用の例は以下のとおりである。

(74) (省略) 二人はとっても驚いて中を見てみると、なんと朝作ったサンドイッチがゼーんぶ食べられてしまいました (省略) (JJJ16 (52) の一部を再掲)

(74) では、「ケンとマリがバスケットの中を覗く」出来事の後ろに「と」が付き、「食べ物が食べられている」出来事が後続する。「と」の使用によって、「ケンとマリがバスケットの中を覗く」出来事が「食べ物が食べられている」出来事のきっかけであることがわかる。

2 つ目は、「ところ」の使用である。この箇所での「ところ」の使用回数が 2 回であり、使用の例は以下のとおりである。

(75) (省略) え一犬は、楽しそうに外にで、出てきましたけれども一え一バスケットの中を確認したところ、え一サンドイッチーなどがずべて (すべて)、食べられてしまいまし、すば食べられて、おりました (省略) (JJJ04)

(75) では、「ケンとマリがバスケットの中を覗く」出来事の後ろに「と」が付き、「食べ物が食べられている」出来事が後続する。「ところ」の使用によって、「ケンとマ

リがバスケットの中を覗く」出来事が「食べ物が食べられている」出来事のきっかけであることがわかる。

5.1.3 ストーリーテリングにおける「そして」と他の接続表現の使用の特徴

これまでストーリーテリングにおける日本語母語話者の「そして」と他の接続表現の使用を観察してきたが、主な使用傾向は以下の表にまとめることができる。なお、主な出来事は下線を付け、接続表現は斜体にして表記する。また、ここでは、「そして」がストーリーを語る際に、何回でも使用できるというわけではなく、絵が変わるところで「そして」が使用できることを意味する。

表 22 日本語母語話者のストーリーテリングにおける接続表現の使用

絵		ケンとマリ		犬	食べ物
①		<u>サンドイッチを作る</u>		-	-
②	そして	地図を見る	<i>その間 (に)、間 (に)</i>	<u>バスケット に入る</u>	-
③	そして	知らずに、知らないま <u>ま出かける</u>		-	-
④	そして	バスケットを開ける	<i>と、ところ</i>	<u>飛び出る</u>	-
⑤	そして	バスケットの中を覗く	<i>と、ところ</i>	-	<u>食べられている</u>

表 22 からわかるように、「そして」は前の絵の語りが終わって絵②、絵③、絵④、絵⑤に変わるところで、「そして」が使用されている。絵が変わる時、つまり、次の絵の「主な出来事」に導く時の使用がストーリーテリングにおける「そして」の使用の特徴だと言える。特に「時間／空間的な展開」（絵③）から「意外な展開」（絵④）に変わる時と、「意外な展開」（絵④）から「結末」（絵⑤）に変わる時の使用が最も多く、それぞれ 4 回である。絵が変わる時に「そして」が使用されるということは、「そして」は、先行部の語りを終えて、絵が変わる、つまり「そして」の使用の後にストーリーが展開することを宣言するマーカーのようなものということである。

この「「主な出来事」に導く」時に使用される「そして」の前後の出来事は必ずしも「主な出来事」であるとは限らない。これまで観察してきた日本語母語話者の使用の例から、日本語母語話者は主に「ケンとマリ」の視点で「そして」で「ケンとマリ」の行動をつないでいるが、下線の出来事を見ると、ストーリーを展開させるために重要な「主な出

来事」として「犬」が起こした「バスケットに入る」出来事もある。しかし、「そして」の前後の出来事が「主な出来事」ではない場合でも、その出来事その絵の「主な出来事」とは何らかの関係性がある。具体的に言えば、絵②の「周辺的な出来事」である「ケンとマリが地図を見る」出来事が「主な出来事」である「犬がバスケットに入った」出来事と同時に起きている。また、絵④の「周辺的な出来事」である「バスケットを開ける」出来事が「主な出来事」である「犬が飛び出る」出来事のきっかけである。同様に、絵⑤の「周辺的な出来事」である「ケンとマリがバスケットを覗く」出来事が「主な出来事」である「食べ物が食べられている」出来事のきっかけである。「そして」が「意外な展開」や「結末」の直接なきっかけをつなぐために使用されていないことは、話の山場において「そして」を使用することはオチを導くことはならないと指摘した長谷川（2009）と一致している。長谷川（2019）が述べたオチは、本調査のストーリーテリングの「意外な展開」や「結末」に当てはまる。

また、表 22 に記述されていないが、名詞修飾節がある場合の名詞を並列的につなぐために「そして」が使用されている。

他の接続表現の使用の特徴に関して、表 22 で示した絵③に変わる時を見ると、接続表現を使用せずに、「～ずに」や「～まま」のように副詞的な修飾節や名詞修飾節を使用することがある。日本語母語話者がストーリーテリングにおいて名詞修飾節を多く使用しているという結果は増田（2000）の結果と一致しているが、本研究では、名詞修飾節のみではなく、副詞的な修飾節も観察された。さらに、絵④と絵⑤に変わる時の接続表現の使用を見ると、「意外な展開」や「結末」の直接なきっかけをつなぐ時には「と」の使用が多く観察された。I-JAS の同ストーリーテリングの絵④の「意外な展開」のきっかけをつなぐ場面の接続表現を調査した小口（2017）も、日本語母語話者は「と」や「すると」を使用していることを報告している。小口（2017）では I-JAS の日本語母語話者のデータを 15 人分しか対象にしなかったのだが、本調査のように 50 人分を対象にした場合も、ここでは「と」の使用が多い。また、本調査では、絵⑤の「結末」のきっかけを表す時にも「と」の使用が多く観察された。

5.2 対話における使用

第 4 章で述べたように、対話では、日本語母語話者である I-JAS 調査実施者と被調査者である日本語母語話者あるいはタイ人日本語学習者による自然な会話がなされた。対話は

ストーリーテリングと異なり、事前にこれから語る内容の構成を決めることができないので、あらかじめ設定された話題の一つである「昨日の出来事」から展開される場合も多い。本研究で対象にした話題はウォーミングアップの時に実施された話題「昨日の出来事」である。本節では、このことも考慮しながら、日本語母語話者の「そして」と他の接続表現の使用を観察する。

5.2.1 「そして」の使用

ここでは、日本語母語話者の対話における「そして」の使用回数と使用人数を示してから、日本語母語話者が「そして」を使用している箇所を述べる。

日本語母語話者の対話における「そして」の使用回数は 6 回であり、使用人数に関しては、50 人中、3 人が使用している。中には、3 回使用している者もいる。以下、被調査者の「そして」の使用を示してから、I-JAS 調査者である日本語母語話者の「そして」に対する反応についても観察する。なぜなら 2 人以上から成り立つ対話の場合、対話相手の「そして」に対する反応からも「そして」の用法がより詳しく記述できると考えるためである。

まず、被調査者の「そして」の使用に関して、日本語母語話者は、以下のように、「重みのある出来事」同士をつなぐところで「そして」を使用している。

(76) 1 C じゃあ今度昨日の話をちょっと伺いたいんですけれども、〈はい〉JJさんは昨日は一日（いちにち）何（なに）をなさってたんですか

1 K えー昨日は、こちらの、ま勤めている、えー、まあ研究機関に、えー、おりました、そいちんち（一日）のスケジュールをお話すればよろしいですか

2 C あ、そうですね

2 K そうですね、朝あの一、ま四時に起きて〈はい〉いつも実はあの四時に起きる習慣がありまして

3 C あ、早い、はい

3 K はい、年寄りって言われますけど

4 C {笑}

4 K あの朝早いんです

5 C はい、はい

5 K それで、あの大体散歩とかしたり、あの洗濯物、まあ、あの干したりとか、え、まあ洗濯して干したりとかして、〈はい〉で朝食をとって〈はい〉、ええとそうですね、それで九時ぐらいにはあのこちらに来るようにしてます

6 C はい

6 K でその後（そのあと）あの、えー会議が、まあこの（連体詞）日はちょうど昨日はちょうど会議があったので〈はい〉えー、えーとお昼まで十二時、までですね会議をしてまして〈はい、はい〉、①そしてその後（そのあと）あの実は、ええと、月に二回ぐらいあの一、定期的なあ、研究会とゆうのやっけてまして〈あ、はい〉そのあ、あの一、まあ勉強会ですね、〈はい〉いわゆる勉強会でそこであの、だ私自身がその講師としてあの〈はい〉、ええと担当するまあ授業があったのでそれをあのこちらでやりました

7 C へー

7 K でそれが大体終わったのが二時半で〈はい〉、その後（そのあと）まあ研究関係の〈はい〉えー打ち合わせをして結局、そご仕事とゆうよりもその研究とか〈はい〉あの勉強会でほとんどいちんち（一日）がえー終わってしまいました

8 C へー

8 K ②そして、夕方、六時ぐらいにですね、えー、研究室の一つの部屋を使って〈はい〉あの急に飲み会が始まりました

9 C あー素敵ですね {笑}

9 K {笑} 気が付けばあの四人ぐらい人がまあ増えていまして〈へー〉、あの一、③そして十一時ぐらいにですねえー、まあそろそろ片付けようかとゆうことでえーと帰宅しました

10 C そうなんですねじゃ、結構夜寝るのも遅いんですか？ (JJJ05)

(76) では、「そして」は、継起的な「時間」を表すために使用されている。「そして」の前後の出来事を内容的に観察すると、6K の①「そして」の前後の出来事が「会議をする」出来事と「授業をする」出来事であり、8K の②「そして」の前後の出来事が「打ち合わせをする」出来事と「飲み会をする」出来事である。いずれもスケジュール帳などに書かれるような「重みのある出来事」である。これらの「そして」の使用は大きいターンにわたり、途中ではその「重みのある出来事」を説明する文も見られた。例えば、

「授業をする」出来事を説明するのに「あの実は、ええと、月に二回ぐらいいの、定期的なの、研究会とゆうのやっけていまして〈あ、はい〉そのあの、あの一、まあ勉強会ですね、〈はい〉いわゆる勉強会でそこであの、だ私自身がその講師としてあの〈はい〉、ええと担当するまあ授業があったのでそれをあのこちらでやりました」のような長い文が使用されている。

また、この例からは、「帰宅する」出来事の前に現れることを根拠に、最後の「重みのある出来事」をつなぐ時に「そして」の使用も見られた。9K の③「そして」の先行部の出来事が「飲み会をする」出来事であり、その日の最後の予定である。

この例では「そして」が3回も使用されているが、森山（2006）や日本語記述文法研究会編（2009）によると「そして」は文が連なるときに繰り返して用いられることはあまりない。しかし、この例では複数のターンにわたって「重みのある出来事」をつなぐために使用されているため、繰り返し使用されたとしても、それほど不自然な印象を与えることはないだろう。

最後の「重みのある出来事」をつなぐところでの使用は以下の例にも見られた。

(77) 1 C そうですね走る量が〈はい〉大変ですねそうですかわかりました、あの昨日は一日（いちにち）どんな一日（いちにち）でしたか？

1 K 昨日は一日（いちにち）そうですね雨が降ってまして〈ええ〉あまり寒かったですけど〈んんー〉、ほんとに

2 C うーん

2 K そうですね、まあ仕事をして〈はい〉そして、帰ってきて〈はい〉もうもう早めに〈はい〉寝ました

3 C {笑} ああそうだったんですね (JJJ35)

(77) の 2K では、日本語母語話者は、「仕事をする」出来事と「帰る」出来事の継起的な関係を表すために「そして」を使用している。「仕事をする」出来事は、一日の中で「重みのある出来事」である。また、「帰る」出来事を根拠に、「仕事をする」出来事がその日の最後の「重みのある出来事」であることがわかる。

重みのある出来事に関わる使用の他に、日本語母語話者は、以下のように、先行部の出来事を踏まえて起きた出来事をつなぐところで「そして」を使用している。この場合は、後続部の出来事が「重みのある出来事」である場合がある。

(78) 1 C JJさんは昨日は〈はい〉何〈なに〉をなさってたんですか？

1 K はい、えー昨日は、えー自宅で仕事をしていたんですが〈はい〉、あの夜に予定がありまして、えーともう今から、二十年ぐらい前に働いていた、えーところ、あ、とはたらい、一緒に働いていた人達と〈んー〉、ま久しぶりに〈んー〉、あの集まる〈んー〉、えーとゆう約束があったので〈んー〉、ま夜は外出をする、えーしました

2 C んー

2 K でただ、その（連体詞）前に、えー昨日は実は雪がとて降るとゆう〈んーんーんー〉話があり〈んー〉、えー今日、あの一朝、今日の朝にはきっと積もっているだろうと〈んーんーんー〉、ゆうことを天気予報が盛んに

3 C んーんーんーんー

3 K ゆっていましたので、私はスノーブーツを持って〈んー〉、いませんでしたので〈んー〉、えーもうこれは、いよいよスノーブーツを買わないと、えーちょっと外を歩くのが危険になるかもしれないと思ったので〈んー〉、そのーえー食事の前に、えっとスノーブーツを買いに行きました

4 C へー

4 K はい、①そしてスノーブーツを、ま買ったスノーブーツをその（連体詞）場（ば）で、「これを履いて帰ります」とゆって〈んーんーんーんーんー〉、履いて〈んー〉、食事に行って〈んー〉、でも雪は止んでしましまして

5 C そうですね

5 K はい、雨になってしましまして

6 C あーそうですね

6 K はい、それで一実は一件目のお店で私はその（連体詞）、自分が履いていた靴を入れた〈んーんーんー〉、あの一入れてもらったその（連体詞）お店で買った袋、ですね〈んーんー〉、それを一件目のお店に置いてきてしましまして

7 C あら、はい

7 K でま二件目一を出たところで気付いたので〈はいはい〉、一件目に戻って〈はい〉、あの無事に〈はい〉家に持って帰りましたけれども

8 C はー

8 K はい、なんかそんな、ちょっとお天気に戻されました

9 C なるほどー〈はい〉、でもスノーブーツって〈はい〉私は持ってないんですけど〈はい、はい〉、や、やっぱり違うんですか？

9 K えっとーあの一、どうでしょうねその、まず、えー雪、んーと、ただの雨とちが、う、ん、レインブーツと違うのは〈んーんー〉、暖かいとゆうこと〈あ、へー〉、のようです

10 C ふーん

10 K それから、なぜ私があの一、スノーブーツを買おうと思ったかとうと、雪とゆうのは、雪のその濡れるとゆうこと以外に、滑る〈はいはい〉、とゆうことがあるので

11 C はい

11 K やはり底の、あの形が大事だと思ひまして、それで一底がしっかりしている物と、それからあの濡れても大丈夫な物〈ふーん〉、防水とゆう、でこの（連体詞）二つを〈んー〉、あのその（連体詞）備えている物を〈んー〉持っていなかったの

12 C んーんーんーんー

12 K で去年ちょっとあの、底が一結構ゴツゴツしているから〈んーんー〉大丈夫だろうと思って履いていたら〈んー〉、それは防水ではなかったの〈んーんー〉、表が濡れてしまったってゆう〈んーんーんーんー〉ことがあり〈んー〉、②そして、長、靴とゆうかまあレインブーツ、は持ってるんですけれども〈うん〉、レインブーツは寒いんですね

13 C ああー

13 K でなんかその（連体詞）、経験、から

14 C なるほどー (JJJ47)

(78) では、4K の①「そして」は「スノーブーツを買いに行く」出来事と「そのスノーブーツを履いて食事に行く」出来事の継起的な「時間」を表すために使用されている。出来事を内容的に見ると、後続部の出来事は先行部の出来事を踏まえて起きた出来事であ

る。つまり、「スノーブーツを買いに行く」出来事を踏まえて、「新しいスノーブーツがある」状態になり、さらに「それを履いて食事に行く」出来事ができたということである。「食事に行く」出来事はその日の「重みのある出来事」である。

さらにこの例からは、「そして」の「並列」用法も見られた。12K の②「そして」は本題の「昨日の出来事」から展開された「去年持っていた防水ではないブーツが濡れてしまうことがある」出来事と「レインブーツが寒い」出来事について語られているが、ここでの「そして」は並列関係を表すために使用されている。「レインブーツ」に関しては、「靴というかまあレインブーツ、は持ってるんですけども」という長い文で説明されている。

「そして」を含む文の前後の調査実施者が発した文を見ると、例えば「そして」の直前には「へー」のような感動詞の使用が見られる。また、「そして」文に対する評価が示されることがある。その例は以下のとおりである。

(79) (省略) 8 C へー

8 K そして、夕方、六時ぐらいにですね、えー、研究室の一つの部屋を使って
〈はい〉あの急に飲み会が始まりまして

9 C あー素敵ですね {笑} (省略) (JJJ05 (76) の一部を再掲)

(79) では、調査実施者が「飲み会をする」出来事に対して「素敵ですね」という評価を示している。「そして」が使用されることによって、その出来事が「重みのある出来事」が明らかになり、評価もできるようになる。

5.2.2 他の接続表現の使用

対話は、事前にこれから語る内容の構成を決めることができないので、「昨日の出来事」から展開される場合も多く、被調査者によって産出される対話量が非常に多い場合がある。このことから、構成に沿って接続表現の使用を観察することは困難である。このような対話における他の表現の使用を観察するためには、ここでは、まず、I-JAS の第 1 次データである 15 人分のデータを用いて、日本語母語話者が「そして」の他にどのような接続表現を使用しているかを観察する。次に、「重みのある出来事」に関わりがあるところ、

「日常的な出来事」同士をつなぐところでは、どのような接続表現を使用しているかを観察する。なお、「重みのある出来事」に関わりがある箇所については、「重みのある出来事」同士をつなぐ箇所と最後の「重みのある出来事」をつなぐところを含む。

I-JAS の第一次データから、日本語母語話者が以下のように接続表現を使用していることが観察された。

表 23 日本語母語話者の接続表現の使用（第一次データ）

順	接続表現	回数
1	て形	45
2	ので	27
3	けど	15
4	で（それで）	10
5	で（名・な形）	8
6	たり	5
7	連用形	各 4
	たら	
8	し	各 3
	けれども	
	でも	
9	んで（それで）	各 2
	その後	
	んで（ので）	
	が	
10	くて	各 1
	ながら	
	けども	
	前	
	から	
	なので	
	そして	

表 23 から、日本語母語話者が多く使用している接続表現が「て形」「ので」「けど」であることがわかった。また、接続表現の中で、接続助詞を多く使用しているのに対し、接続詞をさほど使用していないことも明らかになった。「そして」については、第一次データからは 1 回しか観察されず、「それから」の使用は全く観察されなかった。日本語母語話者が最も多く使用している接続表現の 2 つである「て形」「ので」が含まれた発話の例は以下のとおりである。

(80) 1 C はい

1 K まあ、えっとまあ朝①起きて、〈はい〉ま研究室に、行き〈はい〉ま午前
は、なんか論文紹介、の日だった①ので、〈はい〉*つの話を聞き、〈はい〉ま昼から
はえーっと自分の机で作業を、②して、でゆう夜、あの、僕の同期、の家がその（連体
詞）大学近く、な②ので、なんかご飯、食べようかって③言って、ちょ友達、友達って
いうか研究室で仲いい子数人と、軽い、飲み会みたいなことをしていました

2 C ほー、へー、あじゃもう基本的に、学校にいたっていう (JJJ03)

(80) では、①「て形」は「日常的な出来事」である「朝起きる」出来事と「重みのあ
る出来事」である「研究室に行く」の継起的な「時間」を表すために使用されている。②
「て形」は「重みのある出来事」である「机で作業をする」出来事と、同様に「重みのあ
る出来事」である「飲み会をする」出来事の継起的な「時間」を表すために使用されてい
る。「て形」は前後の出来事が「重みのある出来事」かどうかに関わらず、幅広く使用で
きることがわかる。また、「昨日の出来事」を語る際、出来事を単に並べるのではなく、
その出来事の補足説明をすることもある。(80) では、その出来事をする理由の説明を
するために①と②「ので」と③「て形」が使用されている。

他に、「日常的な出来事」同士をつなぐところの接続表現の使用としては、日本語母語
話者は、「～たり、～たり」を使用することがある。その例は以下のとおりである。

(81) 5 K それで、あの大体散歩とかしたり、あの洗濯物、まあ、あの干したりとか、
え、まあ洗濯して干したりとかして、〈はい〉で朝食をとって〈はい〉、ええとそうで
すね、それで九時ぐらいにはあのこちらに来るようにしてます

(JJJ05 (76) の一部を再掲)

(81) では、5K に現れる「朝食をとる」「散歩をする」「洗濯する」のような日常的
な出来事は「たり」でつないでいることが観察された。

5.2.3 対話における「そして」と他の接続表現の使用の特徴

これまで対話における日本語母語話者の「そして」と他の接続表現の使用を観察してきた。対話はストーリーテリングと異なり、事前にこれから語る内容の構成を決めることができないので、「昨日の出来事」から展開される場合も多い。「昨日の出来事」について語られる発話には「重みのある出来事」「重みのない日常的な出来事」「昨日の出来事から発展される出来事」が含まれる。「そして」の使用に関しては、以下のようにまとめることができる。

日本語母語話者は、対話において、継起的な「時間」を表すために、「そして」を使用しているが、その日の「重みのある出来事」に関わりがあるところと先行部の出来事を踏まえて起きた出来事をつなぐところでの使用のような限定がある。また、対話では「昨日の出来事」という話題から展開されることも考えられる。具体的に、「昨日の出来事」の語りから産出される言葉の説明などがある。「そして」は、その言葉を説明するための2つの要素の「並列」の関係を表すために使用されている。このような使用が対話における「そして」の特徴だと言える。

また、対話における「そして」の使用のもう一つの特徴として、「重みのある出来事」に関わるところで使用されていることが対話がスムーズに進むような役割も果たしている。被調査者の日本語母語話者は「そして」の用法を適切に使用し、「重みのある出来事」を結ぶところで使用しているため、出来事がまとまり、その発話を聞いている同じ日本語母語話者である調査実施者が発話に対して評価を示すことができる。

他の接続表現の使用の特徴として、日本語母語話者が最も使用している接続表現は「て形」であり、様々な箇所で使用している。「て形」は、「重みのある出来事」かどうかに関わらずどのようなところでも使用できる。日本語記述文法研究会編（2008）は、「て形」はそれ自体が持つ意味が希薄であり、その意味の解釈は、前後の事態や文脈に依存する性質を持つために、様々な用法を持つと指摘している。このことから、「重みのある出来事」をつなぐところでも、そうでない出来事をつなぐところでも使用できると考えられる。他には、「日常的な出来事」をつなぐ場合は「たり」などを使用している。日本語記述文法研究会編（2008）は、「たり」は複数の事態を例示的に並べて提示するものであり、並べられている事態は全体の一部が例として提示されたものであると述べている。「日常的な出来事」を語る場合は、すべての出来事を語る必要がなく、「日常的出来事」の例を提示する際に「たり」は用いられると考えられる。

5.3 タスクによる「そして」の使用の相違点

ここでは、「そして」の用法が記述されている先行研究と比較しながら、本研究で確認した日本語母語話者の「そして」の使用を比較してから、ストーリーテリングと対話における使用の相違点を考える。まず、各タスクにおける日本語母語話者の「そして」の使用は以下のようにまとめることができる。表 24 は日本語母語話者がそれぞれのタスクで使っている「そして」の用法とその詳細を表している。対話については、調査実施者の反応も記述している。

表 24 ストーリーテリングと対話における日本語母語話者の「そして」の使用

タスク	用法	詳細
ストーリーテリング	「時間」	ストーリーの「主な出来事」 特に「意外な展開」や「結末」に導く箇所
	「並列」	名詞修飾節がある場合
対話	「時間」	・「重みのある出来事」に関わる箇所 ・先行部の出来事を踏まえた出来事を結ぶ箇所
	「並列」	・話題から展開された出来事を説明する箇所
	調査実施者の反応 ・前文に感動詞が使用されている ・後文に評価が示されている	

表 24 のそれぞれのタスクで使用されている用法を見ると、どのタスクにおいても、「そして」の「時間」と「並列」用法が観察された。「時間」と「並列」用法は、先行研究（石黒 2000、日本語記述文法研究会編 2009 など）でも記述されている。また、「そして」と、ストーリーテリングの「主な出来事」または対話の「重みのある出来事」との関係は、「「そして」が「決定的な事態」を表すものとして使われる傾向があり、「そして」の直後の情報が重くなる」（石黒 2000、石黒 2017）という指摘と一致している部分がある。ストーリーテリングでは、「そして」の使用がストーリーの「主な出来事」に導いているが、「そして」の後続部の出来事が「主な出来事」であるとは限らない。また、対話では、直後の情報のみではなく、先行部の情報も重いという場合がある。具体的には、同じ発話で「そして」は①「会議をする」出来事と「授業をする」出来事、②「打ち合わせをする」出来事と「飲み会をする」出来事、③「飲み会をする」出来事と「帰宅する」出来事という 3 回の接続の箇所で使用されている。「そして」の直後の情報のみが重くなるという指摘に違いがないなら、②の後続部の「飲み会をする」が③の先行部の出来事にな

れない。つまり、先行部の「会議をする」出来事、「打ち合わせをする」出来事、「飲み会をする」出来事も「重みのある出来事」である。最後の「重みのある出来事」をつなぐ場合には、「そして」の後続部の出来事である「帰宅する」出来事が談話を展開させるための「重い情報」である。しかし、一日の出来事の重みの観点で考える場合、先行部のその日の最後の予定が「重みのある出来事」である。

このように、本調査のデータから観察された「そして」の用法は先行研究に一致しているが、「時間」と「並列」用法や、「重い情報」の詳細を見ると、それぞれのタスクによって異なっており、この相違点はタスクの内容と談話の構成によるものである。

ストーリーテリングでは、「時間」用法は、「主な出来事」をつなぐところで観察された。ストーリーテリングには絵があり、それぞれの絵にはストーリーを展開させるための「主な出来事」がある。このような「主な出来事」は「重い情報」であり、「そして」はそれに導くために使用されている。一方、「並列」用法は名詞修飾がある場合、それをつなぐところで観察された。ストーリーでは、登場人物や物を描写するために修飾節が用いられることがあるため、このような時に観察された。

対話では、「時間」用法は、「重みのある出来事」と「先行部の出来事を踏まえた出来事」を結ぶ時に使用されている。「重みのある出来事」に関しては、一日の生活の中には「日常的な出来事」があるのに対して仕事などのような予定がある。このような予定は「重い情報」であり、「そして」はそれに関わりがある出来事を結ぶために使用されている。一方、「並列」用法は「昨日の出来事」話題から展開された発話内容をつなぐ時に使用されている。過去について語る場合、出てきた言葉の説明を加えることもあるため、このようなところで観察された。

このように、日本語母語話者は、それぞれのタスクの構成がわかり、その構成を考慮しながら「時間」と「並列」を表すために「そして」を使用していることがわかった。また、「重い情報」に関しては、日本語母語話者は、それぞれのタスクにおける「重い情報」がどの出来事に相当するのかということがわかり、それぞれの「重い情報」をつなぐために「そして」を使用していることがわかった。「重い情報」がわかるということは、日本語母語話者は発話する際、どの出来事が「重い情報」であるか、どの出来事が「重い情報」ではないかを区別していることがうかがえる。

さらに、日本語母語話者には「そして」が「重い情報」に関わりがあるところで使用されていることについて共通理解がある。表 24 の調査実施者の「そして」に対する反応を

見ると、調査実施者が、「そして」が含まれている文に対して、評価が示せることがわかった。調査実施者が評価が示せるのは、日本語母語話者には「そして」が「重みのある出来事」に関わりがあるところで使用されていることについて共通理解があるためだと考えられる。対話で被調査者である日本語母語話者は「そして」の用法を適切に使用し、「重みのある出来事」を結ぶところで使用している。その発話を聞いている同じ日本語母語話者である調査実施者がその出来事が「重みのある出来事」であることがわかり、発話に対する評価を示すことができる。

以上、第5章では、日本語母語話者の「そして」の使用を確認した。それぞれのタスクにおいて確認した使用を参考に「そして」の導入方法を考えれば、タイ人日本語学習者は、日本語母語話者が使用している基準で、ジャンルに合わせた正しい用法で「そして」が使用できると考える。第6章では、確認した日本語母語話者の使用と比較しながら、各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認する。

第6章 各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用

第6章では、第4章で述べた課題②「各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認する」について論じる。各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認するために、日本語母語話者のそれを確認した際に使用したストーリーテリングと対話のデータを用いて、使用の観察を行う。まず、6.1では、ストーリーテリングにおける各レベルの「そして」の使用を観察する。次に、6.2では、対話における各レベルの「そして」の使用を観察する。最後に、6.3では、レベルに伴う使用の変化とタスクによる変容について考える。

なお、第5章で日本語母語話者の「そして」の使用を確認した結果、日本語母語話者はストーリーの「主な出来事」や一日の中の「重みのある出来事」をつなぐところで「そして」を使用していることがわかった。本章では、このような日本語母語話者の使用も取り上げながら、タイ人日本語学習者の使用を分析する。

6.1 ストーリーテリングにおける「そして」の使用

ここでは、ストーリーテリングにおける各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用回数および使用人数、誤用、多用、フィラーとしての使用、日本語母語話者が使用しているところでの使用について述べる。

6.1.1 レベル別の使用回数および使用人数

使用回数に関しては、タイ人日本語学習者は46回使用しており、この回数は、ストーリーテリングで13回「そして」を使用している日本語母語話者のその約4倍になっている。また、使用人数に関しては、タイ人日本語学習者は50人中、25人が使用している。

「そして」を使用する時は、一つの発話に1回～4回使用している。各レベルの使用回数、使用人数、1人当たりの使用回数は以下のとおりである。なお、1人当たりの使用回数は、「そして」を使用した人数からではなく、そのレベルの全学習者の人数から計算されたものである。

表 25 ストーリーリングにおける各レベルの使用回数と使用人数

レベル	SPOT 得点	レベルの 人数	「そして」 使用回数	「そして」 使用人数	1人当たりの 使用回数
初級	49-55	6	7	4	1.2
中級Ⅰ	56-63	10	7	6	0.7
中級Ⅱ	64-71	21	27	11	1.3
中級Ⅲ	72-80	10	4	3	0.4
上級	81-90	3	1	1	0.3
合計		50	46	25	1.1

表 25 を見ると、初級レベルでは、使用回数が 7 回で、使用人数が 4 人であり、中級Ⅱレベルでは使用回数と使用人数が増え、使用回数が 27 回で、使用人数が 11 人である。一方、中級Ⅲレベルから使用回数と使用人数が減り、上級レベルでの使用回数が最も少なく、1 回のみであり、使用人数は 1 人である。

6.1.2 レベル別の誤用

各レベルのストーリーテリングにおける「そして」の誤用と正用率は以下のとおりである。以下の表では、まず、正用した回数を示し、接続表現が必要ではないところで「そして」が使用されている誤用は「付加」として表記している。また、その接続の箇所では「そして」より適切な接続表現がある場合の誤用はその接続表現を示す。例えば、「でも」という表記は、その接続の箇所では、「そして」より「でも」のが適切であることを意味する。最後に、各レベルの使用回数の合計を示してから、正用率を計算する。

表 26 ストーリーテリングにおける「そして」の誤用

レベル	SPOT 得点	正用	付加	でも	しかも	すると	だから	そこで	それで	合計	正用 率
初級	49-55	2	3	1	1	0	0	0	0	7	28.5
中級Ⅰ	56-63	3	4	0	0	0	0	0	0	7	42.9
中級Ⅱ	64-71	10	6	1	2	3	1	1	3	27	37.0
中級Ⅲ	72-80	3	1	0	0	0	0	0	0	4	75.0
上級	81-90	1	0	0	0	0	0	0	0	1	100.0
合計		19	14	2	3	3	1	1	3	46	41.3

表 26 を見ると、タイ人日本語学習者は初級レベルから中級Ⅲレベルに上がるにつれ「そして」の正用率が 28.5%から 42.9%に上がり、中級の半ば頃には、使用数が多くなっ

たせいか、正用率が 42.9%から 37.0%へ一旦下がる。その後、中級Ⅲと上級レベルに上がるにしたいが、再び正用率が上がるのがわかった。中級Ⅲレベルでは、正用率が 75%で、上級学習者は 100%正しく使用できている。誤用の種類に関しても、中級Ⅱレベルを中心に、誤用の種類が多いが、中級Ⅲレベルでは、接続表現が不要な場合の誤用しかない。以下、それぞれのレベルの誤用の例を示す。

初級学習者は接続表現が不要な場合と、「でも」と「しかも」がより適切な場合に「そして」を使用している。その使用の例は以下のとおりである。

(82) あーケン、ケンとマリはあー地図を、読ん、でいたところある犬、はバスケットに入って、入りまし入りました

あー①そして→でも、あーケンとマリは、し知ってい知りません

ケンとマリは一緒に、あーピクニック（ピクニック）を、ピッピクニック（ピクニック）、に一行きました

あーバスケットを、開けると、あー犬は、飛び、飛び出しました

そ②そして→正用、逃げてしまいました

あー、二人（ふたり）は、バスケット、を見ると、バスケットの中、を見ると、あーあの一（連体詞）犬は、食べ物食べてしまいました (TTH24 SPOT54)

(82) では、①「そして」の後続部の「ケンとマリが知らない」出来事が先行部の絵②の「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」出来事に反する内容になっているため、「でも」の方が適切である。②「そして」では、「犬が飛び出る」出来事と「犬が逃げる」出来事は継起的な「時間」の関係を持っているため「時間」を表すために「そして」が使用できる。

(83) はい、えっと、その（連体詞）間（あいだ）にえっと、犬をなんか、見ています
い、見ていました

はい、①そして→付加、えっと、ケンとマリ、マリがじす（地図）をえっと、読んで
いるうちに、なんか犬はえっと、こっそ、こっそり、えっと、バスケットに入っていました

えっと、それから、ケンとマリ、え、ケンとマリは、えっと、公園と一緒に、行きました

②そして→付加、えっと、ケンはバスケットを、なんか、あけ、んー、開けると、犬、犬は、えっとー、みす、見つかりました

マリはえっと、大変びっくりしました

はい、えっと、③そして→しかも犬はせん、えっとー、バスケットにある物をせんぶ（全部）、食べました (TTH31 SPOT55)

(83) では、①「そして」では前文の「ケンとマリがサンドイッチを作る」出来事が省略されているため、「ケンとマリが地図を見る」出来事との継起的な「時間」の関係は読み取りにくい。「犬」の視点で絵①の「周辺的な出来事」である「犬が食べ物を見る」出来事と絵②の「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」出来事をつなぐために「そして」が使用できると考えられるが、「犬をなんか見ている」のような「を」の誤用によって、「犬」が目的語になっている。ここでは、後続部が時間に沿って語られているため、接続表現がなくても、後続部が先行部の後に起きていることがわかる。②「そして」では、先行部の絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事の主語が「ケンとマリ」であるが、後続部の絵④の「周辺的な出来事」である「バスケットを開ける」出来事の主語は「ケン」のみになっているため、継起的な「時間」の関係は読み取りにくい。ここでも、後続部が時間に沿って語られているため、接続表現がなくても、後続部が先行部の後に起きていることがわかる。③「そして」の先行部の出来事は「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事であるが、「そして」の後続部の出来事は「犬が食べ物を食べる」出来事であり、主語が異なっているため、この2つ文は継起的な「時間」の関係になっていない。ここでは、発話の追加として使用できる「しかも」の方が適切である。

(84) はい、えっと、ケンと、マリは一、えっとー、あ、今日のー、朝、ケンとマリは、ピクニック（ピクニック）へ行きますちゅ

ん、あー、でもー、えーと、どこへ行くかー、なー、わかりませんが、じず（地図）を、見ます

でも、ケン一、と、マーリ、の一、犬一が、一緒に行きたいです、が、ぴっ、あ一、ばくすけっと（バスケット）、に、い、に、ん、行きますあえ一っと、に、ぴくに、バスケット、に、ピクニック、あえ一っと、バスケットに、入ります

三は一、あーケンとマリは、え一と、ピクニック一、で、や一ま

今日は一、え一と、いいへん、いいてんぎん（天気）が一、あるんなので（あるので）、マーリーと、ケンは一、え一っと、幸せです

そして→正用一、え一っと、こ、公園、に、着いた、後（あと）で、バスケット、を、え、ん一、いん一、を一、バスケットを、ぬって一、え一と、犬、を、で一ます

ふっ、たり（二人）は一、ばすけと（バスケット）を、みて（見て）一、全部一の、より（料理）は一、犬、犬、犬に、全部の、料理、を、食べられてしまいました

（TTH32 SPOT55）

（84）では、絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事と絵④の「周辺的な出来事」である「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事の継起的な「時間」を表すために「そして」を正しく使用できている。「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事がきっかけとなって「主な出来事」である「犬が飛び出る」出来事が起こっている。

中級学習者は接続表現が不要な場合と「でも」「しかも」「すると」「だから」「そこで」「それで」がより適切な場合に「そして」を使用している。中級学習者の使用の例は以下のとおりである。

（85）はい、え、サンドウィッチサンドイッチを、作ってから一、ピクニック、の場所を一、あのしら、あの調べてしず（地図）を一あの見ました

①そして→すると、あの一か、彼たちが、飼っている犬が一、ばすバスケットに一いました（入りました）

②そして→正用、二人は、出かけました

③そして→付加、あの、ピクニックの所に一到着して一あのバスケットを、あけ、あ一開けた時一、犬が一、あ飛び出しました

④そして→しかも、サンドイッチと、果物は、食べられました

犬にたべられま食べられました

（TTH52 SPOT65）

(85) の①「そして」では、絵②の「周辺的な出来事」である「ケンとマリが地図を見る」出来事と「主な出来事」である「犬がバスケットに入る」出来事が同時に起きているため、「そして」が使用できない。ここでは、「ケンとマリが地図を見る」出来事が「犬がバスケットに入る」出来事のきっかけであることを表すために「すると」の方が適切である。その他に、日本語母語話者がこの箇所で使用している「間（に）」や「その間（に）」も使用できると考えられる。②「そして」では、絵②の「周辺的な出来事」である「ケンとマリが地図を見る」出来事と、絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事の継起的な「時間」を表すために、「そして」が使用できる。③「そして」では、絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事と絵④の「周辺的な出来事」である「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事の継起的な時間を表すために、「そして」が使用できるが、②で既に使用しているため、③でまた使用すれば、多用になる。ここでも、後続部が時間に沿って語られているため、接続表現がなくても、後続部が先行部の後に起きていることがわかる。④「そして」の先行部の出来事は「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事であるが、「そして」の後続部の出来事は「食べ物が食べられている」出来事であり、主語が異なっているため、この2つの文は継起的な「時間」の関係になっていない。ここでは、発話の追加として使用できる「しかも」の方が適切である。

(86) サンドイッチはバスバスケット、に、入って、おりました

ん、え、二人は、んー、ピクニックしようとおもっていまし（思っていました）

①そして→だから、マリ、ケンとマリす、ケンさんとマリさんはじつ（地図）、あ公園、じつ（地図）で公園を探し探します

それから、二人（ふたり）は、んー、公園、公園へ行きました

公園、あ、公園に公園にすくと（着くと）、んー、犬、ずっと、何（なん）、んー、ずっと、ケンさんケンさんは、何（なに）、か、何（なに）か、何（なに）かにバスケット、に、ああると思いまし（思いました）

②そして→それで、ケンさんはバスケット、を開けて、犬、が、飛び、出一しまし、飛び出しました

あ、ケンさんとマリさんはとてもびっくりしました

③そして→しかも、サンドウィッチ（サンドイッチ）、サンドウィッチ（サンドイッチ）を食べて、犬、犬、に、食べられました（TTH18 SPOT69（50）を掲載）

（86）の①「そして」では、後続部の「ケンとマリが地図を見る」出来事が「ケンとマリがピクニックをしようと思う」という思考の帰結であり、②「そして」でも、後続部の「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事が「何かバスケットにある」という思考の帰結であるため、これらの箇所では、「それで」「だから」などの方が適切である。③「そして」の先行部の出来事は「ケンとマリがバスケットを開ける」出来事であるが、「そして」の後続部の出来事は「食べ物が食べられている」出来事であり、主語が異なっているため、この2つの文は継起的な「時間」の関係になっていない。ここでは、発話の追加として使用できる「しかも」の方が適切である。

（87）ケンとマリは、と、ピクニックに、いこ（行こう）と思います

あ、①そして→それでーん、さんいっち（サンドイッチ）、と、あー、林檎ー、を、準備、しましたえ、します

とーす、②そして→でもー、うーじず（地図）を、みー、見る、時に、あー犬はー、サンドウィッチ（サンドイッチ）、とー、林檎を、食べて、しまいました

としてー（③そして→正用）、んー、二人はー、びにく（ピクニック）に、行きます

あー昼、ご飯はー、と、さんういっち（サンドイッチ）、とー林檎を、あー、おじ、おじだして、うええ、も、じ、だす、とー（持ち出すと）、んー、林檎、とーさんういっち（サンドイッチ）、は、あー、せんぶ（全部）、うー、たべら、食べられ、てしまいました

あー二人は、びっくり、しました

ん、えー、④そして→正用ー、ん、す、さんねんー（残念）、と、思います

（TTH21 SPOT69）

（87）の①「そして」では、後続部の「ケンとマリがりんごを準備する」出来事が先行部の「ケンとマリがピクニックに行こうと思う」という思考の帰結であるため、「それで」の方が適切である。②「そして」では、後続部の「犬がバスケットに入る」出来事が、先行部の「ケンとマリがりんごを準備する」出来事に反する内容になっているため、「で

も」の方が適切である。③「そして」では、絵②の「周辺の出来事」である「ケンとマリが地図を見る」出来事と、絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事の継起的な「時間」を表すために、「そして」が使用できる。④では、「そして」は「びっくりした」感情と「残念である」感情を並列的につなぐために使用できる。

上級学習者の「そして」の使用は1回しか観察されなかったが、その1回の使用は正用である。その例を以下に示す。

(88) ケンとマリがじず（地図）を確認中に犬がバスケットに入りました

そして→正用、二人は外に出かけましたが、途中で犬がバスケットから出てきました
二人がバスケットの中を見ると、中身が全部犬に食べられました
それで、終わりました

(TTH09 SPOT87)

(88) では、絵②の「周辺の出来事」である「ケンとマリが地図を見る」出来事と、絵③の「主な出来事」である「ケンとマリが出かける」出来事の継起的な「時間」を表すために、「そして」が使用できる。

6.1.3 レベル別の多用

タイ人日本語学習者のストーリーテリングの一つの断片における「そして」の使用回数、またその回数で使用している人数は以下のとおりである。なお、日本語母語話者は多くても2回しか使用しておらず、それを基準にした場合、2回を超える使用は多用だと言える。

表 27 ストーリーテリングの一つの断片における「そして」の使用回数

レベル	SPOT 得点	1 発話での使用 (人)				合計 (人)
		1 回	2 回	3 回	4 回	
初級	49-55	2	1	1	0	4
中級 I	56-63	5	1	0	0	6
中級 II	64-71	1	6	2	2	11
中級 III	72-80	2	1	0	0	3
上級	81-90	1	0	0	0	1
合計						25

表 27 を見ると、タイ人日本語学習者のストーリーテリングにおける多用について、初級学習者が 3 回使用している。一番多く使用しているのは中級半ばの学習者であり、4 回使用している。それに対して、中級Ⅲの学習者は 1 ～2 回しか使用しておらず、上級学習者は 1 回しか使用していない。

6.1.4 レベル別のフィラーとしての使用

日本語母語話者は、「そして」を言葉としてはっきり発音するのに対し、タイ人日本語学習者は時間を稼ぐかのようにフィラーとして「そして」を使用することがある。

初級学習者は、(89) のように、「そして」の前に「そ」、(90) のように「えっと」を発することがある。

(89) (省略) そそして、逃げてしまいました (省略)

(TTH24 SPOT54 (82) の一部を掲)

(90) (省略) えっとーそして、ケンは、ケンはマリをですだって (手伝って) あげました
(TTH45 SPOT49)

中級学習者は、(91) のように、「そして」を「として」と発音し、「て」を伸ばす現象も観察された。この他、(92) のように、「そして」をのばし、イントネーションを上げることもある。

(91) (省略) としてー (そして)、んー、二人はー、ぴにく (ピクニック) に、行 (省略)
(TTH21 SPOT69 (87) の一部を再掲)

(92) (省略) そしてー?、あの一地図を一、見ている一間 (あいだ) に?、ん、あの一、彼らの一、犬は一、彼ら、が一知らない時一に一、バスケットに、入りました (はいりました)

そしてー?、あの、あん、ピクニックーを一している一、時は、あの、あの (連体詞) 犬は、バスケットーから一、出ました (省略)
(TTH01 SPOT70)

このような使用は初級学習者と中級学習者のデータにしか見られず、上級学習者ははっきりと「そして」を発している。

6.1.5 レベル別の日本語母語話者が使用しているところでの使用

第 5 章のストーリーテリングにおける日本語母語話者の「そして」の使用の確認からわかるように、日本語母語話者はストーリーを展開させる時に「そして」を使用している。

(84) で見たように、初級学習者の使用の例を見ると、日本語母語話者と同様に、「主な出来事」に導く時の使用が見られた。しかし、(82) の②「そして」のように正用であったとしても日本語母語話者の使用と異なり、同じ絵の複数の出来事をつなぐところで使用したり、(82) の①「そして」のように誤用したりする例も見られた。このことから、初級学習者はストーリーを展開させる用法について理解していないと言える。

(87) の③「そして」で見たように、中級学習者については、ストーリーを展開させる用法に関しては、絵②の「継起する出来事」から絵③の「時間／空間的な展開」に導く時に、「そして」を使用している。しかし、同じ発話では、④「そして」のように日本語母語話者の使用に見られない同じ絵の複数の感情を並列的につなぐところでも使用しており、①と②「そして」のように誤用もしている。このことから、中級学習者も、日本語母語話者が使用している「そして」のストーリーを展開させる用法が正しく理解できていないと言える。

(88) で見たように、上級学習者については、絵②の「継起する出来事」から絵③の「時間／空間的な展開」に導く箇所でのみ「そして」を使用し、誤用もしていないことから、上級学習者はストーリーテリングにおける「そして」の用法を正しく理解し、自然に使用できていると考えられる。

一方、どのレベルでも、絵⑤の「結末」に導くところで正しく使用している例や名詞修飾節がある場合での使用の例は見られなかった。

6.2 対話における「そして」の使用

ここでは、対話における各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用回数および使用人数、誤用、多用、フィラーとしての使用、日本語母語話者が使用している用法での使用、調査者の「そして」に対する反応について述べる。

6.2.1 レベル別の使用回数および使用人数

対話におけるタイ人日本語学習者の「そして」の使用回数は 62 回で、対話で 5 回使用している日本語母語話者のその約 10 倍になっている。また、使用人数に関しては、タ

イ人日本語学習者は 50 人中、19 人が使用している。「そして」を使用する時は、一つの発話に 1 回～8 回使用している。各レベルの使用回数と使用人数は以下のとおりである。なお、1 人当たりの使用回数は、「そして」を使用した人数からではなく、そのレベルの全学習者の人数から計算されたものである。

表 28 対話における各レベルの使用回数と使用人数

レベル	SPOT 得点	レベルの 人数	「そして」 使用回数	「そして」 使用人数	1 人当たりの 使用回数
初級	49-55	6	5	3	0.8
中級Ⅰ	56-63	10	9	4	0.9
中級Ⅱ	64-71	21	36	9	1.7
中級Ⅲ	72-80	10	8	1	0.8
上級	81-90	3	4	2	1.3
合計		50	62	19	1.2

表 28 を見ると、初級レベルでは、使用回数が 5 回で、使用人数が 3 人であり、中級Ⅱレベルでは使用回数と使用人数が増え、使用回数が 36 回で、使用人数が 9 人である。一方、中級Ⅲレベルから使用回数と使用人数が減り、上級レベルでの使用回数が最も少なく、4 回である。

6.2.2 レベル別の誤用

各レベルの対話における「そして」の誤用と正用率は以下のとおりである。以下の表では、まず、正用した回数を示し、接続表現が必要ではないところで「そして」が使用されている誤用は「付加」として表記している。また、その接続の箇所では「そして」より適切な接続表現がある場合の誤用はその接続表現を示す。例えば、「それから」という表記は、その接続の箇所では、「そして」より「それから」のが適切であることを意味する。最後に、各レベルの使用回数の合計を示してから、正用率を計算する。

表 29 対話における「そして」の誤用

レベル	SPOT 得点	正用	付加	不明	それ から	それ で	その あと は	あと は	それ と	合 計	正用 率
初級	49-55	2	2	1	0	0	0	0	0	5	40.0
中級Ⅰ	56-63	2	4	0	1	2	0	0	0	9	22.2
中級Ⅱ	64-71	14	10	0	7	3	1	1	0	36	38.9
中級Ⅲ	72-80	1	3	0	1	2	1	0	0	8	12.5
上級	81-90	0	2	0	1	0	0	0	1	4	0
合計		19	21	1	10	7	2	1	1	62	30.6

表 29 からわかるように、タイ人日本語学習者は対話において主に接続表現が必要ではない箇所や「それから」がより適切な箇所で「そして」を使用している。また、レベルが上がっても、正用率は上がらず、上級学習者も正しく使用できていない。初級レベルの正用率が 40%であり、最も高い。中級Ⅰレベルで正用率が 40%から 22.2%へ下がるが、中級Ⅱレベルでは、再び 38.9%へ上がる。中級Ⅲレベルでは、正用率が再び 12.5%へ下がり、上級レベルでは正用した例はない。なお、以下の 7K の①「そして」は、先行部が「ライン（アプリ名）」で、後続部が 2 回とも「はい」になっており、文が続いてないため、誤用判定が難しい場合があり、この場合は「不明」と表に表す。

(93) 1 K それからー、えっとー、しょっと（ちょっと）、えっと、ライ（ライン。アプリ名）で、ライ（ライン。アプリ名）をやり、やりました

1 C 何（なん）ですかライ（ライン。アプリ名）？

2 K ライ（ライン。アプリ名）というのは、えっとー、ソーシャ、ソーシャル、アプリ、です

2 C あー、はいはいはいはい

3 K はい

3 C ソーシャルネットワークですかね？

4 K はい、そうです

4 C 何（なん）ていう名前？ライ（ライン。アプリ名）？

5 K ライン（アプリ名）

5 C あ、ライン（アプリ名）〈はい〉あー、LINEね、ライン（アプリ名）ね、はい

- 6 K はい、ライン（アプリ名）
- 6 C おー、そして？それはだから
- 7 K あー、①そして→不明
- 7 C そ、それは私もよくわからないんですけど
- 8 K はい
- 8 C そのソーシャルネットワークのライン（アプリ名）と
- 9 K はい
- 9 C そのフェイスブックと〈はい〉、どう違うんですか？
- 10 K えっとー、どう違いますかな、えっと、ラ、じすは（実は）、うーん、ライ（ライン。アプリ名）で、え、ライ（ライン。アプリ名）は、えっとー、パソコンで〈うん〉つか、えっとー、使えますが、えっとー、写真とか、えっとー、あまり載せません
- 10 C あー、なるほど
- 11 K はい、えっとー、②そして→正用、うーん、ライン（アプリ名）のほうがえっとー、えっと、話すとか便利だと思います
- 11 C ライン（アプリ名）で繋がってるのは誰と繋がってるんですか？
- 12 K えっと
- 12 C 誰と話をするんですか？
- 13 K あー、日本人の友達です (TTH31 SPOT55)

以上の初級学習者の使用は、誤用判定ができない「そして」もあるが、初級学習者が並列的な関係を表すために正しく使用していることも観察された。11K では、②「そして」は「写真があまり載せられない」と「話すのに便利である」というライン（アプリ名）の機能の並列的な関係を表すために使用されている。なお、このラインの機能という話題はメインの話題である「昨日の出来事」話題から展開された話題である。

さらに、初級学習者は以下のように、先行部の出来事を踏まえて、「そして」を正しく使用している。

- (94) 1 K はい私はとあー友達は一あー、しょしょ食堂に食堂にすす座って一えっとー、が晩ごはんーと、こあー食べます

- 1 C うんうん
- 2 K はい、んーえーとんー、八時
- 2 C うん
- 3 K 八時ぐらいはーんー【大学名1】からんーウェン（乗り物「バン」）でー
 アヌサワリー（記念塔）、アヌサワリー（記念塔）、にんー行きました行きて（行って）
 ー
- 3 C うんうんうん
- 4 K あー、えーとあーそして→正用ー、アヌサワリー（記念塔）にアヌサワリ
 ー（記念塔）に、来た、あ、とでーアヌサワリー（記念塔）アヌサワリー（記念塔）でん
 ー買い物ん少し買い物をーんー買い物をししました
- 4 C 何（なに）を買いましたか？
- 5 K えーとふ服 {笑} (TTH48 SPOT54)

(94) の 4K では、初級学習者は、先行部の「記念塔に来る」出来事を踏まえて、「記念塔で買い物をする」出来事が起きているという関係性を表すために正しく「そして」を使用している。「記念塔で買い物をする」出来事がその日の「重みのある出来事」だと予想される。

しかし、初級学習者は接続表現が不要な場合に「そして」を使用している。その使用の例は以下のとおりである。

- (95) 1 C あーそうですか、うーん、えーっと、昨日は、THさんは何（なに）を、
 していましたか？

1 K 昨日は〈はい〉、えーと、昨日はじゅーぎょうが、ありませんです、私は
 ー、友人とー、えーと、か、コヒー（コーヒー）のカフェえっと、こ、喫茶、喫茶店でー、
 えっと、へ、ケーキを、食べてー、えーと、あ、ケーキをー、たーべー、食べる、ながら
 （食べながら）、そして→付加ーえーと、一緒に話します、はい

- 2 C あー、そうですか (TTH32 SPOT55)

(95) の 1K では、「ケーキを食べる」出来事と「一緒に話す」出来事が同時に起きているため、「そして」は使用できない。この 2 つの出来事の同時性を表すために「ながら」が既に使われているため、ここでは他の接続表現も不要である。

中級学習者は、接続表現が不要な場合と、「それから」「それで」「そのあとは」「あとは」の方が適切な場合で「そして」を使用している。その使用の例は以下のとおりである。

(96) 1 C そうすると朝、九時に起きて夜十二時に寝るまでの、昨日一日（いちにち）のお話を、どんなことをなさったか〈あーはい〉簡単に教えてください

1 K はいえーと、えー私は起きてから、えーなんと言うか、えー、なんと言うか、えー、修士るんぶん（論文）、〈うんうんうん〉修士論文の準備を、なんて言うか、しようと、〈うん〉思いましたけど、えーなんと言うか、フェス（フェイス）、フェスブック（フェイスブック）とか、えーとチェック（/チェック）、なので、なんて言うかえーと、おも、えー思ったと、思ったより、なんて言うかえー時間、を、なんか、かかってしまいました〈うんうん〉①そして→それで、なんかえーと、えー、昼、ご飯一、なんかひ昼ご飯の、時間一までくらいなんだ（なんか）、かかってしまいました、はい、②そして→正用えと昼ご飯は、えー昼ご飯を、えーと食べーてから、〈うんうん〉あたしはえーずっと、はい、えー修士論文の準備をなんかえー、して、いました、はい、はい、③そして→それからえーと、ゆうかた（夕方）、はー、えー、はい、ともらち（友達）、ともらち（友達）に一、なんかえーとレパート（デパート）で、えと、会いに、会いに、行きました、はい、なんか、えーと一緒に、えー晩ご飯を、えー食べたり、はい、食べだり（食べたり）、して、④そして→付加えーと少し、えーといろいろな事を話したりして、⑤そして→付加私はえーと、家に、帰りました、はい、⑥そして→そのあとはえーと、はい、えー、一生懸命 {笑} はい、えーと歴史一、なんかえーかん、関係する、えーと歴史の教科書とか、はい、えーと、えー読んだり、はいえー修士、論文の準備をかえったり（/書いたり）して、はい⑦そして→付加、えーと、なんか、なんて言うかえーこう、眠く、なっ、てしまいましてはい⑧そして→それで〈うん〉、寝ました

2 C そうですか、はい、はい、いろんなことまあ、午前中はねあんまり、あの何（なに）十分（じゅうぶん）なことができなかったかもしれないけどまあ（はい）午後から、ずっとこう、あの、論文の、勉強なさったんですね

（TTH33 SPOT76（6）を再掲）

（96）では、①「そして」では、「昼ご飯まで時間がかかる」出来事が「思ったより時間がかかる」出来事の帰結であるため、「それで」の方が適切である。②「そして」では「そして」の前後の出来事が「フェイスブックをチェックする」出来事と「ご飯を食べる」出来事という重みのない出来事なのだが、「ご飯を食べる」出来事の直後に「てから」を伴う従属節が使用され、その日の予定である「修士論文を準備する」出来事に導いているため「そして」が使用できると考えられる。次に、③「そして」では、後続部の「友達に会う」出来事はその日の「重みのある出来事」の可能性があるが、②で既に使用しているため、③でまた使用すれば、多用になる。ここでは、発話の追加を表す「それから」の方が適切である。また、④と⑤「そして」では、「たり」と「て形」が使用されているため、他の接続表現の使用は不要である。⑥「そして」では、後続部の「歴史の教科書を読む」出来事と「修士論文を書く」出来事が「たり」でつながれることによって、この2つの出来事が日常的な出来事のように読み取れる。これらの出来事が、⑥「そして」の先行部の「帰った」出来事より後で行われることを表すために「そのあとは」が適切である。⑦「そして」では、④と⑤「そして」と同様に「たり」と「て形」が使用されているため、他の接続表現の使用は不要である。最後に⑧「そして」の後続部の「寝る」出来事が先行部の「眠くなってしまう」出来事の帰結であるため、「それで」の方が適切である。

（97）1 C 何時（なんじ）に起きましたか

1 K あー何時（なんじ）に、九時（うーん）九時、九時に起きました、あー十、十一時、に勉強しましたので、九時に、起きました、遅いです、あーそれで、あー作文、作文ーを、勉強しました、①そして→それから朝ご飯を、食べ、して（②そして→付加）、昼ご飯を食べます、朝ごはんは食べませんでしたあー

2 C いつも？

2 K いえいえ

3 C 昨日だけね？

3 K あき昨日は〈うん〉、時間がありませんから、うーん③そして→付加、あーど、でい、でいすにんすびーきんリスニン（リスニング）を、勉強しました、④そして→付加終わった後（あと）、うちに、帰りました、はい

4 C 帰ってから？

4 K はい

5 C 帰ってからすぐ寝ましたか？

5 K あー {笑} 昨日

6 C ううちに帰ってって〈{笑}〉昨日は、おうちに帰ったんでしょ

6 K 昨日は、あ昨日はロットウ（乗り物名）に乗り乗って、〈うん〉、あーレストランーに、母と、料理を食べました、⑤そして→正用、うち、うち、家に帰りました、あ寝ました {笑}

7 C お母さんにご飯食べてそれで終わり？

7 K はいかつ、とう家、に、帰りました (TTH36 SPOT58)

(97) では、①「そして」の後続部の出来事が「昼ご飯を食べる」出来事であり、重みのある出来事ではないため、発話の追加を表す「それから」の方が適切である。②「そして」の直前に「食べ」、③「そして」の直前に「から」、④「そして」の直後に「終わった後」のような連用形や他の接続表現の使用があるため、これらの箇所では、接続表現の使用が不要である。最後に、6K の⑤「そして」の先行部の出来事が、「母と料理を食べる」出来事でその日の最後の「重みのある出来事」であり、「そして」はこの出来事と「うちに帰る」出来事をつなぐために使用できる。

上級学習者は、接続表現が不要な場合と、「それから」「それと」の方が適切な場合で「そして」を使用している。

(98) 1 C そうですか、昨日は、何（なに）をしてたんですか？

1 K 昨日は勉強して、〈はい〉①そして→付加んー勉強しか {笑} しませんでした {笑}

2 C あーそうですか、〈はい〉授業がたくさんあったんですか

2 K いえ授業は一つしかありませんが

3 C はいはいはい、じゃあどうして勉強そんなにしたんですか

3 K えっと一勉強して、〈うん〉それが、んか他（ほか）の授業の、ぐるっぷ（グループ）の活動があって〈うんうん〉えーなので、みんなで勉強しました

4 C あーそうですか、どんな活動があるんですか

4 K えっと一ぐるっぷ（グループ）の一発表など、②そして→それとざい③そして→付加一最近はちゅう、ちゅう、中間試験、の期間なので〈うんうん〉みんなで

5 C あ、今中間試験ですか

5 K あ来週です (TTH37 SPOT83)

(98) の 1K の①「そして」の前後の出来事が「勉強する」という同じ出来事であるため、接続表現が不要である。4K の②「そして」は名詞である「発表」と「中間試験」の並列的な関係を表すために使用されているが、「そして」が繰り返して使われることと「ちゅうちゅう」という言いよどみがあることによって、ここでは思い出しながら話す印象がある。このことから、発話の追加として用いられる「それと」の方が適切である。また、③「そして」は、②の直後に出現することによって、時間を稼ぐために使用されていると考えられる。ここでは、接続表現の使用が不要である。

(99) 1 C そうですか〈はい〉、じゃ、まその日本語能力試験のテストも〈はい〉含めて、昨日一日（いちにち）どんな一日（いちにち）だったかちょっと簡単に教えてもらえますか？

1 K あ、説明するんですか

2 C はい、そうですそうです

2 K えーっと、ま、ま、まず朝起きて〈うん〉、そして→それから、友達とま、待ち合わせしたんですけど〈うん〉、【大学名1】の近くのあの、デパートで、あの一、三、私とす、二人の友達ですね、あ、はい、私とあの後（あと）二人の友達と一緒にランチをして、え、そこで、あ、そしたら、あの一、【大学名1】に行って、試験を受けて、それで、また【大学名2】に戻って、あの仕事の話を、それで、帰って寝ますかね

3 C そうですか (TTH09 SPOT87)

(99) の 2K は、先行部は「日常的な出来事」である「朝起きる」出来事である。後続部は「友達と待ち合わせる」予定について語られている。しかし、「友達と待ち合わせる」というのはあくまで予定であり、出来事ではない。「重みのある出来事」として、「友達と会う」出来事がはっきりと語られていない。ここでは、発話の追加を表すために「それから」の方が適切である。

6.2.3 レベル別の多用

タイ人日本語学習者の対話の「昨日の出来事」話題についての一つの断片における「そして」の使用回数、またその回数で使用している人数は以下のとおりである。なお、日本語母語話者は多くても3回しか使用しておらず、それを基準にした場合、3回を超える使用は多用だと言える。

表 30 対話の一つの断片における「そして」の使用回数

レベル	SPOT 得点	1 発話での使用 (人)							合計 (人)
		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	8 回	
初級	49-55	1	2	0	0	0	0	0	3
中級Ⅰ	56-63	2	1	0	0	1	0	0	4
中級Ⅱ	64-71	1	1	2	1	1	3	0	9
中級Ⅲ	72-80	0	0	0	0	0	0	1	1
上級	81-90	1	0	1	0	0	0	0	2
合計									19

表 30 を見ると、タイ人日本語学習者のストーリーテリングにおける使用について、初級学習者が 2 回使用している。学習者全員の中で一番多く使用しているのは中級Ⅲの学習者であり、8 回使用している。一番多く使用している上級学習者は 3 回使用しているが、(98) で見たようにすべては同じターンにあるわけではない。

6.2.4 レベル別のフィラーとしての使用

日本語母語話者は、「そして」を言葉としてはっきり発音することに対し、タイ人日本語学習者は対話においてもフィラーとして時間を稼ぐかのように「そして」の「て」をのばしたりする行為が見られた。

初級学習者は以下のように、「そして」の前に「えーとあー」を発し、「て」を伸ばすことがある。

(100) (省略) あー、えーとあーそしてー、アヌサワリー (記念塔) にアヌサワリー (記念塔) に、来た、あ、とでーアヌサワリー (記念塔) アヌサワリー (記念塔) でんー 買い物ん少し買い物をーんー買い物をししました (省略)

(TTH48 SPOT54 (94) の一部を再掲)

中級学習者については、(101) のように「そして」を「して」とはっきり発音しないことがある他、(102) のように「て」を伸ばすこともある。

(101) (省略) あー何時 (なんじ) に、九時〈うーん〉九時、九時に起きました、あー十、十一時、に勉強しましたので、九時に、起きました、遅いです、あーそれで、あー作文、作文ーを、勉強しました、そして朝ご飯を、食べ、して (そして)、昼ご飯を食べます、朝ごはんは食べませんでしたあー (省略) (TTH36 SPOT58 (97) の一部を再掲)

(102) (省略) そしてー、んー、話し合ってから、あの一、んー私は寮に戻りました、そしてー、晩御飯は、寮に、りょ、あー寮の辺、で、寮の辺で買いました、はい、それで自分の部屋で食べました、はい、そしてー、あの一二十、二、え、二、十、え、七時 (しちじ)、七時 (しちじ)、は、あの一大学のそばにいる、あの一そ、そばにある、んー市場 (いちば)、へ行きました、それで、終わりました (省略) (TTH34 SPOT68)

上級学習者に関しては、以下のように、「そして」が直ちに繰り返し使用し、「て」を伸ばすことがある。

(103) (省略) えっとーぐるつぶ (グループ) のー発表など、そしてざいそしてー最近 はちゅう、ちゅう、中間試験、の期間なので〈うんうん〉みんなで (省略)

(TTH37 SPOT83 (98) の一部を再掲)

6.2.5 レベル別の日本語母語話者が使用しているところでの使用

初級学習者のデータからは、(93) の②「そして」のような「そして」の「並列」用法と (94) のような先行部の出来事を踏まえたところでの使用が観察された。しかし、「重みのある出来事」同士をつなぐところでの使用が見られず、(95) のような接続表

現が必要ではないところでの使用もあることから、初級学習者は対話における「そして」の用法を正しく理解していないと言える。

(96) の②「そして」で見たように、中級学習者の例では、「重みのある出来事」に関わりがあるところでの使用が見られた。しかし、同じ断片には他の使用を見ると、接続表現が不要な場合や、他の接続表現がより適切な場合での使用も見られた。このため、中級学習者が「そして」の「重みのある出来事」をつなぐ用法を理解していないことが予想される。

上級学習者に関しては、正用することがなく、対話において「重みのある出来事」をつなぐ「そして」の用法を理解していないと言える。

6.2.6 調査実施者の「そして」に対する反応

調査実施者が初級学習者に対して、「そして？」を使用することによって、あたかも「そして」を使用するように指示しているかのように学習者に話を続けさせることがある。

(104) 1 K それから、うう、ご、ゆ晩ご飯、友達と晩ご飯を食べました〈うんうんうん〉はい、ああ、が寮にうう、はい、ええ、帰ることにします〈うん〉しました〈うんうん〉では、うい、でも寮にああ、つ着いた、着いて、ああ電源はまたうー消えました {笑}

1 C え、本当？

2 K はい

2 C すごい、そして？真っ暗じゃない？はい、そして？

3 K はい、①そして、あ、寮のいかいに友しと話し話しています〈うんうんうん〉話していました〈うんうん〉んん、あ電源が、ああつ、き、消え、ない、から、ん、友達の寮にいくこと、にしました〈うーんうんうん〉でなんか②そして、友達、友達といろいろ、いろいろなことを話していました

3 C ああ、そう、〈はい〉そうですね、ええちょっと待ってくださいね {一時中断} はい、では、失礼いたしました、続けます、ええと、そで (それで) 一日 (いちにち) で電気が何度 (なんど) も消えたんですね、昨日 (TTH38 SPOT63)

(104) では調査実施者が 2C で質問をする形で「そして？」を使用している。タイ人日本語学習者はそれを受けて 3K で「そして」を使用している。森山 (2006) によると、

「そして」は「それから」と違い、明確な継起性も因果関係もなしに、単に関連付けられる同類異項目の存在を明示するという用法上の特性から、「そして？」のように接続関係を指定して後続部分を問う用法で使われることが少ない。しかし、接触場面でこのような用法が使われるのは、日本語母語話者である調査実施者が、タイ人日本語学習者の語りに、まだ関連付けられる同類異項目の存在があると察したのではないだろうか。または、このような「そして」の使用は日本語母語話者同士のやりとりには見られないことから、外国人に対するフォリナートークあるいは学習者に対するティーチャートークである可能性がある。

中級学習者のデータから、「そして」が多用された場合、「そして」が含まれている文の後に、調査実施者が学習者が話したことをまとめることがある。その例は以下のとおりである。

(105) 1 C そうすると朝、九時に起きて夜十二時に寝るまでの、昨日一日（いちにち）のお話を、どんなことをなさったか〈あーはい〉簡単に教えてください

1 K はいえーと、えー私は起きてから、えーなんと言うか、えー、なんと言うか、えー、修士るんぶん（論文）、〈うんうんうん〉修士論文の準備を、なんて言うか、しようと、〈うん〉思いましたけど、えーなんて言うか、フェス（フェイス）、フェスブック（フェイスブック）とか、えーとチェック（/チェック）、なので、なんて言うかえーと、おも、えー思ったと、思ったより、なんて言うかえー時間、を、なんか、かかってしまいました〈うんうん〉①そして→それで、なんかえーと、えー、昼、ご飯一、なんかひ昼ご飯の、時間一までくらいなんだ（なんか）、かかってしまいました、はい、②そして→正用えと昼ご飯は、えー昼ご飯を、えーと食べーてから、〈うんうん〉あたしはえーずっと、はい、えー修士論文の準備をなんかえー、して、いました、はい、はい、③そして→それからえーと、ゆうかた（夕方）、はー、えー、はい、ともらち（友達）、ともらち（友達）に一、なんかえーとレパート（デパート）で、えと、会いに、会いに、行きました、はい、なんか、えーと一緒に、えー晩ご飯を、えー食べたり、はい、食べたり（食べたり）、して、④そして→付加えーと少し、えーといろいろな事を話したりして、⑤そして→不要私はえーと、家に、帰りました、はい、⑥そして→そのあとはえーと、はい、えー、一生懸命 {笑} はい、えーと歴史一、なんかえーかん、関係する、えー

と歴史の教科書とか、はい、えーと、えー読んだり、はいえー修士、論文の準備をかえったり（/書いたり）して、はい⑦そして→付加、えーと、なんか、なんて言うかえーこう、眠く、なっ、てしましましてはい⑧そして→それで〈うん〉、寝ました

2 C そうですか、はい、はい、いろんなことまあ、午前中はねあんまり、あの何（なに）十分（じゅうぶん）なことができなかったかもしれないけどまあ〈はい〉午後から、ずっとこう、あの、論文の、勉強なさったんですね

（TTH33 SPOT76（6）を再掲）

（105）の2Cでは、調査実施者が学習者が話したことをまとめて、確認する行動が見られる。「そして」の多用が対話相手の理解を妨げることがあるため、調査実施者が自身の理解を確認し、まとめる必要があると考えられる。また、「そして」の多用によって、「重みのある出来事」がどれか把握できず、評価を示すこともできない。

上級学習者のデータには、このような現象は見られなかった。

6.3 レベルに伴う使用の変化とタスクによる変容

これまで様々な観点でタイ人日本語学習者の「そして」の使用を観察してきたが、本調査で観察した不自然な使用は、日本語学習者の「そして」の使用を分析したこれまでの研究でも指摘されている。誤用に注目すると、本調査で観察された「混同」の種類や「付加」はこれまでの「そして」を誤用分析した先行研究の分類と類似している（市川 2010、片桐 2016）。また、日本語学習者が日本語母語話者より多く「そして」を使用していることも先行研究の指摘と一致している（石黒 2017、砂川 2017）。本研究では、他の母語とする学習者のデータとの比較を行っていないため、他の母語話者よりタイ人日本語学習者が「そして」をより多く使用していると指摘した片桐（2016）とは同じ条件で議論できないが、本調査でも、タイ人日本語学習者が日本語母語話者より「そして」を多く使用していることは確認できた。フィラーとしての使用は予備調査でも観察された。タイ人日本語学習者が「主な出来事」や「重みのある出来事」をつなぐところ以外で使用していることについては、学習者が思いついたことをそのつど付け加えているだけという印象を与えてしまうこともあることを指摘している砂川（2017）と類似している。

しかし、本調査では、上記の使用が観察されたという現象のみならず、レベルによって、使用が異なっており、タスクによって変容することも明らかにした。レベルに伴う使用の変化とタスクによる変動は、表 31 のとおりまとめることができる。

表 31 は、ストーリーテリングと対話における各レベルの使用を表している。○が付いているレベルはその使用が観察され、×が付いているレベルはその使用が観察されなかったことを意味する。

使用については、これまで観察してきた現象に基づいて、「誤用」「多用」「フィラーとしての使用」「「重い情報」以外の使用」に分けて示す。

誤用の種類に関しては、「そして」と他の接続表現との「混同」は、「でも」「しかも」「すると」「だから」「そこで」「それで」「それから」「そのあとは」「あとは」「それと」との混同が見られた。ここでは、市川（1978）が分類した類型に従い、以上の接続表現の類型は以下のとおりにする。どのような類型との混同かをわかりやすく示すために、その類型の代表的な接続表現を表記して示す。なお、「そのあとは」「あとは」「それと」は市川（1978）に含まれていないため、対象外にした。

順接型 前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる型。

〔順当〕＝だから・そこで・それで ＝「だから」混同

〔きっかけ〕＝すると ＝「すると」混同

逆接型 前文の内容に反する内容を後文に述べる型。

〔反対・単純な逆接〕＝でも ＝「でも」混同

添加型 前文の内容に付け加わる内容を後文に述べる型。

〔追加〕＝それから・しかも ＝「それから」混同

「多用」については、日本語母語話者の使用回数を参考に、それを超える場合は、多用と判断する。具体的に、ストーリーテリングでは、2回を超える使用、対話では、3回を超える使用を多用と判断する。

「フィラーとしての使用」は、日本語母語話者と異なり、「そして」をはっきりと発音せず、接続関係を意識せずに時間を稼ぐかのようにフィラーとして使用することである。

「「重い情報」以外の使用」は、ストーリーテリングでは「主な出来事」に導くところ以外での使用、対話では「重みのある出来事」をつなぐところ以外での使用である。

表 31 各タスクにおける各レベルの「そして」の使用

使用		ストーリーテリング			対話		
		初級	中級	上級	初級	中級	上級
誤用	「だから」混同	×	○	×	×	○	×
	「すると」混同	×	○	×	×	×	×
	「でも」混同	○	○	×	×	×	×
	「それから」混同	○	○	×	○	○	○
	付加	○	○	×	○	○	○
多用		○	○	×	×	○	×
フィラーとしての使用		○	○	×	○	○	○
「重い情報」以外の使用		○	○	×	○	○	○

表 31 で示した初級、中級、上級学習者の使用をタスクを分けずに全体に見ると、誤用や多用など最も不自然な使用が観察されたレベルは中級であることがわかる。このことは、予備調査で確認した傾向と一致しているが、不自然な使用の種類には違いがある。また、予備調査と異なり、日本語母語話者の使用と比較しながら、「重い情報」以外の出来事をつなぐ時の使用という不自然な使用も観察できた。

本調査で観察されたレベルに伴う使用の変化は次のとおりである。まず、レベルが上がるにしたがい、誤用がなくなることがある。例えば、ストーリーテリングでは、中級まで「だから」との混同が見られたが、上級では観察されなかった。このことは、上級学習者は「だから」が適切な箇所で「そして」ではなく「だから」を使用していることが予想される。一方、レベルが上がるにつれ、より低いレベルで観察されなかった混同の誤用の種類や多用が観察されることもある。例えば、ストーリーテリングでは、初級では「だから」との混同が見られなかったが、中級では観察された。これは、中級学習者は長く話すことができ、「だから」を表す意味関係を話すことができるが、「だから」が適切に使用できないためだと考えられる。上級に上がっても改善されない不自然な使用に関しては、「それから」との混同や「重い情報」以外のところでの使用が挙げられる。上級学習者にとっても、「そして」と同じ類型に分類された「それから」との使い分けなどが難しいと言える。

また、表 31 で示したストーリーテリングと対話における使用を見ると、それぞれのタスクの不自然な使用が異なっていることがわかる。ストーリーテリングにおける誤用は種類が多く、「でも」との混同や「すると」との混同もある。それに対し、対話における誤

用は種類が限られており、「そして」と同じ類型と分類されることが多い「それから」との混同がほとんどである。このことから、使用はタスクによって変容することがわかった。

このような誤用の種類の違いの原因は、ストーリーテリングというタスクを遂行させるため、様々な意味関係を表す必要があるのに対し、「昨日の出来事」を語るのに、基本的に継起的な「時間」の関係しか表す必要がないことにある。また、ストーリーテリングでは、発話する出来事の数絵によってある程度決まっており、発話量や長さはある程度コントロールされている。それに対して、対話では、被調査者によって、昨日起きた出来事の数異なっている。出来事の数が多い場合は、「そして」の多用や、「昨日の出来事」を思い出す時のフィラーとしての使用が発生しやすく、上級でもこれらの不自然な使用が見られた。

一方、「重い情報」以外の出来事をつなぐところでの使用は、どのタスクにも観察された。タイ人日本語学習者は、全体的にストーリーテリングでは、同じ絵の中の複数の出来事をつなぐところで、対話では、すべての出来事をつなぐところで「そして」を使用している。つまり、タイ人日本語学習者は、タスクの談話の構成と、どの出来事が「重い情報」であるかがわからなく、どのタスクでも、出来事を区別せずに、どの出来事をつなぐところでも「そして」を使用してしまう傾向がある。このことは、「重い情報」以外の出来事をつなぐところでの使用はタスクによって変容しないと言える。

第5章で論じたように、ストーリーテリングと対話で「重い情報」の詳細が異なっている。具体的には、ストーリーテリングの場合は、ストーリーの「主な出来事」に展開させるために、対話では、「重みのある出来事」をつなぐために、「そして」が使用されている。タイ人日本語学習者がどのタスクでもどの出来事も「そして」を使用しているということは、タスクの内容と談話の構成を考慮していないということである。このような相違点は、日本語母語話者がジャンルに適した言語産出を行うのに対し、日本語学習者にはそのような言語産出が見られないと指摘した小西（2017）と類似している。しかし、小西（2017）は、日本語母語話者が様々な語彙から、ジャンルに適した語彙を選択し使用していることを報告している。ただし、本調査では、「そして」しか対象にしなかったが、日本語母語話者は、タイ人日本語学習者と異なり、それぞれのタスクの構成やそれぞれのタスクの「重い情報」がどの出来事に相当するのかわかり、それらを考慮し、「そして」を適切に使用している。

さらに、表 31 には記述されていないが、本調査では、「そして」の使用に対する反応の相違点も確認できた。日本語母語話者とタイ人日本語学習者の対話では、日本語母語話者が「そして」を使用することで学習者に話を続けさせ、「そして」を含む会話の後に、内容をまとめる行動が観察された。この現象の要因は、日本語母語話者同士では、「そして」に対して共通理解があるのに対し、日本語母語話者とタイ人日本語学習者の間ではそのような共通理解がないことにあると考えられる。また、「そして」の多用によって、一連の出来事の輪郭が捉えにくくなるため、理解を確認するためにまとめる行動を行っていると考えられる。このことから、「そして」の多用は、対話相手の理解を妨げることも確認できた。

以上、第 6 章では、ストーリーテリングと対話における各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認した。確認したそれぞれのタスクにおける各レベルの使用を参考に「そして」の導入方法を考えれば、タイ人日本語学習者は、誤用や多用をしないように、ジャンルに合わせてそれぞれのレベルに合ったような使用ができると考える。第 7 章では、確認したタイ人日本語学習者の使用に影響を与える要因について考察する。

第7章 タイ人日本語学習者の使用の要因

第7章では、第4章で述べた課題③の「タイ人日本語学習者の使用の要因を考察する」について論じる。7.1 では、母語であるタイ語の影響を、7.2 では、これまでの導入方法の影響、7.3 では、I-JAS の調査の実施方法の影響について考察する。最後に 7.4 では、レベルに伴う要因の変化について考える。

7.1 タイ語の影響

迫田（2002）によると、第二言語を学習する場合に、学習者の母語がプラスに影響する場合とマイナスに影響する場合があります、前者を「正の転移」、後者を「負の転移」という。また、母語と目標言語のある学習項目に類似点が見られた場合、その項目を過剰に使用してしまうことがあるとも述べている。本研究では、「負の転移」の観点で、タイ語がどのように「そして」の使用へ影響を与えるかを分析する。特定の言語形式の母語の影響を分析する場合、対応する形式を対照的に分析するのが一般的である。しかし、本研究では、それより大きいタイ語の体系的な特徴なども影響があると考えられる。そのため、ここでは、タイ語の特徴と日本語の「そして」と近いタイ語の形式という2つの観点で考察する。

7.1.1 タイ語の特徴

タイ語は日本語に比べる場合、日本語にはない特徴が多くある。宮本（2003）は、タイ語は孤立語系であると述べ、タイ語の特徴は以下のとおり挙げている。

- 1) 語形変化がない
- 2) 語順が重要である
- 3) 必ずしも「名詞の名詞」の型式を取るとは限らない
- 4) 「話題＋主語＋述語」という型式を取る文が一般的に用いられる
- 5) 品詞は流動的である
- 6) 主語や目的語は省略されることがある
- 7) ある特定の言葉の位置が決まっている
- 8) 名詞的表現より動詞的表現である

- 9) 受動表現より能動表現である
- 10) 類別詞の機能や用法が多様である
- 11) 反復語の多様な機能と用法がある
- 12) 文法機能語に本来の意味がある
- 13) 文末詞や強調詞が多くある

(宮本 2003 : 1-6)

以上の特徴の中で、タイ人日本語学習者の「そして」の使用に影響を与えるものは「語形変化がない」「品詞は流動的である」「ある特定の言葉の位置が決まっている」「文法機能語に本来の意味がある」であると考えられる。「語形変化がない」という特徴はタイ語の一般的な特徴だと考えるため、ここで分析する。一方、「品詞は流動的である」「ある特定の言葉の位置が決まっている」「文法機能語に本来の意味がある」という特徴は「そして」と近いタイ語の形式に関わると考えるため、次節で分析する。

「語形変化がない」という特徴に関して、河部（1957）によると、タイ語は、語形変化、格変化がなく、品詞の活用もない。また、宮本（2003）によると、タイ語は、時制、性、数、相による語形変化がない。タイ語には、「語形変化がない」ことから、タイ人日本語学習者にとって、動詞や形容詞の活用を伴う接続助詞である「て形」「～くて」などより、動詞や形容詞の活用を伴わない接続詞である「そして」の方が習得しやすいと予測される。

タイ語の接続詞と接続助詞については、田中（2002）は、タイ語には、接続詞と接続助詞を兼務する言い方がいくつか見られると述べている。具体的に、以下の例では、「tɛɛ」（しかし）は日本語では接続助詞「が」でも接続詞「しかし」でも表されるが、タイ語ではその双方の区別がないという。

- (106) thəə chɔp ʔaahǎan cùut tɛɛ phǒm chɔp ʔaahǎan rót càt
 彼女 好き 料理 淡泊な しかし 私 好き 料理 味 濃い
 彼女は淡泊な料理が好きだが、私は濃い味の料理が好きだ。 (田中 2002 : 303)

(106) では、「tɛɛ」（しかし）は先行部の述語である「cùut」（淡泊な）と完全に独立している。

また、「そして」に関しては、タイ人日本語学習者の使用例として以下の例を挙げている。

(107) おいしいです。そして安いです。

(田中 2002 : 302)

上記の例では、接続助詞を用いて「おいしくて…」と言うべきところを接続詞を用いてそれぞれの内容を単文構成にて表されていると述べている。

以上のことから、日本語には接続詞と接続助詞の区別があるのに対し、タイ語にはこのような区別がないことがわかった。では、実際の場合では、接続詞と接続助詞の使用回数などはどうなっているのだろうか。I-JAS の検索システムを用いて、品詞を接続詞と接続助詞に設定し、ストーリーテリングと対話における日本語母語話者とタイ人日本語学習者の接続詞と接続助詞の使用回数を検索してみよう。なお、検索システムを用いたため、対話は、本研究の分析対象にした話題の「昨日の出来事」データのみではなく、他の話題について語られるデータも入っている。

表 32 接続詞と接続助詞の使用回数

品詞	ストーリーテリング		対話	
	JJJ	TTH	JJJ	TTH
接続詞	45	65	1,214	537
接続助詞	458	289	10,214	3648

表 32 から分かるように、どのタスクにおいても、日本語母語話者もタイ人日本語学習者も接続詞より接続助詞を多く使用している。また、どのタスクでも、日本語母語話者がタイ人日本語学習者より多く接続助詞を使用している。特に、対話においては、日本語母語話者が 10,000 回程度使用しており、約 3,500 回使用しているタイ人日本語学習者より 3 倍程度多く接続助詞を使用している。タイ人日本語学習者が日本語母語話者が使用している頻度で接続助詞が使用できていないのは、接続助詞の使用が難しいためだと予想される。

接続助詞の中で、「そして」と最も関わりがあるものは「て形」だと考えられる。森山 (2006) は、「そして」が「て形」から成立したという観点から、「そして」の用法を記述している。また、阪上 (2014) も、初級では「そして」を導入せずに「て形」で代用するという提案をしている。では、本研究のデータの「そして」と「て形」「～くて」

の使用回数はどうなっているのだろうか。ストーリーテリングにおける「そして」と、「てみる」「てくる」「ていく」「ている」のような複合動詞的な使用を除き、文をつなぐための「て形」の使用回数は以下のとおりである。なお、ストーリーテリングのみを対象にした理由は、対話では話題から大幅に展開されることが予想され、発話内容がある程度決定されているストーリーテリングの方が使用回数の違いを比較するのにより適切だと考えるためである。

表 33 ストーリーテリングにおける「そして」と「て形」「～くて」の使用回数

言語形式	JJJ	TTH
「そして」	13	46
「て形」「～くて」	87	107

表 33 を見ると、タイ人日本語学習者は日本語母語話者より両形式を多く使用していることがわかった。しかし、タイ人日本語学習者のデータを詳しく観察すると、流暢さが欠けており、「て形」や「～くて」を2回以上繰り返すことがある。このような繰り返しの使用は6回ある。

(108) (省略) でも、いろいろ準備しなければならないのでー、えーと、えーと、忙しくてー、えーとー、えーとー、忙しくてー、じす(地図)をー、調べて、調べたり、えーと、話したり、その(連体詞)間(あいだ)に、犬がーバスケット、に入ってしまった(しまいました)(省略) (TTH26 SPOT76)

(109) (省略) えっとー、着いた時、ピクニック、のバスケットを、押しておいて、えっとー、犬がピクニック、のバスケットの中からえっとー、何(なん)だ、飛び開けててかな、飛び開けてて、げん(ケン)さんとマリさんは、ピクニックの中にえっと、み、み、見て、えっとー、料理がうーん、料理は、しぬ(犬)、犬が食べてしまいました

(TTH30 SPOT66)

(110) (省略) そしてー、二人はえっとー、ピクニック(ピクニック)のところに行って、えっと、すいたら(着いたら)、バスケットを開けてて? {笑} 開けてて、犬が、んー飛ぶ、犬がー出て、二人はとってもびっくりしました(省略) (TTH46 SPOT70)

さらに、タイ人日本語学習者の「て形」の使用は不自然な場合がある。小口（2017）は、I-JAS の同ストーリーテリングの絵④の「意外な展開」のきっかけをつなぐ場面で学習者が「て形」をよく使用しているのに対し、日本語母語話者は「と」や「すると」を使用していると指摘している。小口（2017）では I-JAS の日本語母語話者のデータを 15 人分しか対象にしなかったのだが、本調査のように 50 人分を対象にした場合も、ここでは「と」の使用が最も多く、17 回観察された。また、小口（2017）では、タイ人日本語学習者が対象になっていないが、タイ人日本語学習者も同様に「と」より「て形」を多く使用している。タイ人日本語学習者が「意外な展開」のきっかけをつなぐ場面で「て形」を使用する回数は 14 回であり、その例は以下である。

（111）（省略）あのピクニック（ピクニック）、する、所に着いて、とバスケットを、開けて、その（連体詞）犬に、飛びました（省略）（TTH12 SPOT62）

（112）（省略）そして、ケンさんはバスケット、を開けて、犬、が、飛び、出—しまし、飛び出しました（省略）（TTH18 SPOT69（50）の一部を再掲）

（113）（省略）庭に行って、バスケットをあげて（開けて）、犬がジャンプして、ジャンプして、あの、出しました（省略）（TTH28 SPOT62）

他には、タイ人日本語学習者は、ストーリーテリングの絵⑤の「結末」をつなぐところでも多く「て形」を使用している。ここでは、日本語母語話者が「と」を最も多く使用しており、使用回数が 16 回になっている。タイ人日本語学習者は、ここで「て形」を使用する回数は 9 回であり、その例は以下である。

（114）（省略）えー、うー、バスケットの中に、見て、全部の食べ物は、犬に、食べられました（TTH04 SPOT77）

（115）（省略）で、バスケットの中に見て、全部の料理、あ、じゅん、準備した料理を残りました（TTH10 SPOT65）

（116）えーっとままりとケンはいーバスケットの中に見て犬はサンドイッチを全部食べました（TTH19 SPOT63）

以上のような「て形」の不自然な例を除くと、タイ人日本語学習者の使用回数が 84 回になる。反対に、日本語母語話者の「て形」の使用に、タイ人日本語学習者が「て形」を使う箇所で日本語母語話者が使用している「と」を合わせると、日本語母語話者の「て形」と「と」の使用回数が 120 回になる。

「て形」「～くて」と「そして」の使用回数と使用状況の調査から、タイ人日本語学習者は日本語母語話者より多く「て形」「～くて」を使用しているが、その使用が適切ではない場合があることがわかった。しかし、タイ人日本語学習者が「て形」「～くて」より「そして」を多く使用しているという結果は得られなかった。しかしながら、タイ語の「語形変化がない」という特徴から、特に初級学習者にとっては、語形変化を伴う「て形」より「そして」が用いやすいと予想される。

7.1.2 「そして」と近いタイ語の形式

初級文法教科書では語彙の索引に「そして」が次のように翻訳されている。

『大地』 ... lé²⁰... (文をつなぐために用いる)、léewkôo (123)

『あきこ』 léewkôo (129)

『みんな』 lé、léewkôo (文をつなぐために用いる) (151)

以上から、「léewkôo」は、どの教科書でも「そして」のタイ語訳として挙げられることがわかった。そのため、ここでは、第 6 章で確認したタイ人日本語学習者の使用の例を挙げながら、「léewkôo」の意味や用法を検討した上で、「léewkôo」というタイ語の形式がタイ人日本語学習者の「そして」の使用に与える影響を考える。

まず、「léewkôo」の意味を確認する。野津他(1999)は、「léew」は「終了する、完了する」という意味の動詞であるが助動詞として用いられた場合は「もう～してしまった」という動作の完了を表すと述べている。助動詞の他に、「léew」は「それから、じゃあ」などという接続詞としても用いられ、これはもともと前の文の終わりの「léew」が分離して、独立した機能をもつようになったものだと言っている。あとに「kôo」を伴って

²⁰ 宮本(2003)は、「lé」の意味を「と、そして」に訳し、文語的であり、語と語、節と節、文と文を接続することができると述べている。

「léewkôo」の意味、品詞、位置については、前節で挙げたタイ語の特徴にも当てはまる。接続表現として用いられる「léew」が本来の意味を持っているということは、「文法機能語に本来の意味がある」に当てはまる。また、「léew」が動詞、助動詞、接続詞として用いられることは、「品詞は流動的である」という特徴に一致する。さらに、「léew」と「kôo」の位置については、文が終わったところで「léewkôo」として用いられるが、後続部に主語がある場合、「kôo」は主語の後ろに付けなければならない。このように、「kôo」は、「ある特定の言葉の位置が決まっている」に当てはまる表現の一つである。

(117) raw thaan khâaw léɛw ʔòok pay dǎən.lên kan maa khâ
 私たち ²¹食べる ご飯 léɛw 出る 行く 散歩 一緒に 来る 終助詞
 私たちは食事を済んでから散歩をしに行ってきた。

宮本（2003）は、「 léwkwô 」について言及していないが、以下の例は、「 léw 」に「 kô 」を付けても不自然な文にならない。

²¹ 宮本（2003）では、それぞれの語彙に対応する日本語訳が付いていないため、筆者が付けた。以下、同様。

(120) chán cà khâw hōŋnáam kòon léewkô ca taampay khâ
 私 <未来> 入 トイレ 前に léewkô <未来> 追いかける 終助詞
 私はトイレへ行ってから行きます。

以上、日本語で書かれているタイ語についての記述では、「léew」または「léewkô」は「そして」ではなく「それから」に近い形式として説明されている。このことは、「そして」が「léewkô」と訳されているタイ語で書かれている、あるいはタイ語に訳されている日本語の文法教科書とは異なっている。

田中（2002）は、並列および付加表現の「そして」と物事の添加と時間的な前後関係を表す「それから」は以下のように「léewkô」で表されると述べている。また、「léewkô」には「そして」と「それから」の用法があることから、タイ人日本語学習者にとって、「そして」と「それから」の区別はほとんど見られないことも指摘している。

(120) máykhiitfay yùu nîi léewkô thîikhiabùrii yùu nôon
 マッチ ある ここ そして 灰皿 ある あそこ
 マッチはここにあります。そして灰皿はあそこにあります。

(121) khǎw sàtɛm léewkô kàrunaa sòŋ sɨŋkhǎw níi dúay
 下さい 切手 それから て下さい 送る 荷物 この 一緒に
 切手をください。それからこの荷物も一緒に送ってください。

(122) thaan ʔaahǎan léewkô khǎn còtmǎay
 食べる ご飯 そして²² 書く 手紙

食事をして、それから手紙を書きます。 (田中 2002 : 306)

以上のように、「léewkô」には「それから」と「そして」の用法があるため、「それから」の用法もある「léewkô」の基準で「そして」を使用する場合、以下のような「それから」との混同の誤用が見られる。

²² 田中（2002）では、この例は「それから」に対応する「léewkô」の使用の例であるが、語彙の訳として「そして」が使用されているため、そのまま引用した。

(124) (省略) えー修士論文の準備をなんかえー、して、いました、はい、はい、そして→それからえーと、ゆうかた（夕方）、はー、えー、はい、ともらち（友達）、ともらち（友達）に一、なんかえーとレパート（デパート）で、えと、会いに、会いに、行きました（省略）
 (TTH33 SPOT76 (6) の一部を再掲)

しかし、第 6 章で示したように、本研究の誤用分析では、「それから」との混同のみではなく、「でも」との混同、「すると」との混同、「だから」との混同も見られた。

(125) あーケン、ケンとマリはあー地図を、読ん、でいたところある犬、はバスケット
に入って、入りまし入りました

あーそして→でも、あーケンとマリは、し知ってい知りません（省略）

(TTH24 SPOT54 (82) の一部を再掲)

(126) はい、え、サンドウィッチサンドイッチを、作ってから一、ピクニック、の場所を一、あのしら、あの調べてしず（地図）を一あの見ました

そして→すると、あの一か、彼たちが、飼っている犬が一、ばすバスケットに一いりました（入りました）（省略）（TTH52 SPOT65（85）の一部を再掲）

(TTH52 SPOT65 (85) の一部を再掲)

(127) サンドイッチはバスバスケット、に、入って、おりました

ん、え、二人は、んー、ピクニックしようとおもっていまし（思っていました）

そして→だから、マリ、ケンとマリす、ケンさんとマリさんはじつ（地図）、あ公園、
じつ（地図）で公園を探し探します（省略）（TTH18 SPOT69（50）の一部を再掲）

(TTH18 SPOT69 (50) の一部を再掲)

このことから、「λέεωκῶ」には「そして」と「それから」以外の用法があると考えられる。

これらの混同する接続表現のうち、「すると」に関しては、宮本（2003）は「～したら～」、「～と、～」に対応する表現として、「(phoo) ~ kôo」を挙げており、二つの出来事がほぼ同時に起こる、あるいは起こったという意味合いの文を作るのに、時間的に少し先に起こる、あるいは起こった出来事を表す節の前に「phoo」を付けて、引き続いて起こる、あるいは起こった出来事を表す節の主語の後ろに「kôo」を付けると解説している。この場合、「phoo」は省略できる。また、関連している 2 つの出来事における必然性を表

す場合は、「phoo~ca」を用いることがあるとしている。例としては以下のように挙げている。

- (128) mûawaannii chán nùay mâak (phoo) klàp thúŋ bâan kôo khâw noon
昨日 私 疲れる ととも (phoo) 帰る 着く 家 kôo 入る 寝る
昨日、私はとても疲れたので、家に帰ったら（すぐ）寝た。

- (129) phoo năaw khon ca pen wát kan mâak
phoo 寒い 人 ca 引く 風邪 一緒に 多く
寒くなると、大勢の人が風邪を引く。 (宮本 2003 : 98)

以上のように、「(phoo)~kôo」あるいは「phoo~ca」が使用できる例に、以下のよう
に「léew」を挿入することも可能である。(130) では、「kôo」の前に付けることによっ
て、「léewkôo」となり、(131) では、引き続き起こる出来事を表す節の主語の前に
「léew」を、主語の後に「kôo」を付けることができる。

- (130) mûawaannii chán nùay mâak (phoo) klàp thúŋ bâan léewkôo khâw noon
昨日 私 疲れる ととも(phoo) 帰る 着く 家 léewkôo 入る 寝る
昨日、私はとても疲れたので、家に帰ったら（すぐ）寝た。

- (131) phoo năaw léew khon kôo ca pen wát kan mâak
phoo 寒い léew 人 kôo ca 引く 風邪 一緒に 多く
寒くなると、大勢の人が風邪を引く。

このように、タイ語においては、2つの出来事の関係に、同時性または必然性が含まれ
ている場合でも、「léewkôo」で表すことができる。「すると」の用法もある「léewkôo」
という基準で、「そして」を使用する場合、「すると」との混同が発生する。

「それから」と「すると」以外の時間的な関係性をつなぐ用法とは異なる用法を持っ
ている「だから」「でも」のような接続表現との混同については、片桐 (2016) は、「léew
(kôo)」をタイ語のできる日本語母語話者に日本語に翻訳してもらったところ、「léew
(kôo)」は「そして」のほかに「それから」「それで」「そしたら」「だから」「でも」
など様々な形式に対応することが明らかになった。この結果から、「léewkôo」は「そし

て」と異なり、前の発話との意味的な関係を強く求めず、対話場面において発話を組み立てていく時に広く用いられる形式であることを指摘している。「だから」「でも」の用法もある「léɛwkôɔ」という基準で「そして」を使用する場合、「だから」と「でも」との混同が発生する。

他には、本研究の調査では、他の接続表現との混同とは別の観点で、タイ人日本語学習者の「そして」の使用について、以下のとおり、「そして」の後ろに「？」が付いたり、「て」が伸ばされたり、「あの一」のようなフィラーが付いたりする現象も観察された。

(132) (省略) そして一？、あの一地図を一、見ている一間（あいだ）に？、ん、あの一、彼らの一、犬は一、彼ら、が一知らない時一に一、バスケットに、入りました（はいりました） (省略) (TTH01 SPOT70 (92) の一部を再掲)

(133) (省略) そして一、ん一、話し合ってから、あの一、ん一私は寮に戻りました、そして一、晩御飯は、寮に、りよ、あ一寮の辺、で、寮の辺で買いました、はい、それで自分の部屋で食べました、はい、そして一、あの一二十、二、え、二、十、え、七時（しちじ）、七時（しちじ）、は、あの一大学のそばにいる、あの一そ、そばにある、ん一市場（いちば）、へ行きました、それで、終わりました (省略) (TTH34 SPOT68 (102) の一部を再掲)

これらの例から、タイ人日本語学習者は、前後の意味関係を意識して接続表現として使用しているより、時間を稼ぐために「そして」を使用していると予測できる。タイ語の「léɛwkôɔ」も次のように同じように使われることがある。(134)の「léɛwkôɔ」の直後の「なんか」、(135)の「えっと」、そして(136)の間が観察されることから「léɛwkôɔ」は時間を稼ぐために使用される場合もあると考えられる。

(134) (役作りの参考にした女性の親友について話す)

kháw	mii	fɛɛn	léɛw	<u>léɛwkôɔ</u>	<u>bɛɛp</u>	raw	pen	mǔan
彼女	持っている	恋人	完了	<u>léɛwkôɔ</u>	<u>なんか</u>	私たち	である	似ている
phûan	sànit	kan						
友だち	仲いい	お互い						

彼女には彼氏がいます。僕たちはただの親友です。 (Woody FM : Nine Napat)

(135) (自分の人柄について話す)

phǒm wâa phǒm pen khon nàk khít yùu tàlòotweelaa léɛwkôɔ
僕 思う 僕 である 人 重い 考える いる いつも léɛwkôɔ
ʔəɔ pen khon thîi chòɔp waɔŋphěen ʔàray hây tua ʔeɛŋ
えっと である 人 マーカー 好き 計画 何 あげる 自分
tàlòotweelaa
いつも

自分自身が重い人間だと思います。常に考えているし、いつも自分のための何かの計画を立てています。

(Woody FM : Tor Thanapob)

(136) (幼い頃転んだ経験について語る)

pen phlěpen muǎnkan léɛwkôɔ (1秒ほどの間) khuu muǎnkap nǔu
である 傷跡 も léɛwkôɔ (1秒ほどの間) とは みたい 私
kôɔ nâŋ yùu sákphák
それで 座る いる しばらく

傷あとはまだ残っています。(転んだあと) しばらく座って…

(Woody FM : Cherprang BNK48)

以上のように、「léɛwkôɔ」は談話においてフィラーの役割も果たしているため、「léɛwkôɔ」の基準で「そして」を使用する場合は、接続表現が特に必要ではない箇所でもフィラーとしての使用が発生する。

以上の分析から、タイ語の「léɛwkôɔ」は「そして」や「それから」のような添加を表す用法よりも用法が幅広く、発話を組み立てていく時に用いることができ、時間を稼ぐフィラーのような用法もあることがわかった。また、第5章の日本語母語話者の使用の観察から分かるように、両タスクにおいては、「そして」が「重い情報」を結ぶところで使用されているが、「léɛwkôɔ」はそのような限定された用法はない。

このような「léɛwkôɔ」の幅広い用法は、「léɛw」の「終了する、完了する」という本来の意味と「kôɔ」の条件節を受けて主節を導く機能にも関係があると考えられる。発話を組み立てていく時にタイ語母語話者は接続の意味関係を考えずに、先行部の発話を「終了する、完了する」というマーカーとして「léɛwkôɔ」を使用しているのではないだろう

か。フィラーとして使用する場合、先行部の発話が「終了、あるいは完了」したことを後続部が発話できるまで、繰り返し発話し、他のフィラーとともに使用したりしている。

7.2 これまでの導入方法の影響

タイ人日本語学習者の「そして」の使用に影響を与えるもう一つの要因は、これまでの導入方法に欠けている点があることにあると考えられる。倉持他（2007）は「そして」は学習者がよく聞き、いろいろな意味に使える便利な表現だと認識している接続詞であると報告している。阪上（2014）は、倉持他（2007）が報告した「そしてをよく聞く」要因は、教科書で初級前半に導入されており、「て形」の導入以前は「そして」で代用されていることにあると指摘している。ここでは、教科書における「そして」の扱い、他の接続表現の扱いとストーリーテリングや対話などのような談話の構成に関する導入、その他の導入に分けてどのように影響があるかを考える。

7.2.1 教材における「そして」の扱い

7.1 で見たように、「そして」とタイ語の「lɛɛwkôɔ」は用法と談話における役割に違いがあるものの、『大地』『あきこ』『みんな』という初級文法教科書では、新出語彙として「そして」が出現する際、タイ語訳が「lɛɛwkôɔ」であることが記載されている。『大地』と『みんな』では「そして」の用法として、文をつなぐために用いることが述べられているが、前後の関係性などについては言及されていない。また、先行研究では、「そして」がやや書き言葉的であると指摘されているものの、『みんな』では、「そして」は、会話形式の例文に出現し、さらに練習も会話形式になっている。

(137) きのうち 松本さんの うちへ 行きました。

…どんな うちですか。

きれいな うちです。 そして、大きい うちです

pen bân thîi sǔay lɛɛwkôɔ yày khâ?

である 家 マーカー きれい lɛɛwkôɔ 大きい 終

（『みんな』第8課例文：148、タイ語訳：152）

一方でタイ人日本語学習者向けの教科書である『あきこ』では「そして」は(138)のように読解に現れる。

(138) (省略) 月よう日から 金よう日まで じゅぎょうは あさ 8じはんに はじまります。ごご 3じ10ぷんに おわります。そして、月よう日と 水よう日と金よう日には じゅくの じゅぎょうも あります。(省略)

(『あきこ』3課よんでみよう : p.112)

『あきこ』では、(138)のように、読解に出現し、会話形式での導入および練習がないことは評価できるが、他の教科書と同様に、語彙リストには「léewkôo」のみが記述されており、「léewkôo」との違いなどについての解説は見られない。

また、3冊の教科書とも、「そして」は初級前半で扱われている。初級前半で「そして」の意味として「léewkôo」と紹介され、「そして」が含まれている会話も導入される。このような導入を受けたタイ人日本語学習者は、初級レベルから様々な意味関係を表す用法を持ち、フィラーとしても使用できる「léewkôo」と同じ基準で、他の接続表現がより適切な箇所や接続表現の使用が不要な箇所で、幅広く「そして」を使用していると考えられる。

さらに、「そして」は名詞修飾節がある場合に名詞を並列的につなぐために用いられるのだが、この用法の説明が初級教科書と接続表現などをテーマにした教材にはない。他に、繰り返し用いられることが少ないことも言及されていない。

7.2.2 教材における他の接続表現の扱い

第6章の誤用分析からわかるように、タイ人日本語学習者は他の接続表現との混同やフィラーとしての使用もあるため、これらの接続表現やフィラーの導入についても分析する必要がある。

まず、第6章で観察されたタイ人日本語学習者が「そして」と混同した接続表現は初級教科書では新出語彙として、どの課に取り上げられているかを見てみる。なお、初級教科書のみにしたのは、「そして」が初級前半で導入されることが多いため、「そして」と比較し、他の接続表現も同様に初級ではどのように導入されているかを確認した方がいいと考えるためである。

以下の表に示す数字は、その接続表現がそれぞれの初級教科書において導入される課を表している。また、初級のどの時点で導入されるかを把握するために、それぞれの初級教科書の課の数も示しておく。なお、接続表現については、市川（1978）の類型を参考に、表示している。

表 34 混同した接続表現接続表現の導入課

類型		接続表現	導入される課		
			『大地』	『あきこ』	『みんな』
順接型	順当	だから	27	-	17 (ですから)
		そこで	-	-	-
		それで	39	26	28
	きっかけ	すると	-	28	-
逆接型	反対・単純な逆接	でも	11	3	19
添加型	累加、単純な添加	<u>そして</u>	7, 42	3	8
	追加	それから	4	5	6,17
		しかも	-	-	-
課の数			42	29	50

表 34 を見ると、接続表現の導入に関しては、同じ課に取り上げられることはなく、教科書によって導入順序が異なっている。しかし、傾向として、「そして」のような「累加、単純な添加を表す添加型」あるいは「それから」のような「追加を表す添加型」から導入してから、「でも」のような「反対・単純な逆接を表す逆接型」、「だから」のような「順当を表す順接型」を導入するという順序が一般的である。一方、「すると」のような「きっかけを表す順接型」については、導入されないこともある。

まず、「そして」と導入時期に近い「それから」に関しては、7.1.2 で挙げた日本語で書かれたタイ語についての記述において、「それから」は「lɛ̀ɛwkôɔ̀」に対応すると解説されている。しかし、タイ語で書かれた 3 冊の日本語の教科書を確認すると、「それから」は「lǎŋcàaknán」に訳されている。「lǎŋcàaknán」の語源を直訳すると、「lǎŋ」が「後」、「càak」が「から」、「nán」が「それ」という意味であり、「lǎŋcàaknán」は「それから後」という意味になる。田中（2002）によると、時間の前後関係を意図して表す時は「lɛ̀ɛwkôɔ̀」よりも「lǎŋcàaknán」という言い方をした方が明示的である。しかし、実際の発

話場面では、明示的な前後関係を意図する必要がないため、「lǎŋcàaknán」ではなく、「léɛwkôɔ」を使用することが一般的である。『みんな』では、「それから」を含む文において「それから」が「lǎŋcàaknán」と訳されるが、この「それから」も「léɛwkôɔ」に訳しても非文にならない。

(139) 土曜日何をしましたか。

・・・日本語を勉強しました。それから友達と映画を見ました。

phǒm rian phaasǎayîipùn lǎŋcàaknán kôɔ duu nəŋ kàp phuân khráp
僕 勉強 日本語 lǎŋcàaknán マーカー 見る 映画 と 友達 終

(みんなの日本語 第2版 タイ語版 第6課例文：118、タイ語訳：122)

(140) phǒm rian phaasǎayîipùn léɛwkôɔ duu nəŋ kàp phuân khráp
僕 勉強 日本語 léɛwkôɔ 見る 映画 と 友達 終

日本語で書かれたタイ語の教材である宮本（2003）では、「lǎŋcàaknán」は文法項目として取り上げられていない。その理由は、「lǎŋcàaknán」は日常的な会話であまり使われていないためだと考えられる。そのため、タイ人日本語学習者にとっては、教科書において「lǎŋcàaknán」と訳された「それから」より「léɛwkôɔ」と訳された「そして」の方が使いやすい。

また、初級文法教科書には、以下のような読解文があるが、「そして」と「それから」は完全に同じ意味を持っていることが読み取れる。本研究の調査からわかるように、日本語母語話者は対話において予定などを語る時、「重みのある出来事」に関わりがあるところでは、「そして」を使用していることがわかったが、以下の例ではその使用が反映されていないと言える。

(141) こんにちは。ポンです。みなさんは ほうかご いつも 何を しますか。わたしは 1時間ぐらい しゅくだいを します。7時に ばんごはんを 食べます。そして おさらを あらいます。それから じぶんの へやで ラジオを 聞きます。わたしは あまり テレビを 見ません。 (『あきこ』第5課よんでみよう：11)

(142) わたしは トモです。 サントスさんの うちに います。 わたしは 毎朝 奥さんと 散歩に 行きます。 8時ごろ テレーザちゃんと学校へ 行きます。 それ

から うちへ 帰ります。 そして、奥さんと買い物に 行きます。 午後 学校へ
テレザちゃんを 迎えに 行きます。 それから いっしょに 公園へ 遊びに 行き
ます。週末は テレサちゃんの 学校と サントスさんの 会社は 休みです。（省略）

（『みんな』第 13 課問題：49）

このように初級文法教育において、「そして」と「それから」の相違点が積極的に解説
されていない。また、木村他（1998）や庵他（2013）のような接続表現などをテーマに
した教材に両者の相違点が記述されているが、タイ語に翻訳されず、上級学習者が混同し
ていることから、これらの教材は十分に参考にされていないと予想される。「それから」
と「そして」の用法の違いが説明されず、「そして」が「lɛɛwkɔɔ」として導入される場合
は、タイ人日本語学習者は、「それから」の用法もある「lɛɛwkɔɔ」の基準で「そして」を
使用する。このような基準で「そして」を使用する場合、「それから」との混同が発生す
る。

次に、逆接型の接続表現については、『みんな』では、第 19 課で導入される「でも」
に先立ち、第 8 課に以下のように添加関係の場合は「そして」を使用し、逆接関係の場合
は「が」を使用するような練習がある。

（143）日本の 地下鉄（便利、きれい）

→ 日本の 地下鉄は どうですか。

・・・便利です。 そして、きれいです。

日本の 車は（高い、いい）

→ 日本の 車は どうですか。

・・・高いですが、いいです。

（『みんなの日本語初級 I 第 2 版 タイ語版』第 8 課練習 B：158（2）を再掲）

しかし、「でも」の使用が適切なところで「そして」が使用される誤用が発生したこと
から、逆接関係を強く強調する必要がない場合はタイ語では、「lɛɛwkɔɔ」で表せる。発
話の場合、意味関係も意識する必要があることが説明されず、「そして」が「lɛɛwkɔɔ」
として導入される場合は、タイ人日本語学習者は、「でも」の用法もある「lɛɛwkɔɔ」の基

準で「そして」を使用する。このような基準で「そして」を使用する場合、「でも」との混同が発生する。

また、「だから」や「すると」のような順接型の接続表現については、導入が遅い、あるいは初級で導入されないこともある。順接型の接続表現に関する知識がない場合は、タイ人日本語学習者は、「だから」「すると」の用法もある「léɛwkôɔ」の基準で「そして」を使用する。このような基準で「そして」を使用する場合、「だから」や「すると」との混同が発生する。

接続表現とは別に、タイ人日本語学習者が「そして」をフィラーとして発することがある。タイ語の「léɛwkôɔ」は、時間を稼ぐために使用されることがあるが、日本語の「そして」にはその用法がない。「léɛwkôɔ」がフィラーとして使用できることはこれまでの研究では指摘されず、「そして」にはフィラー的な用法がないということもこれまでのタイにおける日本語教育では、重視されてきていない。「そして」がフィラーとして使用できないという導入がない場合は、タイ人日本語学習者は、フィラーとして使用できる「léɛwkôɔ」の基準で「そして」を使用する。このような基準で「そして」を使用する場合、フィラーとしての使用が発生する。

7.2.3 談話の構成に関する導入

これまでの導入方法に欠けている点に関して、「そして」と他の接続表現の用法に関する言語的な導入方法のみではない。タイ人日本語学習者は、出来事の重さを区別しながら、それぞれのタスクにおける「重い情報」をつなぐところで「そして」が使用できていない。このことから、ストーリーテリングや対話などのような談話の構成やそのタスクを遂行させるために必要な接続表現の使用とタスクにおけるそれぞれの文の役割に関する導入は十分ではないと言える。

ストーリーテリングに関しては、例えば、本調査で用いた絵のストーリーは、「導入」「継起的な出来事」「時間／空間的な展開」「意外な展開」「結末」のような構成から成り立つのだが、この構成に慣れさせるような練習は初級文法教科書にはない。初級文法教科書である『あきこ』では、以下のようなストーリーテリングを読解として読ませる練習

がある。しかし、読解の場合は、表現や構成より内容に注目する可能性があるため、この導入方法のみでは、日本語のストーリーテリングの構成が把握できないだろう。

(144) プラートーンの物語

(省略) ウアイは毎日仕事が終わってから、川へ行って一匹きの魚にえさをやりました。この魚はウアイの死んだお母さんでした。このことを知った新しいお母さんは、その魚をころしてしまいました。ウアイはなきながら、魚を土の中にうめました。すると、そこからきれいな金の木がはえてきました。その木はとてもきれいだったので、国中で有名になりました。

(『あきこ』第28課よんでみよう：101)

また、対話の『昨日の出来事』については、初級文法教科書においては、以下のように、一日の出来事を読解文として取り上げられることはあるものの、どの文が「重みのある出来事」か、どの文がそうでないかのような役割と接続表現との関係を確認させるような練習はない。

(145) こんにちは。ポンです。みなさんは ほうかご いつも 何を しますか。わたしは 1 時間ぐらい しゅくだいを します。7 時に ばんごはんを 食べます。そして おさを あらいます。それから じぶんの へやで ラジオを 聞きます。わたしは あまり テレビを 見ません。 (『あきこ』第5課よんでみよう：11 (141) を再掲)

一方、初級教科書とは異なる教師向けの参考書である日本語教授法シリーズの「書くことを教える」をテーマにした国際交流基金(2010)では、書く能力を高める指導のポイントとして、文章の構成が取り上げており、文をつなげるためには、接続詞や文型、指示語の学習が大切であると述べている。一方、「話すことを教える」をテーマにした国際交流基金(2007)では、インタビュー、スピーチ、ディスカッション、ロールプレイというタスクを取り上げており、特にスピーチについては、構成がしっかりしているとしている。スピーチの構成として、「スピーチの開始」「出来事の時間の設定」「問題の発生」「予想外の出来事の発生」「問題の解決に向けた行動」「出来事に対する感想を述べる」「スピーチの終了」を挙げながら、談話能力に関わる表現や接続詞を以下のような談話を

用いて、スピーチ全体の流れの中で示し、談話能力に関わる表現が用いられるところに注目させる導入方法を提案している。

(146) きょうは私が日本で体験したちょっといやだったことについてお話したいと思います。

それは、日本に来てすぐのことでした。

私は友だちといっしょに大阪でご飯を食べることになりました。友達と「改札の前の花屋で待ち合わせをしましょう」と約束しました。でも、大阪駅に着いて、改札を出たら、花屋がありませんでした。私は、道に迷ってしまったことに気が付きました。そこで、近くにいた女の人に「すみません。この近くに花屋はありますか」という日本語で聞きました。すると、その女の人私の顔を見てびっくりして、「No, No, English」と言いながら、行ってしまいました。その女の方はとても急いでいるようでした。そこで、今度はベンチで座っている男の人に聞くことにしました。「すみません。改札の前にある花屋を探しているんですけど・・・」と日本語で話しかけてみました。すると、その男の方はとても上手な英語で「西口の改札の前ですよ」と言いました。

私は、そのとき、ちょっといやな感じがしました。私は、日本語で聞いているのに、どうして日本人は、英語で答えるのでしょうか。日本人は、外国人をみると、みんな英語しか話さないと思うようです。

きょうは、私の日本での体験についてお話ししました。みなさんはどう思われるでしょうか。

(国際交流基金 2007 : 42、国際交流基金 関西国際センター
『初級からの日本語スピーチ』 (145-146) (凡人社) を利用)

このように、書くことも話すことも、教える際には、構成や接続表現を学習者に注目させることが重要であると述べた参考書がある。国際交流基金 (2007) が挙げるスピーチの構成も本調査で用いるストーリーテリングと似ているが、第 3 者の視点でストーリーテリングをする場合の構成は記述されていない。また、特に意外な展開を語る必要のない出来事の連鎖を語る場合の構成もない。さらに、談話の中の「重い情報」かどうかを意識させる練習などもない。談話の構成とそれぞれの文の役割の区別に関して導入されない場合は、タイ人日本語学習者は出来事の区別ができず、日本語母語話者が「重い情報」をつなぐところでの「そして」の用法が理解できない。この場合は、タイ人日本語学習者は、

「重い情報」とは関係なく、どのような出来事でもつなぐことができる「lɛɛwkôɔ」の基準で、「そして」を多く使用している。

7.2.4 その他の導入方法の問題点

ここでは、その他の導入方法の問題点を述べる。I-JAS 調査実施者とタイ人日本語学習者との対話データから、以下のように調査実施者が「そして？」を使用し、あたかも学習者に「そして」を使用させるという行為が観察された。

- (147) 4 C 何（なん）という名前？ライ（ライン。アプリ名）？
- 5 K ライン（アプリ名）
- 5 C あ、ライン（アプリ名）〈はい〉あー、LINEね、ライン（アプリ名）ね、はい
- 6 K はい、ライン（アプリ名）
- 6 C おー、そして？それはだから
- 7 K あー、そして
- 7 C そ、それは私もよくわからないんですけど
- 8 K はい
- 8 C そのソーシャルネットワークのライン（アプリ名）と

(TTH31 SPOT55 (93) の一部を再掲)

タイ人日本語学習者が I-JAS 調査実施者の「そして？」の後で、「そして」を繰り返すことがある。「そして？」で聞かれることによって、「そして」は実際の日本語の会話でよく使われる表現であることを意識する可能性がある。そのため、タイ人日本語学習者が様々な出来事をつなぐところで、「そして」を多く使用している。

7.3 I-JAS の調査の実施方法の影響

第 4 章のタスクを選定した過程の説明からわかるように、ストーリーテリングと対話を含む I-JAS の全タスクにおける「そして」の使用回数を検索した場合も、タスクによって使用回数が異なることがわかった。発話データか作文データかという観点で分析した場合、同一課題の内容が課されたストーリーライティングよりストーリーテリングでの「そして」

の使用の方が多いことがわかった。本研究で対象にしたタスクは両方とも発話データであるが、発話データでは、作文データより意味関係を考えず発話し、フィラーも発することが多いと考えられる。しかし、同じ発話データであっても、第 6 章での使用の確認からわかるように、タスクによって、「そして」のレベル別の誤用、多用、その他の使用状況が異なり、これはタスクの構成や内容によるものであることがわかった。

第 5 章ではタスクによる「そして」の使用の相違点について、第 6 章ではタスクによる使用の変容について考えたが、ここでは、I-JAS の調査方法を確認しながら、心理的な要因としてタスクの実施方法が「そして」の使用に与える影響を考える。分析する項目は、対話相手の有無、準備時間の有無、発話内容の事前確認の有無である。

7.3.1 対話相手の有無

迫田（2002）によると、対話相手の心理は中間言語の変異に影響を与える要因の一つである。本研究の調査では、ストーリーテリングも、対話も、I-JAS 調査実施者と対面で行われたが、ストーリーテリングでは、被調査者が一方的に発話することになっているのに対し、対話では、I-JAS 調査実施者が対話相手として参加し、自然な会話のような形で相互に発話することになっている。第 6 章で確認したように、ストーリーテリングでは、上級学習者が誤用や多用をしないのに対し、対話では、上級学習者が「それから」が適切な箇所ですべて「そして」を使用してしまうことがある。このことから、初対面の対話相手がいる場合、学習者が緊張することによって、上級学習者になっても誤用したり、フィラーとして「そして」を使用したりすることもある。

7.3.2 準備時間の有無

第 4 章のデータ概要の説明からわかるように、ストーリーテリングを実施する前に、被調査者がストーリーの内容を確認するために 1 分設けられたのに対し、対話の場合は、I-JAS 調査実施者との自然な会話の流れで実施されたため、それぞれの質問に対して考える時間は与えられなかった。小口（2018）によると、学習者は、即時的な処理が要求される「話す」タスクより「書く」タスクの方が、母語話者と類似の形式を多く使用していた。本研究で用いたデータはストーリーテリングも対話も発話データであるが、ストーリーテリングより対話の方が即時的な処理が要求されると考えられる。準備時間が設けられるストーリーテリングの方が準備時間が設けられない対話より誤用が発生しにくく、時間を稼

ぐための「そして」の使用も少ない。上級学習者は、対話において「そして」を誤用しており、わずかであるが、「そして」の繰り返しもしたのは、準備時間が設けられないことが要因の一つである。

7.3.3 発話内容の事前確認の有無

ストーリーテリングでは、ストーリーが決まっているため、学習者は与えられた絵を頼りに話ることができる。I-JAS でストーリーテリングを導入した理由については、迫田他（2016）によると、インタビュー調査では、学習者からの発話量を十分に引き出せないという問題などが生じる可能性が考えられるためである。一方、対話では、自分自身の行動を話ることになっているにも関わらず、事前に質問が分からないまま、瞬間的に頭の中で出来事を思い出しながら語らなければならない。対話の方が発話するまでのプロセスが長く、負担もより大きいことから、上級になっても誤用をする。

7.4 レベルに伴う要因の変化

これまで、タイ語の影響、これまでの導入方法の影響、I-JAS の調査の実施方法の影響という 3つの観点から要因を考察してきた。これまでの「そして」の使用に影響を与える要因の考察として、タイ語の影響を考察した研究（片桐 2016 など）と教科書における扱いを分析した研究（阪上 2014 など）が別々に行われてきた。しかし、本研究で同時にこの 2つの観点で考察した場合、複数の要因は密接に関連していることがわかった。具体的に言えば、タイ語の形式である「léewkôo」と「そして」に違いがあるにも関わらず、教科書には「léewkôo」が「そして」のタイ語訳として掲載されている。このことから、タイ人日本語学習者が早い段階から「léewkôo」の用法を基準にして「そして」を使用しているが、誤用や多用が多いことがわかった。また、本研究では、教材における他の接続表現の扱いも分析対象にした。初級では、「それから」のタイ語訳としてタイ語の日常会話であまり使用されていない語彙が挙げられていることから、「léewkôo」として訳されている「そして」の方が用いやすいことがわかった。この結果は「そして」の導入方法を考える際に、「それから」との違いを説明する時に必要になってくると考えられる。

また、第 6 章で確認した各レベルのタイ人日本語学習者の使用を根拠に、「そして」の使用に影響を与える要因はレベルに伴って変化すると言える。ここでは、各レベルの使用を参考に、それぞれの要因が与える使用とレベルを表でまとめてから、レベルに伴う要因

の変化を考える。なお、教師がフォリナートークあるいはティーチャートークとして「そして？」を使用することに関しては、要因は教師側にあるため、どのレベルまで影響を与えるかを分析できないが、レベルが上がるにしたがい、発話内容の輪郭が取りやすくなれば、このようなフォリナートークもなくなると予想される。

以下の表は、タイ語とこれまでの導入方法がどのように、またどのレベルまで不自然な使用に影響を与えるかを表している。レベルに○が付いている場合は、そのレベルでその使用が観察され、その要因がそのレベルでのその使用に影響を与えているのに対し、×が付いている場合は、そのレベルでその使用が観察されず、その要因がそのレベルでのその使用に影響を与えていないことを意味する。また、ストーリーテリングと対話では、異なる使用が見られることから、タスクの種類にも関係があると考えられる。ここでは、タスクが与える心理的な影響として、I-JAS の調査実施方法が挙げられるため、表の下に記述している。

誤用の種類に関しては、どのような類型との混同かをわかりやすく示すために、その類型の代表的な接続表現を表記して示す。

「多用」については、日本語母語話者の使用回数を参考に、それを超える場合は、多用と判断する。具体的に、ストーリーテリングでは、2回を超える使用、対話では、3回を超える使用を多用と判断する。

「フィラーとしての使用」は、日本語母語話者と異なり、「そして」をはっきりと発音せず、接続関係を意識せずに時間を稼ぐかのようにフィラーとして使用することである。

「「重い情報」以外の使用」は、ストーリーテリングでは「主な出来事」に導くところ以外での使用、対話では「重みのある出来事」をつなぐところ以外での使用である。

表 35 使用に影響を与える要因とレベル

タイ語の影響	これまでの導入方法の影響	使用		ストーリーテリング			対話		
				初級	中級	上級	初級	中級	上級
・「léewkôo」の「だから」用法	・「だから」の導入がより遅い	誤用	「だから」混同	×	○	×	×	○	×
・「léewkôo」の「すると」用法	・「すると」の導入がより遅い		「すると」混同	×	○	×	×	×	×
・「léewkôo」の「でも」用法	・「でも」の導入がより遅い		「でも」混同	○	○	×	×	×	×
・「léewkôo」の「それから」用法	・「それから」のタイ語訳が日常会話で用いられない		「それから」混同	○	○	×	○	○	○
・「léewkôo」のフィラー使用	・フィラーとして使用できないという導入がない		付加	○	○	×	○	○	○
-	-	多用		○	○	×	×	○	×
・「léewkôo」のフィラー使用	・フィラーとして使用できないという導入がない	フィラーとしての使用		○	○	×	○	○	○
・「léewkôo」の「重い情報」以外で利用できる用法	・談話の構成の導入がない	「重い情報」以外の使用		○	○	×	○	○	○

*多用は様々な使用が繰り返されるため、特定の要因を特定することができない。

*本調査で確認した使用から、タイ語の特徴が要因である使用はどれか判断できない。

I-JAS 調査実施方法の影響

- ・対話相手の有無
- ・準備時間の有無
- ・事前確認の有無

表 35 で示したレベル別の使用を見ると、どのタスクにおいても初級レベルから他の接続表現との混同や多用などが観察された。「そして」は、初級教科書では、他の接続表現と比べ早い段階で導入され、タイ語訳として「léewkôo」が紹介されている。しかし、「léewkôo」は「そして」と異なり、「それから」「でも」「すると」「だから」の意味も含まれており、フィラーとしても利用できる。「そして」の導入の際は、このような「そして」と「léewkôo」の違いはほとんど言及されていない。また、「それから」「でも」「すると」「だから」が導入される時には、これらの表現と「そして」の違いや、日本語

の発話では意味関係を配慮する必要があることは教室の活動では取り上げられていない。また、談話の構成や談話におけるそれぞれの文の重みに関する導入がない。このようなことから、タイ人日本語学習者は、「léɛwkôɔ」の幅広い用法を基準とし、「そして」を使用している。

タイ人日本語学習者がこのように、より適切な接続表現の代わりに「そして」を使用しているということは、タイ人日本語学習者にとっては「そして」はコミュニケーション・ストラテジーのようなものである。コミュニケーション・ストラテジーに関しては、迫田（2002）は、自分の知識や能力が足りなかったり、言葉や表現が思い出せなくてコミュニケーションに支障をきたした場合に学習者がとる行動や態度のことであると定義し、種類として言い換え、母語使用、援助要請、回避行動をまとめている。タイ人日本語学習者は、コミュニケーション・ストラテジーとして、「そして」より遅く導入される他の接続表現の知識が足りない時などに代わりに母語である「léɛwkôɔ」の幅広い用法を基準とし、「そして」を使用したり、言葉が思い出せない時にフィラーとして「そして」を発したりしている。

しかし、レベルが上がるにしたがって、「そして」を使用する時の基準も変わっていく。例えば、表 35 で示した中級学習者と上級学習者の他の接続表現との混同を比較すると、中級学習者は、「それから」「だから」「すると」「でも」との混同の誤用をしているのに対し、上級学習者は、混同については、「それから」との混同しか観察されなかった。このことから、中級レベルでは、「léɛwkôɔ」の「それから」「だから」「すると」「でも」用法が使用に影響を与えている。一方、上級学習者は、「だから」「すると」「でも」の用法を学習し、習得したため、「そして」は「léɛwkôɔ」と異なり、「だから」「すると」「でも」を表すために使用できないことを理解していると考えられる。しかし、上級レベルでは、「léɛwkôɔ」の「それから」の用法や初級での「それから」の導入がまだ使用に影響を与えている。田中（2002）は、「léɛwkôɔ」には「そして」と「それから」の用法があることから、タイ人日本語学習者にとって、「そして」と「それから」の区別はほとんど見られないことを指摘している。上級学習者にとっても、日本語の接続表現において同じ類型と分類されている「そして」と「それから」（市川 1978）の使い分けが困難である。

さらに、表 35 で示したそれぞれのタスクの使用を見ると、タスクによって使用が異なっていることから、タスクの性質も使用に影響を与えられられる。第 6 章では、タスクの構成や内容によって、誤用の種類が変容すると述べたが、心理的な面でタスクの実施

方法によって、レベルが上がっても、不自然な使用がなくなる場合がある。具体的に、対話相手があり、準備時間もなく、発話の内容も事前に確認できていないという対話タスクでは、上級レベルまで誤用やフィラーとしての使用が観察された。

以上、第 7 章では、タイ語の影響、これまでの導入方法の影響、タスクの実施方法の影響という 3 つの観点から要因を分析し、確認したレベル別の使用に基づいて、どのレベルまで影響を与えるかを考察した。考察したそれぞれのタスクにおける各レベルの使用に影響を与える要因を参考に「そして」の導入方法を考えれば、タイ人日本語学習者は、誤用や多用をしないように、ジャンルに合わせてそれぞれのレベルに合ったような使用ができると考える。第 8 章では、第 7 章で考察した諸要因をなくすための導入方法をレベルごとに提案する。

第8章 各レベルの学習者のための導入方法

第8章では、第4章で述べた本研究の最終目的である「各レベルのタイ人日本語学習者のために「そして」の効果的な導入方法を提案すること」について論じる。「そして」を含む接続表現の導入方法を考える際、どのような内容で導入すれば効果的であるか、また、いつ導入すればいいかという2つのことを考えなければならない。まず、8.1では、確認した使用とその要因から、「そして」にあたっての説明事項を列挙する。次に、8.2では、「そして」の導入時期に関わる要因について考える。それから、8.3では、タイ人日本語学習者のレベルごとの具体的な導入方法を提案する。8.4では、「そして」を中心とした接続表現の導入にあたる留意点を挙げる。最後に8.5では、本研究で提案した導入方法の特徴について考える。

8.1 「そして」にあたっての説明事項

ストーリーテリングと対話の話題「昨日の出来事」における「そして」を中心に日本語母語話者とタイ人日本語学習者の接続表現の使用を確認し、タイ人日本語学習者の使用に影響を与える要因を考察した結果から、「そして」の導入をめぐって、「そして」の用法、「そして」とタイ語の形式との相違点、談話の構成との「そして」の関係、日本語母語話者が使用する他の接続表現という4つの観点から「そして」にあたっての説明事項を挙げるができる。それぞれの詳細は以下のとおりである。

8.1.1 「そして」の用法

まずは先行研究で記述されている「そして」の基本的な知識として、「時間」と「並列」を表す用法、やや書き言葉であること、繰り返し用いられないことは説明した方がいいだろう。次に、本研究の日本語母語話者の「そして」の使用の確認からわかったストーリーテリングにおける「主な出来事」に導く「そして」の用法や、対話における「重みのある出来事」をつなぐ用法についての説明も必要である。他には、名詞修飾節がある場合での使用も日本語母語話者のデータから観察されたため、導入する必要がある。

8.1.2 「そして」とタイ語の形式との相違点

タイ人日本語学習者の「そして」の使用に影響を与える要因の考察から、タイ人日本語学習者は初級文法教科書に掲載されているタイ語訳である「lɛɛwkôɔ」の用法を基準として「そして」を使用していることがわかった。「そして」は「lɛɛwkôɔ」と異なり、発話を組み立てていく時に幅広く使用できず、時間を稼ぐために使用することもできないことについては、積極的に説明する必要がある。タイ人日本語学習者が「でも」「すると」「だから」「それから」がより適切な箇所では「そして」を使用しており、フィラーとしても使用していることから、これらの接続表現やフィラーも取り上げて同時に説明する工夫が挙げられる。他には、日本語とタイ語の特徴として、語形変化の有無、接続詞と接続助詞の概念なども説明した方がいいだろう。

8.1.3 談話の構成

日本語母語話者の使用の観察から、「そして」の使用が談話の構成と関連していることがわかった。また、従来の導入で欠けている点として、それぞれの談話の構成と談話におけるそれぞれの文の役割に関する説明が不十分であることが挙げられる。具体的に、ストーリーテリングでは、「導入」「意外な出来事」「結末」のような構成から成り立つ。これらの構成にそって話を展開させるために重要な出来事が「主な出来事」であり、展開させるために重要ではない出来事が「周辺的な出来事」である。対話の話題である「昨日の出来事」では、昨日の日常的な出来事と、事前に予定された出来事から成り立つ。日常的な出来事は一日の中で「重みのある出来事」ではなく、事前に予定された出来事は「重みのある出来事」である。「そして」の使用は、これらのタスクの構成に関係があり、ストーリーテリングでは、それぞれの構成の「主な出来事」に導くために使用され、対話では、「重みのある出来事」をつなぐために使用されている。タイ人日本語学習者はこれらの談話の構成が把握できずにどのような箇所でも「そして」を使用しているため、出来事を区別させるような練習が必要であると考えられる。

8.1.4 日本語母語話者が使用する他の接続表現

学習者に対して幅広い接続表現の使用が求められるレベルでは、「そして」以外にも他の接続表現を導入する必要がある。日本語母語話者の他の接続表現を参考にし、日本語母語話者がどのような箇所で、どのような接続表現を使用しているかも提示する必要がある。

このような接続表現は、例えば、日本語母語話者が幅広く使用している「で」「て形」や「意外な出来事」および「結末」のきっかけをつなぐ「と」などの使用が挙げられる。

また、日本語母語話者が「そして」を使用する場合、セットとして、特定の形式を使用することが観察された。例えば、(148)と(149)のように、ストーリーテリングでは、「意外な展開」から絵が変わる時に「そして」を、「結末」のきっかけをつなぐところに「と」を使用しており、「そして～と」というセットで使用している。一方、対話では、(150)のように「重みのある出来事」を結ぶところで「そして」を使用し、「日常的な出来事」を結ぶところで「～たり」を使用しており、「～たり、～たり。～そして」というセットで使用している。

(148) (省略) バスケットを開けてみると犬が中から飛び出してきました

そしてバスケットの中を見ると先ほど作ったはずのサンドイッチ（サンドイッチ）や、果物食べ物が全部食べられてしまってます {笑} (JJJ09 (58) の一部を再掲)

(149) (省略) お昼時（どき）に、えーとバスケットからサンドイッチを取り出す時に、犬がバスケットから突然出てきたのでケンとマリはびっくりしてしまいました

そしてすバスケットの中を覗くと、朝作ったはずのサンドイッチが、食い荒らされ、た状態になっていたの、ケンとマリはお落ち込んでしまいました

(JJJ21 (59) の一部を再掲)

(150) (省略) 5 Kそれで、あの大体散歩とかしたり、あの洗濯物、まあ、あの干したりとか、え、まあ洗濯して干したりとかして、〈はい〉で朝食をとって〈はい〉、ええとそうですね、それで九時ぐらいにはあのこちらに来るようにしてます

6 C はい

6 K でその後（そのあと）あの、えー会議が、まあこの（連体詞）日はちょうど昨日はちょうど会議があったので〈はい〉えー、えーとお昼まで十二時、までですね会議をしてまして〈はい、はい〉、そしてその後（そのあと）あの実は、ええと、月に二回ぐらいあの一、定期的なあ、研究会とゆうのやっぴまして〈あ、はい〉そのあ、あの一、まあ勉強会ですね、〈はい〉いわゆる勉強会でそこであの、だ私自身がその講師としてあの〈はい〉、ええと担当するまあ授業があったのでそれをあのこちらでやりました

7 C へー

7 K でそれが大体終わったのが二時半で〈はい〉、その後（そのあと）まあ研究関係の〈はい〉えー打ち合わせをして結局、そご仕事とゆうよりもその研究とか〈はい〉あの勉強会でほとんどいちんち（一日）がえー終わってしまいました

8 C へー

8 K そして、夕方、六時ぐらいにですね、えー、研究室の一つの部屋を使って〈はい〉あの急に飲み会が始まりまして

9 C あー素敵ですね {笑}

9 K {笑} 気が付けばあの四人ぐらい人がまあ増えていまして〈へー〉、あの一、そして十一時ぐらいにですねえー、まあそろそろ片付けようかとゆうことでえーと帰宅しました

10 C そうなんですねじゃ、結構夜寝るのも遅いんですか

(JJJ05 (76) の一部を再掲)

以上、4つの観点で、「そして」にあたっての説明事項を挙げた。これらの導入事項は以下のように簡潔にまとめることができる。

表 36 「そして」にあたっての説明事項

観点	導入事項
「そして」の用法	・「時間と「並列」用法 ・ストーリーテリングにおける「主な出来事」に導く用法 ・対話における「主な出来事」に関わりがある出来事をつなぐ用法 ・名詞修飾節があるときにつなぐ用法 ・やや書き言葉的である ・繰り返し用いられない
タイ語の形式との相違点	・「λέεwkόo」が発話を組み立てていく時に幅広く用いられるが、「そして」は前後関係を求める ・「λέεwkόo」が時間を稼ぐために用いられるが、「そして」はそうのように用いられない ・タイ人日本語学習者が混同した他の意味関係を持つ接続表現 ・タイ語が語形変化がなく、接続詞と接続助詞の区別がない特徴
談話の構成	・談話の構成 ・話題における文の役割と接続表現の関係
他の接続表現	・日本語母語話者が使用している他の接続表現

8.2 「そして」の導入時期に関わる要因

ここでは、8.1 で見てきた「そして」にあたっての説明事項は、いつ導入すればいいかという導入時期について、関わる要因を挙げながら考える。導入時期に関わる要因として、学習者の能力、使用状況とその要因、他の表現や構成の導入時期、誤用の重さが挙げられる。

8.2.1 学習者の能力

先行研究と本研究での日本語母語話者の「そして」の使用の確認から、「そして」には、2文をつなぐ「時間」と「並列」用法と2文より大きいストーリーテリングと対話のような談話における「主な出来事」や「重みのある出来事」をつなぐ用法があることがわかった。どのような単位でどの学習レベルに導入すべきかについて考える際には、学習者の能力が直接に関係してくると考えられる。ここでは、第3章で紹介した OPI レベル判定の基準と第4章で紹介した CEFR の共通参照レベルを手がかりに「そして」にあたっての説明事項と学習者の能力の関係性を考える。

まず、OPI レベル判定の基準に関して、接続表現に関係がある項目は「テキストの型」と「文法の正確さ」である。各レベルの「テキストの型」と「文法の正確さ」の判断基準は以下のとおりである。

表 37 各レベルのテキストの型と文法の正確さ（OPI の判断基準）

	テキストの型	文法の正確さ
超級 (Superior)	複段落	基本構文に間違いがまずない。低程度構文には間違いがあるが伝達に支障は起きない。
上級 (Advanced)	段落	談話文法を使って統括された段落が作れる。
中級 (Intermediate)	文	高頻度構文がかなりコントロールされている。
初級 (Novice)	語、句	語・句のレベルだから文法は事実上ないに等しい。

(牧野他 2001 : 18-19 表 7、8 の一部を再掲)

次に、CEFR の共通参照レベルの話し言葉の質的側面に関して、接続表現に関係がある項目は「一貫性」である。各レベルの「一貫性」に関する能力は以下のとおりである。

表 38 『CEFR』レベル別の一貫性

	一貫性
C2	適切に多用な談話構築手法と幅広い接続表現、結束手段を用いて、具体性があり、脈絡があり、また一貫性のある談話をすることができる。
C1	談話構築手法、接続表現、結束手段が使いこなせ、明瞭で流れるような、構成の整った話をするすることができる。
B2	使うことができる結束手段は限定されており、長く話すとなるときこちなさがあるが、発話を明瞭で一貫性のある談話につなげることができる。
B1	一連の短い、不連続な単純な要素を連結し、並べていって、話ができる。
A2	‘and’「そして」、‘but’「でも」、‘because’「なぜなら」などの簡単な接続表現を使って単語の集まりを結びつけることができる。
A1	単語の集まりや個々の単語を‘and’「そして」、‘then’「それで」などのごく基本的な接続詞表現を使って結びつけることができる。

(Council of Europe 2008 表 14 の一部を再掲)

表 37 および表 38 の当該レベルとその直後のレベルの「テキストの型」「文法の正確さ」「一貫性」を参考に、各レベルにおいて、「そして」と関連する接続表現の導入方法を考案する際、以下のようなことを考慮しなければならない。なお、当該レベルのみではなく、その直後のレベルの能力を確認する理由は、その直後のレベルになるための準備が必要であるためである。

まず、初級学習者に関しては、語と句や簡単な接続表現が使えるという能力を考慮すると、初級学習者には文レベルより大きい談話における「そして」の用法を導入しても習得できないと考えられる。また、直後の中級学習者のテキストの型が文であり、CEFR の一貫性の項目では、初級直後の B1 能力が一連の短い話ができるとしている。そのため、初級レベルではストーリーテリングや対話のようなタスクを取り上げず、文がコントロールできる中級学習者になるための準備として 2 文を正しくつなぐような導入が必要である。

次に、中級学習者に関しては、ある程度長く話せる中級学習者のためには、段落がコントロールできる上級学習者になれるように、段落単位で「そして」の用法を導入した方がいいと考えられる。CEFR でも、中級直後の C1 の学習者が接続表現が使いこなせ、構成の整った話をするとしているため、中級レベルで構成の整った話ができるように導入が必要だろう。

最後に、上級学習者に関しては、上級学習者が超級学習者、つまり日本語母語話者に近い話者になるように、C2 レベルで期待される幅広い接続表現が使えるようにする必要がある。

ある。そのため、導入の際は、「そして」のみでなく、他の接続表現の使用も同時に積極的に導入することが求められる。

8.2.2 使用状況とその要因

各レベルの不自然な使用をなくすための導入方法を考えるために、各レベルの使用状況とその要因が関係してくる。まず、各レベルの使用とその要因を表す表を再掲する。表 39 に示していない中級のサブレベルの誤用は第 6 章で提示した例を確認する。

表 39 使用に影響を与える要因とレベル

タイ語の影響	これまでの導入方法の影響	使用	ストーリーテリング			対話		
			初級	中級	上級	初級	中級	上級
・「léewkôo」の「だから」用法	・「だから」の導入がより遅い	誤用	×	○	×	×	○	×
・「léewkôo」の「すると」用法	・「すると」の導入がより遅い		×	○	×	×	×	×
・「léewkôo」の「でも」用法	・「でも」の導入がより遅い		○	○	×	×	×	×
・「léewkôo」の「それから」用法	・「それから」のタイ語訳が日常会話で用いられない		○	○	×	○	○	○
・「léewkôo」のフィラー使用	・フィラーとして使用できないという導入がない		○	○	×	○	○	○
-	-	多用	○	○	×	×	○	×
・「léewkôo」のフィラー使用	・フィラーとして使用できないという導入がない	フィラーとしての使用	○	○	×	○	○	○
・「léewkôo」の「重い情報」以外で使える用法	・談話の構成の導入がない	「重い情報」以外の使用	○	○	×	○	○	○

*多用は様々な使用が繰り返されるため、特定の要因を特定することができない。

*本調査で確認した使用から、タイ語の特徴が要因である使用はどれか判断できない。

I-JAS 調査実施方法の影響

- ・対話相手の有無
- ・準備時間の有無
- ・事前確認の有無

(表 35 を再掲)

初級学習者に関しては、学習者の能力を考慮すると、談話単位で導入する必要がないため、ストーリーテリングと対話における誤用と多用を分けずに初級学習者と直後の中級Ⅰの学習者の使用状況を確認する。表 39 で示した初級学習者の使用を見ると、「でも」との混同、「それから」との混同、付加、多用、フィラーとしての使用、「重い情報」をつなぐところ以外での使用があることがわかった。また、中級Ⅰの学習者の使用を確認すると、「だから」との混同、「それから」との混同、付加、多用、フィラーとしての使用、「重い情報」をつなぐところ以外での使用が観察された。表 39 で示した要因を見ると、これらの使用の要因に関しては、「léewkôo」として他の接続表現より先に導入されることから、初級学習者は教科書での導入と「「léewkôo」の「だから」「でも」「それから」の用法」からかなり影響を受けている。

中級学習者に関しては、ストーリーテリングと対話という談話を取り上げて、導入する必要がある。談話として導入する場合、混同のような誤用を確認するより、タイ人日本語学習者がそれぞれのタスクにおける「そして」の用法を理解できているかを確認する方が重要である。しかしながら、中級後半の誤用を確認すると、初級や中級Ⅰの学習者のデータに観察されなかった誤用として「すると」との混同が観察された。初級では取り上げる必要がない接続表現との混同については、その誤用をなくすために、中級で取り上げた方がいい。それぞれのタスクにおける用法に関して、表 39 で示した「重い情報」以外の使用を見ると、上級学習者のストーリーテリングを除くと、「重い情報」をつなぐところでの使用ができていない。要因を見ると、初級で導入される「そして」のタイ語訳である「léewkôo」が「重い情報」をつなぐという限定された用法がないためである。また、談話の構成と話題における文の役割に関する導入が不十分であることもその要因の一つであることがわかった。なお、談話の構成を取り上げる際、それぞれのタスクを遂行させるために語る必要がある意味関係とそれを表す接続表現も説明した方がいい。このような説明によって、他の接続表現との混同の誤用も少なくなるだろう。

上級では、「そして」以外の幅広い接続表現を導入する必要があるため、「そして」の使用にそれほど考慮する必要がない。しかし、表 39 で示した対話における上級学習者の使用を見ると、「それから」との混同があることから、「そして」と「それから」の違いを再び取り上げた方がいい。「それから」との混同の原因を見ると、初級からの「そして」と「それから」の導入では、この 2 つの形式の違いと「léewkôo」との関係が重視されてこなかったことにあることがわかった。

8.2.3 他の接続表現や構成に関する導入時期

「そして」にあたっての説明事項を見ると、「タイ人日本語学習者が混同した他の意味関係を持つ接続表現」「日本語母語話者が使用している他の接続表現」「談話の構成」「タスクにおける文の役割と接続表現の関係」という説明事項があることから、それらの表現と談話の構成の導入順序も「そして」の諸事項の導入時期に関係がある。つまり、初級、中級、上級という大きい単位のレベルの中で、文法項目の体系の中でどの箇所で「そして」を導入すればいいかということを考える必要があるということである。「そして」と関連する文法項目の正確な導入順序を決定する際、本来なら、本研究で用いた同様な研究方法を用いて、それらの文法項目のレベル別の使用状況の観察やその使用に影響を与える要因の考察も行わなければならないが、ここでは、現行の教科書においてこれらの文法項目がいつ扱われているかを手がかりに「そして」と関連する文法項目の導入時期を考える。

まず、タイ人日本語学習者が混同した他の接続表現の導入課は以下のとおりである。以下の表に示す数字は、その接続表現がそれぞれの初級教科書において導入される課を表している。また、初級のどの時点で導入されるかを把握するために、それぞれの初級教科書の課の数も示しておく。なお、接続表現については、市川（1978）の類型を参考に、表示している。

表 40 接続表現の導入課

類型		接続表現	導入される課		
			『大地』	『あきこ』	『みんな』
順接型	順当	だから	27	-	17 (ですから)
		そこで	-	-	-
		それで	39	26	28
	きっかけ	すると	-	28	-
逆接型	反対・単純な逆接	でも	11	3	19
添加型	累加、単純な添加	<u>そして</u>	7, 42	3	8
	追加	それから	4	5	6,17
		しかも	-	-	-
課の数			42	29	50

(表 34 を再掲)

表 40 を見ると、接続表現の導入の傾向として、「そして」のような「累加、単純な添加を表す添加型」あるいは「それから」のような「追加を表す添加型」から導入し、「でも」のような「反対・単純な逆接を表す逆接型」、「だから」のような「順当を表す順接型」を導入するという順序が一般的である。一方、「すると」のような「きっかけを表す順接型」については、導入されないこともある。

以上の導入順序を手がかりにした場合、「そして」と他の接続表現との違いの導入順序は次のとおりである。「そして」と導入時期が近い「それから」との違いを先に導入した方がいいが、使用の観察からわかるように、特に対話においては、上級学習者であってもこの2つの意味関係の混同があることから、上級でもこの2つの接続表現の違いを再び上げる必要があるだろう。「それから」の後に導入すべきなのは「でも」との違いである。次に、初級後半になった時点で、「それで」との違いを導入すべきである。「すると」が初級で導入されないこともあることと、初級と中級Ⅱレベルでは「すると」との混同が見られないことから、「そして」と「すると」の違いの説明は中級レベルで導入すべきである。

また、それぞれの接続表現の導入時期が異なることから、初級が終了した時点で再びそれぞれの意味関係を表す接続表現の整理と復習が求められる。また、「そして」を導入した時点で、日本語の接続表現にはどのような意味関係があるかについて、タイ語の接続表現と比較しながら、タイ語で説明した方がいいと考えられる。

次に、日本語母語話者が「そして」の他に多く使用する文法項目の導入課は以下のとおりである。

表 41 「そして」の使用に関連する文法項目の導入課

文法項目	導入される課		
	『大地』	『あきこ』	『みんな』
<u>そして</u>	7, 42	3	8
で	-	-	-
て形	15	10	16
たり	18	15	19
と	23	-	23
名詞修飾節	20	20	22
課の数	42	29	50

これらの日本語母語話者が「そして」の他に多く使用する文法項目の導入課を見ると、「て形」や「たり」のような項目は初級で導入されることもあるが、「と」など導入されないこともある。このような文法項目が初級で導入されることがあっても、初級と中級学習者に求められる能力を見ると、幅広い接続表現が使えることは求められていない。そのため、初級と中級では、「そして」に関して誤用や多用をしないこと、および「重い情報」をつなぐところで使用することを優先にし、幅広い表現が使えることが求められる上級で、日本語母語話者が使用している他の接続表現も取り入れた方がいいと考えられる。一方、日本語母語話者のデータから名詞修飾節がある場合の「並列」の関係を表すための「そして」の使用が観察された。名詞修飾節は初級の半ば頃に導入されるが、名詞修飾節は活用を伴うこともあるため、初級学習者にとって難しい場合である。そのため、「そして」が名詞修飾節がある場合で利用できることは、ある程度名詞修飾節が習得できる中級レベルで説明した方がいい。

その他、フィラーについては、「そして」がフィラーとして使用できないことは、これまでの日本語教育では取り上げられてきていない。しかし、他の接続の意味関係とタイ語の形式を説明する際に、フィラーとして使用できないことをタイ語で追加説明をすることもできるだろう。

さらに、それぞれの談話の構成に関しては、第7章でこれまでの導入方法の問題点を考察したように、初級教科書では、談話の構成が特に取り上げられることがなく、取り上げられる教科書は書く能力を育成するような教科書が多い。このことと、初級学習者の「テキストの型」が語であることを考えると、談話の構成の導入時期は中級以降であると考えられる。

8.2.4 誤用の重さ

誤用の重さに関しては、迫田（2002）は、大きな支障となって文の意味が理解できない誤用は「グローバルエラー」と、文の理解にはほとんど影響しない誤用は「ローカルエラー」とまとめている。本研究でもこれらの用語を採用するが、理解に関しては、文の意味のみではなく、発話全体の意味とする。例えば、以下の例では、対話相手である日本語母語話者が「そして」が含まれる発話内容のまとめを行っていることから、「そして」の多用によって、発話の輪郭が捉えにくくなり、まとめなければならなくなる可能性がある。このことを考えると、以下のような多用は「グローバルエラー」と分類できる。

(151) 1 C そうすると朝、九時に起きて夜十二時に寝るまでの、昨日一日（いちにち）のお話を、どんなことをなさったか〈あーはい〉簡単に教えてください

1 K はいえーと、えー私は起きてから、えーなんと言うか、えー、なんと言うか、えー、修士るんぶん（論文）、〈うんうんうん〉修士論文の準備を、なんて言うか、しようと、〈うん〉思いましたけど、えーなんて言うか、フェス（フェイス）、フェスブック（フェイスブック）とか、えーとシェック（/チェック）、なので、なんて言うかえーと、おも、えー思ったと、思ったより、なんて言うかえー時間、を、なんか、かかってしまいました〈うんうん〉①そして→それで、なんかえーと、えー、昼、ご飯、なんかひ昼ご飯の、時間一までくらいなんだ（なんか）、かかってしまいました、はい、②そして→正用えと昼ご飯は、えー昼ご飯を、えーと食べてから、〈うんうん〉あたしはえーずっと、はい、えー修士論文の準備をなんかえー、して、いました、はい、はい、③そして→それからえーと、ゆうかた（夕方）、はー、えー、はい、ともらち（友達）、ともらち（友達）に一、なんかえーとレパート（デパート）で、えと、会いに、会いに、行きました、はい、なんか、えーと一緒に、えー晩ご飯を、えー食べたり、はい、食べたり（食べたり）、して、④そして→付加えーと少し、えーいろいろな話を話したりして、⑤そして→付加私はえーと、家に、帰りました、はい、⑥そして→そのあとはえーと、はい、えー、一生懸命 {笑} はい、えーと歴史一、なんかえーかん、関係する、えーと歴史の教科書とか、はい、えーと、えー読んだり、はいえー修士、論文の準備をかえったり（/書いたり）して、はい⑦そして→付加、えーと、なんか、なんて言うかえーこう、眠く、なっ、てしまいましてはい⑧そして→それで〈うん〉、寝ました

2 C そうですか、はい、はい、いろんなことまあ、午前中はねあんまり、あの何（なに）十分（じゅうぶん）なことができなかったかもしれないけどまあ〈はい〉午後から、ずっとこう、あの、論文の、勉強なさったんですね

（TTH33 SPOT76（6）を再掲）

（151）の2Cでは、学習者が話したことを調査実施者がまとめて、確認する行動が見られる。「そして」の多用が対話相手の理解を妨げることがあるため、調査実施者が自身の理解を確認し、まとめる必要があると考えられる。また、「そして」の多用によって、「重みのある出来事」がどれか把握できず、評価を示すこともできない。したがって、相

手が理解しているかどうかを基準にした場合は、「そして」の多用は「グローバルエラー」となると言える。

それに対して、以下の例では、対話相手である日本語母語話者は前の発話をまとめる行動を行わずに、発話内容について質問をすることもできていることから、前の発話の内容について理解していると考えられる。この場合は、「そして」の誤用は「ローカルエラー」と分類できる。

(152) 1 C 何時（なんじ）に起きましたか

1 K あー何時（なんじ）に、九時〈うーん〉九時、九時に起きました、あー十、十一時、に勉強しましたので、九時に、起きました、遅いです、あーそれで、あー作文、作文ーを、勉強しました、①そして→それから朝ご飯を、食べ、して（②そして→付加）、昼ご飯を食べます、朝ごはんは食べませんでしたあー

2 C いつも？（省略） (TTH36 SPOT58 (97) の一部を再掲)

(152) の2Cでは、「それから」との混同と付加の誤用が見られたが、調査実施者は学習者が話したことをまとめるという確認をしていない。また、「いつも？」のように、発話を展開させるような質問をしている。異なる意味関係で「そして」を使用する場合は、多用しない限り、「ローカルエラー」とみなすことができる。

野田（2005）が示したコミュニケーションのための日本語教育文法の基本的な方針に、「正確さ重視の文法から目的を達成できる文法へ」という方針がある。正確さ重視の文法から目的を達成できる文法へ変える時には、誤解を与える誤用は重視し、誤解を与えない誤用は重視しないという方針に変えなければならないと指摘している。この指摘を基にして考えると、発話理解を妨げる「そして」の多用をなくすための対策を重視する一方、数回のみ混同や付加の誤用をなくすための対策を重視しないような導入方法につながると考えられる。

しかし、意味関係の誤用が、同じ発話に複数回出現する場合は多用になる。このことから、意味関係の誤用も重視すべきである。しかし、「そして」が多用できないことは、早い段階で説明した方がいいだろう。中級学習者を中心に多用が多く見られるということを考えれば、中級になった時に多用しないように初級で取り上げるべきである。

また、本調査で用いた I-JAS のデータは、対話でしか対話相手がおらず、ストーリーテリングでは、それぞれの発話文に反応する相手がいない。ストーリーテリングという独話は、相手がいないため、「そして」の使用が理解を妨げることが少ないと考えられる。しかし、ストーリーテリングでも、「そして」を多用すると、一方的に聞く側も内容を捉えにくくなる場合がある。このことから、対話においても、ストーリーテリングにおいても、タスクを問わずに、「そして」を多用しないように導入することが重要である。

8.3 各レベルのタイ人日本語学習者のための具体的な導入方法

8.1 で列挙した導入事項、および 8.2 で見てきた導入時期に関わる要因から、各レベルの学習者のための「そして」を中心とした接続表現の導入ポイントは以下のとおりまとめることができる。

- 初級学習者 = 本来の用法、日本語とタイ語の意味関係の違い、多用できないこと
- 中級学習者 = ストーリーテリングと対話における使用、談話の構成
- 上級学習者 = 幅広い接続表現、「そして」と「それから」の違いの再確認

ここでは、以上のポイントを活かし、具体的な導入方法を考える。なお、教室活動を考える際、教師から学習者に文法や注意点について気付かせる説明と、学習者が運用できるかどうか確認する練習が必要であると考えするため、各レベルにおいて、説明と練習の活動を取り入れるようにする。

8.3.1 初級学習者のための導入方法

初級学習者の能力についての記述からわかるように初級学習者の日本語能力が限られているため、日本語での談話などのような大きい単位で接続表現を導入することは効果的ではないだろう。ただし、初級ではタイ語を使って、様々な観点で日本語とタイ語の違いを説明した方がいいと考えられる。タイ語での説明項目としては、言語的な特徴とタイ語の「lɛɛwkɔ̌ɔ̌」と「そして」の違いが挙げられる。言語的な特徴については、日本語入門の時点で説明することが望ましい。

初級教科書で「そして」のタイ語訳として取り上げられる「lɛɛwkɔ̌ɔ̌」と「そして」の違いについては、第 7 章の使用に与える要因の考察から、両形式は様々な観点で違いがあ

る。そのため、市販の教科書を使用しない場合は、「lɛɛwkɔ̌」を取り上げないことも考えられる。この場合は、「そして」の用法としてタイ語で以下のように説明することができるだろう。

そして：文をつなぐための接続表現。「時間」用法と「並列」用法を持つ。「重い情報」をつなぐところで使用される。多用をすると、相手の理解を妨げることもあるため、注意が必要である。また、「そして」はやや書き言葉的である。

なお、「そして」がやや書き言葉的であることに関しては、石黒他（2009）がジャンル別の接続表現の使用回数を調査した結果を参考に、「そして」は論文、エッセイ、小説に上位2位あるいは3位で出現することを説明することもできる。また、会話形式での使用の例は提示しない方がいい。

日本語母語話者の「そして」の使用の例に関しては、初級学習者には、ストーリーテリングや対話の談話レベルの「そして」の用法を示す必要がないが、実際の使用例として、日本語母語話者の使用の例を簡単な文に直し、示すことは考えられる。例えば、(153)の使用の例は(154)のように直すことができる。

(153)（日本語母語話者の使用の例）

その間（そのかん）えーマリとケンはいえ地図をえーゆ眺めて、えーピクニックのえ場所確認していたがため、えー、その（連体詞）様子をえー知りませんでした

そして楽しく二人はピクニックに出掛けて行きましたがえーようやくお昼の時間になり、えー、朝えー作っていったサンドイッチを、えー食べようと、えーバスケットを開けたところ、何と（なんと）中から、えー飼っていた犬が飛び出してきて、えー残念なことにえー朝マリとケンがえー頑張って作ったえーサンドイッチが、えー、全て食べられてしまいました
(JJJ05 (54) の一部を再掲)

(154)（初級の授業で提示する例）

ケンとマリは地図を見た。その間、犬はバスケットに入りました。そして、二人はピクニックに出かけました。

ただし、初級で対応する母語の語彙を取り上げない場合、学習者が不安を感じる可能性がある。また、「そして」が「léεwkôo」という意味であるという語彙索引が掲載されている初級教科書がまだ多く市販されており、学習者が自ら自習することも考えられる。この場合は、「léεwkôo」と「そして」の違いを積極的に教えた方がいいだろう。「そして」が取り上げられる時に、「そして」と「léεwkôo」との違いを説明し、学習者が混同したそれぞれの接続表現が導入される時や初級が終了する時に他の接続表現と比較しながら、再び説明する必要がある。

「そして」と「léεwkôo」の違いを説明する際、まず、日本語の接続の意味関係として、追加、反対・単純な逆接、順当、きっかけという意味関係があることをそれぞれの接続表現を導入する前でもタイ語の接続表現と比較しながら、タイ語で説明する必要がある。タイ語の接続表現については、Panthumetha (2015) は、タイ語の接続表現は意味的に 21 種類分類できると述べている。

- 1) 所有者を表す接続表現
- 2) 参加者を表す接続表現
- 3) 道具を表す接続表現
- 4) 場所の関係性を表す接続表現
- 5) 出発点を表す接続表現
- 6) 到達点を表す接続表現
- 7) 時間の関係性を表す接続表現
- 8) 様態を表す接続表現
- 9) 追加を表す接続表現
- 10) 比較を表す接続表現
- 11) 逆接を表す接続表現
- 12) 選択を表す接続表現
- 13) 例外を表す接続表現
- 14) 理由を表す接続表現
- 15) 結果を表す接続表現
- 16) 内容を表す接続表現
- 17) 修飾を表す接続表現

18) 参照を表す接続表現

19) 説明を表す接続表現

20) 例示を表す接続表現

21) 関係性を強調する接続表現

(Panthumetha 2015 : 92-93)

以上のように、タイ語の接続表現については、第2章で紹介した日本語の接続表現に関する記述と比べると、異なる類型や分類があると考えられる。しかし、7) 時間の関係性を表す接続表現、9) 追加を表す接続表現 11) 逆接を表す接続表現 15) 結果を表す接続表現は、日本語の接続表現と類似した点があり、本研究で観察したタイ人日本語学習者が混同した意味関係でもあるため、これらの分類に属するタイ語の接続表現を取り上げて、日本語の意味関係とともに説明する方法も挙げられる。

また、タイ語では様々な接続の箇所で「lɛ̀wkwô」が使用できるが、日本語では、「そして」が使用できないことがあることを確認させる必要がある。学習者が混同したそれぞれの接続表現が導入される時に、以下のように、(155)～(157)のようなタイ人日本語学習者が誤用した例を(158)～(160)のようにタイ語に翻訳し、このような話し言葉の談話では、「そして」が使用できないと説明する方法が挙げられる。なお、「それから」と「そして」は類似した用法があるため、「重い情報」に関することや「それから」は教科書におけるタイ語訳である「lǎŋcàaknán」より幅広く使用できることも説明した方がいい。

(155) (タイ人日本語学習者の使用の例)

あー何時(なんじ)に、九時(うーん)九時、九時に起きました、あー十、十一時、に勉強しましたので、九時に、起きました、遅いです、あーそれで、あー作文、作文ーを、勉強しました、①そして→それから朝ご飯を、食べ、して(②そして→不要)、昼ご飯を食べます、朝ごはんは食べませんでしたあー (TTH36 SPOT58 (97) の一部を再掲)

(156) (タイ人日本語学習者の使用の例)

あーケン、ケンとマリはあー地図を、読ん、でいたところある犬、はバスケットに入っ
て、入りまし入りました

あーそして→でも、あーケンとマリは、し知ってい知りません(省略)

(TTH24 SPOT54 (82) の一部を再掲)

(157) (タイ人日本語学習者の使用の例)

サンドイッチはバスバスケット、に、入って、おりました

ん、え、二人は、んー、ピクニックしようとおもっていまし(思っていました)

そして→だから、マリ、ケンとマリす、ケンさんとマリさんはじつ(地図)、あ公園、

じつ(地図)で公園を探し探します(省略) (TTH18 SPOT69 (50)の一部を再掲)

(158) (初級の授業で提示する(155)のタイ語訳)

rian kaan khǎan riankhwaam léewkô kin ʔaahǎan klaangwan

学ぶ こと 書く 作文 léewkô 食べる 料理 昼

作文の授業を受けました。×そして○それから、昼ご飯を食べました。

(159) (初級の授業で提示する(156)のタイ語訳)

mǎa khâw pay nay tàkrâa léew khen kàp marí kô mây rúu

犬 入る 行く 中 バスケット léew ケン と マリ kô 否定 知る

犬がバスケットに入りました。×そして○でも、ケンとマリは知りません。

(160) (初級の授業で提示する(157)のタイ語訳)

khen kàp marí khít wâa cà pay pìkník kan léewkô hǎa

ケン と マリ 思う と 未来 行く ピクニック 一緒に léewkô 探す

sǎan nay phǎenthîi

公園 中 地図

ケンとマリはピクニックしようと思っていました。×そして○だから、地図で公園を探します。

また、初級が終了する直前で、以下のように、「léewkô」を含む文をタイ語から日本語に翻訳し、接続表現を埋めるような練習として、接続表現と意味関係を再び取り上げることが望ましい。フィードバックの際は、タイ語で「léewkô」が使用できたとしても、必ずしも「そして」が使用できるとは限らず、2文の意味関係を考慮しなければならないことを説明すべきである。

(161) 以下の文をタイ語に訳しなさい。

1) rian kaan khǎan riankhwaam léewkô kin ʔaahǎan klaangwan

学ぶ こと 書く 作文 léewkô 食べる 料理 昼

(解答例) ○作文の授業を受けました。それから、昼ご飯を食べました。

×作文の授業を受けました。そして、昼ご飯を食べました。

2) mǎa khâw pay nay tàkrâa léew kheen kàp maari kôo mây rúu
犬 入る 行く 中 バスケット léew ケン と マリ kôo 否定 知る

(解答例) ○犬がバスケットに入りました。でも、ケンとマリは知りません。

×犬がバスケットに入りました。そして、ケンとマリは知りません。

3) kheen kàp maari khít wâa cà pay piknìk kan léewkôo hǎa
ケン と マリ 思う と 未来 行く ピクニック 一緒に léewkôo 探す
sǎan nay phǎenthîi
公園 中 地図

(解答例) ○ケンとマリはピクニックしようと思っていました。だから、地図で公園を探します。

×ケンとマリはピクニックしようと思っていました。そして、地図で公園を探します。

(162) 次の文に適切な接続表現を入れなさい。

1) 作文の授業を受けました。____、昼ご飯を食べました。 (解答：それから)

2) 犬がバスケットに入りました。____、ケンとマリは知りません。 (解答：でも)

3) ケンとマリはピクニックしようと思っていました。____、地図で公園を探します。

(解答：だから)

この他、誤用の重さについて述べたように、「そして」の多用が対話内容への理解を妨げることがあることから、早い段階から「そして」が繰り返し使用できないことを説明した方がいい。「そして」の多用の要因は、タイ人日本語学習者が「léewkôo」の用法で「そして」を使用していることにありとえられる。多用の問題を気付かせる方法としては、まず、学習者にタイ語で「昨日の出来事」について語ってもらい、教師が「léewkôo」が多く使用されることをフィードバックし、日本語では、このように「そして」が使用できないことや、第 7 章のタイ語の影響の考察で示した以下の例のように、「léewkôo」は時間を稼ぐために使用できるが、「そして」にはその用法がないことを確認させる方法が挙げられる。

(163) (役作りの参考にした女性の親友について話す)

kháw mii fɛɛn léɛw léɛwkôɔ bèɛp raw pen mǔan
彼女 持っている 恋人 完了 léɛwkôɔ なんか 私たち である 似ている
phûan sànit kan
友だち 仲いい お互い
彼女には彼氏がいます。僕たちはただの親友です。

(Woody FM : Nine Napat (134) を再掲)

(164) (自分の人柄について話す)

phǒm wâa phǒm pen khon nàk khít yùu tàlòotweelaa léɛwkôɔ
僕 思う 僕 である 人 重い 考える いる いつも léɛwkôɔ
ᵐᵐᵐ pen khon thii chòɔp waɛnpheɛn ʔaray háy tua ʔeɛɲ
えっと である 人 マーカー 好き 計画 何 あげる 自分
tàlòotweelaa
いつも
自分自身が重い人間だと思います。常に考えているし、いつも自分のための何かの計画を立てています。

(Woody FM : Tor Thanapob (135) を再掲)

(165) (幼い頃転んだ経験について語る)

pen phlɛɛpen muankan léɛwkôɔ (1秒ほどの間) khu muankàp nǔu
である 傷跡 も léɛwkôɔ (1秒ほどの間) とは みたい 私
kôɔ nâɲ yùu sákphák
それで 座る いる しばらく
傷あとはまだ残っています。(転んだあと) しばらく座って…

(Woody FM : Cherprang BNK48 (136) を再掲)

初級学習者が発話でも「léɛwkôɔ」の用法で「そして」を使用しないかを全体的に確認するために、ストーリーテリングの絵などを一枚のみ切り取り、その絵を語らせるような練習も考えられる。



図4 「ピクニック」の絵②

(解答例) 犬がバスケットに入りました。でも、ケンとマリは知りません。

(解答例) ケンとマリはピクニックに行きたいと思っている。だから、地図を見ました。

8.3.2 中級学習者のための導入方法

中級学習者には、談話を意識した「そして」の導入を図るべきであるが、混同を招く意味関係やフィラーとして使用できないことに関する復習も必要である。また、第6章で各レベルの「そして」の使用を観察したように、中級学習者には初級と中級Ⅰの学習者のデータでは観察されなかった「すると」との混同が観察された。市販の初級教科書で「すると」が導入されないこともあるため、中級で「すると」と「そして」の違いを導入しないと、学習者が「すると」が適切な箇所で「そして」が使用できないことがわからなくなり、「すると」との混同が中級以降でも発生する可能性がある。中級では、初級学習者のための導入方法を用い、「すると」と「そして」の違いを意識させた方がいい。授業で提示する使用の例、タイ語訳、練習は以下のとおりである。

(166) (タイ人日本語学習者の使用の例)

はい、え、サンドウィッチを、作ってからー、ピクニック、の場所をー、あのしら、あの調べてしず(地図)をーあの見ました

そして →すると、あのか、彼たちが、飼っている犬がー、ばすバスケットにーいりました(入りました)(省略) (TTH52 SPOT65 (85)の一部を再掲)

(167) (初級の授業で提示する(166)のタイ語訳)

kheen káp maarí duu phěenthîi léew mǎa kôo khâw pay nay tàkrâa

ケン と マリ 見る 地図 léew 犬 kôo 入る 行く 中 バスケット

ケンとマリは地図を見ました。×そして○すると、犬がバスケットに入りました。

(168) 以下の文をタイ語に訳しなさい。

kheen kàp maari duu phěenthîi léew mǎa kôo khâw pay nay tàkrâa

ケン と マリ 見る 地図 léew 犬 kôo 入る 行く 中 バスケット

(解答例) ○ケンとマリは地図を見ました。すると、犬がバスケットに入りました。

×ケンとマリは地図を見ました。そして、犬がバスケットに入りました。

(169) 次の文に適切な接続表現を入れなさい。

ケンとマリは地図を見ました。____、犬がバスケットに入りました。

(解答：すると)

また、中級段階では、初級では難しいと予想される名詞修飾がある場合での使用を導入できると考えられる。具体的には、(170) のような日本語母語話者の使用を参考に、(171) のような「と」か「そして」を入れる練習をさせる方法が挙げられる。

(170) (日本語母語話者の使用の例)

(省略) すると、バスケットの中から、犬が飛び出してきました

あっと思ったら、バスケットの中のサンドイッチも、そして一緒に入れて (いれて) いた林檎も、食べられてしまっていました (JJJ47 (62) の一部を再掲)

(171) (中級の授業での練習の例)

「と」または「そして」を入れて、文を完成させなさい。

バスケットの中のサンドイッチ____ (正解：と)、____ (正解：そして) 一緒に入れていたりんごが、食べられてしまっていました。

さらに、中級レベルでは談話を意識した練習が必要である。ここでは、本調査でストーリーテリングと対話の「そして」の使用を確認した結果から、この2つのタスクにおける「そして」の導入方法を考える。まずは、以下のように、それぞれのタスクの談話の構成について説明した方がいいと考えられる。

ストーリーテリングの構成：

導入→継起する出来事→時間／空間的な展開→意外な展開→結末

対話「昨日の出来事」の構成：

重みのある出来事／日常的な出来事／昨日の出来事から展開された出来事

談話の構成を説明する際、それぞれのタスクを遂行させるためには、どのような接続関係を表す必要があるか、またその意味関係を表すためにどのような接続表現が使用できるかも説明した方がいい。例えば、ストーリーテリングでは、逆接関係と順接関係を表す必要があり、対話では時間的な発話の追加を表す必要がある。このような説明があれば、学習者はその意味関係を意識して、「そして」より適切な意味関係を表す接続表現が使用でき、混同の誤用も少なくなるだろう。

その後、それぞれのタスクでは、日本語母語話者がどの箇所で「そして」を使用しているかを意識させるべきである。

日本語母語話者は、ストーリーテリングにおいては、ストーリーの「主な出来事」、特に、「意外な展開」に導くところと「結末」に導くところで「そして」を使用しており、対話においては、「重みのある出来事」をつなぐところで「そして」を使用している。それに対して、タイ人日本語学習者はどのタスクも出来事の重さの区別ができず、どのような箇所でも「そして」を使用している。そのため、「そして」がどの箇所で使えるかを理解してもらうために、まずはストーリーや対話を組み立てる際に出来事の重さが区別できるようにする必要がある。

具体的に、ストーリーテリングを導入する場合、図を利用し、(172)や(173)の日本語母語話者の使用を参考に、「意外な展開」と「結末」に導くところと、「そして」の関係について説明した後、(174)のようにより簡単な文章に作り直し、「そして」がどの箇所で使えるかという練習をさせる方法が考えられる。なお、「導入」から「継起的な出来事」と「継起的な出来事」から「時間／空間的な展開」に変わる時にも「そして」が使用できるが、使用が少ないことを説明した方がいい。(174)では、本調査で日本語母語話者の使用が見られない箇所は「×」、使用が少ない箇所は「△」、使用が多い箇所は「そして」で表記している。

(172) (日本語母語話者の使用の例)

えー、バスケットにサンドイッチを入れ（いれ）、どこに行こうか、地図を見ていました

その間（そのあいだ）に、えー犬の、犬が、それをあそれを見ていた犬が、バスケットの中に、こっそりと潜り込んでしまいました

それに気付かない二人は、山に行き、散歩をして、お昼ご飯にしようと思ったところ、おもあーおも、お昼ご飯にしようと思い、バスケットを開けた（あけた）ところ、そこから犬が飛び出してきました

二人はびっくり

そしてバスケットの中を見てみると、お昼ご飯がすべて、犬に食べられてしまいました
た (JJJ31 (60) を再掲)

(173) (日本語母語話者の使用の例)

はいえーと犬を飼ってまして、えーと部屋には犬がいました

バスケットに作ったサンドイッチを入れて、えーとその（連体詞）後（あと）ケンとマリはえーとピクニックのための地図をえっと確認していました

そしたらえっとケンとマリが知らない間（あいだ）に犬がバスケットに入ってしまった

えっとそのそれを知らずにケンとマリはえーピクニックに出かけました

そしてえーサンドイッチを、サンドイサンドイッチをえっと食べようとし、たわけじやないのかな、えー申し訳ない

えっと {笑} サンドイッチを食べようとしたことにするか

えっとケンとマリがサンドイッチを食べようとしたら、えっと中に入っていた犬が出てきました

ケンとマリは驚きました

中（なか）、サン、えっとバスケットの中を見てみたら、えーサンドイッチや他（ほか）の食べ物も全部犬が食べてしまっていて、残念でした (JJJ43 (57) を再掲)

(174) (中級での「そして」が使える箇所についての練習)

ケンとマリはバスケットにサンドイッチを入れました。

_____ (解答＝△) 地図を見ていました。

_____ (解答＝×) その間に、犬がバスケットに入りました。

_____ (解答＝△) 気付かない二人は、出かけました。

_____ (解答＝そして) バスケットを開けました。

_____ (解答＝×) 犬が飛び出しました。

_____（解答＝そして）中を見ると、サンドイッチが食べられてしまいました。

対話における「そして」を導入する際は、（175）の日本語母語話者の使用を参考に、（176）と（177）のような例文を作り、スケジュール帳に似た表を提示し、事前に予定された「重みのある出来事」同士と最後の「重みのある出来事」が終わった箇所で「そして」が使えることや、他の「日常的な出来事」同士では使えないことを意識させる練習が挙げられる。

（175）（日本語母語話者の使用の例）

1 C じゃあ今度昨日の話をちょっと伺いたいんですけれども、〈はい〉J Jさんは昨日は一日（いちにち）何（なに）をなさってたんですか

1 K えー昨日は、こちらの、ま勤めている、えー、まあ研究機関に、えー、おりました、そいちんち（一日）のスケジュールをお話すればよろしいですか

2 C あ、そうですね

2 K そうですね、朝あの一、ま四時に起きて〈はい〉いつも実はあの四時に起きる習慣がありまして

3 C あ、早い、はい

3 K はい、年寄りって言われますけど

4 C {笑}

4 K あの朝早いんです

5 C はい、はい

5 K それで、あの大体散歩とかしたり、あの洗濯物、まあ、あの干したりとか、え、まあ洗濯して干したりとかして、〈はい〉で朝食をとって〈はい〉、ええとそうですね、それで九時ぐらいにはあのこちらに来るようにしてます

6 C はい

6 K でその後（そのあと）あの、えー会議が、まあこの（連体詞）日はちょうど昨日はちょうど会議があったので〈はい〉えー、えーとお昼まで十二時、までですね会議をしてまして〈はい、はい〉、①そしてその後（そのあと）あの実は、ええと、月に二回ぐらいあの一、定期的なあの一、研究会とゆうのやっぴいまして〈あ、はい〉そのあの一、あの一、まあ勉強会ですね、〈はい〉いわゆる勉強会でそこであの一、だ私自身

がその講師としてあの〈はい〉、ええと担当するまあ授業があったのでそれをあのこちらでやりました

7 C へー

7 K でそれが大体終わったのが二時半で〈はい〉、その後（そのあと）まあ研究関係の〈はい〉えー打ち合わせをして結局、そご仕事とゆうよりもその研究とか〈はい〉あの勉強会でほとんどいちんち（一日）がえー終わってしまいました

8 C へー

8 K ②そして、夕方、六時ぐらいにですね、えー、研究室の一つの部屋を使って〈はい〉あの急に飲み会が始まりました

9 C あー素敵ですね {笑}

9 K {笑} 気が付けばあの四人ぐらい人がまあ増えていまして〈へー〉、あの一、③そして十一時ぐらいにですねえー、まあそろそろ片付けようかとゆうことでえーと帰宅しました

10 C そうなんですねじゃ、結構夜寝るのも遅いんですか？

(JJJ05 (76) を再掲)

(176) (中級の授業で提示する例)

昨日は朝起きて、散歩をしたり、洗濯したりしました。

(177) (中級の授業で提示する例)

昨日は会議があつて、そして、その後、勉強会があつたので、それをしました。会議と勉強会でほとんど一日が終わりました。そして、6 時ぐらいに飲み会が始まりました。気が付けば 4 人ぐらい人が増えていて、そして、11 時ぐらいに片付けようということで帰宅しました。

表 42 スケジュール帳に書かれた昨日の予定

2021 年 6 月 9 日 (水)	
12:00	会議
13:00	勉強会
14:30	打ち合わせ
18:00	飲み会

さらに、それぞれのタスクの談話の構成や出来事の区別をさせる練習をした後、学習者がストーリーを区別することができるかどうか、また適切な箇所で「そして」が使用できるかどうか確認するために、学習者自ら構成の整ったストーリーや一日の出来事を語るためのそれぞれの出来事を書かせ、それぞれの出来事が「主な出来事」あるいは「重みのある出来事」かどうかを考えさせながら、それに基づいて語らせる活動が考えられる。

8.3.3 上級学習者のための導入方法

上級学習者が対話において「そして」と「それから」の区別ができていないという使用状況から、上級レベルでもこの2つの接続表現の2文と、2文を超える談話における接続詞の用法に関する復習が必要であると考えられる。2文をつなぐ用法を意識させる練習については、具体的には、第2章で紹介した接続表現などをテーマにした以下のような副教材を用いて、練習をさせた後、教師が「そして」と「それから」の違いを再び説明する方法が挙げられる。

(178) 正月には、家でテレビを見たり、神社に初詣に行く人が多い。

{そして・また・それから}、家にいないでスキーや海外旅行に出かける人も多い。

(179) 人は、自分の視点からしか物事を見ることができない。{そして・また・それから} 成功した人には特にその傾向が強いような気がする。

(180) シュークリーム2つ。{そして・また・それから} コーヒーも2つお願い。

(庵他 2013 : 25 (27) ~ (29) を再掲)

また、2文を超える談話における「そして」と「それから」の用法については、中級レベルでストーリーテリングと対話における「そして」の用法を意識させる活動を再び取り上げた方がいい。具体的には、ストーリーテリングでは「そして」が「主な出来事」に導くところで、対話では「重みのある出来事」をつなぐところで使用されていることを再説明する必要がある。

次に、談話がコントロールできるという上級学習者が特定のタスクにおける使用が理解でき、より自然な日本語が話せるようになるように、「そして」のみではなく、それぞれのタスクの日本語母語話者の接続表現の使用も身につける必要がある。教室活動として、例えば、日本語母語話者の使用例と上級学習者の使用例を示し、上級学習者に接続表現の

使用の違いを考えさせ、用意したタスクシートにリストアップさせる練習が挙げられる。
 具体的には、ストーリーテリングを意識した授業では、日本語母語話者の発話と上級学習者の発話である（181）を、対話を意識した授業では、日本語母語話者の発話と上級学習者の発話である（182）を比較させる。授業用のタスクシートと記入例は表 43 で示す。

（181）（上級学習者のストーリーテリング）

ケンとマリがじず（地図）を確認中に犬がバスケットに入りました
そして、二人は外に出かけましたが、途中で犬がバスケットから出てきました
 二人がバスケットの中を見ると、中身が全部犬に食べられました
 それで、終わりました（TTH09 SPOT87（88）を再掲）

（182）（上級学習者の対話）

（省略）えーっと、ま、ま、まず朝起きて〈うん〉、そして、友達とます、待ち合わせしたんですけど〈うん〉、【大学名 1】の近くのあの、デパートで、あの一、三、私とす、二人の友達ですね、あ、はい、私とあの後（あと）二人の友達と一緒にランチをして、え、そこで、あ、そしたら、あの一、【大学名 1】に行って、試験を受けて、それで、また【大学名 2】に戻って、あの仕事の話をして、それで、帰って寝ますかね（省略）
 （TTH09 SPOT87（99）の一部を再掲）

表 43 タスクシート：日本語母語話者とタイ人日本語学習者の接続表現の使用の違い
 （記入例）

タスク	日本語母語話者	タイ人日本語学習者
ストーリーテリング	・「そして」を「意外な展開」「結末」に導くところで使用 ・同時性を表すために「間（に）」「その間（に）」を使用 ・「意外な展開」のきっかけをつなぐところで「と」を使用	・「そして」を「時間／空間的な展開」に導くところで使用 ・同時性を表すために「中に」を使用 ・「意外な展開」のきっかけは語られていない
対話	・「そして」を「重みのある出来事」をつなぐところで使用 ・「たり」を「日常的な出来事」をつなぐところで使用	・「そして」を「日常的な出来事」をつなぐところで使用

また、上級学習者に接続表現の使用の相違点を考えさせた後、第5章でストーリーテリングと対話における日本語母語話者の「そして」以外の接続表現の使用を観察した結果に基づいて、それぞれのタスクでは、日本語母語話者がどの時点でどのような接続表現を使用しているかをポイントとして以下のように説明した方がいいだろう。

- 1) 話を展開させるために、名詞修飾節や副詞的修飾節を用いること
- 2) 「て形」と「で」を幅広く用いること
- 3) 同時性を表すために「間（に）」または「その間（に）」を用いること
- 4) 意外な展開や結末のきっかけをつなぐところで「と」を用いること
- 5) 日常的な出来事をつなぐために「～たり～たり」を用いること

その後、上級学習者が自然な日本語が意識でき、運用もできるかどうかを確認するために、似たようなストーリーテリングと対話のタスクを用意して、発話させる方法も挙げられる。ストーリーテリングに関しては、I-JAS では、ストーリーテリング 2 の調査があり、日本語母語話者の使用も収録されているため、それを使用することもできる。対話については、明日の予定について語らせる活動が考えられる。

8.4 「そして」の導入にあたっての留意点

これまで、各レベルの学習者に対する「そして」を中心とした接続表現の導入方法を考えてきた。ここでは、導入するにあたり、他にどのようなことに留意しなければならないかについて以下のとおり、挙げておく。

1) 第6章のタイ人日本語学習者の対話データの観察から、日本語母語話者である I-JAS 調査実施者が (183) のように 6C で「そして」を使用し、発話を続けさせ、その発話を受けたタイ人日本語学習者が 7K で「そして」を使用することがある。

(183) 4 C 何（なん）という名前？ライ（ライン。アプリ名）？

5 K ライン（アプリ名）

5 C あ、ライン（アプリ名）〈はい〉あー、LINE ね、ライン（アプリ名）
ね、はい

6 K はい、ライン（アプリ名）

- 6 C おー、そして？それはだから
- 7 K あー、そして
- 7 C そ、それは私もよくわからないんですけど
- 8 K はい
- 8 C そのソーシャルネットワークのライン（アプリ名）と

（TTH31 SPOT55（93）の一部を再掲）

また、予備調査で観察した発話から「そして」が含まれる文が記載されているロールカードなどがあることがうかがえる。さらに、CEFR の共通参照レベルの記述を見ると、英語の“and”が「そして」に訳されていることがわかった。これらのことから、教師側はフォーリナートークあるいは、ティーチャートークとして「そして」を多く使用してしまう傾向があると言える。このような日本語母語話者の使用は学習者の「そして」の多用をもたらす可能性があるため、教師側も「そして」の多用に関して気を付けなければならない。

2) 第 7 章の I-JAS 調査の実施方法という観点で心理的な要因を考察した結果から、対話相手の有無や準備時間の有無が「そして」の使用に影響を与えていることがわかった。学習者が緊張している場合や、考える時間が必要な時に時間を稼ぐために「そして」を発してしまう可能性があるため、教師側が学習者が発話しやすい環境を作ることが心掛ける必要がある。

8.5 本研究で提案した導入方法の特徴

以上、「そして」にあたっての説明事項を挙げ、導入時期に関わる要因を提示してから、各レベルの具体的な導入方法を提案した。ここでは、各レベルの導入方法をまとめてから、「そして」が扱われている教材や「そして」の導入方法を提案した先行研究と比較しながら、本研究で提案した導入方法の特徴を考える。

以下の表は、各レベルにおける説明事項とそれぞれの教師からの説明と学習者にさせる練習を表している。

表 44 「そして」を中心とした接続表現の導入方法のまとめ

レベル	説明事項	導入方法	
初級	本来の用法	説明	市販の教科書を使用せずに、「時間」用法と「並列」用法を持ち、繰り返し用いられず、やや書き言葉であることを説明し、日本語母語話者の使用の例を簡単に直して示す
	日本語とタイ語の接続表現の概念	説明	タイ語と日本語の接続表現の意味関係を示す
	「そして」と「léεwkôo」の違い	説明	誤用した例をタイ語に訳し、話し言葉では、「léεwkôo」が使用できるが、日本語では、「そして」が使用できないことを説明する
			「léεwkôo」がフィラーとして使用できる例を示し、「そして」はフィラーとして使えないことを説明する
		練習	「léεwkôo」を含む文をタイ語から日本語に翻訳させる 空所に接続表現を埋めさせる
	全体的な確認	練習	昨日の出来事についてタイ語で語ってもらい、タイ語では「léεwkôo」が多く出現することをフィードバックする
中級	名詞修飾節がある場合でつなぐ用法	練習	空所に「と」と「そして」を埋めさせる
	談話の構成	説明	ストーリーテリングと対話の構成やタスクを遂行させるために語る必要がある接続の意味関係を示す
	ストーリーテリングにおける用法	説明	「意外な展開」と「結末」に導く時点の「そして」の用法について説明する
		練習	日本語母語話者の使用例を簡単に直し、どの時点で使えるかという練習をさせたあと、自らストーリーの出来事を書かせ、語らせる
	対話における用法	説明	簡単な例文を作り、スケジュール帳に似た表を提示し、事前に予定された出来事間と最後の出来事が終わった時点で「そして」が使えることを説明する
		練習	自ら「昨日の出来事」を書かせ、語らせる
上級	「それから」と「そして」の違い	説明	「そして」と「それから」の違いを説明する
		練習	副教材を用いて「そして」と「それから」を選択する練習させる
	他の接続表現	説明	日本語母語話者が使用している接続表現のポイントを説明する
		練習	日本語母語話者と上級学習者が使用している接続表現の違いを考えさせ、リストアップさせる
	全体の確認	練習	異なるストーリーテリングの絵や、明日の予定について語らせる

表 44 で示した初級学習者のための導入事項では、タイ語との違いを意識させるような説明や練習を提案した。このような導入方法では、タイ語との違いの説明がないこれまでの初級文法教科書での導入と異なっている。「そして」の使用の要因を考察した結果からわかるように、タイ人日本語学習者は、「lɛ̀ɛwkɔ̀ɔ̀」を基準にして「そして」を使用しているため、早い段階からその違いを積極的に説明する必要がある。片桐（2016）は、タイ人日本語学習者の「そして」の多用問題の解決方法として、学習者に自分の話し方に自ら気づかせる方法を挙げているが、多用の要因がタイ語にあることが理解できなければ、多用が再発する可能性があると考えられる。

また、「そして」は、これまでの導入は初級文法教科書でしか導入されていない。しかし、中級学習者と上級学習者も「そして」の誤用と多用しており、レベルによって使用状況が異なっている。このことから、中級と上級レベルでもそのレベルの能力に合わせて再び取り上げる必要がある。レベル別の導入方法を提案した研究は、学習者の習得状況に基づいて各レベルに属する文法項目を提案した山内（2009）や、日本語母語話者の文法項目の使用に基づいてそれを提案した庵（2015）があるが、学習者の使用と日本語母語話者の使用の確認が別々に観察され、一つの文法項目の詳細までの分析が行われていない。本研究では、日本語母語話者のデータを用いて一つの文法項目の使用を詳細に確認し、各レベルのタイ人日本語学習者の使用とその要因も確認した。それらを確認した結果から、「そして」に関する導入事項を挙げてから、各レベルの能力や使用状況に合わせる導入方法を提案した。

さらに、各レベルで提示する使用の例は、第 5 章で確認した日本語母語話者の使用を参考に、レベルの能力に合わせて工夫したものになっている。表 44 で示した説明事項と導入方法を見ると初級では「本来の用法」を、中級では「ストーリーテリングにおける用法」と「対話における用法」を、上級では「他の接続表現」を導入する際、日本語母語話者の使用例の提示を提案している。「そして」の導入方法に関する先行研究には、初級で「それから」を導入することが提案されている研究がある（石黒 2000、阪上 2014）が、本研究の調査からわかるように日本語母語話者も「それから」をさほど使用していない。幅広い接続表現の使用が求められる上級では、「それから」ではなく、日本語母語話者が他に使用している接続表現を取り入れるべきである。また、片桐（2016）が提案した自分の話し方に自ら気づかせる方法のみでは、日本語母語話者の他の接続表現の使用が把握でき

ないため、特に幅広い接続表現の使用が求められる上級学習者には日本語母語話者のそれを導入する必要がある。

その他、表 44 で示した中級レベルの説明事項を見ると、談話の構成と出来事の重さを意識させる説明事項がある。このような導入方法については、これまでの研究で取り上げられることが少ない。しかし、学習者が談話の構成や談話におけるそれぞれの文の重さの区別ができなかった場合、「そして」を多用することがある。そのため、談話の構成を意識させ、出来事を区別させるような練習も必要である。

以上、第 8 章では、各レベルの学習者のための「そして」を中心として接続表現の導入方法を提案した。第 9 章では、これまで論じてきたことの全体的なまとめを行い、本研究の限界を挙げながら、今後の課題を述べる。

第9章 おわりに

第9章では、これまで論じてきたことの全体的なまとめを行う。まず、9.1では、本研究の各課題の結果と最終目的に対する結論を述べる。次に、9.2では、日本語教育文法再検討の方針や案の適応性について述べる。それから、9.3では、本研究の限界を挙げる。最後に、9.4では、今後の課題を述べる。

9.1 本研究の結論

ここでは、第4章で設定した本研究の課題①～課題③を解決した結果をまとめてから、最終目的に対する結論を述べる。

課題① 日本語母語話者の「そして」の使用を確認する。

日本語母語話者は両タスクにおいても、「時間」と「並列」用法で「そして」を使用している。また、「重い情報」に関わる時点で使用している。このような用法はこれまでの先行研究でも指摘されている（石黒 2000、日本語記述文法研究会編 2009 など）。しかし、それぞれのタスクに見られる「時間」と「並列」用法や、「重い情報」の詳細が異なり、この相違点はタスクの内容と談話の構成によるものである。例えば、「時間」用法に関しては、ストーリーテリングでは、ストーリーを展開させる出来事が「重い情報」であり、「そして」はそれに導くために使用されている。一方、対話では、一日の中でスケジュール帳に書かれているような出来事が「重い情報」であり、「そして」はそれをつなぐところで使用されている。

課題② 各レベルのタイ人日本語学習者の「そして」の使用を確認する。

各レベルのタイ人日本語学習者のデータから「そして」の誤用や多用、「重い情報」以外をつなぐところでの使用が多く観察された。このような不自然な使用はこれまでの研究でも指摘されている（市川 2010、片桐 2016、石黒 2017、砂川 2017 など）。しかし、本調査では、上記の使用が観察されたという現象のみならず、レベルによって、使用が異なり、タスクによって変容することも明らかにした。

具体的には、レベルが上がるにしたがって、誤用がなくなることがある。例えば、ストーリーテリングでは、中級まで「だから」との混同が見られたが、上級では観察されなかった。このことは、上級学習者は「だから」が適切な箇所では「そして」ではなく「だから」を使用していることが予想される。一方、レベルが上がるにつれ、より低いレベルで観察されなかった誤用の種類や多用が観察されることもある。例えば、ストーリーテリングでは、初級では「だから」との混同が見られなかったが、中級では観察された。これは、中級学習者は長く話すことができ、「だから」を表す意味関係を話すことができるが、「だから」が適切に使用できないためだと考えられる。上級に上がっても改善されない不自然な使用に関しては、「それから」との混同や「重い情報」以外のところでの使用が挙げられる。上級学習者にとっても、「そして」と同じ類型に分類された「それから」との使い分けなどが難しいと言える。

また、それぞれのタスクにおける使用が異なっている。ストーリーテリングというタスクを遂行させるため、様々な意味関係を表す必要があるため、様々な混同の種類が観察された。それに対し、「昨日の出来事」を語るのに、基本的に継起的な「時間」の関係しか表す必要がないため、「それから」との混同がほとんどである。また、ストーリーテリングでは、発話する出来事の数絵によってある程度決まっており、発話量や長さはある程度コントロールされている。それに対して、対話では、被調査者によって、昨日起きた出来事の数異なっている。出来事の数が多い場合は、「そして」の多用や、「昨日の出来事」を思い出す時のフィラーとしての使用が発生しやすく、上級でもこれらの不自然な使用が見られた。

課題③ タイ人日本語学習者の使用の要因を考察する。

タイ人日本語学習者は、初級教科書で「そして」のタイ語訳として紹介される「lɛ̀ɛwkɔ̀ɔ̀」を基準にして「そして」を使用している。「lɛ̀ɛwkɔ̀ɔ̀」は「そして」と異なり、「それから」「でも」「すると」「だから」の意味も含まれており、フィラーとしても使用できる。「そして」の導入の際は、このような「そして」と「lɛ̀ɛwkɔ̀ɔ̀」の違いはほとんど言及されていない。また、「それから」「でも」「すると」「だから」が導入される時には、これらの表現と「そして」の違いや、日本語の発話では意味関係を配慮する必要があることは教室の活動では取り上げられていない。また、談話の構成や談話におけるそれぞれの文の重みに関する導入がない。

また、レベルが上がるにしたがい、「そして」を使用する時の基準も変わっていく。中級レベルでは、「léewkôo」の「それから」「だから」「すると」「でも」の用法が使用に影響を与えている。一方、上級学習者は、「だから」「すると」「でも」の用法を学習し、習得したため、「そして」は「léewkôo」と異なり、「だから」「すると」「でも」を表すために使用できないことを理解していると考えられる。しかし、上級レベルでは、「léewkôo」の「それから」の用法や初級での「それから」の導入がまだ使用に影響を与えている。

さらに、心理的な面でタスクの実施方法によって、レベルが上がっても、不自然な使用がなくなる場合がある。具体的には、対話相手があり、準備時間もなく、発話の内容も事前に確認できていないという対話タスクでは、上級レベルまで誤用やフィルターとしての使用が観察された。

本研究の目的 各レベルのタイ人日本語学習者のために「そして」の効果的な導入方法を提案する

初級学習者については、談話レベルの発話が求められないことから、タスクを用いず、文がコントロールできる中級学習者になるための準備として2つの文を正しくつなぐような導入が適切である。また、日本語母語話者と学習者との対話データから、学習者の「そして」の多用の後、日本語母語話者がその発話内容をまとめる行動が見られた。「そして」の多用がこのように相手の理解を妨げることがあるため、早い段階で多用が発生しない対策を考えた方がいい。「そして」の誤用と多用の要因は、「そして」と「léewkôo」の違いにあるため、この違いを積極的に取り入れる必要がある。具体的な活動としては、例えば、「léewkôo」が出現するタイ語の文を日本語に翻訳させる活動や、タイ語でストーリーを語ってもらい「léewkôo」を多用していることを気付かせる活動が考えられる。

中級学習者については、ある程度長く話せるため、談話レベルでの「そして」の導入が適切である。本調査で分析対象にしたストーリーテリングと対話での「そして」の用法を導入する場合の活動を考える。これまでの教育では、談話の構成と接続表現を重視してこなかったが、談話の構成は「そして」の使用に関連があるため、談話の構成も説明した方がいい。談話における「そして」の使用を意識させる活動としては、ストーリーテリングでは、日本語母語話者の使用を参考に、簡単な文章に作り直し、「そして」がどの箇所で使えるかという練習が挙げられる。一方、対話では、スケジュール帳に似た表を提示し、

事前に予定された「重みのある出来事」同士をつなぐところと最後の出来事が終わったところで「そして」が使えることや、他の「日常的な出来事」をつなぐところでは使えないことを意識させる練習が挙げられる。

上級学習者については、幅広い接続表現が使えるようにするような導入が必要である。また、対話では、「そして」と「それから」の混同も見られたことから、「そして」と「それから」の違いをさらに強調する必要がある。上級学習者のための導入方法としては、副教材を使用し、「それから」と「そして」の違いを強調し、日本語母語話者と上級学習者の使用を比較させる練習が挙げられる。

このように、各レベルの能力や使用状況に合わせた導入方法を挙げたが、このような方法で導入される場合、タイ人日本語学習者は以下のように「そして」を使用することができると考える。

- 1) 日本語母語話者が使用している基準で利用できる。

日本語母語話者の使用を参考に例を提示することによって、日本語母語話者が使用している基準で利用できると考える。

- 2) 誤用や多用をせずに正しい用法で利用できる。

タイ人日本語学習者が「lɛɛwkô」の基準で「そして」を使用しているかを確認できたため、「lɛɛwkô」との違いを意識させる練習を取り入れることによって、誤用や多用をせずに正しい用法で利用できると考える。

- 3) ジャンルに合わせた正しい用法で利用できる。

確認したストーリーテリングと対話における使用に基づいて、それぞれのタスクの導入方法を考えたため、ジャンルに合わせた正しい用法で利用できると考える。

- 4) それぞれのレベルに求められる談話の単位で利用できる。

それぞれのレベルに求められる能力に基づいて、どの談話の単位で導入するかを決定したため、それぞれのレベルに求められる談話の単位で利用できると考える。

また、具体的な能力の改善に関しては、本研究で提案した導入方法を用いれば、各レベルの「そして」に関する能力は以下のように改善されると考えられる。以下の記述は「～ができる」という形で示す。言語の熟達度を「～ができる」という形式で示すものとして、「Can-do」がある。国際交流基金（2017）によると、「Can-do」は、どのような文型や文法を知っているか、単語や漢字をいくつ知っているかという熟達度の捉え方に対して、言

語の熟達の、ある段階でできる言語活動や持っている言語能力の例を示し、目安とするものである。しかし、本研究の「そして」を中心とした接続表現の使用とその要因の確認から、各レベルにおいてタイ人日本語学習者は異なる使用をしているため、各レベルにおいては異なる導入方法を考える必要があることが明らかになった。異なる導入方法を用いた場合、各レベルのできるようになることが異なるため、文法をどのように知っているかという点でも「できること」が記述できると考えられる。

初級学習者：・「時間」と「並列」用法で「そして」が使用できる

・「そして」の多用について意識できる

中級学習者：・ストーリーテリングで「主な出来事」に導くところで「そして」が使用できる

・対話で「重みのある出来事」をつなぐところで「そして」が使用できる

上級学習者：・幅広く接続表現が使用できる

・「そして」と「それから」の使い分けができる

さらに、誤用の改善に注目すると、正用率が以下のように上がると予測される。まずは、第6章で提示した誤用分析の結果を再掲する。表45は、ストーリーテリングにおける「そして」の誤用を、表46は、対話における「そして」の誤用を表している。それぞれ、正用した回数を示し、接続表現が必要ではないところで「そして」が使用されている誤用は「付加」として表記している。また、その接続の箇所では「そして」より適切な接続表現がある場合の誤用はその接続表現を示す。最後に、各レベルの使用回数の合計を示してから、正用率を計算する。

表 45 ストーリーテリングにおける「そして」の誤用

レベル	SPOT 得点	正用	付加	でも	しか も	する と	だか ら	そこ で	それ で	合計	正用 率
初級	49-55	2	3	1	1	0	0	0	0	7	28.5
中級Ⅰ	56-63	3	4	0	0	0	0	0	0	7	42.9
中級Ⅱ	64-71	10	6	1	2	3	1	1	3	27	37
中級Ⅲ	72-80	3	1	0	0	0	0	0	0	4	75
上級	81-90	1	0	0	0	0	0	0	0	1	100
合計		19	14	2	3	3	1	1	3	46	41.3

(表 26 を再掲)

表 46 対話における「そして」の誤用

レベル	SPOT 得点	正用	付加	不明	それ から	それ で	その あとは	あとは	それ と	合計	正用 率
初級	49-55	2	2	1	0	0	0	0	0	5	40
中級Ⅰ	56-63	2	4	0	1	2	0	0	0	9	22.2
中級Ⅱ	64-71	14	10	0	7	3	1	1	0	36	38.9
中級Ⅲ	72-80	1	3	0	1	2	1	0	0	8	12.5
上級	81-90	0	2	0	1	0	0	0	1	4	0
合計		19	21	1	10	7	2	1	1	62	30.6

(表 29 を再掲)

次に各レベルの正用率とそれぞれの誤用率はどうなっているか計算する。表 47 は、ストーリーテリングにおける「そして」の正用率と誤用率を、表 48 は、対話におけるそれらを表している。各レベルの全体の使用に対して、正用およびそれぞれの誤用が何%であるかを数字で示す。

表 47 ストーリーテリングにおける「そして」の正用率と誤用率

レベル	SPOT 得点	正用	付加	でも	しか も	する と	だか ら	そこ で	それ で	合計
初級	49-55	28.5	42.9	14.3	14.3	0	0	0	0	100
中級Ⅰ	56-63	42.9	57.1	0	0	0	0	0	0	100
中級Ⅱ	64-71	37	22.2	3.7	7.4	11.1	3.7	3.7	11.1	100
中級Ⅲ	72-80	75	25	0	0	0	0	0	0	100
上級	81-90	100	0	0	0	0	0	0	0	100

表 48 対話における「そして」の正用率と誤用率

レベル	SPOT 得点	正用	付加	不明	それ から	それ で	その あと は	あと は	それ と	合計
初級	49-55	40	40	20	0	0	0	0	0	100
中級Ⅰ	56-63	22.2	44.4	0	11.1	22.2	0	0	0	100
中級Ⅱ	64-71	38.9	27.8	0	19.4	8.3	2.8	2.8	0	100
中級Ⅲ	72-80	12.5	37.5	0	12.5	25	12.5	0	0	100
上級	81-90	0	50	0	25	0	0	0	25	100

以下、市川（1978）の分類を採用し、本研究で提案した導入方法を用いる場合のそれぞれのレベルの正用率を計算する。接続表現の類型は以下のとおりである。どのような類型との混同かをわかりやすく示すために、その類型の代表的な接続表現を表記して示す。

順接型 前文の内容を条件とするその帰結を後文に述べる型。

〔順当〕＝だから・そこで・それで ＝「だから」混同

〔きっかけ〕＝すると ＝「すると」混同

逆接型 前文の内容に反する内容を後文に述べる型。

〔反対・単純な逆接〕＝でも ＝「でも」混同

添加型 前文の内容に付け加わる内容を後文に述べる型

〔追加〕＝それから・しかも ＝「それから」混同

正用率の向上を計算する方法としては、現状の正用率に、混同したそれぞれの誤用率を足す。初級学習者と中級Ⅰの学習者の正用率の向上と、中級Ⅱ・Ⅲの学習者と上級学習者のそれをそれぞれ表 49 と表 50 で示す。初級で本研究で提案した導入方法を用いれば、中級Ⅰ学習者の使用も改善され、中級でこの導入方法を用いれば、上級学習者の使用も改善されると予測される。なお、以下の表の意味関係の記述の順番はその意味関係を表す接続表現が初級文法教育に新出語彙として導入される順番に従う。また、表に数字がない場合は、そのレベルにその誤用がないということである。

まず、初級では、日本語母語話者の使用例を簡単な文に直し、本来の「時間」と「並列」を表す用法を説明する活動や、タイ人日本語学習者が誤用した例をタイ語に翻訳し、このような話し言葉の談話では、タイ語では「léewkôo」が使用できるが、日本語では、

「そして」が使用できないことを確認させる方法を用いれば、意味関係に関する誤用が減少し、正用率が以下のように上がる。

表 49 は、表 47 と表 48 で示した初級と中級Ⅰの学習者の正用率とそれぞれの誤用率を用いて向上率を計算した結果を表している。例えば、初級でこの導入方法を用いて、ストーリーテリングにおける初級の誤用率が 14.3%である「でも」との混同がなくなれば、正用率が現状の 28.5%から 14.3%上がり、42.8%になる。

表 49 初級学習者と中級Ⅰの学習者の正用率の向上

活動	正用率			
	初級		中級Ⅰ	
	ストーリーテリング	対話	ストーリーテリング	対話
現状の正用率	28.5	40	42.9	22.2
「それから」混同がなくなる場合の正用率	42.8 (+14.3)	-	-	33.3 (+11.1)
「でも」混同がなくなる場合の正用率	42.8 (+14.3)	-	-	-
「だから」混同がなくなる場合の正用率	-	-	-	44.4 (+22.2)
フィラーとしての使用がなくなる場合の正用率	71.4 (+42.9)	80 (+40)	100 (+57.1)	66.6 (+44.4)

次に中級学習者に対しては、タスクを意識した導入が求められるが、混同を招く意味関係やフィラーとして使用できないことに関する復習も必要である。また、談話の構成を導入する際、それぞれのタスクを遂行させるためには、どのような接続関係を表す必要があるか、またその意味関係を表すためにどのような接続表現が使用できるかという説明も必要である。このような導入を行うことによって、以下のように中級Ⅱ・Ⅲの学習者と上級学習者の正用率が上がることが期待できる。また、ストーリーテリングと対話というタスク別で導入すれば、中級以降の学習者は「そして」が「重い情報」をつなぐ用法がわかり、そうではどころでの使用も少なくなると予測される。

表 50 は、表 47 と表 48 で示した中級Ⅱ、中級Ⅲ、上級の学習者の正用率とそれぞれの誤用率を用いて向上率を計算した結果を表している。例えば、中級でこの導入方法を用いて、ストーリーテリングにおける中級Ⅱの誤用率が 3.7%である「でも」との混同がなくなれば、正用率が現状の 37%から 3.7%あがり、40.7%になる。

表 50 中級Ⅱ・Ⅲの学習者と上級学習者の正用率の向上

活動	正用率					
	中級Ⅱ		中級Ⅲ		上級	
	ストーリーテリング	対話	ストーリーテリング	対話	ストーリーテリング	対話
現状の正用率	37	38.9	75	12.5	100	0
「それから」混同がなくなる場合の正用率	44.4 (+7.4)	58.3 (+19.4)	-	25 (+12.5)	-	25 (+25)
「でも」混同がなくなる場合の正用率	40.7 (+3.7)	-	-	-	-	-
「だから」混同がなくなる場合の正用率	51.8 (+7.4)	47.2 (+8.3)	-	37.5 (+25)	-	-
「すると」混同がなくなる場合の正用率	48.1 (+11.1)	-	-	-	-	-
フィラーとしての使用がなくなる場合の正用率	59.2 (+22.2)	66.7 (+27.8)	100 (+25)	50 (+37.5)	-	50 (+50)

以上のように、中級レベルで「そして」が表す意味関係とフィラーとして使用できないことを復習し、談話における「そして」の使用を導入すれば、直後レベルである上級学習者の誤用も減少することが予測される。さらに、上級レベルで「そして」と「それから」の違いを強調し、幅広い接続表現について説明すれば、誤用も少なくなるだろう。

以上、意味関係に関する誤用を中心に、本研究で提案した方法で導入すれば、正用率がどのように向上するか簡単に計算した。ここでは、誤用の改善を中心に考えたが、学習者が正しい意味関係で「そして」を使用し、かつフィラーとして使用しなくなれば、多用も発生しなくなると考えられる。なお、ここでは、石川（1978）の分類にない「それと」「そのあとは」を対象にしないが、森山（2006）では、「それと」を発話の追加の機能を持つ接続表現として挙げていることから、「それから」の用法と類似していると考えられる。上級レベルで「そして」と「それから」の違いを意識させられたら、「それと」との混同も減少すると考えられる。

ただし、以上の表で示した正用率の向上率はあくまで目安であり、学習者が 8.1 で示したように「そして」に関して、正しく使用でき、誤用をしなくなるには他の要因があり、個人差もあると考えられる。他の要因の例として、例えば、学習者が話しやすい環境にあるかどうかということが挙げられる。

9.2 日本語教育文法再検討の方針や案への適応性

ここでは、本研究で提案した導入方法が、どのように第 1 章で取り上げた日本語教育文法再検討の方針や案に適応しているかについて述べる。

まず、野田（2005）は、日本語教育文法再検討の方針について以下の方針を挙げている。

- 1) 無目的な文法から聞く・話す・読む・書くそれぞれの文法へ
- 2) 正確さ重視の文法から目的を達成できる文法へ
- 3) 一律の文法から学習者ごとの文法へ
- 4) 骨格部分重視の文法から伝達部分重視の文法へ
- 5) 形式を基盤とする文法から機能を基盤とする文法へ (野田 2005 : 2)

本研究で提案した導入方法は以上の方針に以下のように従っていると考えられる。

- 1) 無目的な文法から聞く・話す・読む・書くそれぞれの文法へ

ストーリーテリングと対話という発話データでの「そして」の使用を確認した結果から、どのようにすれば、タイ人日本語学習者が発話において「そして」が正しく使用できるかを目的に教室の活動を考えた。使用の確認と要因の考察から抽出した「そして」に関する導入事項は無目的な文法ではなく、話すための文法になっている。

- 2) 正確さ重視の文法から目的を達成できる文法へ

本研究で提案した導入方法は、正確に使用できるように誤用をなくすための方法になっているが、「そして」に関する誤用や多用が少なくなれば、発話の構成が整っており、ストーリーテリングや自分の過去の予定などを相手に伝えるという目的がより効果的に達成できると考えられる。

- 3) 一律の文法から学習者ごとの文法へ

タイ人の日本語学習者を対象に導入方法を考え、使用に影響を与える要因を考察する際も、母語であるタイ語との対照も行ったため、誰もが学習する一律の文法ではなく、タイ人日本語学習者のための文法になっている。

- 4) 骨格部分重視の文法から伝達部分重視の文法へ

「そして」の導入に関しては本来、骨格部分とは関連がないが、提案した導入方法を用いれば、「そして」に関する誤用や多用が少なくなり、より効果的な伝達ができると考えられる。

5) 形式を基盤とする文法から機能を基盤とする文法へ

使用の観察と要因の考察から「そして」をめぐる導入事項をいくつか列挙したが、形式を基盤としどの事項も同時に導入する方法と違い、学習者の能力と使用状況に基づいてこれらの導入事項をいつ導入すればいいかを考えたため、機能を基盤とする文法になっている。

また、Katagiri 他（2007）は、タイ人日本語学習者のための初級文法項目の設定について以下の4つの案を提案している。

- 1) タイ人日本語学習者が理解しにくい文法を取り除く。
- 2) タイ語と類似した文法を先に導入する。
- 3) タイ語の負の影響を防ぎ、タイ語を有効に活用する。
- 4) セットで教える。 (Katagiri 他 2007 : 67)

本研究で提案した導入方法は以上の案に以下のように従っていると考えられる。

- 1) タイ人日本語学習者が理解しにくい文法を取り除く。

本研究の分析からわかったタイ人日本語学習者が理解しにくい文法に関しては、上級レベルで混同がまだ見られる「そして」と「それから」が挙げられる。本研究では、初級でも接続表現の意味関係がわかるような練習が取り入れられるが、中級でその復習がすすめられ、さらに、上級では副教材などを使用し「そして」と「それから」の違いを意識させるような練習がある。また、文法とは異なり、共通参照レベルからわかるように、初級学習者の「テキストの型」が語であるため、談話における使用を取り上げても、理解しにくいと考えられる。そのため、初級では、談話における使用に関する導入を取り除き、中級以降で導入する必要がある。

- 2) タイ語と類似した文法を先に導入する。

教科書では、「そして」は「léewkôo」に訳されている。「そして」には「léewkôo」と類似した用法と類似していない用法がある。使用の要因の考察からわかるように、「léewkôo」は幅広く使用できることから、意味関係の誤用や多用をもたらすことがある。

このため、類似した用法がある文法項目であっても、単に導入するのではなく、導入の際、積極的にその違いを説明する必要がある。

3) タイ語の負の影響を防ぎ、タイ語を有効に活用する。

本研究の提案では、初級レベルから、タイ語と日本語の違いを意識させる説明と練習が多く含まれている。具体的な導入方法の例として、タイ人日本語学習者が誤用した例をタイ語に翻訳し、このような話し言葉の談話では、タイ語では「lɛ̀ɛwkɔ̀ɔ̀」が使用できるが、日本語では、「そして」が使用できないことを確認させる説明方法と、「lɛ̀ɛwkɔ̀ɔ̀」が含まれているタイ語の文から日本語に翻訳し、接続表現を埋める練習をさせる方法が挙げられる。

4) セットで教える。

接続表現はセットでの導入方法は考えにくいだが、日本語母語話者の使用の観察から、「そして」が「と」などと共起することがわかった。ただし、このことについては、初級で教えるのではなく、幅広い接続表現が使用できることが求められる上級で導入した方がいいと考えられる。

9.3 本研究の限界

本研究では、日本語母語話者とタイ人日本語学習者の使用の観察と要因の考察を根拠に、効果的な「そして」の導入方法を提案したが、以下のように、限界が挙げられる。

1) 分析データ数が少ない。日本語母語話者のデータに関しては、「そして」の使用回数が少ないため、「そして」が「主な出来事」と「重みのある出来事」をつなぐ時点で使用されるということは一般化し難いと考えられる。その反面、日本語母語話者の使用が少ないということは、「そして」が発話において現れにくいことを支持している。また、タイ人日本語学習者のデータに関しては、各レベルの学習者数について、中級レベルに偏っており、初級と上級学習者の人数が少ないため、初級と上級レベルの使用傾向は断言できない可能性がある。しかし、第3章でより多いデータを分析した予備調査の結果から分かるように、中級レベルで「そして」の不自然な使用が最も多く観察された。このことから、本調査で観察された各レベルの学習者の使用傾向は妥当であると考えられる。しかし、より効果的な導入方法を提案するために、より大量なデータを収集する必要がある。

2) 本研究の要因の考察では、母語、これまでの導入方法、タスクの実施方法という3つの観点で考察を行ったが、要因は他にもあると考えられる。例えば、文化的な面や学習環

境が考えられる。文化的な面に関しては、日本語母語話者とタイ人日本語学習者のストーリーテリングや対話に関する文化や習慣、思考から発話までのプロセスに違いがあると考えられる。学習環境については、教室で学習しているか、日本で自然習得しているかによって、「そして」の使用の違いがあると予想される。

3) 本研究を行うに当たり、十分な数の各レベルのタイ人日本語学習者がいる環境が整っていないため、提案した導入方法を実際の教室の活動に取り入れ、その効果を検証する実践研究は行われていない。実践研究が行われていないため、提案した導入方法の問題点などは把握できなかった。

4) 本研究では「そして」という一つの文法項目のみを中心に誤用分析やその誤用の考察を行ったが、同様の方法で他の接続表現と他の文法項目の分析は行われていない。そのため、各学習レベルにおける「そして」と他の文法項目の関係性が把握できず、各レベルでは、「そして」とともに他の文法項目を体系的にどのように導入すればいいかを十分に提案できなかった。

9.4 今後の課題

ここでは、9.3 で挙げた本研究の限界を踏まえて、今後の課題を述べる。まず、日本語母語話者、および初級と上級学習者の「そして」の使用データをさらに多く収集し、それぞれの使用の特徴を分析し、使用に影響を与える文化的な要因を考察する必要がある。また、他の文法項目を同様の方法で、使用の観察と要因の考察を行った上で、その文法項目に関する効果的な導入方法を提案することも欠かせない。さらに、長期的な課題として、提案した「そして」と他の文法項目の導入方法を用いて、各レベルのタイ人日本語学習者を対象に、教室活動を行って、その効果や問題点を分析したい。

このように日本語母語話者とタイ人日本語学習者の使用を手がかりに、様々な文法項目に関する導入方法を再検討し、その結果をタイにおける日本語文法教育に応用できれば、現在増加傾向にあるタイ人日本語学習者の日本語能力が向上することが期待できるのではないだろうか。

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導くださった主指導教官の中田一志教授に心より感謝申し上げます。未熟な私に対してご丁寧に指導をしてくださり誠にありがとうございます。

TF・RAにも参加させてくださり、とても良い勉強になりました。

また、日本語教育についていつも貴重な指摘をしてくださった副指導教官の筒井佐代教授および、学問のタイ語のみならず生活の相談についても相談に乗って頂いた副指導教官の宮本マラシー教授に感謝致します。いつも温かく見守ってくださった大阪大学言語文化研究科日本語・日本文化専攻の先生方にもお礼を申し上げます。

さらに、日本語の指導をしてくださったチューターの伊藤萌夏氏、中谷直樹氏、岡田春奈氏、三輪若奈氏、本当にありがとうございました。研究を深める上で様々な意見をくださったNゼミの皆様、いつも応援を頂いたセンティアン氏、サティダー氏、プラッチャヤポーン氏、プーワット氏をはじめ、タイ人の先輩方にも感謝致します。

最後になりますが、生まれてから今までずっと支え続けてくれたかけがえのないタイの家族にお礼を申し上げます。

参考文献

- 庵功雄（2015）「日本語学的知見から見た中上級シラバス」『現場に役立つ日本語教育研究 1 データに基づく文法シラバス』くろしお出版：15-46.
- 石黒圭（2000）「「そして」を初級で導入すべきか」『言語文化』37：7-38.
- 石黒圭（2017）「談話研究からみた話し方教育への示唆—学習者は接続詞をどのように習得するか—」江田すみれ・堀恵子編『習ったはずなのに使えない文法』くろしお出版：195-210.
- 石黒圭・阿保きみ枝・佐川祥予・中村紗弥子・劉洋（2009）「接続表現のジャンル別出現頻度について」『一橋大学留学生センター紀要』12：73-85.
- 市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版.
- 市川保子編（2010）『日本語誤用辞典 外国人学習者の誤用から学ぶ日本語の意味用法と指導のポイント』スリーエーネットワーク.
- 岩崎典子（2002）「日本語能力簡易試験（SPOT）の得点と ACTFL 口頭能力測定（OPI）のレベルの関係について」『日本語教育』114：100-105.
- 片桐カノックワン ラオハブラナキット（2016）「教育現場とのつながりを意識した対照研究の試み—タイ人学習者の「そして」「なんか」の使用問題—」庵功雄・佐藤琢三・中俣尚己編『日本語文法研究のフロンティア』くろしお出版：243-267.
- 河部利夫（1957）『基礎タイ語』大学書林.
- 倉持益子・鈴木英明（2007）「日本語学習者における接続詞の習得—留学生の接続詞使用状況」『神田外国語大学紀要』19：211-234.
- ケーオキッサダン パッチャラポーン（2017）「Can-do をベースとしたコミュニケーション型日本語教育—タイの高等教育機関における日本語教科書作成への応用の可能性—」『日本語・日本学研究』7：111-128.
- 国際交流基金（2007）『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第6巻 「話すことを教える」』ひつじ書房.
- 国際交流基金（2010）『国際交流基金 日本語教授法シリーズ 第8巻 「書くことを教える」』ひつじ書房.
- 国際交流基金（2017）『JF 日本語教育スタンダード【新版】利用者のためのガイドブック』国際交流基金.

- 国際交流基金（2020）『海外の日本語教育の現状 2018 年度日本語教育機関調査より』国際交流基金.
- 小口悠紀子（2017）「談話における出来事の生起と意外性をいかに表すか—中級学習者と日本語母語話者の語りの比較」『日本語／日本語教育研究』8：215-229.
- 小口悠紀子（2018）「「話す」と「書く」という課題の違いが中級学習者の語りに及ぼす影響—個人内における接続表現の変異に注目して」『日本語／日本語教育研究』9：183-196.
- 小西円（2017）「日本語学習者と母語話者の産出語彙の相違—I-JAS の異なるタスクを用いた比較—」『国立国語研究所論集』13：79-106.
- 小林ミナ（2005）「コミュニケーションに役立つ日本語教育文法」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版：23-41.
- 西郷英樹・清水崇文（2018）『日本語教師のための日常会話力がグリーンとアップする雑談指導のススメ』凡人社.
- 阪上彩子（2014）「話し言葉における「そして」の指導法—話し言葉コーパスと初級教科書の分析を通して—」『神戸大学留学生センター紀要』20：61-74.
- 佐久間まゆみ（1990）「接続表現（1）」寺村秀夫・佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一『ケーススタディ日本語の文章・談話』桜楓社：12-23.
- 迫田久美子（2002）『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク.
- 迫田久美子他（2016）『海外連携による日本語学習者コーパスの構築—研究と構築の有機的な繋がりに基づいて—I-JAS 構築に関する最終報告書』国立国語研究所.
- 砂川有里子（2017）「ストーリーテリングにおける順接表現の談話展開機能」庵功雄・石黒圭・丸山岳彦編『時間の流れの文章の組み立て』ひつじ書房：183-215.
- スワンナクート パッチャラーパン（2019）「タイ人日本語学習者の接続詞「そして」の使用状況および要因」『日本語・日本文化研究』29：300-309.
- スワンナクート パッチャラーパン（2020）「ストーリーテリングにおける日本語母語話者とタイ人日本語学習者の接続表現の使用—「そして」を中心に—」『第8回日本語・日本文化国際フォーラム論文集』144-154.
- スワンナクート パッチャラーパン（2021）「タイ人の中級学習者のための「そして」の導入方法—対話データの分析から—」『日本語教育方法研究会誌』27-1：40-41.

- 田中寛（2002）「接続表現をめぐる日タイ語対照研究—および“複文機能後“について—」
『対照言語学的手法・視点にもとづく、日本語の基本語彙・語法に関する比較研究』大東文化大学外国語学部日本語学科：301-322.
- 田村紘（2008）「初・中級日本語教科書における接続詞導入の問題点—「出題基準」と話し言葉コーパスとの相互比較から—」『学芸日本語教育』5：1-14.
- チョンペンスクラート タッサワン（2008）「初級日本語教科書における接続詞の指導の諸問題」『学芸日本語教育』5：45-62.
- 中尾有岐・プラパー セントーンスック（2017）「タイ中等教育向け教科書『あきこと友だち』の改訂—コミュニケーション能力の向上を目指して—」『国際交流基金日本語教育紀要』13：101-116.
- 日本語記述文法研究会編（2008）『現代日本語文法 6 第11部 複文』くろしお出版.
- 日本語記述文法研究会編（2009）『現代日本語文法 7 第12部 談話 第13部 待遇表現』くろしお出版.
- 野田尚史（2005）「コミュニケーションのための日本語教育文法の設計図」野田尚史編『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版：1-20.
- 野津幸治・佐藤博史・宮本マラシー『タイ語読解力養成講座』赤木攻監修、めこん.
- 長谷川哲子（2019）「経験を語る談話における接続詞使用：「そして」の使用について」『Ex：エクス：言語文化論集』101-122.
- 浜田麻里（1995）「ソシテとソレデとソレカラ—添加の接続詞—」宮島達夫・仁田義雄編『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』くろしお出版：575-583.
- 牧野成一・鎌田修・山内博之・齊藤真理子・荻原稚佳子・伊藤とく美・池崎美代子・中島和子（2001）『ACTFL-OPI 入門—日本語学習者の「話す力」を客観的に測る—』アルク.
- 増田真理子（2000）「日本語学習者と母語話者のストーリーテリング文を比較する—4 コマ漫画のストーリー内容を書いたテキストの分析から—」『多摩留学生センター教育研究論集』2：13-25.
- 宮本マラシー（2003）『世界を学ぶオリジナル語学教材シリーズ タイ語表現法』大阪外国語大学.

森山卓郎 (2006) 「「添加」「累加」の接続詞の機能—「そして」「それから」などをめぐる—」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎『日本語文法の新地平 3 複文・談話編』くろしお出版 : 187-207.

山内博之 (2004) 「語彙習得研究の方法—茶釜と N グラム統計—」『第二言語としての日本語の習得研究』7 : 141-162.

山内博之 (2009) 『プロフィシェンシーから見た日本語教育文』ひつじ書房.

山根智恵 (2002) 『日本語の談話におけるフィラー』くろしお出版.

李在鎬・石川慎一郎・砂川有里子 (2018) 『新・日本語教育のためのコーパス調査入門』くろしお出版.

Council of Europe (2008) 『外国語の学習 II 外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』(吉島茂・大橋理枝訳・編) 朝日出版社.

Krashen, Stephen D. and Terrell, Tracy D. (1983) 『ナチュラル・アプローチのすすめ』(藤森和子訳) 大修館書店.

กนกวรรณ เลาหบุรณะกิจ คตะกิริ, พัชรพร แก้วกฤษฎากค์, สมเกียรติ เชวงกิจวานิช, และสุนิษฐ์รัตน์ เนียรเจริญสุข. (2550). การกำหนดหัวข้อไวยากรณ์ขั้นต้นสำหรับผู้เรียนชาวไทย-แนวคิดที่ประการจากมุมมองของไวยากรณ์เพื่อการสื่อสาร-. วารสารเจแปนฟาวน์เดชั่น กรุงเทพฯ, (4), 67-78. (Katagiri, Kanokwan L., Kaewkitsadan, Patcharaporn, Chawengkijwanich, Somkiat, and Neancharoensuk, Suneerat (2007) 「タイ人学習者のための初級文法項目の設定—日本語教育文法の視点からの 4 つの案—」『バンコク日本文化センター日本語教育紀要』4 : 67-78)

นาววรรณ พันธุเมธา. (2558). ไวยากรณ์ไทย (พิมพ์ครั้งที่ 7). กรุงเทพฯ: โครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการคณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย. (Panthumetha, Nawawan (2015) 『タイ語の文法』チューラーロンコーン大学)

参考テキスト

庵功雄・三枝令子 (2013) 『日本語文法練習 まとまりを作る表現—指示詞、接続詞、のだ・わけだ・からだ—』スリーエーネットワーク.

木村尅巳・山田信一 (1998) 『すぐに使える実践日本語シリーズ 13 語や文のつなぎ役 接続詞 (初・中・上級)』専門教育出版.

สรีเอเน็ตเวิร์ก (2008) 『みんなの日本語 中級 I 本冊』スリーエーネットワーク.

スリーエーネットワーク (2012) 『みんなの日本語 中級 II 本冊』スリーエーネットワーク.

平井悦子・三輪さち子 (2007) 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 56 中級前期』スリーエーネットワーク.

平井悦子・三輪さち子 (2009) 『中級を学ぼう 日本語の文型と表現 82 中級中期』スリーエーネットワーク.

Miura, Akira and McGloin, Naomi H. (2008) *An Integrated Approach to Intermediate Japanese [Revised Edition]*. The Japan Times.

3A Corporation (2560). *มินนะ โนะ นินงโกะ [2nd Edition]*. (กองบรรณาธิการ สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม, แปล) กรุงเทพฯ :สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม (สรีเอเน็ตเวิร์ก (2017) 『みんなの日本語 初級 第 2 版』 (TPA Press 偏訳) バンコク : TPA Press.)

The Japan Foundation (2560). *ภาษาญี่ปุ่น อะกิโกะ โตะ โทะ โมะ คะ จิ ฉบับปรับปรุง*. กรุงเทพฯ : สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม (The Japan Foundation (2017) 『日本語 あきことと もだち 改訂版』 バンコク : TPA Press.)

โยชิโกะ ยามาซากิ, เรโกะ อิชิอิ, คาโอรุ ซาซากิ, มิวาโกะ ทาคาฮาชิ, เคโกะ มาซิดะ (2557). *ไคจิ 1-4 ภาษาญี่ปุ่นขั้นต้น*. (กองบรรณาธิการ สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม, แปล) กรุงเทพฯ :สำนักพิมพ์ภาษาและวัฒนธรรม (山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子 (2014) 『日本語初級 大地』 (TPA Press 偏訳) バンコク : TPA Press.)

กนกวรรณ เลหาบุรณะกิจ คะตะกิรี (2557). *ก้าวไกลไปกับภาษาญี่ปุ่น*. กรุงเทพฯ : โครงการเผยแพร่ผลงานวิชาการคณะอักษรศาสตร์ จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย. (Katagiri, Kanokwan L. (2014) 『ホップ・ステップ・ジャンプ』 バンコク : チュラーロンコーン大学)

参考 URL

国際交流基金 (2019) 『日本語教育 国・地域別情報 2019 年度』

<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2019/thailand.html>

(最終閲覧 : 2021 年 6 月 9 日)

筑波日本語テスト集 TTBJ (TSUKUBA TEST – BATTERY OF JAPANESE)

<https://ttbj.cegloc.tsukuba.ac.jp> (最終閲覧：2021 年 6 月 9 日)

“Woody FM” Podcast <https://www.youtube.com/user/woodytalkchannel>

(最終閲覧：2021 年 6 月 9 日)

コーパス

青山学院大学総合研究所プロジェクトによる成果『タイ人日本語学習者話し言葉コーパス

(Corpus of Thai learners’ Japanese Conversation : CTJC) 』

国立国語研究所のプロジェクトによる成果『多言語母語の日本語学習者横断コーパス

(International Corpus of Japanese as a Second Language : I-JAS) 』

タイ語の表記

本研究において、タイ語の文を表すために、IPA 表記を用いる。ここでは、IPA 表記とタイ語の母音、子音、声調の文字について説明する。

1. 母音

母音は、18 種類の短母音と、3 種類の二重母音があり、合わせて 18 種類ある。短母音にはそれぞれ音の長・短がある。なお、タイ文字では、母音は単独で表記できないため、子音である「?

短母音

IPA 表記		タイ文字	
短	長	短	長
a	aa	อะ	อา
i	ii	อิ	ไอิ
u	uu	อุ	อู
e	ee	เอะ	เอ
ε	εε	แเอะ	แอ
o	oo	โอะ	โอ
ɔ	ɔɔ	เอาะ	ออ
ə	əə	เอดะ	เออ

二重母音

IPA 表記	タイ文字
ia	ไอิย
ua	อูอ
ua	อัว

2. 子音

子音は、文字として 44 種類あるが、音は 21 種類ある。

IPA 表記	タイ文字
k	ก
kh	ข ฃ ก ฅ ฌ
ŋ	ง
c	จ
ch	ฉ ช ฅ
s	ซ ศ ษ ส
d	ฎ ด
t	ฏ ต
th	ฐ ฑ ฒ ถ ท ฒ
n	ณ น
b	บ

IPA 表記	タイ文字
p	ป
ph	ผ พ ภ
f	ฝ ฟ
h	ห ฮ
m	ม
y	ญ ย
r	ร
l	ล ฬ
w	ว
ʔ	อ

3. 声調

声調は 5 種類ある。タイ文字は、子音「ʔ」と母音「aa」を挿入して表記する。

IPA 表記	タイ文字	
aa	อา	平声
àa	อา̋	低声
âa	อา̌	下声
áa	อา̍	高声
ǎa	อา̎	上声